

UFOと宇宙

UFOs & SPACE

隔月刊・1977・4月号

わが国唯一の
空飛ぶ門閥専門誌

NO. 23

UFOと宇宙 第23号 昭和52年4月1日
発行(年6回刊) 第4巻第23号 昭和52年
1月14日国鉄首都特別扱承認雑誌第3043号

特集 アダムスキー

●アメリカUFO見聞記/キャトル・ミューティレーション
闇夜に牛が殺された! 矢追純一

●UFO研究の最新動向

UFO写真のコンピューター分析

●宇宙の理解のために(タイム誌より翻訳転載権取得)

星・生命の始まるどころ

新聞紙上でおなじみのトニーニチ卸売サービスが UFOと宇宙の読者に送る特別企画!!

カセット小型テープレコーダー



軽量で、手軽に使えるミニサイズの「T OHO」カセットレコーダーです。オートストップ、自動録音調整、コンデンサーマイク内蔵。単3電池4本。トランジスター8石、ダイオード4個使用。実用最大出力300mワット。AC6Vアダプター付。保証付き。付属品=イヤホン、電池、ケース、C-30テープ。

〈サイズ〉幅10.5インチ×奥行3.5インチ×高さ14インチ重さ480グラム(電池・ケース含まず) 〈色〉黒 ●販売単位=1台

●トニーニチ価格=12,000円●300台販売できます。

テレビゲーム

家庭用のテレビに接続すればホッケー、テニススカッシュなどの遊びが楽しめるビデオゲームです。乾電池は単2を6本使用テレビを電源につなげばOKです。お楽しみください。

〈サイズ〉幅34インチ×高さ7.5インチ×奥行18インチ

〈色〉アイボリー

●トニーニチ価格=21,800円

(調査価格=26,300円)

●販売単位=1台

●200台販売できます。



●セット内容=電源アダプター、コントローラー、切替スイッチ付

双 眼 鏡

スポーツやハンティングなどの遠距離観察にピッタリのハンディタイプです。

倍率=20倍、対物レンズ有効率=50%、実視野=3度、1,000円の視野=52.5%、明るさ=6.3。ハードケース付きです。

●トニーニチ価格=10,500円(調査価格=16,500円)

〈素材〉アルミダイカスト、ソフトタッチ仕上げ。
〈重さ〉1キログラム
〈色〉ブラック
ボディ

●販売単位=1台(ケース付)

●100台販売できます。



3バンドラジオカセット

ブラックフェイスのマランツ社のラジオカセット。きわだつサウンドを展開する2ウェイ・マルチスピーカーシステム。ツイーターレベル・コントロールスイッチ。音質調整が幅広くできるバス/トレブル独立型トーンコントロール。テープスピードコントロール機構。消費電力のムダのない電子式ポーズ機構。フェイドイン/アウト付きプレイミキシング機構。キュー&レビュー機構。高性能クロムテープが使えるテープセレクタースイッチ。暗がりでも確実に同調できるLEDチューニングインジケーター。FM選局時のノイズをカットするFMミュージングスイッチ。FM放送を安定して受信できるAFCスイッチ。確実なチェックができる3ウェイメーター。録音レベルに自動調整され録音ミスのないデュアルA.L.G回路。録音中、ラジオの音量を変えても録音レベルが一定なバリエابل・サウンド・モニター。オートシャットオフ付き。

〈付属品〉カセットテープ、AC電源コード、イヤホン、乾電池、ヘッドクリーニング棒。

●販売単位=1台

●トニーニチ価格=31,600円

(希望小売価格=40,800円)

●100台販売できます。



■官製ハガキに右の見本の要領で、ご希望商品を1種類だけご記入のうえ、〒150 東京都渋谷区渋谷2-15-1 東邦生命ビル4階

(株)トニーニチ卸売サービスまでお送りください。

■お届けとお支払い

ここに紹介した商品は、いずれも

「代金引き換え郵便物」でお届けします。

●「代金引き換え郵便物」とは、お客さまの近くの郵便局まで当社より商品を送り、郵便局で代金と引き換えに商品を受けとっていただくシステムです。ご指定の郵便局より「代引通知」のハガキが届きましたら、ご購入金額と印かんをご持参のうえ、商品をお受けとりください。(送料、書留料、代金引き換え手数料は当社が負担します) ※郵便番号を必ずご記入下さい。

●お届けはお申し込み後、約3週間かかります。

●商品にご不満がありましたら、商品到着後7日以内にご連絡ください。お取り換えします。

●商品に限りがありますので品切れの際はご容赦ください。3週間以内にご連絡します。

紹介日
商品番号
商品名
数量
色、サイズ
〒 住所
氏名
TEL
休業日または不在日

株式会社 トニーニチ卸売サービス

〒150 東京都渋谷区渋谷2-15-1 東邦生命ビル4階
お問い合わせ専用 ☎03(499)4811(代)
(午前10時~午後6時 日曜・祝日休み)

ノースダコタ州
の誘拐事件

矢追純一・アメリカUFO見聞記

私たちはUFOにさらわれた

女性を身体検査する彼らの意図は？

誘拐されたジャッキー・ラーソン。



ジャッキーが乗っていたクルマとさらわれた現場。



奇妙にも女性だけに誘拐の照準をあて、身体のみずみを検査するUFO。その目的は何なのか？ 襲われた女性たちにインタビューしたNTV取材班にもその真意は測りかねた。ノースダコタ州ではジャッキー・ラーソンという若い女性が、恋人とのデートに向かう途中、クルマごと連れ去られた。彼女に逆行催眠をかけて調査したレオ・スプリングル博士によっても、その真実性は立証されている。

ケンタッキー州 の誘拐事件



▲催眠術をかけて体験をひきだしたワイオミング大学心理学教授レオ・スプリングル博士(左)。
◀夕食を終えて帰宅する3人がひきずりこまれた現場。



▲スタンフォードの西1マイル。フットボールほどの円盤が近づいてきた。白いドームが見えた。



◀モナ・スタッフォード(35歳)。「ベッドの周囲の白衣の人間たちはあたしの足をひっぱった。その手がこんどは別の部分へ」。



◀イレエヌ・トーマス(48歳)。彼女は胸部に、丸味のある器具を押しつけられた。何かしゃべろうとするとノドを締められた。

ケンタッキー州の3人の女性が、乗っていたクルマからひっぱり出され、奇妙な人間から拷問に近い身体検査を受けた。この女性たちはみな熱心な礼拝出席者で、日頃非常にマジメで正直だという。彼女たちの記憶によると、3人がいなか道をドライブしているときに、突如巨大な円盤が襲いかかってきた。すると何か恐ろしい力がクルマに加えられ、クルマはひとりでに時速85マイルで突っ走っていったというのだ。



▲ルイズ・スミス(44歳)。「何かか私を押している。手のようなものが。胸が苦しい。息ができない…」

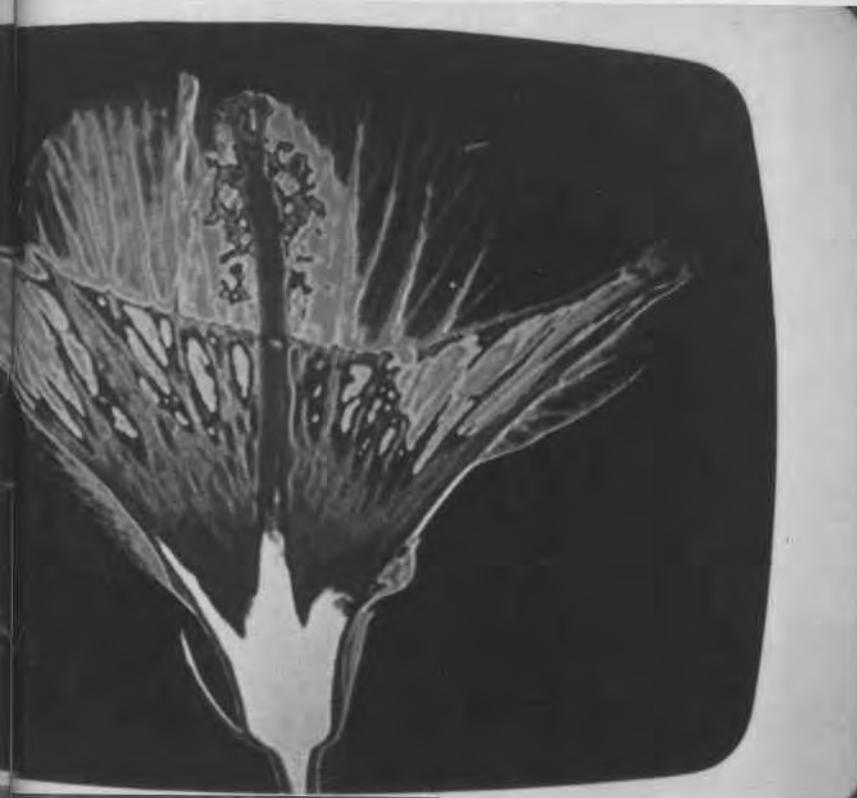
コンピューターシステムで

UFO写真の真偽鑑定ができる！

アメリカのUFO研究団体GSWが開発

本物が偽物か、とかく問題になるUFO写真の鑑定だが、アメリカのUFO研究団体GSWが、このほどコンピューターを使用した新手法を開発した。輪郭線や影像の強調、密度の分布図と断面図の作成からなるものである。詳細は本誌十七ページからの「UFO写真のコンピューター分析」をお読みいただくとして、この新しい写真鑑定法

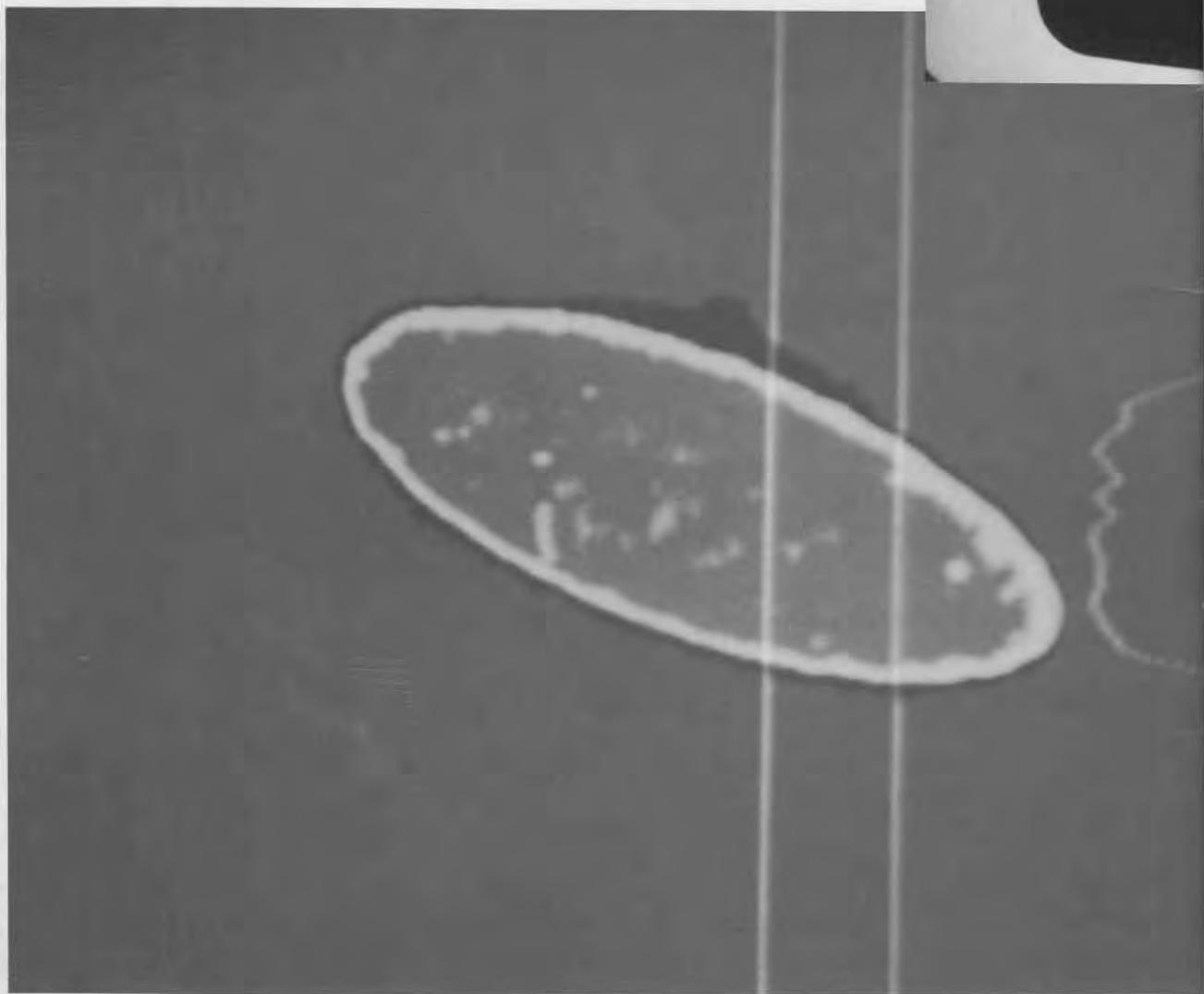
の一端を、まずはカラー写真で紹介する。





▲GSWのスポールディング氏(右)から説明をうける富川正弘氏。

▼写真II ポール・トレントの撮影したUFO写真のカラー密度分布図。この写真は本物と鑑定された。写真中央を上下に走っているのが電子ナイフによる走査線。これで、写真右側に示されているように、物体の断面図が分かる。



▶写真I 花のカラー密度分布図。花卉の重なった部分は密度が高くなっていることがよく分かる。(白、青、緑のところは、黄、赤のところよりも密度が高い)

スイスのコンタクト事件詳報

低空飛行するセムジャーゼの宇宙船

この写真はスイスのチューリッヒ近郊ヒン
ウイルでエドアルド・メイヤーさんが撮影し
たもの。撮影日は一九七五年二月二日、カメ
ラはオリンパスCR。宇宙船は草地に着陸し、
中から女性宇宙人セムジャーゼが下りてきて
メイヤーさんと一時間以上にもわたって会話
を交わしたという。(詳細は本文P34「女性宇宙
人セムジャーゼとの会話」参照)





これは一九七五年一月二十八日午後二時十五分に撮影されたもの。エドアルド・メイヤーさんが日本製カメラを使って撮影したという。これら一連の写真をどう説明すればよいのであろうか。

UFO^{NO.23}と宇宙

隔月刊 1977/APRIL 目次

口絵

- ▷ 私たちはUFOにさらわれた……………1
- ▷ コンピューター・システムで
UFO写真の鑑定ができる!……………4
- ▷ スイスのコンタクトストーリー詳報/
低空飛行するセムジャーゼの宇宙船……………6

■ アメリカUFO見聞記/キャトル・ミューティレーション

闇夜に牛が殺された! 矢追純一…………… 10

■ UFO研究の最新動向

UFO写真のコンピューター分析 富川正弘…………… 17

■ スイス・コンタクトストーリー続報

女性宇宙人セムジャーゼとの会話 ウェンデル
スティープンス…………… 34

■ 宇宙の理解のために

星・生命の始まるころ タイム誌より
翻訳転載権取得…………… 41

特集 ジョージ・アダムスキー

2色■ 劇画アダムスキー/金星人会見物語…………… 58

写真 アダムスキー在りし日…………… 66

写真 アダムスキーが撮ったUFO…………… 68

碧きパロマーの空 久保田八郎…………… 72

世界最大の円盤物語 グレイ・バーカー…………… 82

アダムスキー完全年譜…………… 88

アダムスキー最後の講演記録…………… 92

大ニューヨークの郊外に円盤着陸(後篇)…………… 24

科学者はUFOに目覚めつつある(完)…………… 50

声・OPINIONS… 101

蚤の市…………… 108

表紙デザイン/中村省三十福沢潤 レイアウト/福
田忠雄 カメラ/菅原史崇 イラスト/中川恵司



☐豪華景品が当たる
読者アンケート募集
「あなたはUFOを
見たことがあります
か?」…………… 107

●鋭い刃物で体をえぐられ、血が一滴も残らない。 全米各地のキャトル・ミューティレーションの怪



●全米を恐怖のどん底におとし入れた
奇怪な事件……キャトル・ミューティ
レーション。それは、現在でも、全米
各地二十数州にまたがって、毎日のよ
うに起こっているのだ。

「キャトル・ミューティレーション」
とは、牛が、世にも奇怪な殺され方で
次々と発見される不気味な事件で、警
察の必死の捜査にもかかわらず、犯人
も死因も全く不明である。

ある朝、牧場主が目覚ましてみる
と、広い牧場の一面に一頭、場合によ
っては数頭の牛の死体がボツンと放置
されていて、その周囲数百メートルの
範囲内には、足跡も車の跡も一切発見
されないのだ。

そして、牛の耳や眼、性器などは、
人間わざでは信じられない鮮やかな切
り口で切り取られ、持ち去られてい
る。

死体には、奇怪なことに血が一滴も
なく、薬物の投与された形跡もなく、
そして、死因が全くわからない。

しかも、このキャトル・ミューティ
レーションのあった前後には、UFO
を目撃した人が多いのである。これま
でに発見されたキャトル・ミューティ
レーションの死体は、コロラド州をは
じめ全米二十数州で五千頭以上にも達
するといわれているのだ。

闇夜

に牛が

殺された!

アメリカカントリーの見聞記

●日本テレビ
ディレクター 矢追 純一

■深くえぐりとられた耳

一九七六年八月五日。われわれ「木曜スペシャル」取材班は、アメリカ北西部、モンタナ州カスケードのグレートフォールズから東へ約三十キロの地



●キャトル・ミュートイレージョン現場。仔牛のからだはえぐられ周囲に1滴の血も暴れたようすもみられない。

点にある牧場にいた。
今朝発見されたばかりのキャトル・ミュートイレージョンの現場である。

カスケード郡警察のリチャード・レイン保安官補が同行してくれた。

殺された牛は、アングスとシャロレ

イの混血の茶色の雄牛で、右半身を下にして横たわっている。

周囲は柔らかな草原だが、車の跡もなく、牛があはれたり争った形跡はるか、足跡すら見つからない。ただ、これを見つけた牧場主がおそるおそる

近寄った時に残した跡らしいものが、倒れた草の様子でかすかに見てとれるだけである。

牧場主は、つい最近も二頭の牛が同じ牧場のなかでやられているため、恐怖で持病の心臓発作が起き、寝こんでしまつてこの牧場にはいないが、レイン保安官補の話によると、昨日、この辺を見廻った時にはなかったという。

昨夜のうちにやられたものらしい。

郡警察専属の獣医の手で、牛の検死がはじまつた。

牛は、左眼の上まぶたが、何か鋭利な刃物ではぎとられている。左の耳は、同様に鋭く、頭の奥深い部分から根こそぎえぐりとられ、性器も、見事に一刀のもとに切除されている。

獣医と保安官補の会話を聞いてみると、この切り口は、獣医としての専門的知識からみても考えられないという。普通は、いかに力の強い人間でも、鋭利な刃物を一閃しただけで切りとれるものではなく、何回も小刻みに動かして切るの、切り口はギザギザになる。どうやってもこの場合のように鮮やかに切れるものではないという。

なるほど、解剖をはじめた獣医の手つきを見ると、鋭いメスを突きさ



●キャトル・ミュートイレーション現場写真を検討中の、「未知現象科学研究会」の、左からスティーブ・メイン、マーティン・ウルフ両氏と筆者（右下）。

ちょっと考えてみても、牛一頭をつかまえるというのはなかなか大変な作業で、ましてこの雄牛のように体重が五百キロをこすようなものは、とても一人のカウボーイでは無理だ。三〜四人が馬を使って汗みどろでやるとつかまえるほどである。

それをどうやって足跡を残さずにつかまえて殺し、耳や生殖器を切りとって、再び足跡を残さずに退散できるのか、とても考えられないこと

である。解剖の結果、獣医が所見を発表した。

(一) 死後十二時間以内と思われる。

(二) 注射の跡や、薬物、麻酔薬、毒薬等が投与された形跡なし。

(三) 首の部分の肉だけが、外気が暑にもかかわらず冷たい。

(四) 大部分の血液が、方法、原因ともに不明のまま抜きとられている。

(五) 死因と考えられるものなし。強いて言えば心臓と肺に見つかった泡状の液体……これで窒息死した可能性もあるが、麻酔薬が検出されないのこの泡状のものが何であるか不明。というものである。

死体の下の地面にも周囲にも、血液が吸いこまれた形跡はなく、レイン保安官補は、これもまたキャトル・ミュートイレーションであるということ以外、何もわからないと発表した。

■ UFOと何らかの関係が

午後四時半。ガタガタのおんぼろトラックに乗ってカスケード郡警察保安官事務所に戻った。レイン保安官補に最近の事件について説明をきくことにする。

彼の調査によると、このカスケード郡と隣りのマディソン郡の両郡だけで、ここ一年間に二百件以上のキャトル・ミュートイレーションとUFOの目撃が報告されていて、事件があつて

も届け出ない人も多いことから考えて、実際にはこの数倍は起きているにちがいないという。

「最近起こった興味深い事件だけを挙げても、次のとおりです」

と、いかにも警察官らしい几帳面な態度で、地図を前に話し出した。

「郡北東部のこの辺りでは、UFO目撃事件が多く、ここでは、ある夫人が自動車で帰宅途中、UFOに追いかけて回されるという事件があり、私が調査しましたが、彼女の供述に嘘は認められず、他にも近所の人の証言があり事実と認定しました。このポニーという辺りでは、毛むくじやらの二メートル以上もの背丈の雪男らしいものがさかんに目撃され、夜間、牧場内を二頭で歩いているところや、道路を横切っているところを見た人もいます。これも私自身で調査しましたが、巨大な足跡も発見され、それらしい生物が歩いていたことは確かかなようです。

また、アッパーヘンチクリークではキャトル・ミュートイレーションが一度に六件も発見され、その夜、UFOが目撃されていますし、アイダホ州との州境に近いモンタナ州マディソン郡の牧場の牛が二頭、いつの間にか殺され、血を抜きとられたうえ十キロも離れたアイダホ州の山中に、足跡も何の痕跡も残さず放り出されているのが発見され……」

という具合に、レイン保安官補は次

て、少しずつ小刻みに切っていくか、と切れないものようだ。

獣医は、もしこれが人間わざだとすると、何か特殊な器械（自分でもそれがどんなものか見当もつかないが）を開発したとしか考えられない。それに、そんな大がかりなものを、どうやって足跡も残さずを持ち込み、暴れるはずの牛に切りつけるのがわからないし、第一、そんなことをしてまで、キャトル・ミュートイレーションを起こす理由がまったくわからないという。

この死体のある場所は、牧場主の家

から百六十メートルくらいしか離れていず、家からの見通しも良いにもかかわらず、牧場主の一家の誰も怪しい物音を聞いていない。そして人間や車が出入りしているようでもない。

しかも不思議なことには、牧場主の飼っている番犬は非常に敏感で、普段はちょっとした異常にも気づいて、吠えたり、誰かがこの家を訪問してきても車から外へ出られないほどだというのに、事件のあったと思われる昨夜から今朝にかけては、吠え声一つたてていないのである。

々と、奇怪としかいいようのない事件をまるで当然のこのように淡々とした口調で説明するのである。

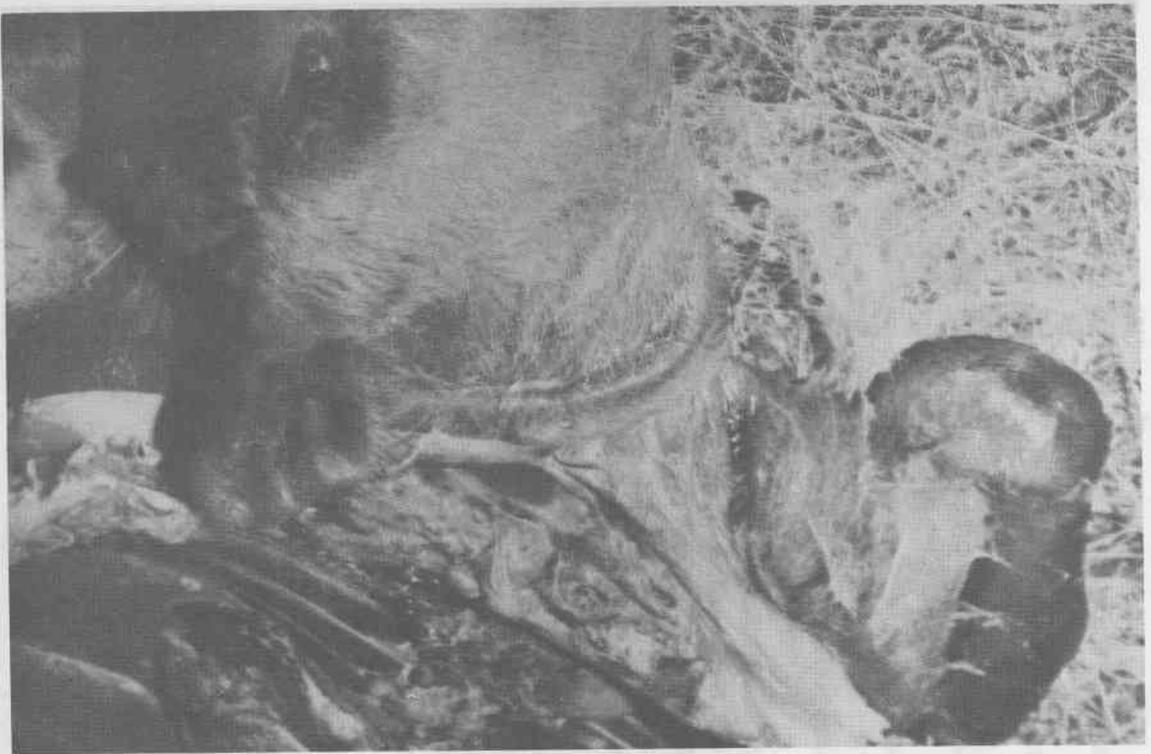
彼をはじめ、他の郡警察の保安官補も共同で、何とかこのキャトル・ミューティレーションの犯人を挙げ、原因をつきとめたいと捜査しているが、何の手がかりもなくまったくの五里霧中ということだ。にもかかわらず、毎週のようにどこかで牛が変死体となって発見されているのが現状だという。

ただ一つ言えるのは、UFOと何かの関係があるらしいことで、キャトル・ミューティレーションがあった時には必ずといっていいほど、付近の住民がUFOを目撃しているし、現場には、UFOの着陸跡らしいものが発見されることも多いとのことである。

そして、これもどういふ関係があるのかまったくわからないのだが——と前置きして、現場近くに必ずといっていいほど現われる「幽霊ヘリコプター」とも「黒いヘリコプター」とも呼ばれる不気味なヘリコプターについて話し出した。

それは国籍も所属も不明の、真っ黒に塗られたジェットヘリコで、どこからともなく現場付近の上空に現われ、どこへともなく去っていくという。

彼自身も何度か目撃し、陸・空軍基地をはじめ民間の団体、航空会社等、あらゆる関係機関に電話で問い合わせたが、その方面には飛ばしていないと



●奥深く根こそぎ耳がえぐりとられた牛。性器もスッパリと切断されている。

いうので、謎のヘリコプターとして記録するだけだという。

この謎の「黒いヘリコプター」が現われるのは、コロラド州でも同じらしく、保安官事務所に入った情報のなかで最も奇妙なものは、コロラド州で起こった「黒いヘリコプター」遭遇事件だろう。

■ローブをまとった宇宙人

一九七六年四月、コロラド州のある税務調査官がハイウェイを公用車で走行中、真っ黒に塗られた、標識も何もないヘリコプターが低空で追跡してくるのに、ふと気がついた。

車のスピードを上げて逃げようとしても、びったりくっついてきて離れない。誰かのイタズラかとも思ったが、イタズラにしてはしつこすぎる。

そのうち、ヘリコプターは超低空で車の前へ回りこみ、車を道の端によせて止るように指示したが、彼は相手が何者かわからず、恐かったので、そのまま、つつ走った。すると驚いたことに「黒いヘリコプター」は道路路上に強行着陸し、彼の車をストップさせたのである。

何とも得体のしれない恐怖でパニック状態におちいったこの税務調査官は、持っていたショットガンをこの黒いヘリコプターに向かってぶっ放したのである。

その散弾が当たったかどうかはわか

らなかつたが「黒いヘリコプター」は急上昇し、あつという間に視界から去って行ってしまったという。

その直後、あらゆる関係機関に問い合わせたが、そのようなヘリコプターを飛ばしたところもなければ、もちろんショットガンで撃たれたなどという事件もないという返事で、未だに事件は謎に包まれたままなのである。

税務調査官は、ヘリコプターのフロントグラス越しに三人の人影らしいものを見たような気がすると言っているが、興奮していたのと恐慌状態だったのとで、はたして人間だったかどうかさえわからないという。

さらに奇怪なのは、白いロープ（ワイドつきマントのようなもの）や黒いロープをまとった宇宙人のような人影が、各地で目撃されていることで、不思議なことにオハイオ州では白いロープ、コロラド州やモンタナ州では黒いロープのことが多い。

■通せんぼする黒い人影

レイン保安官補の話によると、実際にこのモンタナ州で起こった信じられないような怪奇事件があるという。

名前は本人の希望で言えないが、仮りにスミス夫人ということにして——と話しはじめたところによると、次のような事件である。

一九七六年五月、夜の十時半すぎ、スミス夫人は隣り町の知り合いを訪ね

た帰り、もう人通りも途絶えた州道を車で走っていた。ふと見ると、前方に黒いロープをまとった小さな人影が横一列に並んで通せんぼをするように立ちほだかっている。

ひょっとすると、車をとめて、乱暴をしたり強盗をはたらいたりする無頼の徒かもしれない（アメリカでは、よくあるケースなので）と恐くなったスミス夫人は、そのまま突っ走ることになり、アクセルを踏みこんだ。ところが驚いたことに、当然よけるだろうと思

った人影は身動きもしないで立ちほだかつたままだったために、一人の人影をはねとばしてしまった。恐怖と混乱で半狂乱になったスミス夫人は、町の警察にかけこみ、事実を訴えたのである。早速警察のパトカーに同乗して現場へ引返したスミス夫人は、驚きのあまり気絶してしまった。

警官の徹底的な捜査にもかかわらず、現場付近には人のひかれた形跡も、血痕も何一つ発見されなかったのである。

そのうえ、州のあらゆる病院をあたつたところその夜もその後日もケガ人が運びこまれたことも、救急車の要請も、輸血用の血液を依頼されたことさえもなかったのだ。

スミス夫人は、未だに自分の頭がおかしくなつたのではないかとノイローゼになりかかっているが、彼女のほかにも、このような黒いロープの人影を

目撃し、それが、見ている前で消えてしまったという体験をした人も多いという。

いったい全体、この「キャトル・ミューティレーション」と「UFO」と「黒いヘリコプター」と「黒いロープの人影」とはどういう関係にあるのだろうか？ レイン保安官補の、冷静に事実をありのままに述べる淡々とした語り口に聞き入りながら、こっちの頭がおかしくなつてきそうだった。

あまりにも現実にはなれした、奇怪な事件が、現実につながり続けているのである。

■死体のそばにUFO着陸跡

電話がかかってきた。

相手は興奮してしゃべっているようだが、レイン保安官補は事務的に「ウン、ウン」と聞いているだけで最後に「今日はもう暗くなつて無理だから明日行く」といって電話を切った。

何だろう？ と訊きたそうにしていると、「明日、いっしょに行つて見ますか？」という。

何と、フォート・ショーという所で仔牛の死体が発見され、その周囲には三カ所のUFOの着陸跡らしいものが残されている、というのだ。もちろん「ぜひお願いします」と勢いこんで答えた。

一九七六年八月六日。モンタナ州カスケード郡フォート・ショー。

牧場といつてもかなり人里離れた盆地の一面に、仔牛が死んでいる。

例によって、周囲には足跡らしいものではなく、仔牛の咽喉から胸にかけて、一直線に直径二、三センチの穴があけられている。耳も奥深くえぐりとられ、性器もスバツと切りとられてい

る。そして、やはり血が一滴もない。咽喉の傷から血が抜けたのではない証拠に、周囲の地面には血が浸みこんだあとがない。そのかわりに、死体のまわりの地面が、何かの放射線に焼かれたように黒く焦げている。あきらかに焼かれたものではないのだ。

死体を中心にして半径四メートルくらいの距離に三つのUFO着陸跡らしいものが見える。それは直径四、五メートルの円形をなしていて、なぜかその円のふちがおのおの幅三十センチくらいの輪になっている。

高さ二十センチくらいの牧草が、円形になぎ倒されたようになっていて、それぞれの草が強力な扇風機を真上から押しあてられたように、全部一方方向に倒れているのだ。

マディソン郡の保安官補ディック・ノーランドが持ってきたガイガーカウンタに、わずかながら放射能が検出された。仔牛の死体の周囲と、円形の着陸跡らしいものの内側に反応があ



●殺された仔牛には母牛ばかりかコヨーテやハゲタカさえも寄りつかない。

ったのである。

これは、はたしてUFOの着陸跡なのだろうか？

いや、UFOではないとしたら、いったい何なのだろうか？

不思議なことに、この死体の傍に他の牛が寄りつかない。

普通は、仔牛が死んだ場合、母牛が三〜四日は傍についていて離れないもののだが、この仔牛の死体にはどの牛も見向きもしないのだ。

そして、いつもは動物の死体を見ると集まってくるコヨーテやハゲタカも、まるで姿を見せないのである。

この仔牛のミューティレーションが発見された前の晩、UFOを見たという男に会った。

近くの農家に住むこの人は、

「あれは夜の十二時すぎだったかな。家の犬があまりうるさく吠えるんで外へ出て見たんです。すると、西の方の空にもものすごく大きな光りの球が五つ、Vの字型に並んで飛んでいて、そのうちの一個が止まったかと思うと、別の四つと離れて下の方へおりて行ったんです。私は、何だかいやなものを見ちゃったような気がして恐くなり、家へ入っちゃったので、その先、どう

なったのか見てません。球の大きいですか？ えーと……お月様が一番高い所に昇った時くらいに見えたんです。が、あんなに明るくはなかったと思います。下の方へおりてきたときには、

その球の下からスポットライトみたいな別の光がのびてたような気がするけど、はつきりとはわかりません」という。そして彼は、昨日発見された仔牛のミューティレーションを知らないと答えた。

■誰が起こしているのか

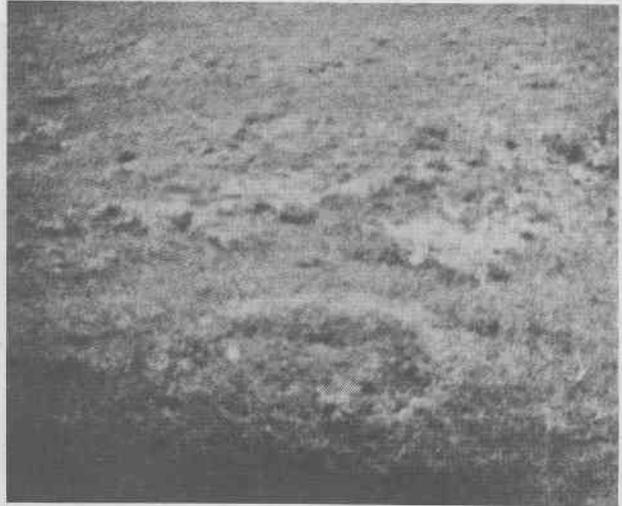
発見されてから二週間もたっている雄牛のミューティレーションの死体を見に行った。

そこはアップバーヘンチクリックという所のコイ・ブラウン氏所有の牧場内で、奇妙なことに死体はこの暑さにもかかわらずあまり腐敗が進んでいない。

この牛は上くちびると眼がえぐりとられ、顔の左半分も、だ円形に、信じられないほど鮮かな切り口で切りとられ、歯と歯ぐきが露出している。どんな方法でこのような切り方ができるのか見当もつかない。

牧場主のブラウン氏は、ショックで寝込んだままだというが、早いところ、公的機関(警察でも州政府でもいいから)が、犯人や原因を明らかにしないと、住民にパニックが起きそうな心配である。

アメリカという国は、殆どの地域が牧場といってもいいほど牧畜が盛んで、牛は重要な産物であり、それだけに住民と牛とのつながりは、日本のわれわれが想像する以上に密接である。



●キャトル・ミュージェーション現場に残されたUFO着陸跡らしいもの。円形に、草が一方向になぎ倒されている。

ティレーション事件のニュースは、その後ばったりと途絶え、現在は、殆ど報道されていないのである。

だが現実には、事件は各地で今もなお起きているのだ。

このキャトル・ミュージェーションが、いったい誰の手で起こされているかについては、いろいろな説が取沙汰されているが、大別すると次の四つに要約される。

- (一) 軍の秘密実験だという説。
- (二) 敵国のスパイ活動だという説。
- (三) 狂信者の団体のしわざだという説。
- (四) UFOと宇宙人のしわざとする説。

だが、(一)はちょっと考えにくい。もし軍隊の秘密兵器実験なら、もっと人里はなれた所で大量に牛を集めて行うだろうし、一頭ずつ、それも全米各地にわたって、こっそり人眼にふれず殺して歩くのでは軍の兵器として役立つとは思えない。

(二)については、現実にはどの国が敵国なのかかわからないし、その敵国がこれまで全米各地に人を派遣して、こそそと牛を殺して歩くような、大がかり

りなわりには効果が薄いと思われる手段をとることは考えられない。もっと有効かつ適切なスパイ活動はいくらもあると思われる。

(三)については、いかに大規模な狂信者の団体でも、全米二十数州にわたって、しかも足跡を残さずに特殊器械を使って牛を殺すなどということは不可能に近いし、単に牛の血や性器がある種の宗教儀式に必要なならば、牛を買ってきて人里はなれた所で行う方がずっと簡単で経済的だと思われる。

ヘリコプターを使って、夜間こっそり牛を運び、どこかで殺して血を抜きとったり、部分を切りとったりえ、再びヘリコプターで持ってきて上空から落とすのだという説をとる人もいたが、ヘリコプターは一機、一億円以上もするし、ガソリン代だけでも一時間あたり五万円以上もかかるうえに、一日に四州にまたがって事件が起きていることもあるので、数機のヘリコプターが必要で、とても経済的になたないと思われる。第一、五百キロ以上もの体重の牛をどうやっておとなしくさせ、ヘリコプターに押しこむのか、それを考えただけでも不可能に近い。——とすると、最後のUFO宇宙人説しか残らないことになってしまうのだ。

隣り町の、親戚を訪ねる往きと帰りに、二度も、至近距離でUFOを目の当たりに見た婦人の話。

自分の牧場内で地上六メートルにいるUFOから、スポットライトのような光が自分の牛に当たるのを目撃、その翌朝牛の死体を発見した牧場主の話。ミュージェーションの牛のなかから発見された沢山の謎の金属片の話。人里離れた谷間の廃屋に見つかったおびただしい人血の空袋の話。

取材中、ついに黒いヘリコプターの撮影に成功した話等々、まだまだ奇怪な調査結果は沢山あるのだが、残念ながら紙数が尽きた。

いずれにしても「キャトル・ミュージェーション」と「黒いヘリコプター」と「UFO」と「宇宙人」という、この考えるだけでも頭のなかが混乱してしまいそうな事件には、何か隠されたつながりがあるのに違いない。

この、今なお全米で続いている怪奇としかいえないような事件の謎が解けるのはいつのことであろうか？

ちなみに、キャトル・ミュージェーション多発地帯と、ミサイル基地や軍のリーダー基地のある地域とは、奇妙にも一致しているのである。

●お知らせ

本稿の筆者、矢追純一氏の著作物を出版元の株式会社平安のご協力により読者のみなさまにプレゼント。詳細は10ページを参照ください。同社からは矢追純一シリーズとして、プレゼントの本他に『写真で見える空飛ぶ円盤200集』(1200円)、第2集『写真で見える空飛ぶ円盤・宇宙人200集』(1000円)が出ています。

UFO写真のコンピューター分析

アメリカ現地レポート
〜 UFO研究の最新動向〜

富川正弘

最近、コンピューターを使用して、UFO写真を分析する方法がアメリカで開発され、世界のUFO研究界の注目を集めている。そこで、本誌二十号でおなじみのUFO研究家富川正弘氏に、この画期的な手法の詳細を現地から報告していただいた。これは、はたして、UFO写真の真偽を鑑定する決定的手段になるのだろうか。

重要かつ困難な課題

UFO写真の鑑定は、UFO研究者にとって重要な課題のひとつだが、これまででは頭痛の種でもあった。

なにしろ、いわゆる「UFO写真」と称せられるものは沢山あるが、その大多数が偽物だと言われている状況である。しかも、いかにも本物らしく見える写真が、実はまっかな偽物であったり、逆に、一見いかにも偽物くさく見える写真が真正正銘のUFOの写真であったりして、UFO写真の鑑定は

これまでの写真鑑定法

従来、UFO写真の真偽鑑定には、主に、次のような方法が用いられてきた。

(一) 使用したカメラ、フィルム、シャッター・スピード、レンズの絞りを詳しく調べ、また、ネガに何か細工をしていないかといったことを調べる。

(二) 写真を拡大し、小さな写真では気がつかないような点を念入りに調べる。例えば、模型を糸で吊した形跡がないか、灰皿を二つ貼り合わせて、空に投げたところを写したような形跡がない

容易なことではなかったのである。

そして、あまりにも偽物の写真が多いために、UFOの存在を否定する人たちからは本物のUFO写真まで、「ほら見る、だから、UFOの写真なんてものは、どれもこれも皆インチキさ」と、あっさり片づけられてしまっていた。

このような現状から、誰からも信頼される、科学的なUFO写真鑑定法の出現が待たれていたわけである。

か、といったことである。

- (三) 太陽の位置、陰の向き方、光の当たり方、物体表面の光の反射の仕方などを詳しく調べ、目撃者の話と矛盾する点がないか確かめる。
- (四) UFOと地上の建物、樹木などとの比較から、距離、角度等を推定して計算し、話に矛盾する点がないかを調べる。
- (五) 電子密度測定機を使用して、UFOや建物、空などの影像のグレイ・バリエーションを測定し、光の反射率などから物体の像、表面

の状態に不自然な点がないかを調べる。

(六) 夜間撮影されたという怪光体の場合には、地上の光によってできたレンズのゴースト(虚像)ではないかを調べる。

これらの方法は、比較的费用も安くすみ、もちろん現在でも非常に有効な鑑定法であるが、もうひとつこれと

注目を浴びるGSW

ところが最近、アメリカのアリゾナ州に本部を持つUFO研究団体、GSW (Ground Saver Watch) が、コンピューターを使用してUFO写真の真偽を鑑定するという、真に科学的な方法を開発し、世界中のUFO研究者から期待をもって注目されている。

GSWという団体については、本誌二十号の「トラス・ウォルトン事件の真相」という記事の中で、筆者が紹介したのでご存じの方も多いと思う。ここで再度簡単に紹介しておく、GSWは「UFOの科学的研究」をモットーとして、最近急速に実力を増してきた団体である。会員数は五百人以下と小さいが、厳選されたメンバーの中

いった決め手に乏しいうらみがある。「トリックを使って、似たような写真を作ることは可能かもしれない。でも私は本当に、この物体を見てカメラで写したのだ!」

と撮影者が主張した場合、それを絶対に嘘だと言いきれるだけの決定的な証拠になり得ないという弱点を持っていたのである。

には、科学者、技術者、各分野の専門家が多くいる。代表者のビル・スポールディング氏も、本職はフェニックス市にある航空宇宙工学関係の会社(エアリサーチ・マニファクチャリング・カンパニー)の品質管理の技術者である。

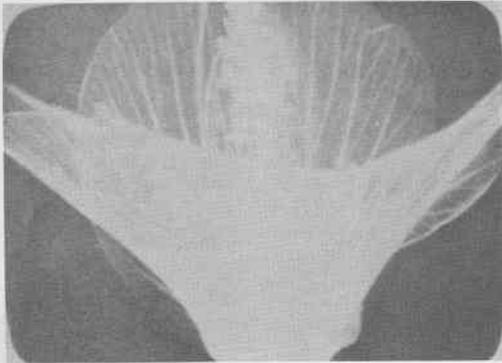
GSWは、アメリカの三大UFO研究団体のひとつMUFON(相互UFOネットワーク)の姉妹機関でもあり、スポールディング氏は、MUFONのアリゾナ支部長を兼ねている。今年の七月七日にはフェニックス市でMUFONの全米総会を開催するというところで、スポールディング氏は現在、その準備に余念がない。

絶対の自信を持つ関係者

前置きが長くなったが、このGSWが、スポールディング氏の専門の航空宇宙工学の最新の技術革新の成果を取り入れて、コンピューターによるUFO写真の真偽鑑定法を開発したのである。

この手法に用いられている技術は、アメリカがこれまで月に人間を送ったり、火星にロケットを軟着陸させて写真を撮影したりするのに使用されたものと同じであるから、もしこの手法が科学的に間違っているとすれば、アメリカは月にも火星にもロケットを送り込めなかったはずだと、スポールディング氏は絶対の自信を持っている。筆者は念のために、この手法が信頼できるものかどうか、東京大学工学部

▽写真1



のある教授にチェックして頂いたのでが、「手法は信頼できます」というご返事であった。

なお、フロリダ州ケープ・ケネディ基地にあるNASAの宇宙センターの展示場には、この「コンピューターによる写真の影像強調手法」について、簡単な展示がされている。

GSWが開発したこのコンピューターによる画期的な鑑定法は、すでにイギリスの「フライング・ソーサー・レビュー」(Vol. 22, No. 1, 1976)、アメリカの「スカイルック」(March, 1976)、「ユーフォロジ」(Summer, 1976)など各誌で紹介されているので、ご覧になった方も多いと思う。幸い筆者は、フェニックス市近郊に

▽写真2



在住していて、スポールディング氏から直接何度もこの手法についての説明を受け、貴重な写真も多数入手すること

第一階段 輪郭線の強調 (Edge enhancement)

とができたので、この画期的な方法について、以下に順を追って説明しよう。

この手法を分かりやすく説明するために、まず、花の写真を例にとってみよう。(写真1)これは花のレントゲン写真である。このレントゲン写真により、花びらの中のすじや組織がどういう風になっているか大体分かるが、

まだはっきりしない部分もある。そこで、この手法を使って輪郭線の強調を行くと、すじや組織の有様がはっきりと分かるようになる。(写真2)

読者の皆さんは、テレビの画面を調

▽写真3



整する場合に、画面を暗くすると暗い所がいつそう黒っぽくなり、反対に、明るくすると明るい所がいつそう白っぽくなったという経験をお持ちだろう。第一段階は要するに、あれと同じような処理をしたと思えばよい。こうすることによって、普通の写真（レントゲン写真でなくてもよい）では、はっきりしない部分が強調されて、観察が容易になるわけである。強調する線の太さは、観察しやすいように、太くも細くも自由に調整できる。

この手法は実際の工業分野でも実用化されており、例えば鋳物の中にある亀裂の検査に用いられている。普通のレントゲン検査では発見できない亀裂でも、この手法なら容易に探知することができるのである。

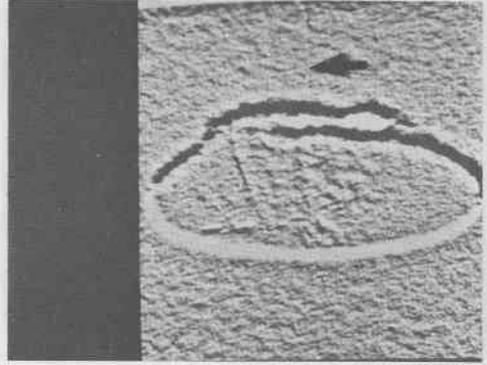


写真4



写真5

この手法を使用すれば、UFOの影像上の細かな部分を強調して観察でき、普通の拡大鏡や、引き伸ばしでは発見できないような微細な点や線までも発見できるようになる。写真3は、カリフォルニア州サンタ・アナでヘーリンが写したという有名な円盤写真である。この写真は、これまで世界中のほとんどのUFO研究者から、本物だという評価を受けてきたものだが、驚いたことに、GSWの新技术により偽物の写真であるということになった。普通の拡大写真ではとも見えないかった細い糸らしき物の影が、UFOの上部（写真4の矢印の所）にあることが分かり、模型を糸で吊して写したものと鑑定されたのである。

一方、本物のUFOの写真はこの手

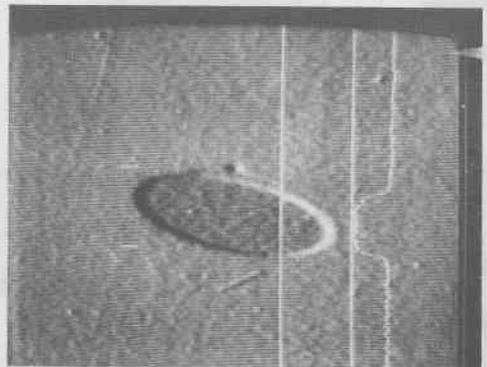


写真6

法で鑑定すると、どういふ結果が得られるだろうか。一九五〇年に、オレゴン州マクミンビルでポール・トレントが撮影したという写真を例にして説明を続けよう。(写真5)

第二段階 色による密度分布図 (Color Contouring)

次に、色による強調手法であるが、まず口絵四と五ページに掲載したカラー写真をご覧いただきたい。(写真1)これは花の写真のカラーの密度分布図である。

花弁の厚さはどこもほぼ一定であるが、重なって写っている部分は密度がそれだけ高くなるため、異なった密度分布となつて表われる。同じ色の部分は、同じ密度であることを示すものである。

何も無いところ(黒色の部分)と、一番密度の高いところ(白色の部分)との間は、合計三十二色の色で、密度分布の状態を分かりやすく色分けすることが出来る。この花の写真では、

写真6は、輪郭線の強調手法を用いて写真5のUFOの像を強調したものが、ヘフリンの写真(写真4)に見られたような糸らしい影も見当らず、確かな物体であることが分かる。

白、青、緑色のところは、黄色、赤のところよりも密度が高いことを示している。ただし、色の順番は、その検査の目的に応じて見分けやすいようにどのようにでも変えられるので、赤の部分は常に黄色の部分よりも密度が低いというわけではない。

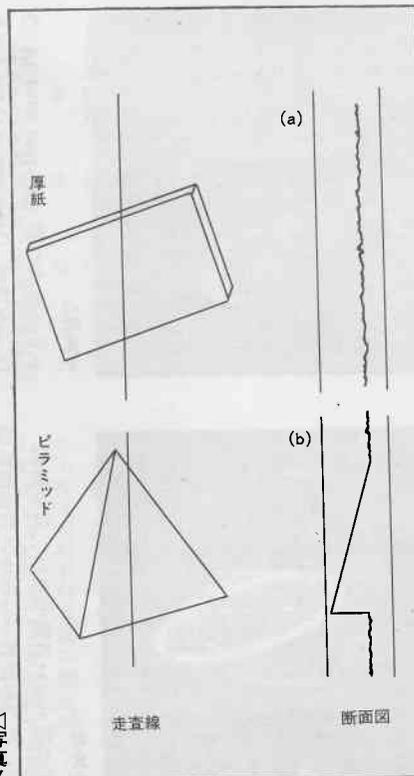
この手法は、レントゲン写真だけではなく、普通の写真にも応用できるので、UFO写真の密度分布を調べるのに都合がよい。同じく口絵四と五ページに掲載した写真IIは、トレントの写真(写真5)をこの手法によって処理したものである。この写真によって、物体の中央部は、影像の密度が均等に分布していることが分かる。

第三段階 密度断面図の作成 (Cursor Profiling)

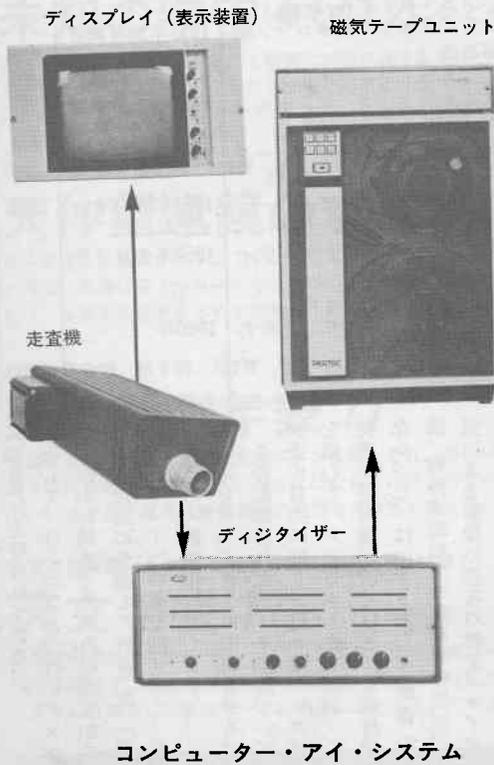
写真6と写真IIのUFOの像の中央部を上下に走っている白い線は、電子ナイフで切った走査線である。写真の右側に、走査線で切った部分の断面図

が示されている。これは、カリフォルニア州のスペイシャル・データ・システム社で開発された「コンピュータ・アイ・システム」の特別な走査機

によって検査されたものである。この断面図は、図1で見られるように、ピラミッドのような物体ならば(b)のような形を示すが、もしも厚紙ならば(a)のようにほとんど直線となってしまう。写真6と写真IIの断面図は、厚紙をUFOの形に切り抜いたものではなく、



△写真7



コンピュータ・アイ・システム

コンピューターによる UFO 写真鑑定結果

GSWは、この画期的な新手法を駆使してこれまでに数百枚もの「UFO写真」の真偽鑑定を精力的に進めてきている。

以下にGSWの発表結果の一部をご紹介します。偽物あるいはUFOではないと鑑定された中には、「まさか」と驚くような写真も含まれているが、この発表結果を信じる信じないは読者の自由である。

1. 本物と鑑定されたもの

撮影地名 (人名)	撮影年月日	撮影時間
オレゴン州マクミンビル (ポール・トレント)	1950年 5月 11日	日中
ブラジル、トリンダデ島 (アルミロ・バラウナ)	1958年 1月 16日	日中
ミネソタ州セントジョージ (アーサー・ストラウチ)	1965年 10月 21日	夜間
オクラホマ州タルサ (アラン・スミス)	1965年 8月 2日	夜間
アフリカ上空 (仏、コンコルド機)	1973年 6月 30日	日食観測中

2. 偽物あるいはUFOではない他の物体と鑑定されたもの

撮影地名 (人名)	撮影年月日	撮影時間
テキサス州ラボックの怪光群 (カール・ハート)	1951年 8月 31日	夜間
マサチューセッツ州セーレム (S・R・アルパート)	1952年 7月 16日	
ニューメキシコ州ホロマン空軍基地 (エラ・フォーチュン)	1957年 10月 16日	
オーストラリア、メルボルン (匿名の会社重役)	1966年 4月 2日	
ニュージャージー州パセーク (ジョージ・ストック)	1952年 7月 28日	
ペンシルバニア州ビーバー (ジェームス・ルッチ)	1965年 8月 8日	夜間
ブラジル、バルラ・デ・ティジュガ (エド・ケッフェル)	1952年 5月 7日	
カリフォルニア州サンベルナルディノ (マイケル・サベージ)	1960年	

(Pixel) と呼ばれている。

そして、ひとつひとつのピクセルには、白から黒までの灰色の濃度を二百五十五段階に分割した灰色度 (グレイ・バリュウ) の値を割り当て、デジタルサイズ (数値化) して、デジタル・コンピューターに記憶させる。

この記憶されたデータに基づいて、検査の目的に応じて色々なプログラムを組むと、コンピューターによって、従来の写真鑑定法ではとても期待できなかった、はっきりとした影像の作成、物体表面の光の反射率の測定、大気による影像の歪みの測定、サイズの比率の計算、カメラから物体までの距離の計算、物体の密度の計算などが、自由自在にできるようになるのだ。

写真8は、この手法によって得られ

写真9

のます目 (Picture cell) を作る。この Picture cell は、略してピクセル

写真8

写真9

写真9

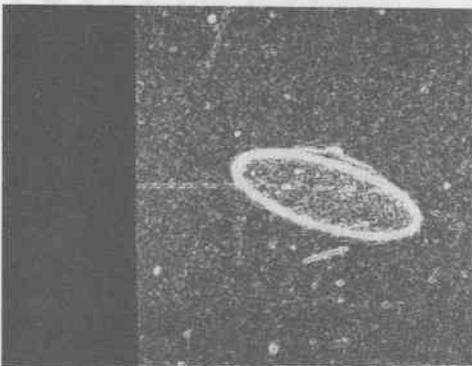
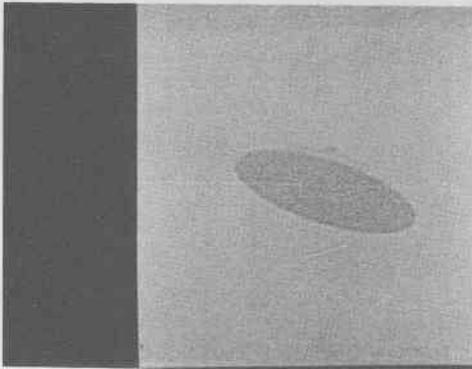
第四段階 影像の強調 (Image enhancement)

この手法の最後のステップは、デジタル・コンピューターを使用して影像の強調を行い、普通の拡大方法では見られないような、はっきりとしたUFOの形を見たり、距離を測定したりすることである。

普通の白黒写真は、薄い灰色や濃い

コンピューターが使用されている。UFO写真の鑑定結果は、接続しているカラーテレビの画面に写し出されるので、必要な画面は写真にとっておくことができる。

灰色が寄り集まって、ひとつの像を形づくっているが、この灰色の濃淡は白色から黒色まで連続的な濃度となっている。このデジタル・コンピューターによる手法では、まず、写真の画面を縦に四百八十分割、横に五百十二分割して、合計二十四万五千七百六十個



天文図書の

地人書館

新刊

●天文学習に役立つ天文ファン待望の書

天文観測辞典

古畑正秋監修 A 5判 380頁 定価2900円 千200円

天文観測用語の解説と観測法の標準化を目標に、第一線の諸先生が解説した天文ファン必携の辞典です。天文の基礎事項から天文現象・観測法・機器などまで観測に役立つことに徹しました

●初心者のための入門の入門書

子供の天体観測

天文と気象編 B 5判 128頁 予価700円 千160円

観測をはじめようと思っても、どんな望遠鏡がいいか、またどうすれば星がさがせるかなど、望遠鏡をのぞく前に知ってほしい観測の基礎知識をいっばいつめこんだ天体観測の入門書

好評発売中

リービット著 斉田博訳 B 5変形 210頁 定価2000円 千200円

未知の宇宙 ●そのナゾにいとむ

7千万度で固体の中性子星、1秒間に30回点滅するパルサー、アスピリン1錠に地球の全人口を詰めこんだようなブラックホールなど、不思議な天体のナゾにいとむ、独創的な解説で評判

天文と気象編 B 5判 190頁 定価1000円 千160円

天体望遠鏡のすべて'77

天体望遠鏡は直販システムですから注文するのにカタログ集めが大変。本書は各メーカーが今売出中の190機を口径別にとりあげ、写真や性能をまとめて掲載し比較検討しやすくしました

編集委員会編 B 5判 192頁 定価1000円 千160円

天文観測年表'77

年表は天体の時刻表として天文ファンに親しまれ、詳しい星の動きは天体観測者にとって、なくてはならない座右のデータです。いま注目の限界線掩蔽観測に必要な月縁図も加えました!

天文と気象編 A 6判 192頁 定価480円 千120円

天文手帳'77

携帯用の星座早見盤付手帳として、天文ファンを驚嘆させた話題の手帳です。惑星の動きは東西天図で、天文現象は天文カレンダーに、観測に必要なデータは巻末にまとめられています!

●UFO写真をコンピューターで鑑定してもらいたい方に

このGSWの開発した手法をもっと詳しく知りたい方、またはUFO写真をコンピューターで鑑定してもらいたい方は、左記の住所に直接英語の手紙でお問合せになるとよい。

GSWでは、正確な結果を得るにはなるべくオリジナルのネガから直接引き伸ばした写真が望ましいとしている。ただし、ご承知のように、コンピューターの使用料は非常に高く、GSWも一分間いくらというような時間借りで使用している状況で、一枚の写真を鑑定するのに約二十〜二十五ドル(六千〜七千五百円)もかかるという。GSWのメンバーも、UFOの研究

で生計を立てているわけではなく、それぞれの本職の余暇に、忙しい時間をさいてUFOの研究をしているのだから、何枚も写真を送って無料で鑑定をしてもらおうなどという、甘えた考えは絶対にやめてほしい。

問合せする場合、少なくとも鑑定に要する実費と返送の郵送料は負担すると明記するだけのエチケットは守っていただきたい。(富川正弘)
MR. WILLIAM H. SPAULDING
GROUND SAUCER WATCH,
INC. 13238 NORTH 7TH DRIVE
PHOENIX, ARIZONA 85029
U. S. A.

たトレント写真のUFO像である。従来の方法では、いくら写真を大きく引き伸ばしてみても、これほどはっきりした像は得られなかった。

また、写真9は、近くにある物体よりも遠くにある物体の像の方が、距離のためにピクセルが歪んでくることを利用して、このUFOが遠方にある大きな物体であることを示したものである。もしもこの物体が、カメラの前にぶら下げられた模型のようなものならば、ピクセルは歪まないから、UFOのまわりの白い線はもっとはっきりとした線になって出てくるはずである。

以上、この新手法について簡単に説明してきたが、実際はそれほど簡単

ものではない。複雑な手法と、高度の専門知識を駆使して、はじめて操作できる方法なのである。読者の皆さんの中で理工系の学問に強い方は、ぜひ、この手法の一層の開発に挑戦してみてください。

あいにく、この新手法は、従来のUFO写真鑑定法にくらべて、技術的な知識と高価なコンピューターの装置を必要とするので、一般的でないのが残念であるが、これからのUFO写真の真偽鑑定に絶大な偉力を発揮することは間違いない。

今後、我が国でも、このコンピューターによるUFO写真の鑑定が広く行われるようになることを切望する次第である。

■一九七五年一月六日、ゴンザレスによる目撃事件

我々が結論し得る限りでは、ノース・ハドソン公園における最初のUFOの出現は、一月六日の朝であった。目撃者はウェスト・ニューヨークに家族とともに住むキューバ人の移民で三十九歳になるフランシスコ・ゴンザレスである。当時ゴンザレスはパートナーのドアマンとしてストーンヘンジで働いていた。勤務時間は毎週月曜日の午後八時から十一時までだが、一月六日には翌朝午前二時半頃までロビー

で当番にしていた。

「おれはデスクの所に立っていた。眼の前のドアのすぐ横から外を見ていたら、あのものが見えたんだ」

二・四×一・七メートルの巨大なガラス窓はフロント・ドアの左手にあった。彼は驚いた。そのビルの西側二百メートルばかりむこうの遊び場の上空数百メートルの位置に、かなり大きな物体が音もなく静止しているのだ。

「おれは丸い物体を見ましたよ」と、一九七六年一月二十九日の電話連絡で彼は語っている。

「すごく輝いて、四角な窓がいくつもついていた。おれはほんとうにたまげ

●先号では一九七五年の初頭における事件の概要を述べたが、本号では更に詳細を伝えることにしよう。場所は大ニューヨーク市のマンハッタンからハドソン川をへだてた対岸のノースバーゲンにそびえる円形の高層ビル「ストーンヘンジ」アパートを中心とする地域である。

たね！」

もつとよく見ようとして彼はロビーの入口の方へ歩み寄った。

「ドアを開かないで内側に立ってから

その物体の底が鮮明に見えたよ」

物体は仰角約四十五度の位置にあって、周囲には窓があり、平面図にするると円形で、平たい底部は強烈に輝いて

大ニューヨークの郊外に円形着陸

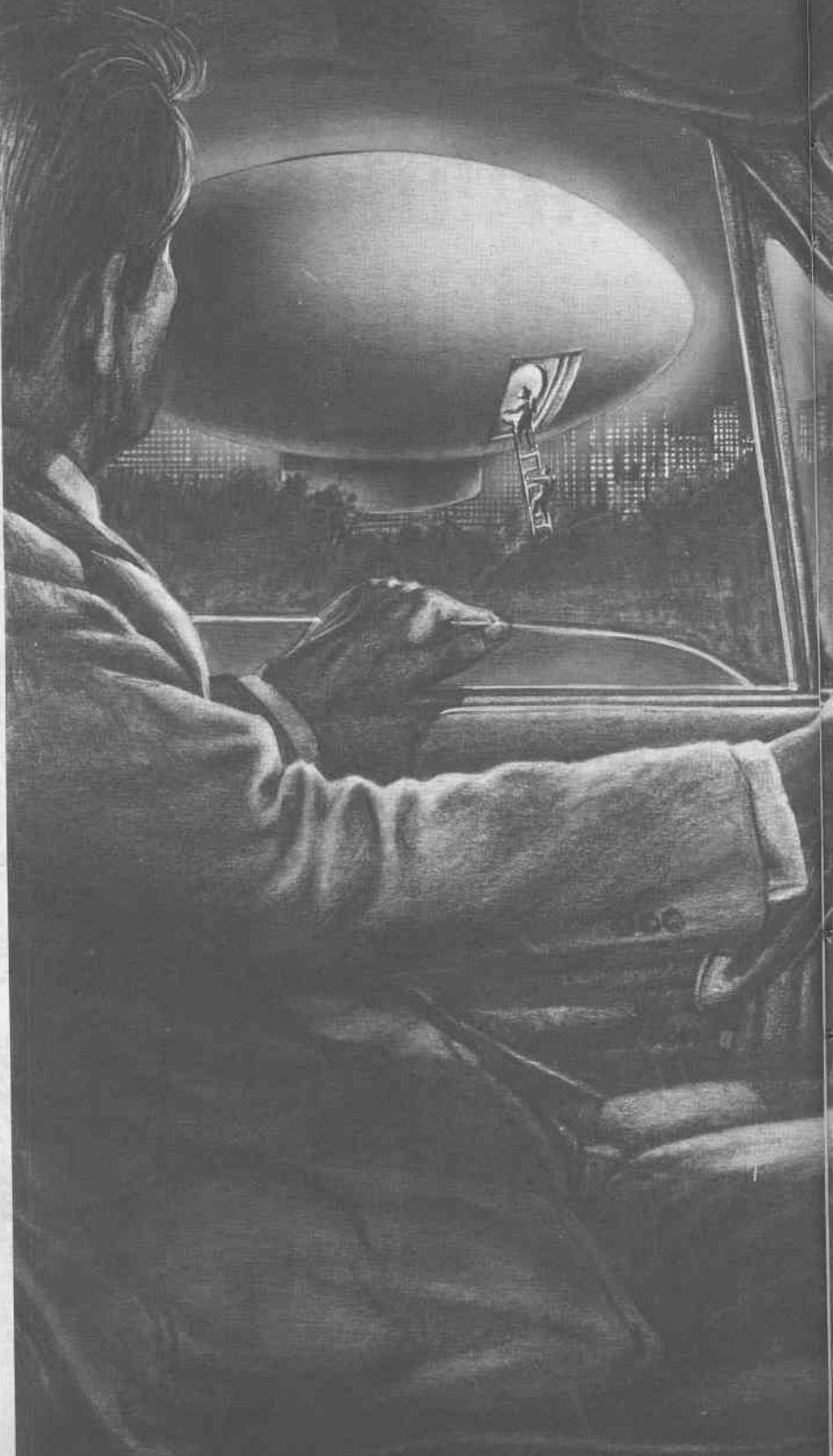
完

テッド・ブローチャー

いた。下から見上げたゴンザレスには物体の上部が不明だった。見かけ上の大きさは満月ぐらいだったという。

一分ほどしてから彼はもつとよく見ようと思つて、ドライブウエーまで出て行った。

「ドアをあけたら、あの音が聞こえたんだ」と、彼は二月一日のインタビューでホプキンスとストーリーラーに語っている。



「そのときほんとにたまげたんだ！」その話によると、その音響はいかな

る飛行機の爆音とも異なり、ミツバチのブーンというような音で、耳に突き刺すような、耳の奥で振動を起こすような響きだったという。非常に重苦しい音なので、ビル内の住人を目覚めさせるのではないかと彼は思った。

数秒後、物体はゆっくりと垂直に上昇し始めた。

「ヘリコプターや飛行機のようにではなく、垂直に上昇したんだ！」

うへーっ！と彼はうなった。物体と音響で混乱した彼はロビーへ引き返して、ストーンヘンジの守衛を呼ぼうとしたが、相手はいなかった。ガレッジの中でボイラーを見ていたのである。

一方、物体はロビーにいたゴンザレスの視界から上昇して行く。彼が守衛のアルベルト・ペレスをつかまえても

相手はまじめに受け入れようとはしなかった。

やっと説得して道路へ出させたときには、物体は消えていた。ゴンザレスの推定によれば、彼は四〜五分間目撃したという。

二月にペレスと電話でインタビューすると、彼はゴンザレスの知らせを確証したが、道路に出たときは物体は消えていたという。

■ゴンザレスが見た物体の特徴

ゴンザレスは三つの特徴を認めている。物体底部の強烈な輝き、光のともされた窓、それに耳を突き刺すような音響である。その話によると、彼は各窓を仕切っている「枠のような」短い部分を見ることができた。彼の角度から六ないし八個の窓が見えたが、そのどれも黄色の光を放っていた。底部は強い白色光で、光源は見えなかった。守衛は別として、目撃事件を彼が話して聞かせた唯一の人物は彼の妻である。

「おれはね、翌朝八時に帰宅して、そのことを家内に話してやったんだ。だが、ほかの人には全然しゃべっていないよ」

しかしゴンザレスは、実際には約一週間後に別な人に話している。ロビーの窓から見た事件後に彼はビル管理人バーナード・ミドランドに目撃のことを話し、かわってミドランドが助手のアモーリー・ペレスに語った。後に管理人の仕事を引きついだペレスは、一月二十五日のインタビューで、ドアマンのビル・デリーズとともにその事件を思い出して、当時の目撃者に我々を紹介してくれたのである。

物体に関するゴンザレスの説明は、それから一週間以内に他の人々が目撃した物体のそれとよく似ている。奇妙

な音、物体の平たい底部、周辺の「悪群」などは、ゴンザレスの知らない他の目撃事件における特徴でもあった。したがって、さまざまな目撃者間に共謀したと考えられるフシはない。ゴンザレスは一年以上も後までジョージ・オバースキーのことは知らなかったし、ウムスリー家のことなど聞いたこともなかった。もちろん彼はビル・パウロウスキーとは知り合いだったが、親友ではないし、自分のUFO体験をビルに話してもいない。ゴンザレスは窓が割れたことも知っていたが、UFOのせいだとは考えず、浮浪者の仕業だと思っていた。インチキまたはでっちあげの可能性を強く反証するのは、この沈黙と懐疑論者に文句を言わせない要素である。

この目撃の日時は、一月月上旬に発生したという事実を目撃者が記憶していることに基づいている。事件はロビーの窓が割れる以前に発生したと彼は確信していた。彼の当番は月曜日の朝に予定されていたので、考えられる唯一の日付は一月六日である。別な確証はアモーリー・ペレスからも出た。彼は窓が割れた頃に目撃について知らされたことを思い出した。そしてゴンザレス自身も事件が発生してから約一週間後にバーナード・ミドランドに話したのだと我々に語ってくれた。

■一月十一日、ウェスト・ニューヨークにおける近接目撃事件

一九七五年一月の連続事件の一度目は、ノース・ハドソン公園から十二ブロック南の位置で、五人家族が目撃した低空近接事件(タイプ1)である。

三月二十五日に、ノースバーゲンンのロバート・フルトン校PTAの会合でジュリー・ストラーがストーンヘンジ事件について話したところ、十一歳になるロバート・ウムスリーが出てきた。そして彼は家族全員でUFOを見たと言ったのである。ストラーは少年の母親のアリス・ウムスリー夫人にも話しかけた。これは当日出席した同家の唯一の保護者であった。このとき予備知識を得たストラーは、一九七六年三月二十七日と四月一日に家族全員にインタビューした。その目撃事件はウェスト・ニューヨークのブルバード・イースト六十七番街の旧住所で発生したのである。まずロバート・ウムスリーが物体を見たのだ。

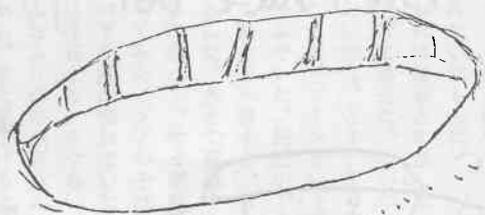
「夜の九時三十分頃だった。ぼくはいつも窓から星を見るんだ。すると三階建てのビルの上空の、地面から約三十メートルぐらいの所に何かが見えた。ちょうどそれがそのビルの上に着陸しようとしているように見えるんだ。するとビルの上空に停止して、二分間ほどジッとしていた。それでぼくは兄や

お母さんやお父さんに話したんだ。みんなもそれを見た。ほんとによく見えたよ。それからまた動きだして、ビルのかげにかくれたので、みんなは外へ走って出たんだ。するとその物はこっちの方——ノース・ハドソン公園の方——へやって来た。それは、頂上にドームみたいなものがついていて、小さな白と緑色の光で輝いていた。そして丸い形が現われてきた。枠の部分には長方形の、十×二十センチの光があった。窓も見えたが、周囲に並んでいる各窓の中には光があった。青、赤、緑の光がまざり合い、船体をとりまいていた。しばらく停止していたが、また動きだして滑空した。それからブルバードの方へ行ってみえなくなったので、みんなは階下へ走って降りた。ブーンという音がしたが、離れて飛んで行ったらもう聞こえなかった。外は暖かく、みんなはそれが「丸い家」(ストーンヘンジ)の方へ降下するのを見た。それから見えなくなったよ」

ロバートの母親のアリス・ウムスリーが物体を見た二番目の人物である。「息子(ロバート)は窓から双眼鏡で星をながめていました。すると一個の星を見て、えらく興奮しているようでした。私は窓の所へ行きましたが、自分の見た物が信じられないほどで「ロバート」と呼びかけますと、息子は、「お母ちゃん、あれは空飛ぶ円盤だよ！」と言うものですから、私も「そう

よ、そうよ！」と答えたんです。皿型の形や窓も見えました。この物体が動いている光景はだれにも見えたはずで、その正体はすぐにわかりました。だって、光がぐるぐる廻っているんですもの。飛行機みたいにまっすぐ飛んでいるんじゃないくて、上に飛び上がった、奇妙なことをやっていました。三階建てのビルの屋上に着陸しそうに見えました。自分の見た物が信じられないほどです！ 光はとても豪華で、ドームがあつたと思います……強い光じゃなかったわ。船体自体から光が出ていたけど、ドームは反射してしまっただけで、ぐるぐる廻っている光の反射だったのでしょう。沢山の窓があつて、大きくはないけど、みな長方形みたい。船体をとりまいていました。動いていたのは頂上の部分だけです。そこは回転し続けて、あらゆる種類の色光がぐるりと並んで、美しかったわ。もっとよく見ようと思って……だってそれがビルの上を行ってしまうので……でもクツをはいていなかったんです。私は部屋着を着ていただけ。一月にしては幸いなことに寒くなかったんで、夫や子供たちと一緒にみんな走り降りて、川のそばのブルバード・イーストを横切ったんです。物体は公園の方に向かっていました。そしてビルがさげすまれたために、もう見えなくなりましたわ」

夫のワムスリー氏は窓の所へ行くの



1975年1月6日の目撃（フランシス・ゴンザレスのスケッチ） BRIGHT LIGHT

が遅かったために、内部からは見ることができなかった。

「ボブ（ロバート）がそれを見て私を呼んだんです。そこでみんなは道路を横切って行き、目的を達しました。空飛ぶ円盤みたいでしたな。丸くて——そうだな、遠くからですからよくわかりませんが、高さは一メートルないし一・五メートルぐらいでしょう。丸いドームがあつて、全体が輝いていました。それからこの「丸い家」（ストーンヘンジ）のそばを飛び、それでおしまいでした」

彼は一分間だけ見たという。その動きを「きわめてゆっくりとした、すて

きな滑空」と述べている。物体には窓がいくつもあつたとワムスリー氏はストーリーに語った。

「各窓は小さくて、長かったですな。

——横幅が広いというよりも、むしろ縦に細長いというべきでしょう」

回転する色光があらゆる色を含み、物体の底部の周囲をぐるぐる廻っていたともつけ加えた。

ジョーゼフと名づけられた二人の兄弟のうち、十六歳になる弟のジョーゼフは窓からそれを見ただけで、他の者と一緒に外へは出なかった。

「弟が何かを見たと言うんだ。それでもみんなは窓の外を見た。そしてぼくも見たよ——ね、空飛ぶ円盤みたいなんだ。赤や白の光があつて、物体は回転していたよ。前側に窓が見えた。長方形だった」

回転する光は各窓の下にあつたと言い、物体の頂上部を「丸い」と述べている。

十三歳のデビー・ワムスリーは言った。

「弟がぼくを呼んだ。彼は窓の外を見ていたんだ。そして『お母ちゃん、UFOだ』と言うんだ。母は信じなかったけど、それから……みんなは階段を走り降りて見に出たんだ。円盤は丸くて、枠の部分に回転する光があつたよ」

デビーも各窓を「正方形ではなくて長方形」で、横にはなく縦に細長い

形」と述べている。

「物体はまっすぐに公園の方へ飛んで行った。何かのうしろにかくれたのもう見えなかったよ」

以上五名による説明は、ちよつとした食い違いと曖昧さを含んでいる。たとえば、「窓」と回転する色光とは別々な特徴だということが確かでない。しかしそれにしても、頂上がドームで、長方形の窓群があり、ブーンという音を出す一個の物体が、五人家族によつて近くから目撃された結論づけるのに充分な一貫性はある。しかも、わずかに数時間後に同じ地域で同じような物体が見られたという事実がワムスリー家の報告に対して、ますます高い信憑性を与えているのである。

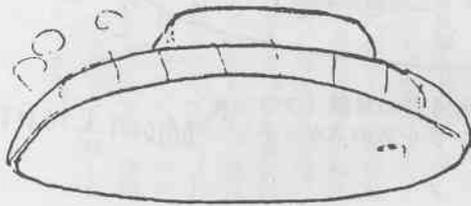
その目撃が「ボブ・ニューハート・ジョー」がテレビでまさに始まるうとしたときに起こったことを目撃者全員が思い出した。これはその日時が土曜日の午後九時三十分であったことを確認している。また家族は、それが一月の半ばと記憶しているが、これはワムスリーの誕生日（二月十二日）より一カ月前である。家族の数名の人が述べたように、その夜は暖かった。彼らによる日付の推定は一月十一日である。ニューヨーク・タイムズ紙の天気概況欄を調べてみると、一九七五年一月十一日の温度は六十三度（華氏）に達していたことがわかった。一月四日の午後九時三十分には三十九度で、十

1975年1月11日土曜日、ニュージャージー州
ウェストニューヨークにおけるワムズリー家
の目撃スケッチ

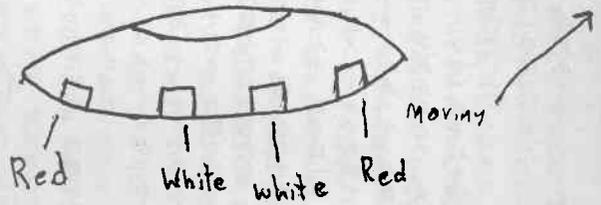
1. ロバート・ワムズリーのスケッチ
2. アリス・ワムズリー夫人のスケッチ
3. ジョゼフ・ワムズリー-Sr. のスケッチ
4. ジョゼフ・ワムズリー-Jr. のスケッチ
5. デビー・ワムズリーのスケッチ



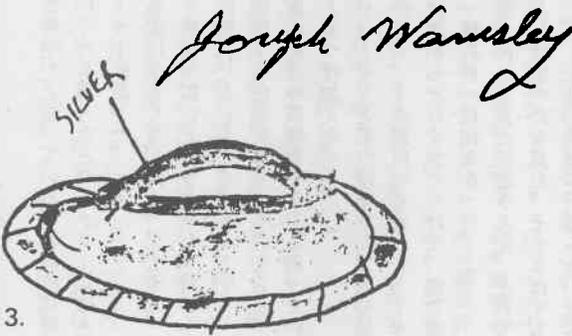
1.



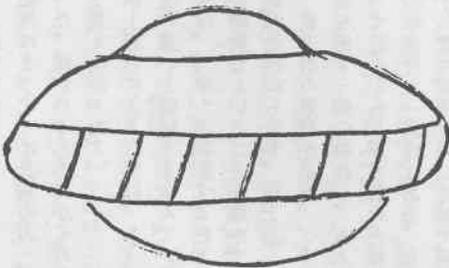
2.



5.



3.



4.

八日の土曜日の同時刻は四十二度である。

■二月十二日の円盤と割れた窓

一月十二日、日曜日の早朝、ウィリアム・パウロウスキーはストーンヘンジ・アパートメントで、ドアマンとして勤務に就いていた。

「おれは午後の四時から翌朝八時まで約十六時間の勤務だった。土曜日には大勢の人が買物に出かける。そんなふうにおれは覚えている。おれはエディ（オバートゥベツシンググッドアマン係長）の代わりに仕事についていた。その日は彼は休んだからだ。」

その頃——そうだな、二時三十分頃か、それとも三時頃かな——おれはデスクの所に立っていた。窓はこつち側で、ドアはむこうだ。丘の方を見るとむこうが光で輝いているんだ。あまり強く輝くので、よく見えない。まるで太陽を見るようだ。あの方向はいつもなら暗いんだがね。あんまり輝くもんだから、こんな時刻に一体何がやって来るんだろうと思ったよ。

しかし無視してしまった。たぶん車の群れだろうと思ったわけさ。おれは電話をかける必要があつて、うしろ向きになった。そしてある借家人の電話番号を調べたんだ。背中が窓の方を向いている。番号がわかったんで、電話

帳を閉じて下へ置いた。そして電話を取り上げた。電話器はデスクのうしろにあるんじゃないかとこっちの壁にかけてあるんだ。

おれは電話をかけたが立ち立って丘の方のあの光を見つめていた。そして車の列だろうと思ったね。だが、どうもそうじゃないんだ。なぜなら、その光は丘よりも高すぎるんだよ。そうだなあ、地面から三メートルぐらいの位置かな。電話をかけたが思ったんだ。空中のあんな高い所にいるなんて、一体何だろうとね。ああいうことがあるわけはないんだ。おれの眼が疲れたのか、それとも——。空中の三メートルの高さだもんね！ こいつはおれにもわからねえ。これはただの推測だが、光る物は八個ないし十個あったね。しかも互いに六十〜九十センチの間隔で円形になっているんだ。本当のことを言おうか。これは空飛ぶ円盤じゃないかという考えが起こったんだよ」

パウロウスキーの話によると、その光は一個の黒い物体の縁の周囲にとりつけてあるらしく、その物体はまばゆい光にさえぎられてよくは見えないが、たしかに円型で、直径はおそらく六メートルだろうという。個々の光の形について尋ねられたパウロウスキーは、次のように答えた。

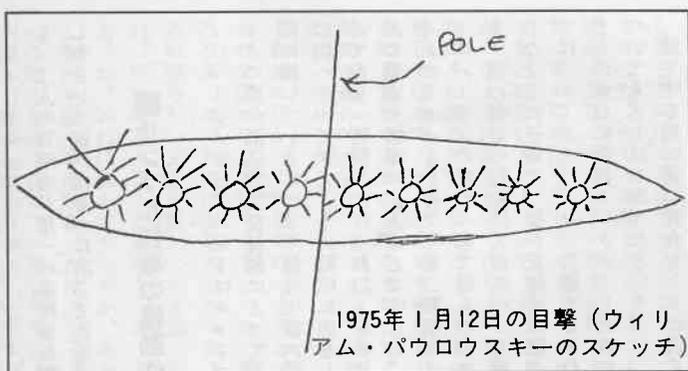
「おれの見当では丸かったな。まあそういう考えが起こったんだ。しかし別

な形だったかもしれない。というのはね、何かの光を見て、それが四角だったとしても、やはり丸い輝きを放つもんね。人間の眼にとっては光学的な錯覚みたいなものだ。

おれは借家人に話しながらむこうを見上げて考えた。こいつは空飛ぶ円盤みたいだな、と！ すると突然、音が聞こえた。ブーンという響きだ。それでつぶやいた。何だい、ありゃ？ して眼を下へ移すと、ガラスが割れているんだ。あとで電話するよ、と話し相手に言っ、すぐ電話を切り、窓を調べてみた。ドアのそばにある窓ガラスの下の隅が割れていたんだ。その割れ目は五十センチぐらいの長さかな。こんなふうにかがみ込んで割れ目を見てから、また見上げると、光は消えていた。

外へ出てみると、窓ガラスには小さなキズがついていた。はじき玉ほどの大きさだ。外から投げつけられたみたいだ。貫通していないんだ。これは不思議だった。たぶん外から子供が石か何かを投げたのかもしれないと思ったね。だが、待てよ、一体どうやってあいつらがあの高い塀越しに道路から投げようとしたのか、と考えて、今度は丘の上のあの物を思い出したんだ。そしてだれかがライフルを持って丘の上からでたらめ撃ちをやったのかもしれないと考えたが、角度——つまり塀と窓の隅の関係を考えてみると、やっぱ

り不可能だろう。こんな下の隅を考えれば、ライフルでは全く無理だ。塀があるために丘の上はここから見えないんだからね。塀のそばに立ってみると、すごく高いんだ。こっちに向かって窓の隅に弾丸を撃ち込むのは無理だろうな。だから空中の高い所にいた何かにちがいない。あの丘の頂上より高い位置にいた何物かだ！ おれは道路のあたり一带をくまなく探してみたら、懐中電灯があつたんだ。だが何も



見当たらねえ。そこで警官を呼んだんだ。

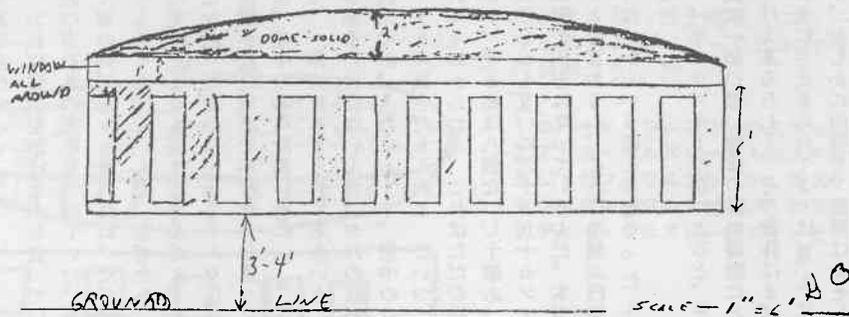
警官が来たときに言ってやったよ。おい、あの丘の上に行って調べてみたらどうだい、とね。あそこにライフルが何かを持ったやつがいるかもしれないねえ。光を見たんだ。車に乗った小僧たちがいるんじゃないか、と言ったんだ。だが気味悪い物が地上三メートルの所にいたとは言いたくなかったな。だって、そんなことをしゃべれば、おれはキチガイか悪い酒でも飲んだんじゃないかと思われらあな。すると警官が言った。よし、もうあいつらはいないだろう、とね。そして気にせずに原因不明のこわれたガラスを調べて手帳に記入したよ。それだけだ。

おれは光を見たことをデル・ガウデオ(警部補)に話したんだ。彼は警察で働いているが、奥さんと息子と一緒にこのストーンヘンジに住んでいるんだ。それで、もし何かあつたら知らせてくれと、おれに言っていたんだ。それで朝になって彼と会ったときに、そのことを話したんだよ」

割れた楡の木

ストーンヘンジ・アパートから道路をへだてて、楡の木が割れるという事件もあった。これについてはパウロウスキーが次のように語ってくれた。

「ここには大きな樹木が一本あつたん



バッド・ホプキンスの助力でジョージ・オバースキーが描いた円盤のスケッチ

だ。あの木は百年か百五十年はたっているだろうな。それが真ん中からまっぶたつに割れたんだ。同じ時刻に割れたかどうかは知らないが、大体同じ時刻の頃だった。なぜなら、土曜日の

朝、おれが勤務を離れて、道路のむこうのバス停まで行ってバスを待っていたときに、その木がまっぶたつに割れているのを発見したんだからね。すごいカメラにやられたんだと思っただ。これは同じ朝のことだ。あれはすいぶん立派な木だったから忘れられないよ」

パウロウスキーの説明には二つの重点が見られる。その一つは、ライフルの弾丸の弾道と関係がある。丘の頂上からは、道路ぎわの塀のために、ロビーの窓の下半分を見通すことはできない。丘の上から弾丸が発射されたとすれば、塀の頂上に当たらないようにして床近くのガラスを撃つには二メートル以上も高い位置から発射する必要がある。次の重要点は、ガラスの衝撃を受けた個所の小片が、外側から取れていたことである。外部から普通の物理的衝撃を加えたのなら、衝撃の方向に破片が飛び散るので、内部からキズ跡を指摘できるはずである。

パウロウスキーの目撃の日付は、彼自身の記憶に基づいている。彼はその頃、肺炎で寝ていたので、その月の下旬ではなかったと確信していた。また上旬でもなかった。というのはゴンザレスの初期の目撃の証言と矛盾するからである。しかし最も重要なのは、同じ位置で目撃したことに關してジョージ・オバースキーが与えた詳細と、パウロウスキーの証言とが見事に一致す

るといふ点である。したがって二種類の別々な事件が発生したというよりも、二人の目撃者が単一の事件を目撃したという線がはるかに有力である。

■サンプル採取の怪動作

ジョージ・オバースキーはニューヨークの彼の酒店で三交替制によって夜間に働いている。つまり彼は午後六時に店へやって来て、十二時頃に店を閉めてから一時間またはそれ以上を在庫品の調査や帳簿の記入などで過ごし、それからカギをかけて午前二時頃にノースバーゲンの自宅へ車で帰るのである。彼の毎日の行動は大体にハンで押したように正確で、彼が記憶する限りでは、ノース・ハドソン公園でUFOとその乗員に近接コンタクトした夜についてもズレはなかったという。

帰宅する前に遅い夜食をとりに近くのオールナイト食堂へ車で行くのがジョージの習慣だった。そこへ行くために彼はノース・ハドソン公園を通り抜けるのを常とした。自動車のライト類を避けるためである。一九七五年のこの夜、彼が公園内に入ってまもなくカーラジオがひどい雑音を出し始めた。車の速度を落としてラジオをいじりながら、こりゃ修理費が高いものにつくぞと、ぶつぶつ言っていた。暖かい夜だったので左側の窓は半分あけてある。するとラジオは完全に鳴らなくな

った。何かほかの出来事が発生し始めたかのようだった。

「おれはあのイヤな音を聞いたんだ。一体何だろうと思っただ。トラックはここへ入ることを許されていないし……。すると左肩の上空にあれが来るのが見えたんだ。ふくらんだ巨大なパンケーキみたいだったね。平たくて、そうだな、高さは二メートルくらい。それが公園の中に、おれの目の前で着陸したんだ！」

左側の歩道にそって木が生えていたが、その物体は木のむこう側に着陸したよ。それで、おれが前進すると、物体に出口が見えて……驚いたね！人間たちが出て来るんだ！物体は地上約三メートルの位置に来たが、そのときに人間が出て来て、それから物体が地面に着いたね。小人どもは物体の接地前に出て来たんだ。

物体が地上から離れているときに、ハンゴみたいなものが降ろされるのが見えた。——実際には何なのかわからない。そしてあいつらが降りて来るんだ。火事の非常バシゴを降りる子供みたいにさ。そうだね、十人か、十一人くらいだったかな。みんな背が低いんだ！身長は一メートルくらい。みんなヘルメットみたいな物をかぶっていた。顔は見えなかったが、腕は見えたよ。手袋をはめているのがわかったね。全身にユニフォームみたいなものを着てその色は黒かったよ。手足は我



々と同様だ——ただ背が低いただけなんだ！
 そいつらはこんな小さなジヤベルを

持っているんだ……柄がついているみたいで、小さな袋のような物も……小さなジヤベルは大きなスプーンか何かだ

ろうね。みんなは小さなビーバーみたいに動きまわってるんだ。地面一帯をね……そうだな、あいつらは小袋に何かをつけていたよ。あたり一帯は明るかった。なぜなら物体のまわりには沢山の窓がついていたからだ。横幅が四十五ないし五十センチぐらいかな。各窓の間隔は四十五センチぐらいだ。

三分間ぐらいだった。それから彼らが駆け出したと思う。さっきも言ったように、彼らは物体が着陸する前に出て来たんだ。そして袋につめて、着陸したときにはみんな中へ入ることができたんだ。そして離陸したよ。すごく速かったな。ブーンという音が聞こえた。すぐに離陸してしまった。プロペラなどはないんだ！ ふわっと浮き上がったように見えたが、ほら！ こんなふうな飛んで行ったんだ！ 大きな音じゃなくて、ブーンという低い音だった。まるで空気の一部分みたいで、何かが風に吹かれているようだったな！

おれにわかっているのは、とにかくその公園から出て行くことだった。恐ろしかった。死ぬほど恐ろしかった！ あの恐ろしい光景が終わったと思ったね。何を考えてよいかわからなかったよ。ね、おれは気が狂ったのか、それとも何か悪い事が起こったのか……。その地点を通り抜けて、警官を見たとしても、何も言えなかったらうね」

目散に家に向かった。
 「おれは汗びっしょりで、すぐにお茶をいれた。起きていたとも思わなかった。恐ろしかったんだ！ それで寝ちまった。——すごくこわかったな。頭からフトンをひっかぶったんだ！ だがまた起きてアスピリンを二錠ほど飲んだ……」

翌日、現場へ行ってみた。夢でも見たんじゃないかと思ってね。現場へ行くと、地面にこんな小さな穴がいくつもあるんだ。直径十二、三センチ、深さは十五センチだ。おれはその穴にさわってみた。そんなものがあるとは思わなかったからさ……その穴を見たときにはもつと恐ろしくなったね！

おれは家に帰ってまたお茶を飲んだよ。その日は息子が何度も尋ねるんだ。あんた、ひどく狼狽しているじゃないかとね。それで事件について話してやったんだ。息子はこう言った。
 『そうだね、もしだれかがぼくにそんな体験を話したとすれば、相手は酔っばらっているとはぼくは思うだろう。だが、あんたは酒を飲まない人なんだから、何かを見たにちがいないんだ！』
 それで言うてやった。そうだ、見たんだ……おれはそこへ行って、穴を見ただんだよ！

父親の話に興味をそそられて、フラック・オバースキーは自分で穴を見るために公園へ行った。それから十カ月後に、我々は目撃者とともに現場へ行

今世紀最大の
謎の一つである大爆発の正体を明かす！

謎のツングース隕石は ブラックホールかUFOか

ジョン・バクスター／トマス・アトキンス著
青木栄一／木暮利定訳
定価680円

宇宙人は70年前に来た!?

一九〇八年にシベリア上空で核爆発が起きていた。その規模は広島型原爆の二千倍!! 人類がまだ原爆を持っていなかった時期に、いったい何が起ったのか!? 現代科学が今なお解明できない謎を追求する、いま話題沸騰の本。

講談社

〒112 東京都文京区音羽 2-12-21

って、踏み荒されていない地面に、十二ないし十五ぐらいの小さな三角形の跡を発見することができた。その部分の草などは一切消えていた。それらの跡はわずかにへこんでいて、たしかに十カ月経過したように思われたのである。雨が次第に穴を埋めていったのだろうが、草は元どおりに生えてはいなかった。

現場へオバースキーと一緒に初めて行ったとき、我々は彼がバッド・ホプキンスと最初にインタビューした際に録音された話の中に述べていない事柄をもっと詳細に知ることができた。彼は一步一步事件を再現し、信頼し得る時間表を作成した。そしてUFOの状態に関して多くの細部を明らかにしたのである。たとえば、彼はドームの上部に直立している数本のアンテナ様の突起物を見たという。物体の側面は約一・八メートルの高さがあり、ドームの最頂上部は更に一メートル近く高か

つたと説明した。また、物体の色は黒っぽくて、「窓」と思われる三十センチ幅の光の帯がドーム下の側面をとりまいていたという。そしてこれは側面周囲に並んでいる縦形のパネルと同じ白熱光を放っていた。乗員たちが出て来た出口はジョージの最も近い位置に面した側面についていた。それは内側に開いて、中は真っ暗で、「窓」の二個分ほどの幅がある。物体はずつと地面に降りたのではなく、一メートルぐらいの位置まで降下して、そのあいだに小人たちは二人ずつで急速に中へ入って行った。彼らは「防寒服を着た小さな子供」みたいで、ユニフォーム全体と続いているらしい。クツまたは長グツをはいて、全身を固めていたとオバースキーは言う。頭にかぶった覆いはヘルメットというよりもスキーフードに似ていた。物体が到着してから去るまでブーンという音が聞こえたが、オバースキーによれば、作動し始

めたときの冷蔵庫の音に似ているという。オバースキーはこの遭遇事件が一月の何日なのか思い出せなかった。ピル・パウロウスキーが別に述べた類似の詳細な説明——同夜の時刻、正確な事件現場、地面からの高度、窓の数と位置、物体の全体的な形と大きさ、目撃時間等は、すべて同一の事件を二人の目撃者が別々に見たことを証拠づけるものである。加うるに、オバースキーによる天候の状態の説明は、ニューヨーク・タイムズ紙一九七五年一月十一日と十二日付に載った天気概況と一致している。

■ 結 論

ジョージ・オバースキーがUFOとその乗員を目撃したという体験を一九七五年十一月に洩らしたとき、どんなパンドラの箱が開かれようとしているのか、われわれにはわからなかった。その告白から五カ月以内に、ノース・ハドソン公園内外地域に関して我々が集めた事件記録は今や十二種類以上に達した。このことは、その地区がUFO現象の「反覆」現場であることを立証する。そうだとすると、我々はまだ氷山の一角を見たにすぎないと考えるべき理由がある。氏名を伏せたがる地元民の目撃報告が増える一方なのだ。このような関係地域から出てくる未発表事件報告の数だけでもUFO現象を表面化させない「不可視のカートン」が存在することを証するのである。一体、いかに多くの異常な事件が発生し、多くの異なる人々が関係しながら、しかも当局や大衆に気づかれなままに葬られていることだろう。それは次のような興味深い論点を回避しているのだ。「結局、ひどい状態になってから警鐘を鳴らし、だれかが注意を払っても遅すぎるのだ」 訳／久保田八郎

お 待 た せ い た し ま し た

“ホームビデオゲーム”の決定版 いよいよ販売開始です!

アメリカで大人気!! 今話題のTVゲーム。ご家族そろって、お友達と、子供からお年寄りまで楽しめるゲームマシンです。反射神経のトレーニングに、プレゼントにどなたにも喜ばれます。

特長

- GI(ゼネラル インストゥルメンツ)のTVゲーム用LSI(AY-3-8500-1)使用。
- 電源は電池式(単2電池6本使用)のため安全かつ取扱いが簡単(外部電源使用可能)
- 本器のゲームセレクトスイッチの切替により4ゲーム(テニス・サッカー・スカッシュ・ブルグティス)の使用ができます。LSIは6ゲーム用ですから御自分でちょっと手を加えれば、ライフルゲーム①②が可能になります。
- 一流メーカー製の変調器内蔵のため安定動作します。本器の出力は御家庭のテレビ(VHF 2チャンネル)に映ります。ゲーム音はテレビのスピーカーから出ます。
- FCC規格に準じた切替スイッチボックスが付属しているので隣接TVに電波妨害がありません。またこのスイッチボックスの使用によりテレビで放送をみる場合とゲームを行う場合との切替がワンタッチでできるので本ビデオゲームを常時セットしておくことができますのでゲームを行うことにTVのANT端子をつなぎかえるわずらわしさがなく従って本ビデオゲームを末長く御愛用頂けます。

■ウッディーデラックス ¥38,000(荷造送料¥800)

(写真の品、上記特長)



サッカーの場合の画面



22×45×7 cm

新発売記念価格 ¥35,000
(荷造送料 ¥800)

■カラーウッディーデラックス ¥48,000(荷造送料¥800)
サービス価格 ¥43,000

インテルが日本で新発売!! 得点、ボール、ラケット、コートに美しい色がついて写る最高級型。

■スポーツキング ¥23,000(荷造送料¥800)

サービス価格 ¥19,000 6種類 テニス(ピンポン)
サッカー(ホッケー)、スカッシュ、ペロター(練習用)ライフルI、II

■ライフル銃 ¥16,000をサービス価格 ¥12,000(荷造送料500円)



切替スイッチボックス

¥1200 テレビゲームお買い上げの方には
無料にてサービス致します。

★御注文は現金書留で下記へお申し込み下さい。
(業者卸の取扱いも致します。お問合せ下さい。)

あて先 (株)インテル 電機事業部U係
〒193 東京都八王子市小比企町2957-9

☎ 0426-25-7941(代)

スイス人エドアルド・メイヤーと女性宇宙人「セムジャーゼ」はチューリッヒ郊外でついに直接コンタクトする。彼女は宇宙人と地球人について話したばかりでなく、メイヤーに宇宙船の写真撮影まで許した。(口絵写真参照) これはその時の詳細なレポートである。

スイス・チューリッヒ現地報告第二報

美しい形をした円盤状の物体が着陸して、中から人間に似た宇宙飛行士が現れ、目撃者に近づいて来た。

宇宙飛行士 あなたは恐れを知らない人ですね。

エドアルド・メイヤー あの乗物を見ているうちに、恐さなんて忘れしました。

宇宙飛行士 だからこそ、私たちはあなたを長年にわたり観察してきました。

メイヤー そうですか。どうして私にしたのか伺ってもかまいませんか。

宇宙飛行士 どうしてあなたを選んだかですって。あとでご説明しましょう。

メイヤー 私には、あなたのお役に立てるような力も権力もありません。

宇宙飛行士 あなたが正直で誠実な人だからです。そうでなければ、もちろんあなたを選びませんし、あなたの関心をテレパシー、UFOなどの問題へと導いたりしなかったでしょう。

メイヤー おほめいただいたてありがとうございます。

宇宙飛行士 どういたしまして。あなたの心がけがよかったです。

メイヤー それはどうも。ところで

女性宇宙人 セムジャーゼとの会話

本誌特約

ウエーデル・
ステイーンブンス

私はどなたとお話ししているのでしょうか。

宇宙飛行士 あなたと同じような関心を持っている者です。私の名前はセムジャーゼといいます。ブレアデス星団からやって来ました。

メイヤー ギリシャ神話で、アトラスの七人の娘が姿を変えたという星のことですか。

宇宙飛行士 そうです。

メイヤー それはまったく、想像もつかない距離を飛行してきたものですね。どうしてそういうことができるのですか。超次元を旅行するのでしょうか。

宇宙飛行士 よくご存じではないですか。

メイヤー セムジャーゼ、あなたの宇宙船についていって、近くで写真をとらせていただけませんか。それともフィルムが駄目になるのでしょうか。

宇宙飛行士 私たちの会見の証拠となるように、ちゃんとした写真をとる必要がありますね。

メイヤー この出来事を公表してもかまいませんか。その場合、私はどのように振舞うべきでしょうか。

宇宙飛行士 あなたが最善と思われる

とおりにすればよいのです。それについては、あともっと詳しくお伝えします。

メイヤー それはありがたい。セムジャーゼ、あの宇宙船ですが、あんなに開けたところに着陸させたままで大丈夫なのですか。とても人目を魅く物体ですし。

宇宙飛行士 ご心配なさらないで。ちゃんと対策を講じてありますから。宇宙船から百メートル以内には、誰一人近づけないようになっていきます。それに、木立と丘の向こう側ですから、人目に触れることはありません。

メイヤーの目の前に 宇宙船が着陸

UFOの搭乗員とエドアルド・メイヤーとの一時間にも及ぶ会話は、こうして始まった。場所はスイス、チューリッヒ県ヒンウィルの近く、木々が周囲に立ち並び、人里離れた牧草地である。会話は流ちょうな土地のことばで行われた。メイヤーは、いまのところ、この会話のすべてを詳細に検討したくないという意向である。会話の中には、まずきちんと確かめたことが

沢山あるうえに、プライベートな面に触れた公表したくない部分があるからだそうである。

現在三十九歳になるメイヤーは、元トラック運転手で、一時、自動車レーサーをしていたこともある。彼はトルコでの自動車事故で片腕を失っている。このため、カメラを取り扱う際には、片腕で行わねばならないというハンディキャップを負っている。しかもこのカメラが、日本製のオリンパスCRという35ミリ小型カメラのだが、ファインダーがイカれているうえ、焦点距離が調節不能という代物なのである。こうした悪条件にもかかわらず、これだけの写真を撮影したということ、は、なかなかたいしたものである。

彼は以前から、形而上学や、物理的実体を越えた範ちゅうの存在との交信の可能性といったことに、絶えず関心を持っていった。彼は霊交思想について研究を行い、なんとか超物理的な知性と直接的に接触したいものと、テレパシーをいろいろな方法で試みていた。

一九七五年一月二十八日のお昼ごろ、メイヤーはボイス・レコーダーで、超物質的存在の声を捕えようとし

ていた。彼はコンスタンチン・ローデイブとフリードリッヒ・ユルゲンソンがこうした声をテープに直接おさめたことをよく知っていたので、自分もそれと同じ方法を用いた。最初の結果は弱々しくて不明瞭だったが、たしかに声が聞こえた。二度目の試みでは、カメラを持ってすぐに外出しろという、はつきりとしたメッセージを聞いた。それは穏やかな命令のようだった。その言葉通りにカメラを携えて、彼はミニバイクに乗った。自分がどこへ向かうのか全くわからなかったが、内部の声に導かれているような気がしたが、まもなく午後一時になろうとしていた。

バイクを走らせてヒンウィルの村を抜け、木立の並ぶ田舎道を進むとあたり人影のない場所に出た。道はたには古ぼけたトラックが一台止まっているりだった。バイクを止めてそのトラックのナンバープレートを見ると、ドイツのプレートだった。運転手はきつと森の中にいるのだらう、と彼は考えた。その時がちょうど午後二時十二分。ほぼ一時間、バイクを走らせたことになる。

雲の垂れこめた空を見上げてみると、突然、ブーンという低くうなる音が聞こえてきた。驚いてその音がする方に目をやると、奇妙な円形のマシンが雲間から出現してゆっくりと降りてくるのが見えた。低くうなる音は、下

降するにつれて止んだ。この円盤状の不思議な乗物は、曲線を描いて近づいてきた。その時点で、目撃者との距離はほぼ三百五十メートルだった。

物体が頭上を通過するときをキャッチしようと、彼はカメラを取り上げて狙った。こうして最初の一枚が撮影された。ほぼ午後二時十五分のことである。その時物体は、彼から百五十メートル離れた、地上百五十メートルのところにあった。彼が撮影したらすぐ、物体はスピードを上げて西の方角に飛び去った。加速するにつれ、低くうなる音が再び聞こえてきた。

円盤は飛び去ったかと思うとすぐ高速でひき返してきて、スピードを落とすとトラックの上空に停止した。彼は二枚目の写真を撮影した。午後二時十八分だった。本物のUFOを目撃し、撮影したのだ、という強い確信がわいてきた。

興味をひかれた彼は、その物体を注意深く観察した。円形の物体の下部、すなわち円盤のフランジより下の部分は、中央の円形部からフランジの縁へと絶えず小刻みに振動していた。おそらく、未知のエネルギー源が、どう見ても固体としか思えない円盤の表面を変化させて、この波動効果をもたらしているのではないかと考えられた。彼はまた、物体からの熱放射にも気がついた。しばらくトラックの上空でパランスを保っていた物体は、再び高速で

飛び去り、東の空へと姿を消した。ブーンという低くうなる音は止み、あたりに静寂が戻ってきた。

メイヤーはミニバイクを方向転換させ、林の端をたどって東に向かった。それから、バイクを降りると、徒歩で進んでいった。頭の中では、さきほど経験した出来事を興奮しながらあれこれと考えた。その出来事を、起きたとおりに正確に秩序だてたいと思った。

あたりに人の気配はなかった。開けた場所に出ると、そこでは五匹のノロジカが平和そうに草を食んでいた。動物たちのむこうにあるモミ、カバ、ブナの林の中では、カラスたちが小鳥を餌食にしようと争っていた。この平穏な情景が、なにかによって破られた。

小鳥たちはパッと飛び去り、シカは落ちつかなげに頭を上げて周囲を見まわした。あたかも、空気のそよぎの中に危険を感じたかのようなだった。シカたちは大きく跳躍して、あわただしく遠くの木立の中に逃げ込んだ。

「二三分たったでしようか。再び低くうなる音が聞こえてきました。そして、あの奇妙な物体が東から急に出現して、スピードを落としながら木立のまわりをぐるっと回りました。

低くうなる音が止んだとき、私は動物たちの奇妙な行動のわけが分かりました。明らかに動物たちは、円盤が頭上に出現する前に、それを察知したのです。どういうふうにして知ったのか

は分かりませんが。物体は木立の上を曲線を描いて飛び、開けた場所に向かうと、草地の上に静かに着陸しました。

円盤が降りてくるときに、私は急いで近づき、もう一枚写真を撮りました。午後二時三十一分になっていました。円盤はふんわりと着陸したので、あたりの木をそよがすこともありませんでした。着陸するやいなや、私は好奇心でいっぱいになって、そちらに駆け寄りました。もっと近づいて、できれば写真を取ろうと思ったのです。

けれどもその物体から百メートルくらいまで近づくと、私は何かの力でひき止められました。まるで弾力性のある障壁が急流に逆らって進むみたいでした。あるいは磁極同士が強く反発しあうようだったともいえます。なんとかこの障害をのり越えようと全力をふりしぼりましたが、だめでした。どうしても近づけないので、何かわからなけれどこの物体を防護しているものではないかと思いました。これは幻覚ではありませんでした」

宇宙人女性セムジャ

ーゼとの出会い

「そして、その円盤の後から人間が現れました。彼女は地球の宇宙飛行士のような銀灰色のオーバールを着ていましたが、それはまったく窮屈そう

ではなく、軽く柔軟で、非常に耐久性に富み、進歩した宇宙服のように見えました。首の周りには固いリングがあり、それは明らかにヘルメット装着用でした。もっとも、その時はヘルメットをつけておらず、頭部を出していましたが――。

その人間は私の方へゆっくりと近づいてきたのですが、その歩き方から女性であることがわかりました。彼女はきわ立った人間の外観を見せており、動きは優雅で率直であり、静かで完璧な自制心を示していました。内的な確信に満ちていたのです。彼女は完全に女性でした。

彼女が私に近づき私の腕をとると、私は体重がなくなつたように地面から浮き上がったのです。彼女の握り方は強かったのですが、いやな気分はしませんでした。

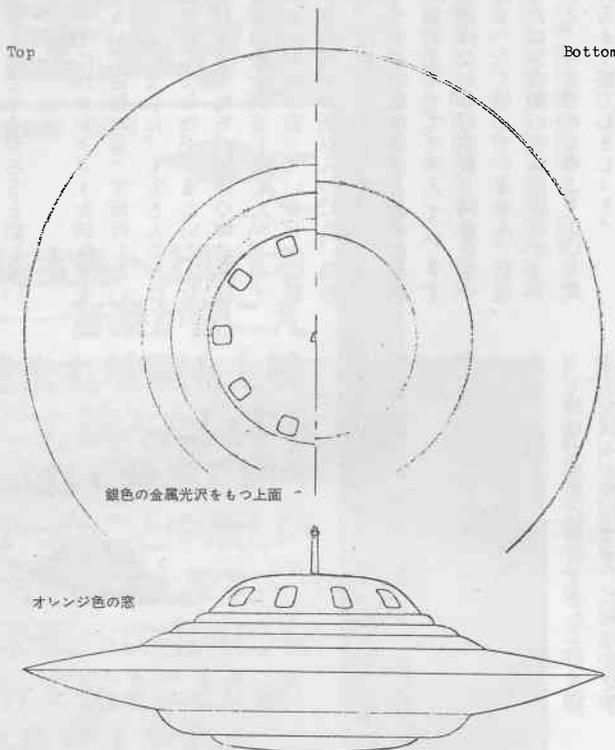
彼女はゆっくりと私を私の自転車の方へ導きながら、アクセントのない完全なドイツ語で話し始めたのです」

彼らは冗談を交わしながら十五時十五分まで話した。「我々はしばらくの間歩き回り、ベンチがなかったので乾いた雑草の上に腰を下ろしました」

一時間十分ほどの会話の中で、メイヤーは来訪者の名前がセムジャーゼといい、彼女がブレアデスから来たことを知った。彼女はメイヤーを自分の生まれた惑星へ招いたが、惑星の名前は、母国は彼女の好きなスイスア

HINWIL, SWITZERLAND

28 January 1975



銀色の金属光沢をもつ上面

オレンジ色の窓

底の赤い中心部から周縁に向かって振動

Revised drawing, 1 December 1976, W. C. Stevens

ルプスのふもとにどこか似ているといった。
彼女の話によれば、彼らは地球人類と意思疎通のチャンネルを設けて地球人を無知から救い出すために長い間このコンタクトを計画してきたということであった。この時以後、メイヤーは

彼らとの直接的な交信を行ない、大衆のために働くことになろう。
セムジャーゼは、彼がまた宇宙船の写真を撮影できるように木の周囲を飛行するといいい残して、十五時五十八分に彼のもとを離れて宇宙船に戻った。宇宙船は火災のようなものを彼の方に

吹き出し、かたちを変えて一瞬消えたように見えた。そして動き出した。地面から浮き上がる際に、円盤周囲から青味がかかった色が放射されているように見えた。

セムジャーゼの宇宙船

彼はまた写真を撮った。セムジャーゼはメイヤーのために宇宙船を戻し、大木の周囲を四度回

った。メイヤーは四枚の写真を撮影した。(この時の写真は本誌前号P23に掲載)

十六時ちょうど、宇宙船は空中高く上昇し、見えなくなっ

セムジャーゼの話

さて、もう一度、一九七五年一月二十八日午後の二人の会話の続きにしよう。

エドアルド・メイヤー あなたがこのような方法でコンタクトした地球人は私だけでしょうか。

宇宙飛行士 そうです。ほかに、あ

なたほど我々によって進歩を示した人はいなかったのです。

メイヤー それはなぜですか。

宇宙飛行士 ほとんどの人間は精神的自覚ができていないからです。あなたは時間と努力を費して多くを学びました。あなたは真実を発見したのです。

メイヤー どんな……。

宇宙飛行士 これから私のいうことを聞いて書きとり、もし望むなら公表してもかまいません。

メイヤー 録音機かなにかを用意したいのですが。

宇宙飛行士 その必要はありません。あとですべて書きとればいいのです。重要なことは、今、あなたに理解できることばで話すことです。思考の交流方法を作り出し、あなたが一節ごとに書きとるようにすれば、あなたにとって好都合でしょう。

メイヤー ここで話されたことを私が記憶しておく方法があるということですか。

宇宙飛行士 そうです。だから、私の話すことを聞き、理解できないところが出てきた時以外は私の話をささぎってはいけません。

「私達はこれまで数度にわたり、私達の任務を助けてくれそうな地球人とのコンタクトを試みました。コンタクトには成功しましたが、選ばれた男たちが積極的かつ正直であるという証拠は

ありませんでした。ほかの男たちは自分の仲間を恐れ、コンタクトを公表しないことに同意しました。彼らは、仲間が彼らをうそつきか狂人と考え、あるいは殺そうとするだろうと話してました。

一方、中にはコンタクトを試み、そればかりか宇宙船に乗って飛行したいという人もいました。もちろんこれは実現しませんでした。またいろんな組織に属する人たちが私達の輝く宇宙船の目撃報告を調査しましたが、必ずしも本物の写真は撮っていません。偶然カメラに何かの光が入ったり、偽物もある、というぐあいです。

いくつかの組織は私達とあなたの惑星に宗教的光を当てて考えています。私達はこれらの宗教と関係をもつことはまったく望んでいません。私達はあなたに宇宙船の写真撮影のチャンスを与え、今までのものよりよい写真が撮れるよう協力しましょう。

あなた方は私達を地球外生物とか異星人と呼び、私達のことを知らないにもかかわらず私達に超人的能力があると考えています。しかし、この点に関する限り、私達はあなた方と同じ人間であり、ただ知識と理解力——それもとくに技術的分野に関して——があなた方よりかなり進んでいるということです。

地球人は宇宙への第一歩をしるしたかもしれませんが、まだミサイルを使



エドアルド・メイヤーが撮影した宇宙船

とは異なる形態の生命、植物や動物、人間がいて、高度な科学レベルに達しています。彼らは宇宙空間を旅行し、時折地球をも訪れています。また、中には地球よりも劣悪で野蛮な状態の星もあります。あなた方はまた、惑星系を破壊し、その住人を奴隷化しようとしている者達に注意を払わなければいけません。

私たちの任務のひとつは、これらの侵入者からあなた方を守ることです。というのは、その時期は近づいており避けることができないからです。

ふたつめの任務は、地球の宗教をもつと今日的にすることです。地球の宗教は遅れており、今日でも人間の精神的進歩を妨げています。

創造を超越する

神はいない

忘れてならないことは、存在するすべてのものの背後にある創造は永遠・

確実な法則の中に包含されているということです。この法則を知りたい人は、自然界の中にそれを見出すはずす。

その法則は、彼をして生命の道を歩ませ、彼の精神を発展させて、永遠の生命の最終目標である高いレベルへと到達させるでしょう。

しかし、自分の宗教のドグマにおいて、精神が限られた空間を限られた方法でしか動き回れなくなっている人間は、自分自身の精神機能の萎縮をひき起こします。

人間が知らねばならないのは、創造より上に立ったり創造を超越したりする神は存在しないということ、そしてたとえ最も精神的に高度な星から、あるいは高度になりつつある星から「マスタール」の姿で来訪する人間でも、創造の支配を受けるといことです。

人間は高度になればなるほどその力も大きくなりますが、決して神と創造とを見分けることはできません。なぜなら、神もまた創造の一部だからです。

つまり、各惑星の精神的階級制度はその惑星自体の最高位の神と、そしてマスターおよび教師の中から選ばれた協力者をもっています。この階級制度は地球の閣僚をともなった君主制のような働きをします。

また、新約聖書でイマニエルと呼ばれているイエス・キリストを世界創造者の唯一の子と考えるのは誤りで

宝島

毎月10日発売 480円



雑誌宝島へ上陸すると——音楽が聞こえてきます。映画も上映中です。読みたい本もいっぱい。今まで知らなかったことや新しい生活を発見します。——未来への宝ものを自分で探すことの楽しさを覚えます。



〒162 東京都新宿区堀場町15セントラル
・コーポラス207 電話03(268)6312

す。

また、我々の兄弟姉妹が、平和をもたらすために神に代わって来訪するという考え方も事実と相違しています。

我々は誰かの代理として来ることは決してありません。というのは、創造それ自体は我々にいかなる責務をも課してはいないからです。

創造はそれ自体がひとつの法則であつて、すべての生命体はそれに従い、かつその一部にならなければなりません。

地球の宗教は精神的弱さ、服従、そして搾取さえもたらした原始的思想です。

この事実を人間に伝えなさい。それ

が我々の任務です。もし、この任務が達成されなければ、人類は破滅に向かうでしょう。

あなたは、今では保存管理が不十分なために原本が失くなってしまった古い神秘的な経典について知っているはずです。

その経典の訳文を広め伝えなさい。そこに書かれていることは事実なのです。

今日はあなたに最も重要な部分だけを伝えました。しかし、これだけではとうてい不十分です。今後、日時を約束して何度も会い、思考伝達、つまりあなた方がテレパシーと呼んでいる方法で新たなメッセージを伝えましょう。

う。

いつの日か、私の光線宇宙船の中で会い私と一緒に飛行するときも来るでしょうが、今はまだ不可能です。この点についても別な機会に詳しくお話ししましょう。

今日は一方的に情報を伝えましたが、今後は質問、回答という普通の会話をもつことになるでしょう。

ではまた——」

セムジャーゼは歩いて再び宇宙船内に入り、離陸した。

後に残されたエドアルド・メイヤーは、自分がたった今経験したことが信じられないという表情でその場に立ち

つくし、奇妙な来訪者のことばについて考えていた。

訳／中村省三・矢沢潔

(この事件の続報・最終回の翻訳が現在進行中です。エドアルド・メイヤー氏がコンタクト現場に他の人物を連れて行った時に何が起きたか、宇宙船がどのように操縦されているか、宇宙には他にどんな人間が住んでいるか、セムジャーゼは一体どういう人間なのか、数十万人を収容する巨大宇宙船の内部は、等々驚くべき内容が展開します。ご期待ください。編集部)

High S型赤道儀シリーズ Low

グレートビクトリー 700MD

60%赤道儀兼経緯台

対物レンズ アクロマート
コーティング
D60% F700%
フルコート 同焦点
接眼鏡 HM6% HM12.5%
117×56×
倍率 24.5% 36%兼用
接眼部
付属品 天頂プリズム
サングラス
6×23%ファインダー
S型赤道儀一式
スライド式三脚一式
モータードライブ
(SMD)

モータードライブ付
¥47,800 送料¥1,500
モータードライブ ナシ
¥35,800 送料¥1,500



No. ST1000MD

60%赤道儀兼経緯台

対物レンズ アクロマート
コーティング
D60% F1000%
フルコート
接眼鏡 HM6% HM12.5% K25%
167×80×40×
倍率 24.5% 36%兼用
接眼部
付属品 天頂プリズム
サングラス
6×23%ファインダー
S型赤道儀一式
スライド式三脚一式
モータードライブ
(SMD)

モータードライブ付
¥52,500 送料¥1,500
モータードライブ ナシ
¥40,500 送料¥1,500



安定性の低い小型赤道儀の時代は終わった。そしてガバナー制御のモータードライブ付大型赤道儀の時代が始った!!

グレートビクトリー100 MD

100%反射式赤道儀兼経緯台

主鏡 D100% F800%
接眼鏡 フルコート 同焦点
HM6% HM12.5%
倍率 133× 64×
接眼部 ラックピニオン式
24.5% 36%兼用
付属品 サングラス
光軸アイピース
6×23%ファインダー
S型赤道儀一式
スライド式三脚一式
モータードライブ
(SMD)

モータードライブ付
¥49,800 送料¥1,500
モータードライブ ナシ
¥37,800 送料¥1,500



(モータードライブは後日購入も出来ます。)

No. SH900MD

100%反射式赤道儀兼経緯台

主鏡 D114% F900%
接眼鏡 フルコート
HM5% HM8% K25%
接眼部 ラックピニオン式
24.5% 36%兼用
付属品 サングラス
光軸アイピース
6×23%ファインダー
S型赤道儀一式
スライド式三脚一式
モータードライブ
(SMD)

モータードライブ付
¥54,800 送料¥1,500
モータードライブ ナシ
¥42,800 送料¥1,500



S型赤道儀は一クラス上の大型赤道儀………小型赤道儀は微振動が多い為、観測しにくく写真撮影も思う様に出来ません。従来の赤道儀の欠点を補って新設計されたS型赤道儀は微振動が少なくて安心です。

S型赤道儀は上下角微調節ネジ付………今迄は10万円クラスの高級品にしか採用されていませんでした。

S型赤道儀は移動するロールバランスウェイト軸………今迄は15万円以上の高級機専用でした。

S型赤道儀のモータードライブは二電源方式のガバナー（電圧安定装置）制御のDCサーボマイクロギヤードモーターですので精度の良い回転が得られ、単3乾電池4本(6V)又家庭用100V電源の両方が使用出来ます。

S型赤道儀シリーズはコストパフォーマンス(価格に比べた品質と性能)が最高で他の及ぶ所では有りません。

●写真撮影用カメラアダプター (35%一眼レフ専用 屈折望遠鏡接眼筒36%専用) ●地上用ズーム接眼鏡

天体写真、地上写真のどちらにも使用出来ます。直接撮影方式で望遠鏡が超望遠カメラ用交換レンズと同じ事に成りますので、他の方式に比べてもっとも鮮明に写せます。

¥3,000 送料¥300

〈使用出来る35%一眼レフカメラ〉 ペンタックス(S&Kシリーズ)
フジカ、マミヤ、リコー、ヤシカ、ニコン、キャノン、ミノルタ、オリンパスOM、
コニカ(新)、ミランダ(注文時カメラ名お知らせ下さい。接眼鏡24.5%径は使用不可)

正立像 6%~15%ズーム
天体望遠鏡がズーム式地上望遠鏡に使えます。¥4,500



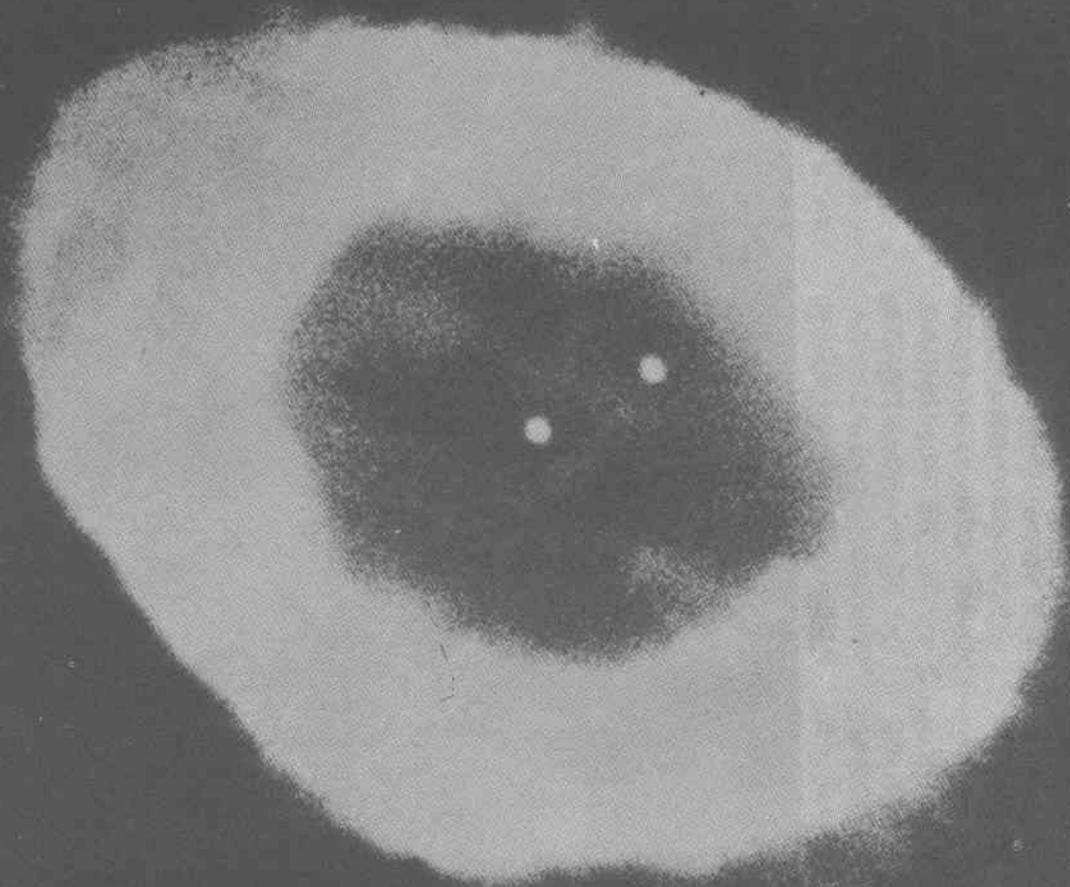
ご注文は代金、送料を送金下されば返品致します。又ご来社下さい。

株式会社 **スリービーチ** 光学部UFO係 光学部TEL 東京03 (850) 6110
〒121 東京都足立区平野3丁目7番17号 振替口座 東京7-103033

総合カタログ・切手300円同封の上お申込み下さい。

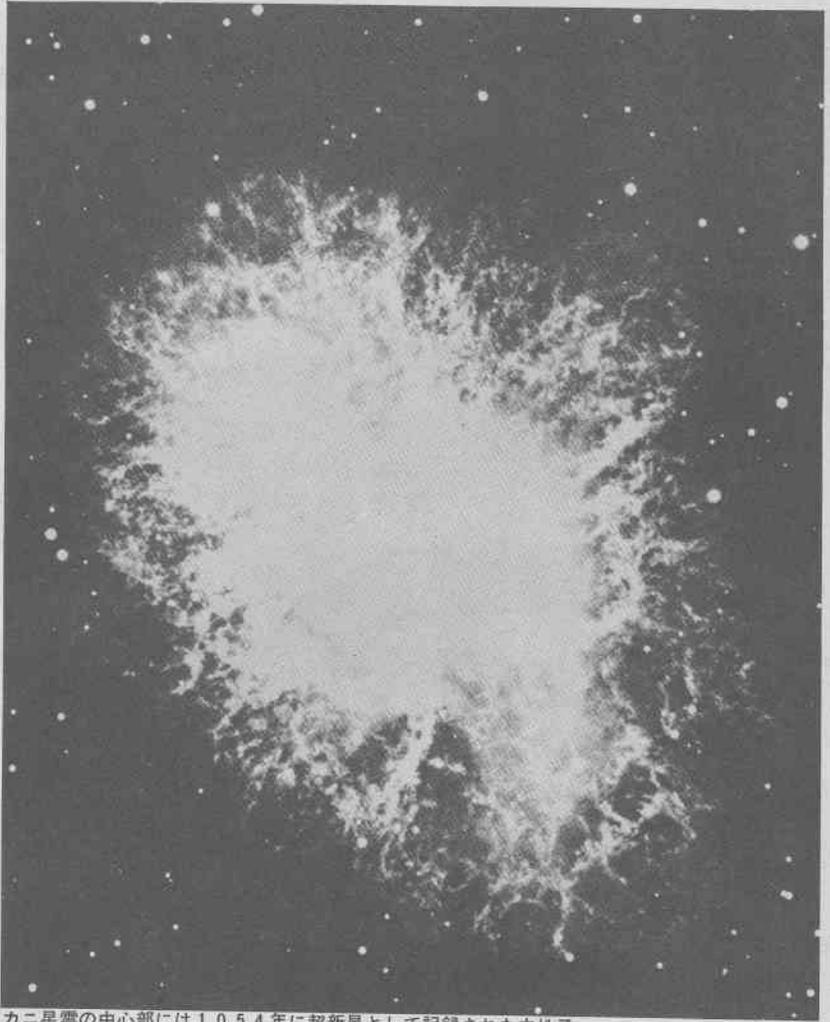
(広告有効期間・本誌月号の月末迄)

「タイム」1976年12月27日号より
〈翻訳転載権取得〉



星

生命の始まるところ



カニ星雲の中心部には1054年に超新星として記録された中性子

こうした疑問に對する真の解答は決して出てこないかもしれない。ただし推測は次第に進歩している。しかし、ある意味ではこれは問題とするに足りない。というのは、ベツレヘムの星に關して最も重要なものは、それが存在したか、何であつたかである。何象徴しているかにあるから

一個の星が選ばれた理由を理解するのはむづかしいことではない」と、カリフォルニア工科大学の天体物理学者ジェシー・グリーンスタインは感慨をこめて語る。「星というのは月や太陽神などよりもっと謎めいて遠い存在なのだ。キリストの時代には世界中の人々は星を重要なものと考えたのだ」

見方によれば、星を選んだことは古代人が知っていた以上に適切だった。その誕生が彼らによって象徴化された幼児と同様に、星々は生死によって新しい世界のすべてを生誕せしめている。宇宙空間の非情な暗黒の中には生まれた星々は、その生存中に生命の存在を可能にし、それを維持する元素類を生み出す。星々が死滅すると、それらは天空を通じて、種子に似たこれらの物質をまき散らす。その結果、元素類は新しい星や惑星の一部となる。こうして死のなかに再生があるのである。

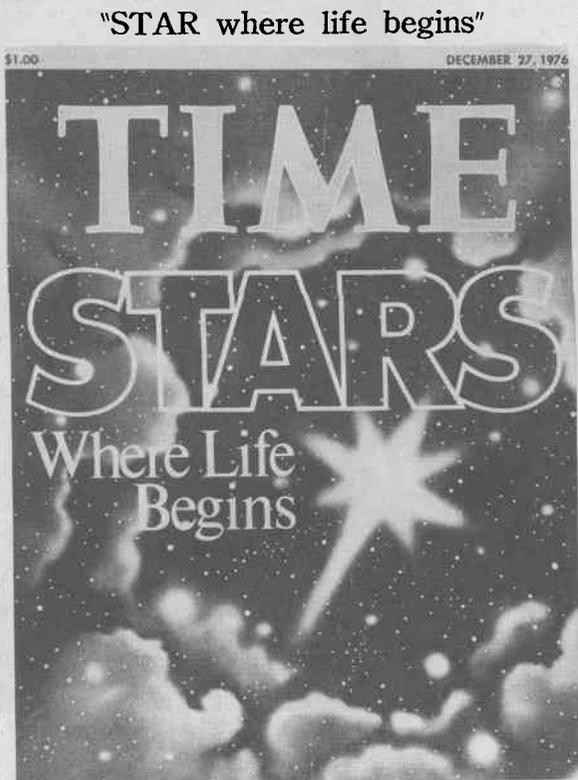
彼らは王の言ったことを聞いて出かけた。すると、見よ、東方で見た星が彼らを先導し、ついに幼子のおられる所まで進んで行き、その上空に停止した。その星を見た彼らは、このうえもなく喜んだ。——マタイ2・9—10—

ほぼ二千年間、天文学者、神学者、懐疑論者、信者たちは、このベツレヘムの星の物語について考えてきた。何

かの天空の光景が実際にイエスの誕生を示したのか、それとも聖書の記述は単に比喩的なものにすぎないのか？ 新星が実際に天空に出現したのか？ 現代の天文学者が「超新星」と呼ぶもの、つまり爆発する星だったのか？ すい星か？ あるいはより強く輝く二個の惑星が相接して現れたのだろうか？

めく、はるかなる星々は、常に願いのこめられた崇敬と驚異の対象となっている。キリストの誕生を記録した人々が、その出来事を一個の星に結びつけるのは当然のことだ。今日ですら、託児所の上空に輝いたり、クリスマス・トゥリーの頂上からきらめいたりする星は、希望の象徴となつている。「キリストの誕生を示すシンボルとし

実際、地球とその星——太陽——は死滅した星々の灰から部分的に作られるのであり、人間は文字どおり星の子なのである。人間——と地球上の他のあらゆる生命体——は星の炉の中で鍛造された原子群の集積体である。「すべては化学作用の産物で、したがって生命体のすべては星によって作られてきたのだ」と、ニューヨークにあるNASA（米航空宇宙局）ゴダード宇宙研究所の天体物理学者パトリック・サ



INSIDE
Kissinger on America & the World

「星・生命の始まるころ」(STAR where life begins) はタイム誌1976年12月27日号にクリスマス特集として6ページにわたり掲載されました。このクリスマス号の表紙(写真)は現在ニューヨークで活躍中の日本人イラストレーター宮内温夫(ハルオ)氏(Push Pin Studio)の手になるものです。宮内氏はニューヨークでベスト20に入る人気イラストレーターで、この「TIME」誌のほかにも「New York」誌の表紙などをたびたび手がけ、国際的な名声を獲得しつつあります。(p.81参照)

デューブスと言う。「水素は別として我々の肉体内のあらゆるものは、星の内部にある熱核反応で生み出されている」

☆
アリストテレス宇宙論

への強打

地球全体と星々のすべては

信仰の対象として天空にある

——ウォルト・ホイットマン——

「草の葉」より

星々は自分たちの運命を支配する神々であると、メソポタミア人は信じていた。シュメール人は星々の集団化に

規則性があることを知っていたらしく、季節の推移の目印や、植えつけと収穫の時期の決定に、星の動きに関する知識を応用した。アッシリア人は星々が人間の運命をきめるものと考えてもろもろの星座の中へ運行する惑星の動きを吉凶のきざしとみなした。

ギリシア人は星の物理的性質について哲学的に思索した。紀元前六世紀に生きていたクセノファネスは、天体は神というよりもむしろ光る雲だと主張した。ミレトス(小アジア)のアナクシマン드로ス(訳注IIイオニア派の自然哲学者)は、空を、火の輪で外側を包んだ球体であると述べて、星々は、空

で管状に呼吸している無数の穴を通じて輝く、その火の光だと考えた。ミレトスの別な住人であるアナクシメネス(訳注IIミレトス派の哲人)は、星とは天空の九天井に釘のように打ち込まれたものだと言っていた。

アリストテレスは、これらの天空の物体は永久不変な完全なものだと断言した。彼の意見はギリシアの思想に大きな影響を与えたので、天文学者ヒッパルコス(訳注II紀元前一三四四年に新しい星と思われるものを見つけたとき、これを発見したのは先輩たちが見落としていたからだと言った。また彼は将来の天空観測者が自分のデイレンマをくり返

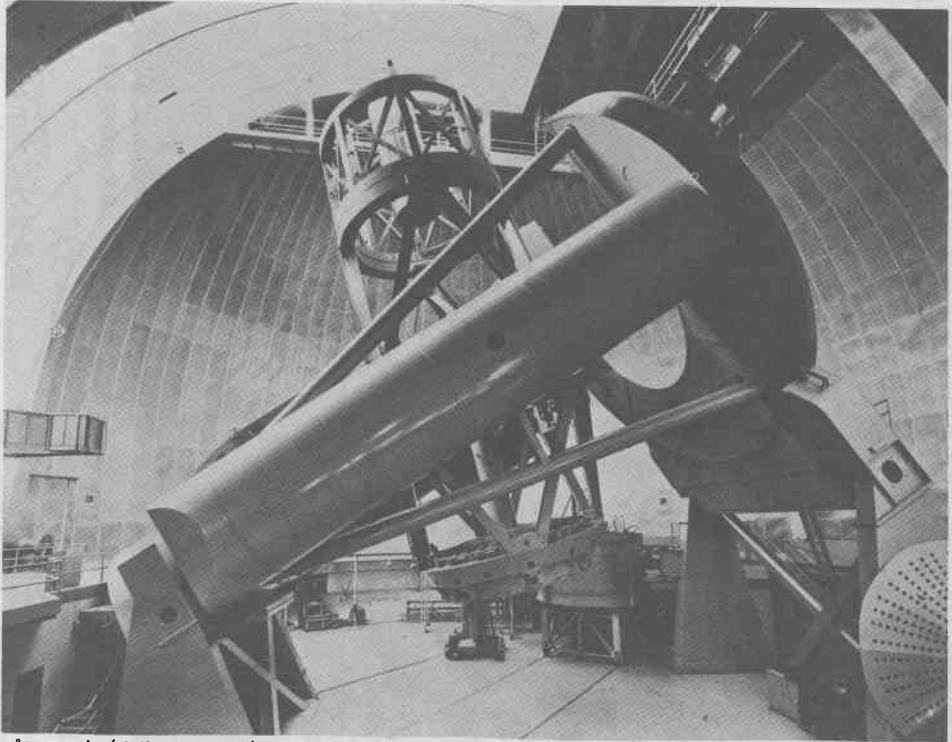
さずにすむような最初の正確な星図を編さんした。

中世ではコペルニクスが、地球を太陽系の中心におけるその位置から他へ移した。しかし一五七二年まではアリストテレスの考え方が天文学を支配し続けたが、この年、ティコ・ブラーエ(訳注IIデンマークの天文学者)が、カンオペア付近に強く輝く新しい星を観測した(これは現代の科学者が知っている超新星すなわち爆発する星である)。

たしかにそれは以前は見られなかったものである。アリストテレスの宇宙論に対する別な強打が続いた。十七世紀初頭までにガリレオは自分の望遠鏡を使用して太陽の黒点を発見し、これは太陽の外観は、やや不完全であることを証明するものである——空は肉眼で見えない星々で満ちていることを立証したのである。

一七一八年、すい星の発見者として名高い天文学者、エドモンド・ハレーは、シリウス、プロキオン、アルクトゥールスなどの星がギリシア時代以来——他の星と比較して——位置を変えたことを示し、これらの星が空の一定位置に固定されていないことを初めて確証した。

一九〇〇年代の初期までには、太陽は円盤型の銀河すなわち星々の島の中の数十億の星の一つにすぎないことを天文学者は知った。この星々が全宇宙を構成するのだと、当時多くの人に信



パロマー山（カリフォルニア）の200インチ光学望遠鏡

じられていたのである。
一九一〇年にはハーロー・シェイプ
レーが「天の川」と呼ばれる銀河の直
径を約三千万光年と算定した。これは
たいいていの人にとって途方もない数字

で、理解しがたい距離であり、現在の
計算よりも約三倍も大きかった。しか
し宇宙の範囲はまだ不明であった。も
っと大きな望遠鏡を用いることによっ
て、天文学者は、「天の川」の一部と

考えられていたその「星々」のあるも
のが、実際には他の銀河系（複数）で
あり、そのいずれも数十億の星を含ん
でいて、しかも「天の川」の最も外側
の縁よりもはるかに遠い所にあること
がわかったのである。

現在はパロマー山の巨大な二百イン
チ光学望遠鏡や、より新しい電波、エ
ックス線、ガンマ線望遠鏡のような装
置を用いて、現代の天文学者は理解の
領域を宇宙の端近くまで、そして星々
の核の中にまで押し広げている。

自信を強めながら天体物理学者たち
は、人間が理性的な存在になって以来
発してきた疑問に答えている。「星々
までの距離はどのくらいあるのか？」
「なぜ光るのか？」「存在してからのど
のくらいの年月がたつのか？」そして
「永遠に存在するのだろうか？」

☆☆

二百億年前に

さかのぼる宇宙誕生

最初に神が天と地を創造した。地は
形がなく、何もなかった。暗黒が大い
なる水の上であり、神の霊は水の上を
動いていた。神が言った。「そこに光
が存在せよ。」すると光があらわれた。

——創世記——

たいいていの宇宙研究者——宇宙の構
造や進化を研究する科学者——は、原
初の空無の状態を想像すると、聖書の
創造の物語は気味わるいほど真実に近

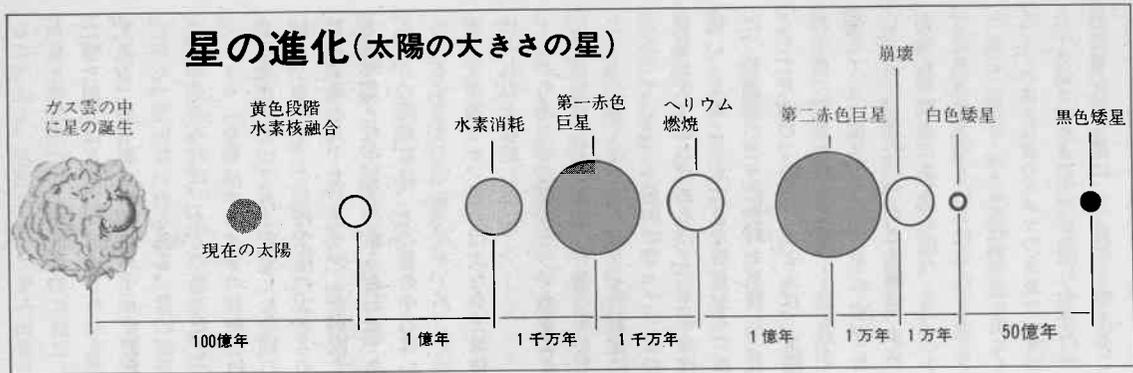
いかもしれないと一様に考えている。
宇宙は、最初の巨大な一個の原子の
爆発によって二百億年前に創造された
一個の大火球の膨張する残り物だと彼
らは信じている。この火球のくずは、
巨大な爆弾の破片のように、さまざま
い爆発からいまもお急速に広がりにつ
つある。この爆発が星や惑星ばかりか
生命の複雑な構造を生み出す過程を生
じさせたのである。

大爆発説といわれるこの驚くべき考
え方は、一九一九年に初めて実際上の
科学的裏付けを得た。

この年、天文学者のエドウィン・ハ
ブルが、遠い銀河系（複数）から放射
される光のスペクトル線の変化を調べ
て、星の鳥（複数）は地球から——そ
して相互に——さまざまスピードで
離れていると考えた。これは、風船の
表面に多くの点を塗りつけてふくらま
せるのと似ている。科学者にとって、
この各銀河系の急速な広がりは、原初
の宇宙の爆発を暗示した。

一九六五年に、プリンストン大学の
物理学者ロバート・ディックは、宇宙
が激的な放射線で満たされた一個の火
球として始まったとすれば、その放射
線の痕跡がまだ存在するはずで、高感
度のアンテナで探知できるはずだと結
論づけた。

幸運な偶然の一致によって、同じ年
にベル研究所のアーノ・ペンジアスト
ロバート・ウィルソンが天の川から来



こうして人間は、近くにある太陽の光が実際には八分間前に発せられたにすぎないことがわかる。太陽に最も近いケンタウルスのプロキシマ星は実際には約四年前に発した光で、遠い銀河系群のなかには、数十億年前に光を発したものである。したがって天空をのぞき見ることは過去をふり返って見る

の電波をキャッチしようとして、このようなアンテナを使用していたのである。兩名は天空のあらゆる部分から等しくやってくると思われる、かすかなノイズを不思議がっていた。しかし彼らはディックの仕事について聞いてから、その放射線の周波数と強さをディックの予告と比較してみると、謎は消えた。夜間、遠方の局の放送を聞くラジオ聴取者と同様に彼らも宇宙のシューリーというエコーをキャッチしたのである。

この発見に期待をかけた科学者たちは、ほぼ二百億年前に始まって、二百億光年も広がり、百億の銀河系を含む、いまだに膨張している宇宙の姿を今や想像できるようになった。しかも各銀河系は数千億の星から成る島なのだ。星々で充滿した大空をのぞき込む天文学者は、四次元の宇宙なるものを実際に知覚している。時間の尺度を加えた空間である。遠い昔、はるかなる恒星や銀河系を離れた光は、秒速三十万キロメートルで進行しながら今地球にやっと到達しようとしている。

しかし、星が死滅するにつれて、他の星が生まれるのである。わが銀河系や未発見の銀河系において、星々はたえまのない誕生と生と死の周期を経ていく。

実のところ、何を探したらよいかを知っている観測者にとって、眼前で形成されている星々が実際に見える場所があるのだ。この星の子宮とは星々の間にただよう巨大なガスやチリの雲である。大爆発後まもなく膨張する最初の火球の中で形成された雲と同様に、それらはほとんど自然の最も単純な分子である水素から成りたっている。

星が生まれるのは次の場合である。衝撃波のような何かの力が、互いに接近し合っている雲の中の水素分子を押し、それらが相互の重力によって結合する。その結果、さしわたし数兆キロメートルの濃縮ガスの巨大なポケットが、より大きな雲の端にできる。ハーバード大学のスミソニアン天体

物理センタールの天文学者ブルース・エラムグリーンとチャールズ・ラーダが提示したモデルでは、既成の大きな星々の燃焼によって出てくる衝撃波が、同じ雲から出すのを助けるといふ。

自身の重力下で大ガス雲は、ゆっくりと収縮し始めて、その中心部で圧力と温度を高めてゆく。こうしてそのガス雲は星の幼児になるのである。この過程は約一千万年間続き、その間に雲は収縮して、径百数十万キロメートル以上の球体になる。この時点で、この大ガス球の中心付近の温度は華氏一千万度という臨界温度に達する。これは核融合を起こすほどの高熱であり、大爆発する水素爆弾で発生する恐るべき過程である。

この高熱によって電子をうばわれて以来長いあいだ水素原子核はさまざまなスピードで互いにぶつかり合い、核融合によってヘリウムを形成し、ぼろ大なエネルギーを放射する。原子核の火はともされているけれども、実際の燃焼は星間の雲の中深く隠れている。「自然は誕生という現象に対して慎重にカーテンをめぐらしている」とNASAのサデューズは言っている。しかしこの幼児の星はまもなくその存在が知られるようになる。輝きがつかぬきわたり、黒い雲を光らせるからだ。

この現象は現在オリオン星雲で発生している。巨大なガスとチリの雲の輝く部分が、新しい星々を生み出してい

る。

星の死そして新しい星の誕生

るのである。星雲によって生み出された星々のなかには人類が最初に直立した頃と同じほど近くに形成されたものもある。最も新しい子でわずか十万年しかたっていないものもある。星の成長の水準からみれば、全くの幼児だ。

ヘリウムを形成する水素の核融合は星の進化において長く安定した時期の始まりを開く。これは太陽の大きさの星の寿命の九十九パーセントを構成する青年期と壮年期との組み合わせである。この時期には、その星の中心部から出るすさまじいエネルギーが、その重力を中和させ、その巨大な発光球体はそれ以上収縮しない。

しかしあらゆる星がそうであるように、結局は死期が来る。一個の星がどれくらい長く生きるかは、その質量にかかっている。一般的に言って、星の質量が大であればあるほど、その命は短い。太陽よりも大きな質量をもつ星は、放蕩者のように燃料を消費し、若くして死ぬのである。たとえば、太陽の十倍の質量を持つ星は、十倍も早く燃えて、一億年生き伸びるにすぎない。五十億年たっている太陽は、その寿命の中間点にある。一方、もっと小さな星々は天空という社会のメトセラである（訳注「メトセラは創世記に出てくるノアの洪水以前のユダヤの族長で、九百六十九歳まで生きた人。太陽の十分の一の質量を持つ星は、一兆年も燃えることができるのである」）。

☆☆☆☆

太陽が地球を

蒸発させる

天空高く、騒ぎもせず、星々は消えていった。

アーサー・クラーク「The Nine Billion Names of God」

アーサー・クラークの作品の中で、人類がその目的を達成し神のすべての呼び名を決めた時、星々は夕暮時のビル明かりのように消滅していく。事実、星（恒星）は消滅していくのだが、その原因はもっと複雑であり、また消滅過程も一様ではない。またたきながら終末を迎えるものもあれば、爆発によって消滅するものもある。

星の終末は、星が中心部付近の水素の大半を使い果たし、水素が表層で燃え出した時に始まる。この過程が始まると、星は徐々に赤くなり、ばく大なエネルギーを放出しながら一〇〇倍もの大きさにふくれ上がる。オリオン座のベテルギウス星は現在この過程、つまり「赤色巨星」の状態にあり、肉眼でも見ることが出来る。

太陽がこのような変化に突入すると水星と金星のみこみ、地球を蒸発させてしまうことになる。とはいえず、それは今から五十億年も未来のことであり、その頃までに人類の子孫は更に遠方の惑星あるいは太陽系以外に新たな生活の場を見出しているだろう。

星の赤色巨星の段階は、中心部をとりまく外層の水素が使い尽されるまでの、ほぼ十億年間継続する。

赤色巨星の次の段階は短い。火災はせき止められて外部には放出できなくなり、急激に収縮すると同時に中心部の温度は再び上がり、最後にはセツ氏一億度近くにもなる。これほどの高温になると、ついにはヘリウムが燃えて核融合を起こし、更に元素、炭素に変わる。すると、放射エネルギーは蓄積され、一度目より一〇〇倍も早く二度目の赤色巨星となる。

ヘリウムが消費された後の段階は、その星の大きさによって変わってくる。星の質量が太陽の四倍以下の場合には、第二赤色巨星段階がその星の死に際のがきである。星が再度収縮していても炭素が核融合を起こして更に重い元素になるほどの高温には達しない。しかし内部の温度は上昇するため星の外被は膨張し、ガス状となって冷却されるが、重力の影響が小さいため宇宙間に拡散していく。後に残った中心核は更に収縮を続け、直径数千キロの球体となる。この球体は一立方センチで何トン、という密度をもっている。

そして最後は「白色矮星」となる。この段階では太陽の表面温度より高温だが、直径は地球と同じくらいになり、長い老齢期を迎える。何千年かが過ぎ、白色矮星は少しず

つ冷えて黄色に変わり、次に赤色となり、最後には完全に燃えつきて黒色矮星となる。もはや宇宙の墓場に冷たい燃えかすとなつてただようのみである。

☆☆☆☆

超新星から

中性子星への道

多くの星は、進化とともにその物質をガス体あるいはチリとして宇宙空間にふりまき、質量の多くを失ってしまう。ある範囲の質量を失った場合、その星は白色矮星として静かに死んでいく。

しかし、太陽の四倍以上の質量をもつ星の場合には、その断末魔ははるかにドラマチックなものとなる。これらの巨大な星は、ヘリウムがすべて炭素に変化してしまっても核融合は終わらない。その終末は超新星として知られているように、中心部の炭素が大爆発を起こし、その質量の大半を宇宙空間にまき散らす。

質量がさらに大きく、太陽の八倍以上の星になると、膨張と収縮を更に数回繰り返して、マグネシウム、シリコン、サルファ、コバルト、ニッケルそして最終的には鉄の元素を作り出す。星が鉄の中心核を作り出した場合、その運命ははつきりしてしまふ。星は再び収縮を始めるが、高密度に凝縮した鉄の原子核に核融合を起こさせるだけ

の重力はもたない。しかし、巨大な質量は星自身の重力に打ちかつことができなくなり、中心部に向かって陥没していく。

これはもはや新たな破局である。それまで何百万年にもわたって生き続けてきた星が、ほんの数秒間のうちに、すさまじい陥没を起こして物質同士が衝突し、その中心部で信じがたいほど高密度の小さな球体となる。その直後今度は巨大なバネのように、星は反発して大爆発を起こす。これが「超新星」である。星はばらばらに砕けて、その歴史の中で蓄えてきた物質の大半を宇宙にまき散らす。

この時の輝きは、その銀河系の何十億という星を照らし出すほど強烈である。もっとも最近観測された超新星は、一六〇四年、ヨハネス・ケプラーによるものだ。

この大爆発の後に残るものも、当初の星の大きさによって異なってくる。断末魔の苦しみの後には、猛烈な勢いで回転する恐ろしく高密度な、直径わずか十数キロの球体が残る。これはピツシリと詰まった中性子だけでできている。

中性子星、あるいはパルサーと呼ばれるこの星は、西暦一〇五四年に中国で超新星として記録され、現在もなお拡大を続けている輝く星雲「カニ星雲」の中心部に存在する。



オリオン座の大星雲。現在も膨張をつづけており、地球から約1500光年の距離にある。

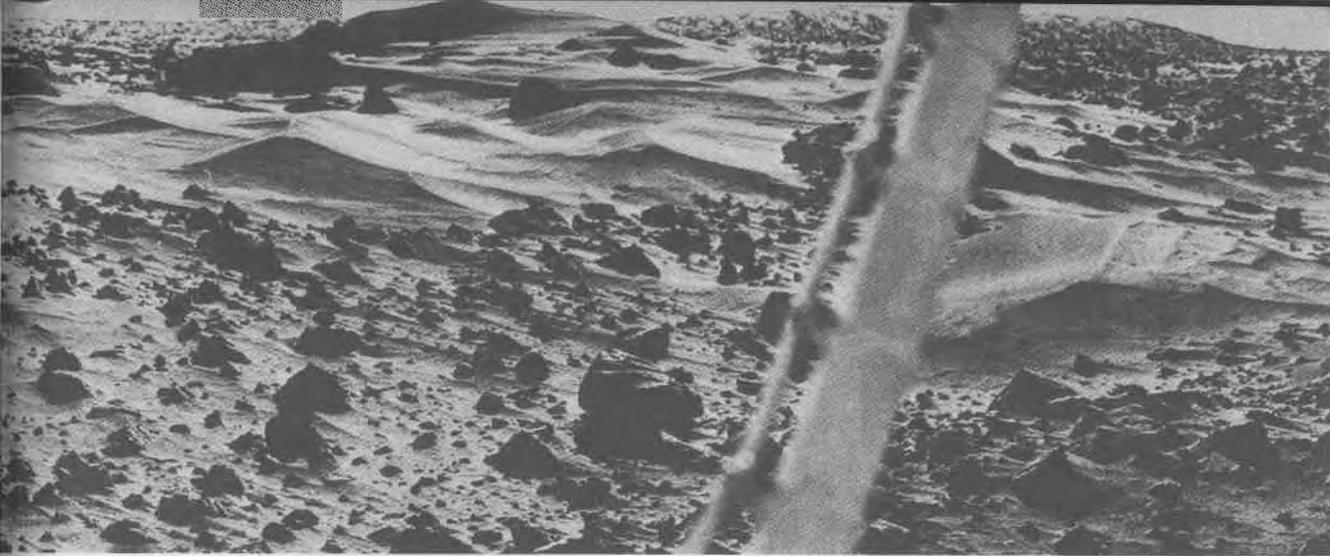
一☆☆☆☆☆ そして ブラックホール

これよりも更に巨大な星の場合は一層奇怪な運命をたどることになる。星自体の重力があまりにも大きいため中性子星の状態を通りこして更に中心部への破滅的な陥没が続き、物質が押しつぶし合い、最後には消滅してしまうのである。しかし星の小さな「なごり」はあまりに大きな重力をもち続けているため、何ものも、光さえもそこから脱け出すことはできない。周囲に存在する一切のものは消滅し、星自体も無気味な重力のみを残して消えてしまうのである。

このような「ブラックホール」に落ち込んだものは何であれ消滅してしまいうだろう。

ブラックホールは光も、またいかなる放射線も発しないので、相対性理論でいうところの「存在」は確認できないが、存在を推測することは可能である。

天文学者は白鳥座に強いX線発生源を確認しており、白鳥座X-1と命名されたこの位置にブラックホールがあるとされている。ここではある星が「ブラックホール」と連星をかたちづくり、両方の重力の中心を軸に回転している。片方の星の物質は猛烈な勢いでブラックホールに吸引されているた



め高温となってX線を発生し、これが観測されている、というものである。(連星は非常に接近した二つの星が互いに引力を及ぼし合い軌道運動をしているもの)

☆☆☆☆☆☆☆☆

宇宙空間のガスが

生命を生み出す

中性子星とブラックホールは巨大な星の死によって生まれるのであるが、その死に先だつて起きる大爆発の際、新しい星の誕生に必要な元素を生み出して宇宙空間にまき散らし、これは同時に生命誕生の基本物質となる。スタンフォード大学の天体物理学者ロバート・ワゴナーは「星には二つのはたらきがある。一つは光というかたちでエネルギーを放出すること、もう一つは我々の肉体を構成しているような重い元素を生み出すことである」。

実際、科学者は原始宇宙には水素とヘリウムしか存在しなかったと考えている。しかし、水素とヘリウムのガス雲の中に星が形成されるようになると現在自然界に見出されるようないろいろな元素が作り出されるようになったのである。この経過は星の光のスペクトル線の中にその痕跡を見ることができ、宇宙がまだ若かった頃に生まれた古い星は、より重い元素の痕跡のみを残しており、それより後で生まれた星は、より多くの重い元素をもつてい

る。したがって、現在星間物質の雲の中で形成されつつある星は「宇宙の溶鉱炉」の中で作り出された原子を極めて大量に含むことになると考えられる。

サデューイスはこの雲について「この美しい雲は、星の誕生の際に消費されるためにじつと待ち続けている肥料だ」と言っている。

星間にただよう雲は、別の「肥料」をも含んでいる。一九六三年に、マサチューセッツ工科大学とリンカーン研究所の調査チームは電波望遠鏡を使用して宇宙空間に水酸基(水の分子の三分の二を占める)を発見した。それ以後、現在までに三ダース以上の分子が銀河系の星雲内に発見された。メタン、ホルムアルデヒド、アンモニア、シアン化水素、エチルアルコール、一酸化炭素などである。

これらの発見は、一九五三年にシカゴ大学のスタンレー・ミラーとハロルド・ユリーが行った古典的実験に照らし合わせてみると極めて興味深い。彼らは、密閉した容器の中の水蒸気、アンモニア、メタンに電気スパークを通すとこれらの元素は結合してアミノ酸を形成することを発見した。アミノ酸は生体内の蛋白質を作っている構成単位である。

ワシントンにある米海軍調査研究所の天体物理学者ハーバート・フリードマンはこう述べている。「宇宙空間の

ガスは分子化合物を形成し、最終的に生命を生み出すことが可能である」。これはたいへんなことを意味している。星間距離は生命の形成にはあまりに広大だが、地球において有機化学がありふれていることから考えても、他の惑星に生命が存在することはありうることである。

☆☆☆☆☆☆☆☆

原始宇宙に

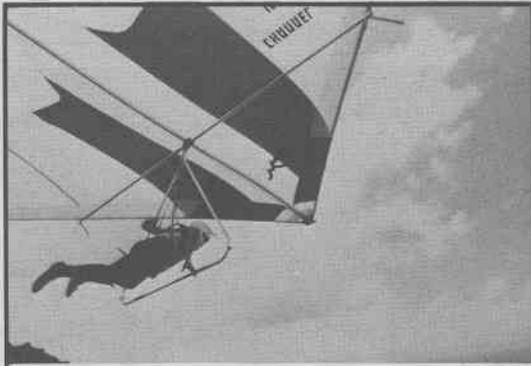
戻るとき

宇宙には最初の大爆発によって生じた残滓から生まれた太陽のような恒星が何十億と存在する。それらの多くはおそらく惑星系をもっており、科学者はこれらの惑星、恒星をとりまく円盤状のガスとチリが凝縮してできたと考えている。

他の天体の生命の探索はすでに行われている。NASAの科学者は昨年火星に着陸したバイキングの資料を現在も分析しており、今後太陽系内の生命存在の有無を調査していく計画である。

一方、電波天文学者は地球に知的生物が存在することを他の天体の文明に知らせるために信号電波を放射し、また他の文明との交流を望んでいる。地球外文明からの通信を受信しようとして巨大なアンテナで耳をそばだてている。星はどの位の時間燃え続けるのであ

バイキング一号から見た火星のクリュセ平原



宇宙はその膨張を停止させるだけの物質をもっていないと考えている。彼らの説では、宇宙は際限なく拡大し、星はおそかれ早かれ大量の水素を使い果たす。星の生成は衰えていき、遂には停止して、最後の星がまたいた後、宇宙の一切の活動は終止符を打つ。

カリフォルニア大学の天文学者ジョン・フリー・バービッジは「宇宙論は宗教のようなものだ。両方とも情報量はごく少なく、極めて多くを信念に依存している」と述べている。

「時に、言葉は不自由だ。」

PART 1

大空に賭ける勇気ある男を通して、あるカメラマンが、撮らえた、青春の一コマ。



眩しい陽光に目を細め
地平線に向って
一筋に伸びる道を
歩きつづける
別に
出会いなんか
期待してはいない

盛岡養一郎が、キミにおくる
一編のメッセージ。

¥2000

文久書林 ● 〒113 東京都文京区白山1-29-12
電話(03)813-2495 振替東京4-2521番

しかし、新しく天文学を学んだ科学者にとっては、理解しがたいもの、知らされざるものは人間の論理と知性に対する挑戦である。原始宇宙の大爆発より以前には何が存在したのか、という究極の疑問に対しては現代科学はほとんど何も答えていない。ノースウェスタン大学の天文学者アレン・ハインエックはこう述べている。「科学においては、回答のしようもないようなことに質問を出すのはルール違反なのだ！」

とはいえ、知覚し、また研究対象となりうる範囲の広大な宇宙に関する限りかなり楽観的な見方をする科学者もいる。

つまり、宇宙空間には、その膨張をストップさせるだけの質量の物質があり、いずれは銀河系の膨張はゆるやかになって停止し、次には宇宙空間を逆戻りして中心部で衝突し、ふたたび最初の原子を形成する。そして、また巨大な原子が爆発して破片を宇宙にまき散らし、その途上で天体を構成して生命を生み出す。このような振幅を永遠にくり返す、というのである。

宇宙がいずれの脚本通りに動くにしても「地球や私自身を生み出したような星々とこれらの出来事の世界に私自身が含まれていることはある種の喜びと名譽を感じる」と天体物理学者グリーンスタインは語っている。

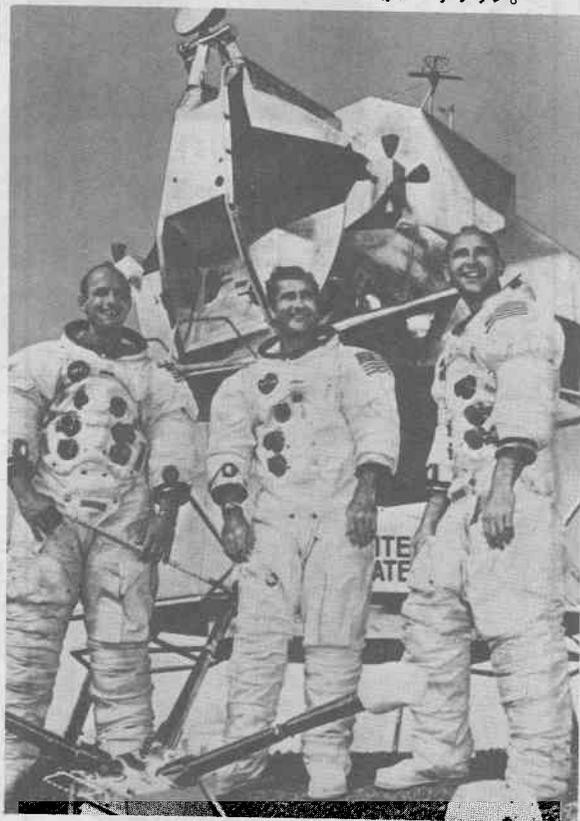
同じような感情を抱く人は多いだろう。これまで、永遠の星に対して限りある生命しかもたぬ人間の最後のなぐさめは、たとえつかの間の人生であっても、まったく存在しないよりは生まれてきたことの方がよい、というものであった。しかし、星が無限の生命をもつように考えられていた遠い昔と違い、星は今や不死のシンボルではないのである。

☆ ☆ ☆

訳／久保田八郎・矢沢 潔



▲25歳のときすでにドイツのあらゆるロケット研究の技術指導者となったウェルナー・フォン・ブラウン。



▲アポロ12号の左からチャールズ・コンラッド船長，リチャード・ゴードン司令船飛行士，アラン・ビーン月着陸船飛行士。

科学者はUFO問題 に目覚めつつある

完

UFO問題レポート

ティモシー・ベクリー



●アポロ12号で飛行中、アラン・ビーンは背後に「ヒューッ」という音を聞きつづけた。別な飛行士は、宇宙船が月の裏側へ回ったとき「ウー」という不思議な音を聞いた。地上の管制官たちもまた船内からのものでない不可解な音を……。科学者たちはこれらの背後にUFOの影を探り始めた！

同じ週にその地域で別な奇怪事が発生した。着陸地点からほど遠からぬ道路ぞいを、類似の物体によって彼女の車が追跡されたというのである。

更に別な三名の目撃者も一群の謎の光体が同じ地域で動くのを見たと新聞社に報告し、その一機はその夜、着陸したという！

スプリング博士も

信者になった

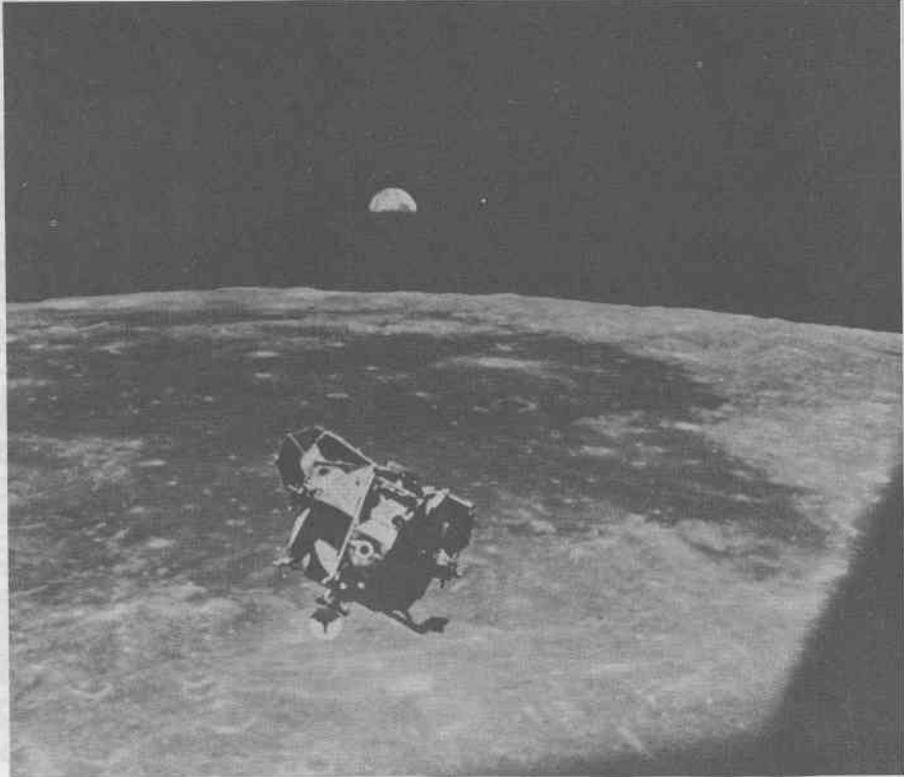
驚くほど多数の科学者がこうしたUFO報告類を額面どおりにしか認めないが、少数ながらも実際のコンタクトの可能性を考えている科学者もある。

この分野に鋭い眼を向けている学者のなかに、ワイオミング大学の心理学準教授レオ・スプリング博士がいる。

UFOの存在に関して何かが決定的に証拠づけられねばならないとすればそれは我々がUFOの乗員とコンタクトするときに実現すると博士は言う。スプリング教授は多くの機会に次のように述べた。多数の理性的なまじめな人がUFO乗員とコンタクトしてきたというのだ。しかし、こうしたエピソードは厳密に物理的性質のものだと彼は確信していない。

「私はいわゆるコンタクト事件において、いかに多くの異常性が含まれているかを理解しようとしてきた。しかし発生する事件には心霊的な含みがあるような証拠は充分に出ている」

◀アポロ11号。月面から戻ってきたイーグル号。



うことは事実であり、全く驚くべきことだ」

大気圏外にも

文明は存在する！

カリフォルニア芸術大学の教授ジェームズ・ハータックも同様な態度を示している。一九七三年二月、ニューヨークで開かれた超感覚研究財団主宰のキルリアン写真に関する研究会の席上で、ハータックは多数のアマチュアや

科学者（この中には宇宙飛行士のエドガー・ミッチェルもいた）を前にして講演を行い、「地球人だけが宇宙に住む唯一の知的生物ではない」と述べたのである。そしてわが地球が数千年間他の銀河系から来た人間によって訪問を受けてきたという自説を裏付ける証拠を示した。この証拠というのは彼みずから集めたものだが、そのなかには最近研究家が解読したばかりの、古代チベットの書かれた古文書がある。それによると——デニケン流かもしれないが

——大気圏外の人類が過去に地球人と混合し、各種の文化の発達に複雑な役割を演じたかもしれないというのだ。宇宙開発計画の初期以来、筆者は宇宙飛行士や宇宙開発に密接に関連のあった人々が、不思議な飛行物体について述べた言葉を追求し続けてきた。宇宙飛行士が体験したUFOの目撃は極秘にされている。しかるに彼らは宇宙空間で見た未知の物体に関して情報を

洩らしているのである。わが宇宙船が親しく観察され追跡されたことを意味する豊富な証拠は筆者が別な記事で出しているし、ジョーゼフ・グッダーベージも掲げている。

この種の最も新しい公開声明は、月へ行つたアポロ17号の船長ユージン・サーナンが行つた。月から帰つた彼は自分が見て「感じた」事柄を熟考する機会があつた。

「我々が大気圏外へ出て、時間と空間の無限なることに直面するとき——これはだれにも理解できないことだが、やはり存在するのである。私はそれを見たから、わかるのだ——わが地球を宇宙の広大さに比べると、いかに微小な物であるかがわかってくる。

統計上からみても、無数の「地球」と、無数の文明が存在するにちがいない。老若を問わず人々がいつか我々も遠い世界へ到達できると考えたり、我々が接触できる文明があるかもしれないと考えたりするのは、科学的にも哲学的にもすばらしいことだと思ふ」
特にUFOに関してサーナンは次のように述べた。

「私はUFOをまだ見たことのない男の一人だが、これまでそのことで質問を受けてきた。それで私はUFOというのは地球以外のどこかの文明によって建造され飛ばされている物体だと公然と考えてきた」

この隠退した宇宙飛行士は、地球の

その結論がどのようなものであろうと、スプリングル教授は、自分自身の二度にわたる「全く本物の」目撃を認めている。

「最初の体験以前、私はUFO問題を嘲笑していたが、その体験で半信半疑

となり、二度目の目撃以後は「不本意ながらも」信者となつた」

スプリングルは各種の学者の集会の前で何度も自分の考えを述べている。

「UFO現象に物理学的、生物学的、社会心理学的、精神的な問題がともな

文明だけが唯一の高度に進歩した文明ではないと考えて、次のように語っている。

「たぶん『無限』は未来ばかりでなく過去にもさかのぼるだろう。たぶん月は、地球や月ばかりか宇宙空間に存在した太古の文明についても語れるだろう。そして周囲に存在するものすべてに對する理解を我々に与えるだろう。相対的にまだ触れられていないもの、数十億年も昔のものを理解することは我々の背後と未来に存在するものにする学習過程の一部分である」

宇宙空間の

不思議な音響

別な宇宙飛行士ロナルド・エバンズもUFOは実在するだろうと言っている。彼は一九七三年二月六日、アリゾナ州立大学の記者会見で、UFOが存在する「明確な可能性」があると語った。しかし彼の指

摘によると、彼自身は地球や月の周囲にこの種の物体を見たことはないと言ひ、「ただし宇宙空間にはあらゆる種類の粒子が飛びまわっている」という。更に彼は、彼の乗った宇宙船が月

の向こう側へ回ったとき、無電をオンにしておいたところ、地球からの送信はカットオフされるはずなのに、

「ウー」という不思議な音を聞いたとつけ加えた。それ以前の数回の宇宙飛行の際にも、宇宙飛行士たちの船内の会話をモニターしていた地上の科学者は、地上からのものではなく、船内のものでもない不可解な音を聞いて驚いたことがある。

アポロ12号の飛行中に、宇宙飛行士アラン・ビーンは背後に「ヒューッ」という音聞き続けたとヒューストンへ報告した。

それよりずっと以前のフェイス7号ロケット（一九六三年五月）に乗ったゴードン・クーパーは、「NASAの無電周波数で送信された奇妙な言語」を聞いたと主張している。その後、アポロ11号の飛行中にも不快な音響が電波をささぎって入ってきた。こうした

「音響」や「声」などの発信源は不明のままになっている。

テキサス州にあるジェネラル・ダイナミック社のトップクラス科学者ギャリー・ヘンダーソン博士は、UFOの実在を信ずるばかりでなく、宇宙飛行士のすべてがUFOを目撃して写真にまで撮っているのだ！と述べた。この驚くべき暴露はカナダのカルガリーにおけるプラネタリウムの講演時に話したことである。

ヘンダーソン博士によれば、NASAは宇宙飛行士から集めたUFO写真や証言類を秘蔵しているという。この資料が公開されないのは、NASAの将来の宇宙開発資金が政府から削減されるのを恐れているからである。

「人々はまだUFOについて語るのを

恐れている。それは多数の人にとって——特に議会や政府で——笑い草になっているのだ。だれも自分の首をかけたくないのだから」と博士は述べた。

なぜこのような態度が政府、軍部、科学施設などに存在するのか？ カリフォルニア大学の土木工学助教授ジェームズ・ハーダー博士は、次のような自説を出している。

「UFOに関しては強力なフィードバックが起こってきている。特に大気圏外から来るといふ仮説が強い。これは人間が自然の風物の中に自分を中心として考えてきた歴史的な記録をふりかえると、うなずけることである。大気圏外説は人類の集積したエゴを必然的にくずしやすい。こうしたフィードバックは事実の科学的な評価には無用である

が、その説はときとして私に影響を与えたと告白したい」

感覚的には 認めがたい

ハーダー博士は、過去二十六年にわたってUFOの存在に関するぼう大な証拠が集められてきたと信じている。「この証拠のほとんどは一



▲地球へ帰還後のジーン・サーナン。



▲ヘルマン・オーベルト。

般大衆や科学者に知られていないが、

法廷などで応用されるように、資料や証拠の裁定などにとつくと、UFOの物理的実在は疑問の余地なしに証明されている。何らかの努力をすれば、我々

は知的レベルでこの実在を認めることはできるが、感覚的なレベルで認めることはむづかしい。この点で我々は自分自身の死という現象に対して多くよい。我々は死という事実を知的に認めるけれども、感覚的に認めるのはむづかしいのである」と博士は述べた。

「だれも知っているように、科学界は今やつとUFOの謎の調査にとりかかろうとしている。アレン・ハイネック博士のような少数の勇氣ある人たちは、長いあいだこの謎に対する解答を

求めてきた。

ヘルマン・オーベルト

も熱烈な関心をもつ!

科学界のかたくなな態度に反する例

外として、思想において常に大きな影響力を持つてきた人は、「宇宙旅行の父」といわれたヘルマン・オーベルト教授である。オーベルトは世界で最も有名な宇宙開発科学者の一人で、世紀初頭以来、ジュール・ベルヌの夢——大気圏外へ進出しよう——を実現させようと努力してきた。(訳注)ベルヌへ「八二八—一九〇五」はフランスの科学冒険小説家、代表作は『八十日間世界一周』)

第二次世界大戦中、オーベルト教授はドイツのロケット開発計画のリーダー

であり、誘導ミサイルの液体燃料推進の応用に最初に成功した人で、教授の指導下にウェルナー・フォン・ブ라운のような人たちが成長したのである。

十年ほど前、オーベルトは仲間の科学者達に警告した。たえまなく出てくるUFO報告を無視すれば大きな危険が生じるといふのだ。

UFO問題になるとオーベルトは極端に堂々と話す。UFOとコンタクトした人に関する件については特にそうである。ドイツで開かれたあるUFO大会に出席した二名のいわゆるコンタクタイ(宇宙人と会ったと称する人)に会ったオーベルトは、次のように述べた。

「私はこれらのコンタクタイは、い

い加減な、ヒステリックな、精神分裂症な人間だと思つたが、彼らは私にある印象を与えたことも否定できない。百人に一人の割合でこうした人々は完全に正常で「何か」を見たり体験したりしたと信じた。」

UFO乗員はなぜもつと直接に堂々と地球人に連絡しようとしなかつたのかと聞かれたオーベルトは、答えた。

「たぶん彼らは地球人を原始的だと考えているのだから——ジャングルのサルみたいに。地球の大気は、UFOを操縦する人間にとつて有害なのかもしれない。大気中には彼らの生命を危険にするようなバクテリアがあるのだろう。そのため彼らは充分な準備なしに宇宙船の外へ出ることをしないのだ」

ヘルマン・オーベルトは、宇宙人とのコンタクトの発生の可能性を認めるほどに寛大な心の持ち主で、世界的な視野でUFOの謎を調査しようと努力しているのである。

「我々はUFOの研究分野ではまだ胎児の段階にあるにすぎない。もつと真剣な研究が行われるようになるまではUFOの疑問は解けないだろう。何か物理的証拠が必要なのだ」と教授は主張している。

コンタクトの可能性を

認めるシュワルツ博士

これとは少し異なる見地でUFO問題を研究しているのは、米ニュージャ



マサチューセッツ州の四十歳なかばの一人婦が、自宅からほど遠からぬ場所に着陸したUFOによって、いつも調査されていると称していたので、その婦人に最近つき添っていたとき、博士自身も二個の輝く球体が絶えず色光

ージ州のモンクレア公共病院で精神科医としてつとめているバートルド・エリック・シュワルツ博士である。同地域におけるUFO活動に対する研究は別として、博士は超心理学の研究にもほう大な時間を費やしており、この分野でいくつかの論文を発表している人である。オーベルト教授と同様に、バートルド・シュワルツも「コンタクトイヤーの謎」に大変な関心を持っており、こうしたコンタクトイヤーたちの多くは、たしかに正常な世界を超えた体験を持ったのだという自説を、しばしば表明している。四件の個々のコンタクト事件を体験した目撃者たちに見えたあと、彼は次のような結論に達した。宇宙人とコンタクトしたという特殊な人々には、精神病理学的な理由はない。



「今までに行なった目撃者たちの精神病学的な研究の結果、彼らは正常な知性の持ち主であることがわかった。そして、顕在及び潜在意識によるでっちあげの精神力学的な動機の形跡はない。したがって、こうした事件は事実であり、客観的に正確であるとするのは、全く妥当である。もし何かの疑惑があるとすれば、事件に対する解釈に問題があるといえよう」

を変化させるという不思議な現象を目撃した。この輝く球体は数分間彼の前に無音で滑空して来るように見えた。すると両物体は合同して一個となり、また分かれて、そのまま飛び去った。このときシュワルツ博士のテープレコーダーは機能を停止した。その日の朝、新しい電池を入れたばかりである。しかし博士が携行した二台のムービーカメラは作動し続けて、劇的な光景をフィルムに収めることができた。彼は自分自身の近接コンタクトばかりか、個人で調査した類似の他の多くの事件に対しても迷っていることを認めている。

と博士は言う。したがって、山なす証拠類を無視することは不可能のように思われる。たしかに政府は科学界が知らぬようなフアンタスティックな事件のつめ込まれた莫大な記録をかかえている。ジョン・ノースロップが最近言った。「私は空軍がUFO報告の蒐集をあきらめたとは思わないし、政府がUFO記録を科学界に発表して評価させようとしているとも思わない」

現在のところでは、UFOの謎は解決からはほど遠いけれども、徹底的な研究が続いている前記の有名な人々がいる限り、数年もすれば真相が判明するだろう。いや、数カ月で具体的決定的事実が解明されるかもしれない。

この記事に出てくる人々は印象的な存在だが、他にも多くの科学者や有能な人々がUFO問題に個人的な研究を続けていて、その結果を発表するのに「適当な時期」が来るのを待っているのである。最終的な結果がどのようなものであろうと、「UFO問題は地球の人類にはかり知れぬ価値を有している」という「アメリカ航空界の父」(ジョン・ノースロップ)と同じように、我々も希望を持つてはならないか。(完)

現在そうであるように、UFOの謎は解決からはほど遠いけれども、徹底的な研究が続いている前記の有名な人々がいる限り、数年もすれば真相が判明するだろう。いや、数カ月で具体的決定的事実が解明されるかもしれない。

訳/久保田八郎

宇宙人とのコンタクトや政界と民間への啓蒙活動をアダムスキーから実質的に引き継いで活躍している米国のグループからの最新情報と、生命の奥にひそむ普遍的真理の探究

空飛ぶ円盤と宇宙人に関する新しい教育誌

UFO教室

■主内容 金星人は地球にいる一ロスアムズウィッチのコンタクト ■連載 アダムスキーの幻の著書「宇宙のバイオエナジー」月、金星、火星への旅 第一回 ■ケネディー大統領の宇宙開発計画とアダムスキーの関係 ■官界のUFO報告 ■アダムスキー以後の宇宙人達との交流に関する著述 (古山晴久) ■スペース・プログラムの再認識 (安齋純夫) ■雑誌発行の主旨 (沢村潤一郎) ■他。

価360円 送料140円 年二回発行分で1000円

アダムスキーの質疑応答集の決定版

進化した宇宙人と 他の惑星に関する

1965年版 質疑応答集 (本邦初訳)

これ以前に出された質疑応答集には内容がゆがめられた所が多かったため、アダムスキー自身の手で旧本を改めて出されたもの
竹島正訳 価格350円(送料100円)

になろう!!



日本全国・世界各地の仲間が
キミの電波を待っている
JND-CQ, QO... 55 J1ZE
A... リエント、アルファ、ワグ、ゼブラ
E... アルファ、お歸きのハム局必呼ね
がいます。スタンディング、1日(どうぞ)

楽しさバツグンのハム

「JA1ZEAさん、こちらJR6△△△。あなたの電波は59(ファイブ・ナイン)で沖縄県是那覇シティに入感しております……お初にお耳にかかりますが、QSO(交信)よろしくおねがいたします。どうぞ……」

ハムになるのはカンタン

「電話級ハム免許」は〇×式(四者択一式)のやさしい試験で取れる国家資格で、小中学生の合格者もたくさんいます。ラジオ、模型、BCLなどの好きな方なら、短期間の準備でOK。
▶ハムをみぞす初心者のための通信講座『充実した指導と実績の普及会』で、あなたも今すぐ免許を取ろう。



ハムガイド集 無料贈呈中!!

——こんなふうに《電波の声》で仲間を呼び出して自由にラグチュー(おしゃべり)を楽しめるハム(アマチュア無線)が、いまヤングの間ですごい人気。マイクにむかって呼びかけるキミの声が大空をかけ一瞬のうちに世界各地の仲間(100万人以上!!)

にとどいて、楽しい交信が始まります。

↑クルマとハムを結びつけた《カー無線》は人気最高! 運転免許を取ったらキミもぜひやろう。



楽しみつきないハムの世界

●海外交信で外国の友達もたくさんできる! ●ローカル(近辺)の仲間とのラグチューもゴキゲン ●また学校その他のクラブ局や野外交信でも活躍できる ●カラフルなQSL(交信)カードあつめの楽しさはBCLファンなら見逃せないところ ●ハムコンテストやフォックスハンティング等各種の楽しみも盛り ●手がたて予算少々のハンディー局も急増中!



●ハム受験から開局までの総合指導システム

氏名・年令

〒番・住所

20円

普及会F77係

〒158 東京玉川局
私書箱19号
CQアマチュア無線

CQアマチュア無線普及会

Q.T.H. 東京都世田谷区尾山台3-9-7

「CQ/ハム」サービス 03・704・4986

GEORGE ADAMSKI

地球重力思考を脱した先駆者の軌跡



劇画・アダムスキー

「金星人会見物語」 58

写真アルバム

アダムスキー在りし日 66

写真アルバム

アダムスキーが撮った
UFO 68

碧きパロマーの空 72

久保田八郎

世界最大の円盤物語 82

グレイ・バーカー

アダムスキー完全年譜 88

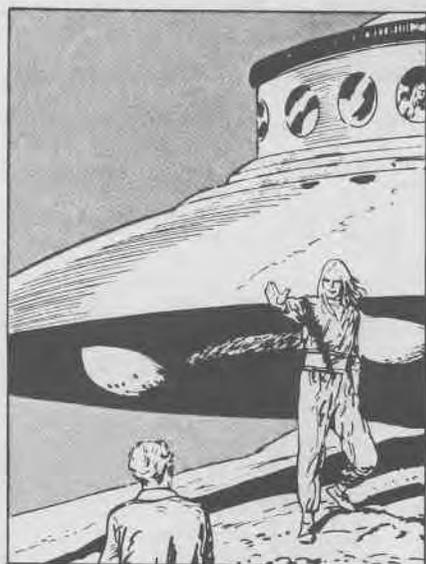
アダムスキー最後の
講演記録 92

劇画 / アダムスキー

金星人会見物語

文 ジャック・ロブ

絵 ロベール・ジジ



日本語版翻訳転載権獲得
© Dargaud Éditeur 1972

アダムスキー特集のまず最初に、フランス直輸入の劇画をお届けします。これはDargaud Éditeur社から刊行されている“Le Dossier des Soucoupes Volantes”(空飛ぶ円盤事件ファイル)の第5章にあたるものです。正確な情報に基づいて忠実に再現された絵と文章で、驚異のコンタクトストーリーをお楽しみください。

ADAMSKI
ADAMSKI
NOMME
NOMME
UN PROPHETE
UN PROPHETE



これは『空飛ぶ円盤事件ファイル』の中でも特異きわまる部分である。すなわち、「コンタクティー」と呼ばれる、宇宙人と意思疎通を行つたと主張する人々に関するものである。これらの宇宙人は、天使のような身体つきで、計りしれないほど深い知識を持ち、私たちに好意を抱いている……。コンタクティーは、地球の人々にメッセージを伝えるために、宇宙人によって計画的に選ばれた。そのメッセージとは、原爆の使用に代表される危険に対して、恐るべき子供たちである我々が不断の警戒を怠らなければならない、というものである。コンタクティーのほとんどは、空飛ぶ円盤に乗って宇宙旅行する機会を持った。地球に戻ってから、彼らは宇宙人の正しい言葉を周囲の人々に広める活動を行っている。自分の経験について著作を著し、メッセージをテープに吹き込み、また金星や火星の宇宙船の写真を通信販売したりして……。

アメリカ人は、この新しい宗教の信奉者たちを「カルティスト」と呼んだ。カルティストたちは、すべての心正しい人々に平和と安全、ガンの治療法、そして惑星間飛行をもたらす「偉大な宇宙の友人たち」の到来を、心から待ち望んでいる。毎年、ジャイアント・ロックの円盤信者たちの会合では、数千の人々がカリフォルニアのモハーベ砂漠に集まってくる。自動車で、あるいは自家用飛行機でそこにやってくるのである。2日間にわたって、次から次へと講演が行われる。いっ

たいどんな内容なのか、プログラムの題目を見てみよう。「女性宇宙人との最初の会見」、「私の4日間の火星旅行」、「私は宇宙人の代理人だった」、「太陽系政府」、「宇宙的パイプレーション」etc. ジャイアント・ロックは円盤のお祭りでもある。金星音楽のレコード、火星のセクター6のモンカのメッセージ、宇宙の友人たちの肖像メダルといったものを数ドルで買求めることができる。しかし、これらの会合のどれも、本物の空飛ぶ円盤が全然出現していないということに注目すべきである。

コンタクティーやカルティストにとって最も手強い敵は、空飛ぶ円盤の否定論者ではなく、逆に、現象の存在を信じていてそれを科学的に研究しようとしている人々たちである。彼らは円盤熱狂者が、それだけでなく論争的であるテーマの信用をなくし、懐疑論者や中傷者を有利にしていると非難している。

以下の劇画は、まさに論議的となっているジョージ・アダムスキーの物語である。彼は最初の、そして最も有名なコンタクティーである。ある人々からは尊敬され、他の一部の人々からは軽蔑と攻撃をされた。しかし彼は、よくも悪くもその後の空飛ぶ円盤の歴史の一部を創った人物であり、まさにこの劇画の原題「予言者アダムスキー」にふさわしいといえよう。

AFSCA

FROM OUT OF THE STARS
come—THE KORENDIANS!

FREE! YOUR NAME ON THE SPACE SCROLL
NO OBLIGATION
"Participate With Me in a Remarkable Experience!"

9-FT. DIA. "FLYING SAUCER"

Be first to launch your own Giant U.F.O. Are these what people are seeing? Rings seen on land but air the amazing height! Use it over & over. Precut parts. Safe as no flames are carried along. Complete kit & instructions for inflating & launching. Only \$3.95 postpaid or \$1 for \$2.00. Send cash, check, or money order to—
Space Age Distributing Co.
421 Pontiac Ave., Dept. 288
Grand Rapids, Mich. 49506

forced into SEX aboard a flying SAUCER

IT'S NEW - IT'S DIFFERENT - IT'S REAL

"Music From Another Planet"

FLYING SAUCERS, PROPHECY & YOU
FREE: Big Illustrated Catalog records:
3 Startling New UFO Songs, Space Visitors, Girls From Space, Russia's Doom, Mystery of James Olin, U.S. in Prophecy, Anti-Christ, Christ's Future, How the Future, ESP and the Supernatural, Wealth, Health, You, Success.
DYNAMIC LIVING PUBLICATIONS
1824 Kensington Ave., Westwood, N.J. 07712

SONG OF SATURN

SPECIAL ONLY \$3.95 FOR LIMITED TIME
BY CHECK ORDER

THE ROTATING INNER CHAMBER PROJECTS A MIRIAD OF LIGHT BEAMS AGAINST WALLS AND CEILING IN GENTLE, SOFT-RADIANT, COLORFUL, PULSATING, EVER-CHANGING PATTERNS. Uses no mechanical parts. Costs only 6¢ per month to use. Lasts indefinitely!

FOR ADULTS: Perfect for Meditation • Creates Ideal Romantic Atmosphere

FOR CHILDREN: Lets Children to Sleep • Entertains

会見の後も世界のさ
らうか。だが、彼の
にすぎなかつたのだ
すべきベテン師、甘
アダムスキーは愛
*
いた。

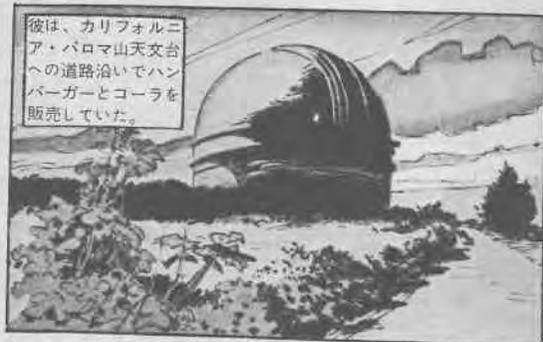
彼の哲学は、二十年
後に彼が開示した「宇
宙の兄弟」の哲学と
奇妙なほどよく似て
いた。

一九五二年十一月
二十日のあの記念す
べき出会いのとき、
ジョージ・アダムス
キーは六十一歳であ
った。彼は一九三三
年からカリフォルニ
アで暮らしていた。
その時期から、彼は
「ロイヤル・オーダ
ー・オブ・チベット」
という宗教運動を創
始して、ロングビー
チとビバリーヒルズ
のラジオ局を通じて
「宇宙法則」の講義
を行っていた。この

アダムスキー
について



彼はまた、哲学について語り合っており、弟子たちから「教授」と呼ばれていた。弟子の一人が彼に、写真機を取り付けられる小型望遠鏡をプレゼントした。こうして、世界最大の望遠鏡からすぐ近くの所で、天体を観測し望遠鏡写真を撮ることがジョージ・アダムスキーにとって魅惑的な仕事となった。



彼は、カリフォルニア・パロマ山天文台への道路沿いでハンバーガーとコーラを販売していた。



その後数年間に、彼は他にも謎の物体を撮影し、彼が「宇宙船」と名付けたこの物体について全会を開くようになった。そして、忘れられないあの1952年11月20日、この日アダムスキーは友人たちと砂漠へピクニックに出かけた。突然、葉巻型をした巨大な銀色の宇宙船が上空に音もなく出現して、彼らの頭上をゆっくりと横切っていった。



1946年10月のある夜、流星雨を観察していた彼は空に「巨大な飛行船に似た」奇妙な物体を初めて目撃した。



驚くべきものだ。

なんだろう宇宙船かな？

急いでカメラを捜してちょうだい。

ごらん、オレンジ色をしているよ。



しかし数分後に、アダムスキーは、最初のとほ違う別の宇宙船を見つけた。それは数百メートル向こうの山の峰の後ろに見えるように見えた。

アダムスキーは、奇妙な印象を感じた。この出現が偶然ではなく「何か」が起きるという直観を……彼は仲間と別れた。一方、宇宙船はゆっくりと進んで、遠ざかり、消え去ってしまった。



まざまな場所で、誠実とみなされている人たちが、有名な「金星円盤」に似た物体を目撃しているのである……。

* アダムスキーの円盤写真について、数名の専門家の考えを次ページに示した。もう一人ルッペルト大佐の意見をご紹介しよう。彼は次のように語っている。「これらの写真は本物の可能性がある。しかしまたコダックカメラを持つ十歳の子供でも簡単にでっちあげられるようなものでもある」

一九五四年、イギリスのランカシャーで、二人の小学生がアダムスキー型円盤を撮影したが、この二人の使用したカメラはまさにコダックだった。

作家のデズモンド・レスリーは二人の少年が撮影した写真を



「近づくにつれ、彼の肩までの長髪と、たとえようもなく美しい容貌に気づきました。彼の身体からは無限の理解力とやさしさが放射していました。私は別の世界から訪れた宇宙人に出会っているのだと悟りました。」



宇宙船は山に隠れて見えなくなった。すこしして1人の男が姿を現し、アダムスキーを招いた。



それから、彼はアダムスキーに、ついてくるよう手まねをした。向うの丘の斜面に「とても小さな宇宙船」が地面の少し上の空間に停止していた。半透明の金属製に見えた。



どこから来られたのですか。



その見知らぬ人は、質問が分からないようだった。そこでアダムスキーが身振りで太陽と太陽系の惑星の軌道を示すと、今度は理解したとみえて、同じく身振りで答えた。金星からだど!

アダムスキーの写真について

UFO研究家の多くは、アダムスキーの「金星円盤」の写真を本物だとは信じていない。ミシェル・カルージュは、この円盤はハンブルグの旧式ガス燈の反射鏡に似ているという。フランク・エドワーズは、この写真は1937年に製造された真空掃除器の一部だとしている。ドナルド・メンゼルは、人工卵器の模型だろうと考えている。

誰が正しいのだろうか。ここで注意すべきことは、アダムスキー事件の後にも、同じタイプの円盤を目撃したとか、また長い金髪の人物を見たという人々がいることである。



宇宙人はこの円盤が、数分前に空を横切ったもっと大きな宇宙船によって、地球の大気圏内に運ばれてきたことを理解させた。あの大きな宇宙船は、私たちの航空母艦に相当するもので、母船と呼ばれる。 (左の写真は母船から円盤が離船するところ)

アダムスキーは「何かを見て、その事実を彼の奇妙な想像力で染め上げ、自分の目撃したものについたり合うような意味を与えたのだろうか。UFO研究家のうち、コンタクティの問題を新たな視点で考えなおそうとしている人たちはこの考えをさらにおし進めている。

入手し、アダムスキーのネガフィルムと一緒に、円盤に関心を持っている技術者レナード・クランプに手渡した。クランプはそれぞれの写真について円盤の正投影図を作成し、得られた二つの正投影図が完全に一致することを認めた。言い換えると、撮影された二つの物体は、それが何であるかはともかくとして、正確に同じプロポジションだったのである。

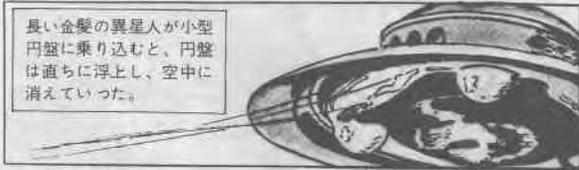


私たちに似た存在……それらの人々も私たちが死ぬのですか？



空飛ぶ円盤は、どれもが金星から来るわけではない。長い金髪の男性が明らかにしたところによると、宇宙旅行は太陽系などの他の惑星文明で普通に行われている……私たちがよく似た存在が住んでいる惑星で……

異星人は、肉体は消滅するが、精神は別の肉体の中で発達を続けるのだと教えた。そして、彼自身も、かつて地球での生活を体験したことを示した。



長い金髪の異星人が小型円盤に乗り込むと、円盤は直ちに浮上し、空中に消えていった。



ジョージ、僕たちは円盤を見たよ。君が男の人と話しているの。



会見は終りに近づいた。アダムスキーは宇宙から来た友人を撮影したいと思ったが拒絶された。宇宙人はネガホルダーを要求し、また円盤への同乗も許さなかった。別れの身振りをしたのちに……



ジョージは、奇妙な模様を持つ2つの足跡をじっと凝視した。



あれは宇宙人だったのか？



その後、アダムスキーは「空飛ぶ円盤実見記」という著書をあらわした。この本はベストセラーになり、18カ国で翻訳された。この成功に刺激され、彼は第2作を出版した。



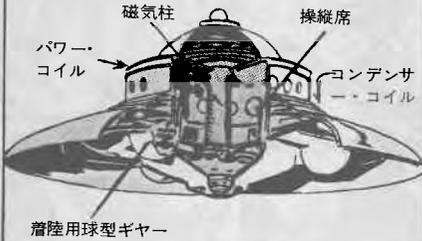
アダムスキーは1952年12月13日、金星人の円盤に再会した。円盤は彼の頭上を飛び、持ち去っていたフィルム入りホルダーを空中から返却した。以前に撮影した写真のうち1枚が消えて、謎めいた記号に変えられていた。



もし「円盤」を別の世界から来た乗物と仮定するのなら、まったく同じようにその乗組員が目撃者に暗示を与える手段を持っていると仮定することもできる：権謀術数にたけた地球外生物が、犠牲者たちの心に想像上の会話やねつ造した記

イギリスの「フライング・ソーサー・レビュー」誌編集長チャールズ・ボウエンは、アダムスキーの話が、多くの専門家が真面目に受けとっている、小人の目撃事件ほどバカげてはいないと語っている。ボウエンは、アダムスキー・タイプの話は無視すべきではなく、他の事件と同様に研究を行うべきだという意見である。ボウエンはまた、人を不安にさせる次のような仮説を述べている。

アダムスキーが宇宙旅行のときに同乗した空飛ぶ円盤の断面図（磁力エネルギーで飛ぶ）



1953年2月のある晩、アダムスキーは、火星人ファーコン、土星人ラミューの2人と知り合った。彼らと共に、アダムスキーは友人の金星人オーソンに再会した。そして空飛ぶ円盤での旅行に招待されたのである。

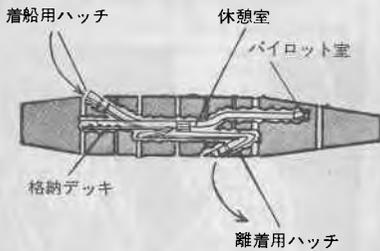


興味をそそる描写：宇宙旅行の途中で、アダムスキーは奇妙な現象を目撃している。無数の発光する粒子が宇宙船の周囲を「何十億ものホテルのように飛びまわっていた」1961年にグレン大佐も、マーキュリー号のカプセルから同じような現象を観察している。「ホテルの雲の中を進んでいるみたいだ……」

アダムスキーは、ガガーリンより8年も早く、重力を脱して高空から感動的なスベクタクルを眺めた。



オーソンとアダムスキーの円盤が着陸した母船の断面図



アダムスキーの旅行は、終着点に達した。偵察円盤の船体を収容する巨大な母船に着いたのである。



アダムスキーは、椅子と1杯の清純な水をすすめられた。彼はなにげなくタバコを取り出した。

「お吸いになりたいのならかまいませんが、でも、こんな奇妙な習慣にふけているのは地球人だけです。」



円盤から降りたアダムスキーは、信じられないほど美しい2人の「スペースウーマン」の歓迎をうけた。その婦人の1人が、この地球から来た大使にやさしく接吻した。



憶を投影できたのではないか。あるいは目撃者たちに、彼らが無意識のうちに望んでいたイメージを伝えただけかもしれない。あるいはまた自分の心の奥に秘めている傾向に依りてそれぞれの目撃者が画一的で「機械的」な暗示をいろいろに解釈したのかもしれない。そこであるものは聖書に出てくるような、おごそかで賢明な、好意的存在となり、別のものはそれぞれの目撃者の幻覚により、恐ろしそうな小人やグロテスクな状況になるのではなからうか……だが、このように仮定した地球外生物は、いったいどんな理由でこのような振舞いをするのだろうか。それはあきらかに混乱をもたらさず「仲たがいをひきおこす」ためである。脳

私の惑星や他のいくつかの惑星の人々は、あなたがたには想像もつかないほど、知的に社会的に発達しています。この発達には「至上の英知」の法則に従うことによるものなのです。



しばらくしてアダムスキーは、「マスター」と呼ばれる人物と会見した。マスターはテレパシーで語りかけ、ほとんどの言葉を使った。

友よ、あなたをここに招いたのは、現在地球人を脅かしている重大な脅威を避けられるようにするためなのです。



私たちが広めたいと思っている教えを受け入れるが、それともこの呼びかけを無視して、同胞同士で殺し合っ



しかし、まず平和で友好的な生活を学ばねばなりません。地球人は次の選択をしなければならないのです。



生命と宇宙に関する地球人の理解力は貧弱です。でも他の世界の人々は、基本的に地球人と同じで人生の目的はどこでも何か偉大なものへと到達することです。私たちは地球人に、私たちの知識と力を分けてあげたいのです。



地球に戻った新たな予言者アダムスキーは、アメリカ、ヨーロッパなどを巡って、宇宙平和のメッセージを説いてまわった。一部の喝采や非難を浴びるなかで、ゆるぎない信念をもって……



まだ遅くはない。だが友よ、これは急ぐのです。この希望のメッセージを伝えて他の人々の声に、あなたの声を合流させなさい



原爆の放射線は、地球の大地を不毛にし、水と空気を汚染して後の世代の生命を危険にさらすのです。あのような戦争は地球を破壊し、銀河系全体の均衡を破壊する恐れがあるのです。



1965年4月22日に、彼は私たちの世界を、今度は決定的に去ってしまった。だが、彼の伝説は減じない……彼はいまアリントン墓地に、ジョン・F・ケネディなどのアメリカの偉人たちとともに安らかに眠っている。



これがベテン師、夢想家、インチキ予言者といわれるジョージ・アダムスキーの物語である。だが、君が考えるように、あるいはひょっとして、彼は本当に「何か」を見たのかも知れない……ともかく彼の神秘的な想像力は今も残って影響を与えている……

イメージと矛盾を植えて、その問題について関心を失わせる最もすぐれた方法ではなからうか。こうして、正体不明の存在は、不安をもたらすことなく、この地球で謎の任務を遂行できるようにしているのでは……。「誰か」あるいは「何か」が、なによりもまずUFO現象の信用を失わせるために、アダムスキーの行為をあやつったのかもしれない。真相は誰にも分からない。

総合カタログ

ここに紹介できない小物パーツや製品を満載した(総合カタログ)を切手130円同封の上、エレクトロセンター-UFO23号係へご請求ください。

ご来店もどうぞ

JE-ツコーナー

ビス1本 からシャーシ・工具に **純正部品** を豊富に取揃え、便利な概算注文方式をいたるまで、あらゆる **抵抗1本** でもご注文採用しております。価格や送料がはっきりわからない時は、雑誌やエレクトロセンターのカタログを参考にし、大体の金額をお送り下さい。差額は品物発送時に精算します

ご注文は

★雑誌やカタログを参考にして必要なパーツをお好きな数だけご注文下さい。★送料のこまかな点までおわかりにならないときは、おおよその計算でご送金下さい。発送のときご精算申し上げます。★ご注文には必ず〇月号〇ページのパーツとご指定下さい。

★君の腕前を友達に自慢できる自作スタイル=工作は簡単

全機種発売 エレクトロサーキット

エレクトロサーキット(回路)は必要なパーツを全部取揃え実体組立回路図付きで組立ては簡単。

2石VHF超再生受信機
FM放送もアマチュア無線も受信できる!!
初心者でも簡単に作れます。
★受信周波数40~60MHz・70~100MHz パーツ式
¥1,800(送料共)



2石・超短波帯コンバータ
144MHz帯のアマチュアバンド受信可
本機の出力をFMラジオのアンテナクリップするだけで140~200MHzがキャッチできます。超短波帯には重要な極秘通信もありますので受信には注意して下さい。
パーツ式 ¥1,900(送料共)



5石アメント・サイレン
アメリカン・パトロール・サイレンをソックリスピーカーから抵抗・コンデンサーまで全部そろっているので半田ごて一本で組立OK。
出力100mW、SP.10cm。
部品一式 ¥2,350(送料共)



2石ビクリ・サイレン
ブロッキング発振回路と増巾回路の組合せで、本物そっくりのウーウーと鳴るサイレンです。風呂ブザーやモールの練習器のブザーとしても使えます。
パーツ式 ¥2,480(送料共)



電子ビクリ箱
9V(006P)電池をトランジスタで発振させトランスで100V以上の電圧が得られるようにしたものです。電流は15mA位ですので危険はありませんが、使い方はテキストをよく読んで注意して下さい。寸法:90×65×25%
¥1,100(送料共)



3石電子小鳥
トランジスタ2石のマルチ・バイブレーター回路、1石のブロッキング発振回路を組合せて、本物そっくりの小鳥の音が数秒づつ鳴いたり、鳴きやんだりします。窓辺にいかがですか。
パーツ式 ¥1,980(送料共)



超小型高性能 FM3石ワイヤレスマイク・WL-303

高性能コンデンサーマイク使用。盗聴器としても最適。手のひらに入る大きさで到達距離もぐーんと伸びました。76~90MHz到達距離約200m、電池単5 1本(連続36時間可)、寸法48×18×26%
キット¥1,100(送料共)
完成品¥1,150(送料共)



モールス通信機キット
モールス発信機と送信用の2部からできており、モールスの通信や練習ができます。ブザーの音をランプの光にかえることもできます。
¥2,000(送料共)



エレクトロサーキットのニューフェイス4入力ミキサー1台のアンプでボーカルとエレキギター2台と司会用のマイクを購らしたい時、カセット・テープにレコードとナレーションを入れたい時などに便利な4つの入力があるミキサーです。サイズ195×112×61%
部品一式 ¥3,000(送料共)



金属探知機キット
虫ピンや針のような小物まで探知できるポケット型金属探知機。メータを使用した高級品(実用)です。宝探しに、凶器発見器としても最適。
¥3,500(送料共)



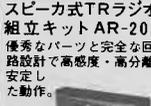
光線スイッチキット
基板は、ハンダ配線済。光を受光面に当てたり、又は当たっている光を遮ったりすると(両用の切換スイッチ付)自動的に電気のスイッチがONしたりOFFになったりする光制御の光線リレーキット。
¥3,000(送料共)



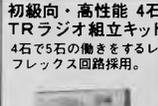
高感度 1石TRラジオIT-50
高感度回路がコンパクトにまとめたミニタイプ(イヤホン付)
¥1,080(送料共)



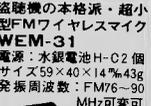
スピーカ式TRラジオ組立キットAR-205
優秀なパーツと完全な回路設計で高感度・高分離安定した動作。
¥1,600(送料共)



初級向・高性能 4石TRラジオ組立キット
4石で5石の働きをするフレックス回路採用。
¥1,750(送料共)



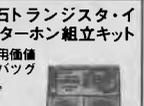
盗聴機の本格派・超小型FM7石ワイヤレスマイクWEM-31
電源:水銀電池H-02個
サイズ59×40×14%
43g
発振周波数:F:FM76~90MHz可変可
完成品 ¥3,100



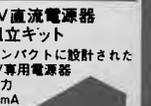
8石TRラジオ組立キットSP-8000
回路図通り組立てられる。
¥2,700(送料共)



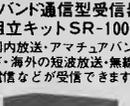
3石トランジスタ・イオンホン組立キット
実用価値もバツグン。
¥2,100(送料共)



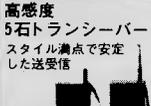
9V直流電源器組立キット
コンパクトに設計された9V専用電源器 出力50mA
¥1,450(送料共)



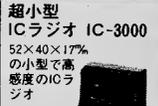
2バンド通信型受信器組立キットSR-100K
国内放送・アマチュアバンド・海外の短波放送・無線電信などが受信できます。
完成品 2台組
¥8,800(送料共)



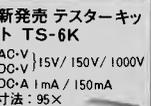
高感度 5石トランシーバー
スタイル満点で安定した受信
完成品
¥3,450(送料共)



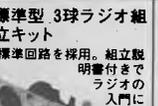
超小型 ICラジオ IC-3000
52×40×17%
の小型で高感度のICラジオ
¥1,450(送料共)



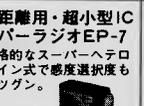
新発売 テスターキット TS-6K
AC-V 15V/150V/1000V
DC-A 1mA/150mA
寸法:95×60×28%
¥2,650(送料共)



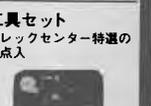
標準型 3球ラジオ組立キット
標準回路を採用。組立説明書付きでラジオの入門に最適。
¥6,200(送料共)



遠距離用・超小型ICスーパーラジオEP-7
本格的なスーパーヘテロダイン式で感度選択度もバツグン。
¥2,500(送料共)



工具セット
エレクトロセンター特選の11点入
¥4,300(送料共)



修理・調整

当社でお買上げの製品は、組立でも簡単ですが、もしうまくできないときには、修理票を付けて修理・調整もいたします。

★ご注文に際し、ご来店いただけない方は、現金書留が振替で右記へご送金下さい。また小額のご注文は郵便局で小為替を組んで受取人を指定し、普通便で送ると料金も安く早く着きます。着金次第、完全梱包で品質保証の現品を発送します。

品質保証の専門メーカー品を売る専門店

エレクトロ

〒166 東京都杉並区高円寺北2の1の21
☎03(339)5839-4215 振替 / 東京5-14056



日曜・祭日休み、月~土PM6:00まで

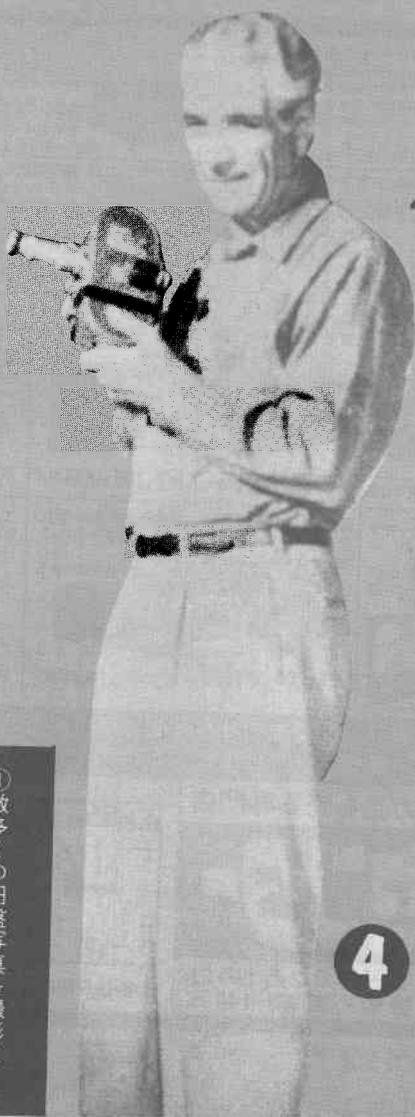
●お急ぎでないご注文は振替をご利用になると安く送金できます。



1

アダムスキー 在りし日

UFOとともに生きた人間の素顔



5

4



2



3

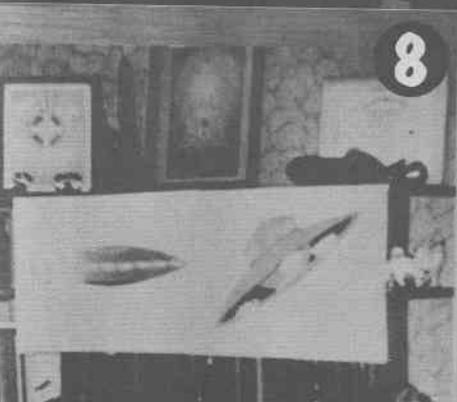
- ① 数多くの円盤写真を撮影した6インチ反射望遠鏡。
- ② 濠州講演旅行中のスナック。
- ③ 欧州講演旅行の夕食会。
- ④ 16ミリの撮影もしている。
- ⑤ 濠州の新聞も氏を掲載した。



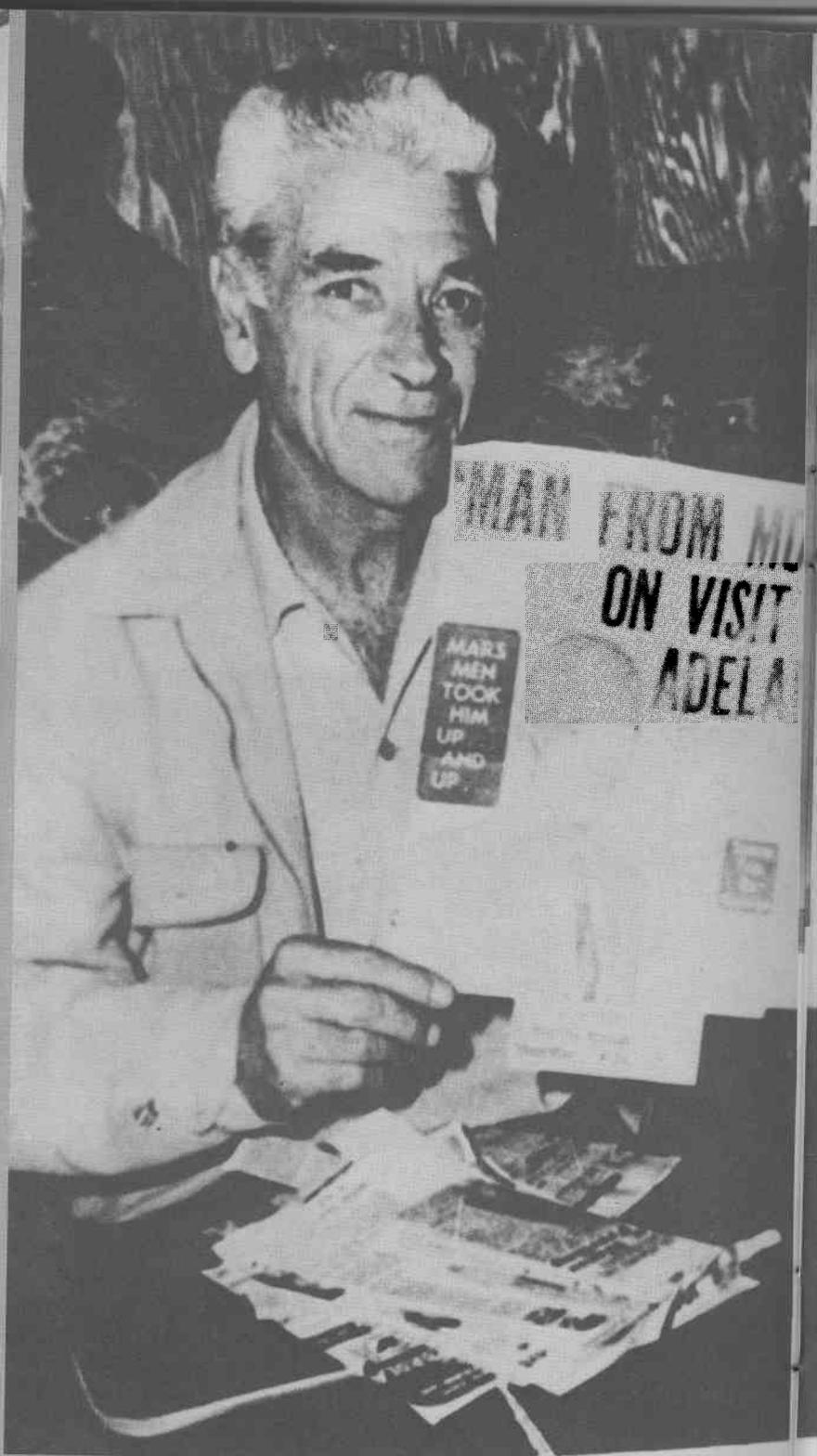
6



7



8



9

⑥アマチュア天文学者でもあった。15インチ反射望遠鏡を操作。
⑦米コダック社を訪れて。
⑧パロマーにいた頃。
⑨晩年のアダムスキーは円盤研究に打ち込んだ。



△金星の大母船1 1951年3月5日、6インチ反射望遠鏡を使用して連続撮影。



△金星の大母船2 母船から2機の円盤が飛び出す。



△金星の大母船3 5機の円盤が飛び出す。

アダムスキーの

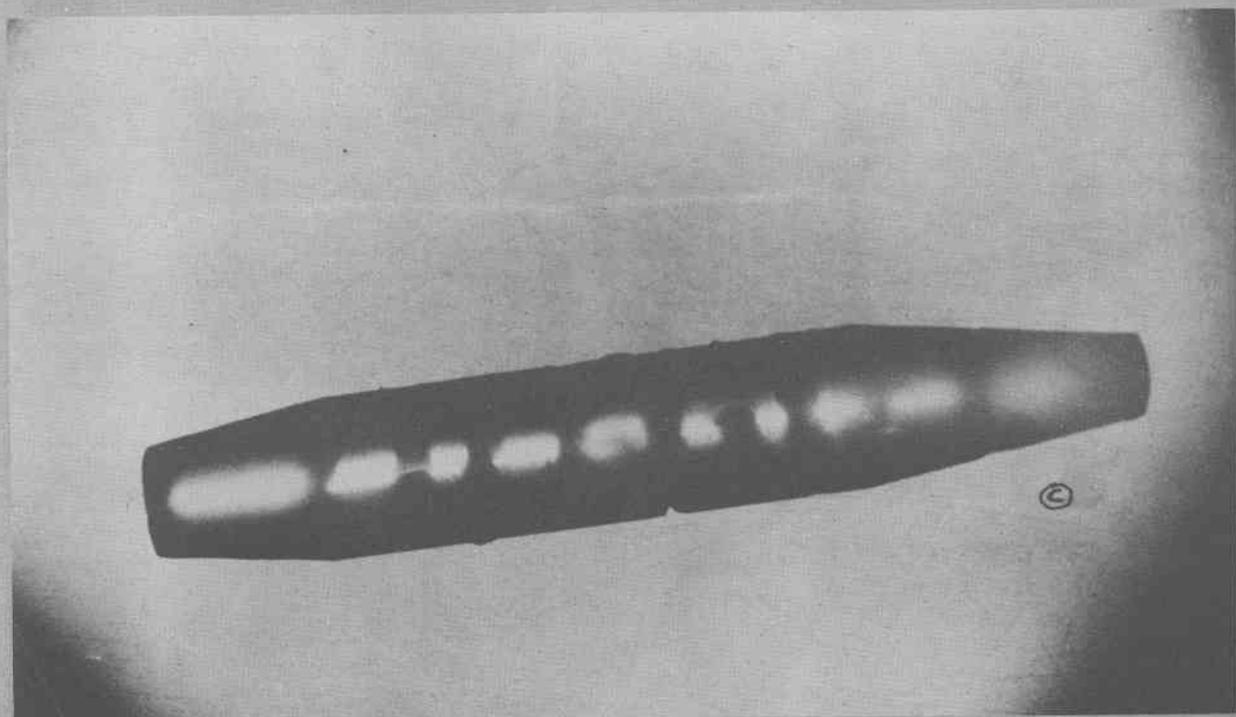
撮ったUFO

フレームのなかに

彼は何を見たか？

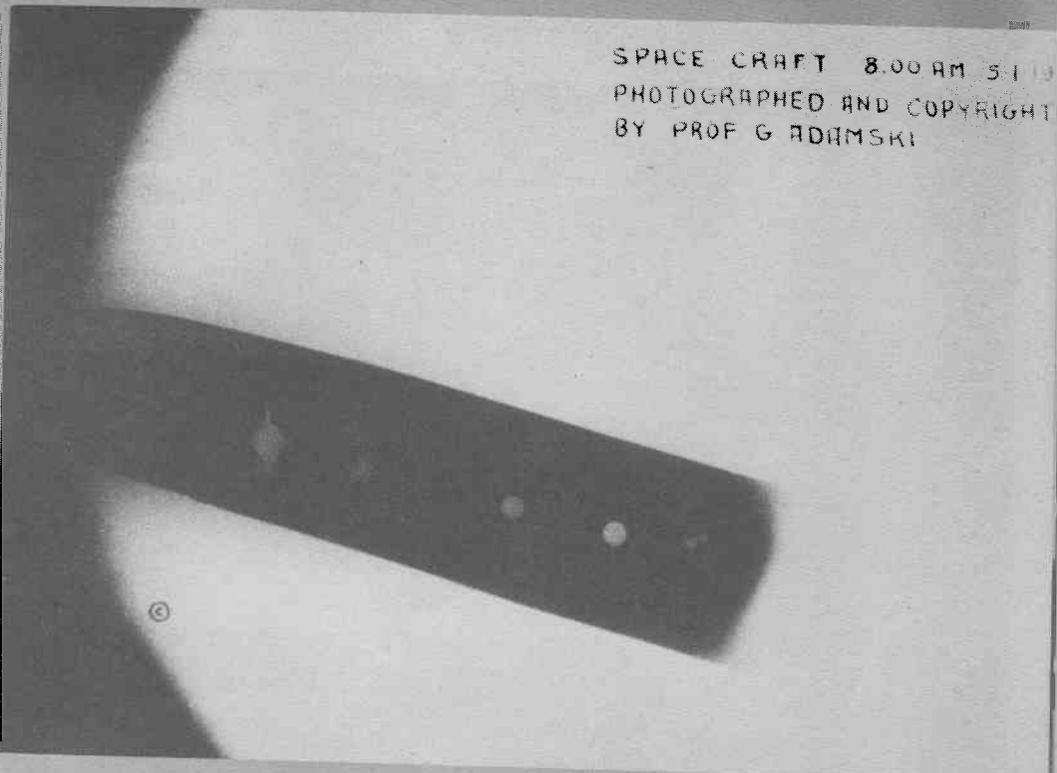


△潜水艇型母船 1951年3月9日午前9時、反射望遠鏡を使用して撮影。この母船は主に水中で活動する。

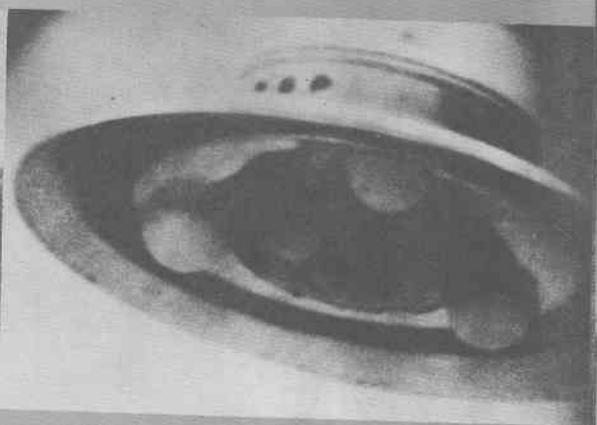


△金星の大母船 1952年5月1日午前7時58分に撮影。四隅の黒い部分は望遠鏡の影。

▷ 1952年5月1日に撮影した母船。胴体に丸窓が見える。左側の影は望遠鏡の筒。

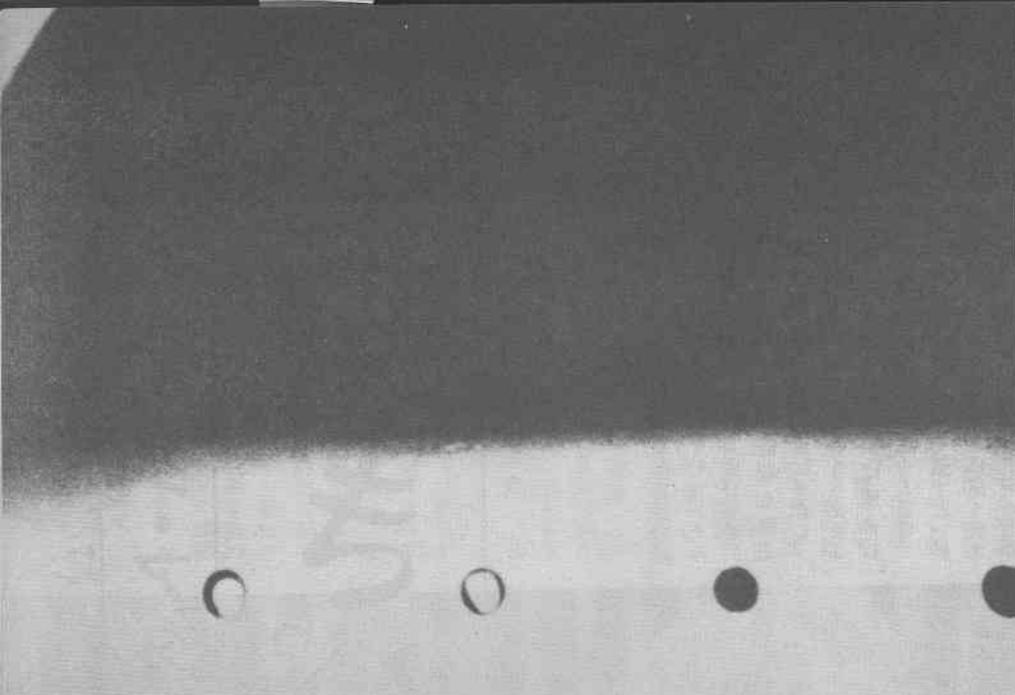


SPACE CRAFT 8.00 AM 5.1.52
PHOTOGRAPHED AND COPYRIGHT
BY PROF G ADAMSKI

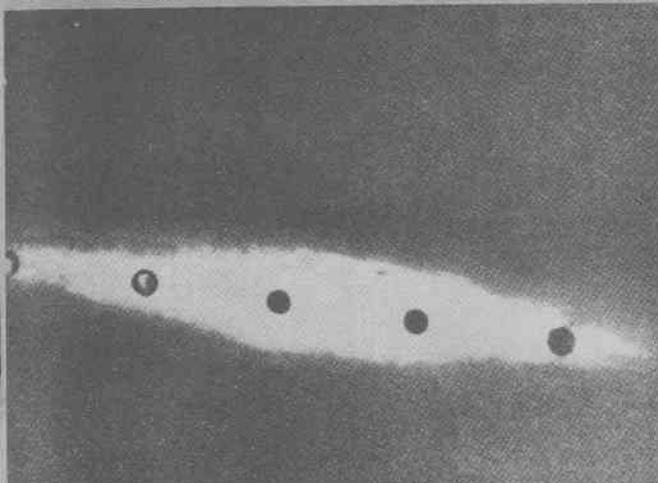


△金星の円盤1 1952年12月13日午前9時10分頃、パロマー・ガーデンズに飛来してネガ・ホルダーを落とした円盤を連続撮影。
◁金星の円盤2 上の円盤と同一物体。球型着陸ギヤがはっきり見える。

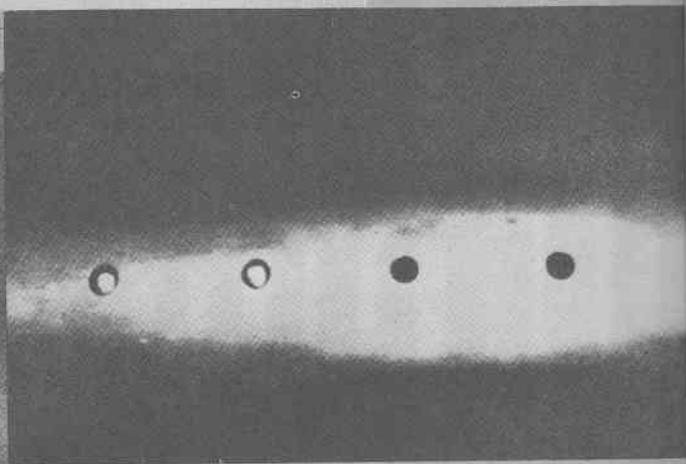
◁宇宙人が撮影した母船1 1955年4月25日、アダムスキーからパラロイド・カメラを渡された宇宙人が、母船の丸窓から外を眺めるアダムスキーと金星人オーソンを円盤から連続撮影。左上方の白い部分は円盤の窓枠。



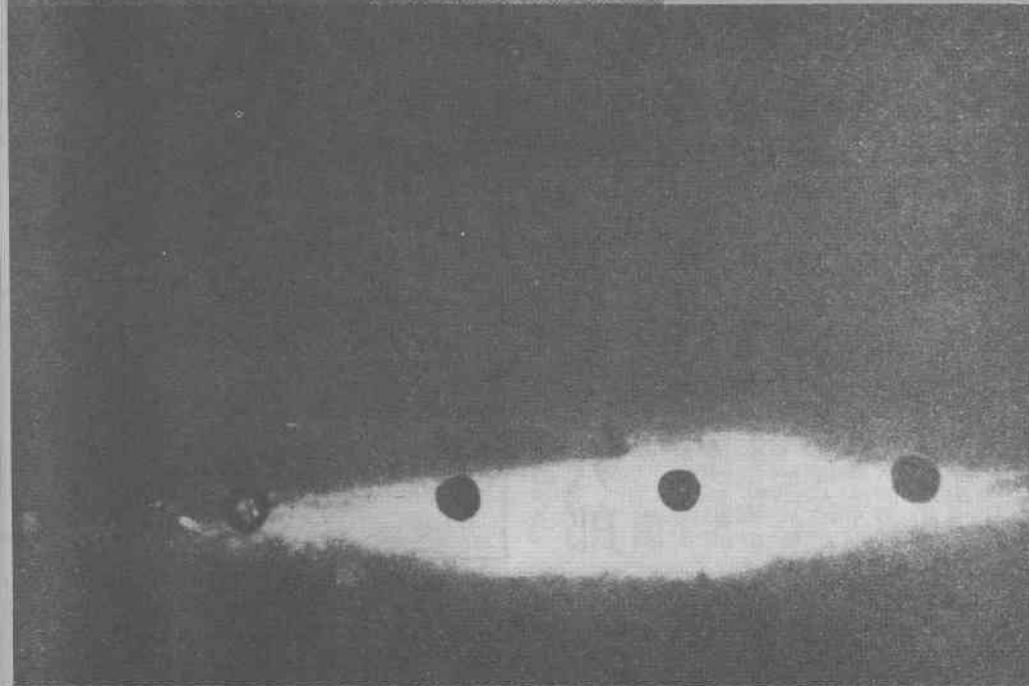
▽宇宙人が撮影した母船3 明るい部分は円盤から放射された光。



△宇宙人が撮影した母船2 左がオーソン。右がアダムスキー。



◁宇宙人が撮影した母船4



ジョージ・アダムスキーの世界を求めて

あ お
碧きパロマーの空

ジョージ・アダムスキー！

この人ほど世界のUFO研究界で話題的になった人物は他にいないだろう。絶賛と罵倒、あらゆる毀誉褒貶の渦巻く中を彼は宇宙人來訪説を唱えて、宇宙的哲学の啓蒙活動に専念し、UFO研究者に大きな影響を与えたことは確かである。信・不信は別として、UFO問題に関心をもつ人なら、一度は必ず彼の著書に目を通すといわれるほどで、現在も英国では広く読まれており、昨秋筆者がロンドンの世界最大の書店「フォイル」をのぞいたときは、UFOコーナーに彼の第一著たる「Flying Saucers Have Landed」(空飛ぶ円盤は着陸した)のハードカバー版が十数冊並んでいた。店員氏に聞くと、アダムスキーの書物だけは絶える



久保田八郎

ことはあるまいという。しかし一昨秋、ニューヨークの書店めぐりを行ったときは、アダムスキー関係の著書が全く見当たらなかったことから察すると、国情の相違というのか、なにかの圧力があるのか、とにかく米国人にとってアダムスキー問題が忘却の彼方に押しやられるような方向に動いていることは否定できなかった。肝心の書物がなければ一般人は内容など知るべくもないのだ。

本家本元の米国は一体に政府・空軍等によるUFO問題の否定的態度が強く、加うるに民間研究グループの激烈な対立があったりして、必ずしもUFO研究が順調に高度な発達を上げているとは言いきれない。各国といえども同様である。それほどにUFO問題は

依然として神秘と謎に包まれているのだとも言えるだろう。

超能力者であった

アダムスキー

さて、大抵のコンタクトイヤー（宇宙人とコンタクトしたと称する人）がそうであるように、アダムスキーにも多くの噂やデマがつきまとった。正規の学歴がなかったことから、「無学者」という烙印を押されたことが、彼の活動にとつて最大のマイナスになったことは否定できない。しかし、ポーランド王子を父とし、エジプト王女を母とした彼は名門の出身であった、という事実はほとんど知られていない。だが時代の波に抗しかねた没落貴族であり、幼児の頃、両親と共に米国へ移住してからはひどい苦しみをなめた家族である。食ってゆくのが精一杯で、到底学校どころではなかったらしい。こ

こまでは世間によくある話で、異とするに足りないが、一般の子供に比べて一つだけ重要な相違点があった。生来、超能力の持ち主だったのである。特にオーラが見えたり、遠隔透視が可能であったりしたことから、一種のウルトラ・ボーイであったと、多年彼の秘書をつとめたアリス・ウェルズが筆者に語ってくれたのは、一昨春秋、カリフォルニア州ビスタのジョージ・アダムスキー財団を調査で訪れたときの

ことである。ここがいわゆる世界GAP本部であり、アリス・ウェルズ、マーサ・ウルリッチ、フレッドとイングリッド・ステックリング夫妻、ステイヴ・ホワイティングらが亡きアダムスキーの遺志を継いで、アダムスキー問題の促進活動を続けているのである。

チベットへ留学した

フレッドの説明によると、アダムスキーは博覧強記の典型的な人物で、社会象万般に通じ、およそ知らないことはないほどの知性人だったという。「彼は普通人のように見えましたが、たいそう高貴な人でした。彼の唯一の動機は人々を助けることで、そういうタイプの人でした」と、フレッドは熱をこめて語っている。

たしかにアダムスキーは青春時代から一種の宇宙的哲学を唱えて、人間救済活動を行っていた。一時はそのグルーブ名をロイヤル・オーダー・オヴ・チベットと称していたために、彼の哲学はチベットの秘教の焼直しだと攻撃されたことがあった。だが実際は焼直しどころか、アダムスキー自身が本場のチベットへ留学しているのである。「彼の父はカトリック教徒で、母親はエジプト人でした。母親は彼をカトリック教会で教育を受けさせたかったのですが、彼はウルトラ・ボーイでした

から、ある年齢まで待つて、それから東洋の哲学を研究させよう」としまった。そこで準備がなされて、彼は約四年間ラサ（チベットの首都）にいました。そこへ行ったのは十四歳ぐらいだったと思います。もつと年少だったかもしれません」

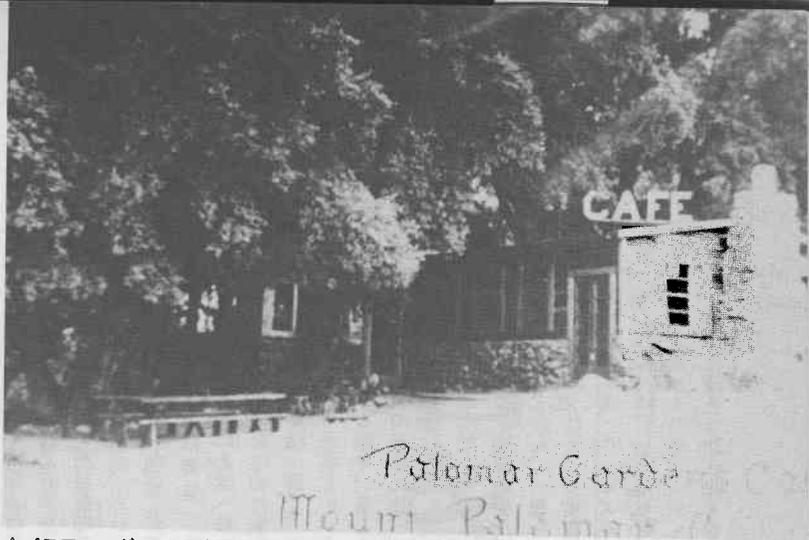
淡々と話すアリスの言葉は筆者には初耳で、意外であった。ポタラの宮殿で一種の修道士としてチベットの秘教や哲学を学んだという。古来、チベットは靈性・超能力開発のメッカとされて、各国から多数の宗教家が入り込んでいるが、これをアダムスキーはどうして知ったのか。まだ十歳代の年少者が、なぜ単身で遠いチベットまで修行に行く意欲を起したのか。一説によると、この頃からすでにスペース・ブラザー（友好的な異星人）がひそかに指導していたというが、詳細は不明である。

つきまとう多くのデマ

UFO問題に専念するようになるまで、アダムスキーは主として米西部を本拠地として多数の苦悩する人を救済する活動を行っていた。それは主として医師から見離されたような難病の患者を奇跡的に治す仕事であったらしい。たとえば手術により胃の大部分を切り取った少女に、手を当てて念じる

だけで元通りに胃を「生やさせたり」したこともある。宇宙的な哲学が主軸になっていて、これはいかなる宗教の教義とも異なる独特な思想であった。こうなると、いかがわしいオカルティストを連想しがちだが、一方で彼は天文学にも深い造詣を有して、パロマー・ガーデンズという山奥にグループを率いて住んでいた頃は、ドーム付きの十五インチ反射望遠鏡と携帯用の六インチ反射望遠鏡を使用して、天体観測を続けていた。この六インチ鏡は弟子であった一婦人から贈られたもので、この女性というのはカリフォルニア工科大学のジョーゼフ・ジョンソン博士のお母さんであつて、その関係からアダムスキーはジョンソン博士と親交があった。その博士がパロマー天文台勤務になったときに、アダムスキーに天文台付近の台地へ住まないかと誘ったのである。グループはそれまでラグナビーチにいた。ラグナでアダムスキーはしばしばラジオを通じて講演を行っているがまだUFOについては知っているはずである。

パロマー山中のパロマー・ガーデンズへ移動しても生活資金を確保する必要があった。そこで弟子のアリス・ウェルズが天文台見学者達のためのドライブイン食堂を経営した。これが有名なウェルズ食堂であつて、旅行専門誌ホリデイ誌にも立派な店として大きく紹介されたことがある。したがって当



△パロマー・ガーデンズのウェルズ食堂。現在は無い。

時この店に立ち寄った人は、アダムスキーがこの店と直接関係はないことを知っているはずだが、彼がこの店でコックをやっていたとか、ハンバーグを売る商売だったとか、ひどいものになると、この店の屋根の上に望遠鏡をすえつけていたのだ、さまざまなデマがとんだことがあった。今でもそのようなデマを信じている人が多い。デマこそ、どのようにならでもつちあげられるものだが、本人が耐え抜くのは困難であらう。

▽マーサ・ウルリッチ



▽フレッド・ステックリング



▽イングリッド・ステックリング



▽ステイヴ・ホワイトリング



人間の心は信用できない

このパロマー・ガーデンズに居住していた当時、一九四六年十月九日の流星雨の最中に、上空に巨大な宇宙船が浮かんでいるのを目撃したのが、人生の劇的な転機となったことは、彼の著書『宇宙からの訪問者（ユニバース出版社）』第一部に詳述してあるからここでは省略しよう。

よく問題になるのは、アダムスキー撮影の円盤写真の真偽である。輪郭が鮮明すぎるためにインチキだと見る向きが多いようだが、一九五二年十二月十三日午前九時十分頃に、パロマー・ガーデンズへ超低空で飛来してネガホルダーを投下したという円盤を目撃したのは、アダムスキーだけではなく、グループの数名の人もそばで一緒に見ていたということ、ホルダーを投下した円盤は、窓から手を出して振ったあと、ゆっくりと谷の方へ進行し、ベーカー退役軍曹の家の真上を超低空で

かすめ飛んで、向かい側の山の頂上越しに消えて行ったのである。この谷が原書では「valley」となっていたので、深い峡谷なのかと思っていたらそうではなく、パロマー・ガーデンズ側の台地と、円盤が飛び越えた山との間は広い平地であった。山と山との間を広義に「valley」というのらしい。重要な目撃証人であるベーカー軍曹はすでにどこかへ移住したのか、世を去ったのかは聞き渡らしたが、その廃屋は今も残っていた。フレッドの説明によると、ネガホルダーを投下した円盤を数名の人が驚異の目をもって目撃したことは決定的な事実であるという。そのときアダムスキー以外に、だれがいたのかについては、知ってか知らずかフレッドは語らなかつた。一体にアダムスキーの体験記類では、日時、場所、目撃証人の氏名等がかなりボカされている場合が多い。これが彼の話の信憑性をいぢるしく低下させる要因となっている。しかし、実はこれこそ「人間のマインド（心）は信用できない」という法則に基づいた深慮であったのであ

る。重大な秘密を保たねばならぬ場合、関係者の氏名を公表すれば、本人が危険にさらされたり、脅迫されて、ついに告白することは充分に考えられることである。あとがどうなるかは想像に難くない。つまり、関係者の安全を考慮した上での処理法だったというのだ。

米国は自由の国だが、反面、恐るべき国であるともいえる。大統領の暗殺を平気でやる暗黒勢力が存在して、化石燃料を使用しない電磁的な特殊な推進機関を持つ画期的な宇宙船の来訪や、その面にそつた技術開発の必要を説いたアダムスキーの生命を彼らが狙ったことは考えられるし、事実、彼はずいぶん妨害を受けていたのである。ましてや広大な国土を自らの手で開拓した米国民は自己防衛の観念が徹底しており、イザヤ・ベンダサンではないが、「安全」と「水」はタダで手に入ると思っている日本人には、護身用ピストルをハンドバッグにしのばせて歩く米婦人の気持など想像もできないであらう。アダムスキーも暗黒勢力（これ

を彼はサイレンス・グループと呼んでいる。の手により二度も拳銃で撃たれたが、その都度、スペース・ブラザーの援助により、助かったという。こうなると、少々童話めいてくるので、反論も起こるだろうが、およそ、ありそうもない事柄が真実であったこととは史上種々の例でみられることである。しかし、世にはいかがわしい捏造事件も存在するであろうから、真偽の判断には極力慎重を期する必要があるけれども、アダムスキーを問わず、ことコンタクト・ストリーになると看破するのはきわめて困難である。ある程度は心証に頼らざるを得なくなるのも仕方がない。

恐るべき暗黒勢力の妨害

暗殺された大統領がアダムスキーを有力なブレインにしていたという情報も一般にほとんど知られていない。一説によれば、この大統領はアダムスキーを介して宇宙人に接近しようとしたために、これに反対する何者かによって殺されたというが、真偽のほどは不明である。しかし米社会の背後にひそむ暗黒勢力の謀略と工作によって、アダムスキーも消されようとしたことは疑いない。こうした恐るべき背景を知ることなしに、アダムスキーはベテニ師だったと騒ぎたてる一部のUFO研

究家もつと目を開くべきだろう。これは、アダムスキーを偉人だと讃える意味での論断ではない。偉人は他にも

沢山いる。要はUFOという神秘のベールに包まれた捉えがたい物に付随して地上で発生する、ある実態を推測し

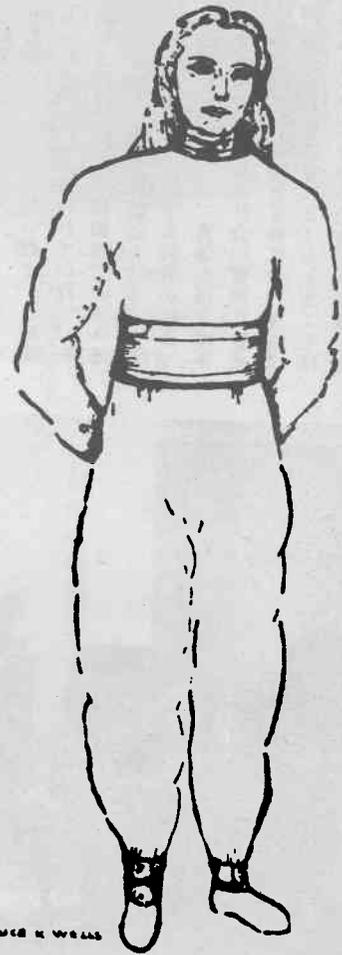


△カリフォルニア州ビスタの世界GAP本部で語るアリス・ウェルズ（右）と筆者。

てかかる必要があるのである。UFO写真だけを並べて主観的に真偽を判断することは小学生でもできる。UFO問題の探求は、そんな生やさしいものではない。

米空軍は知っていた？

一九五二年十一月二十日、カリフォルニアの砂漠のデザートセンターから一・七キロほどアリゾナ州バーカー寄りの地点で、アダムスキーと六名の同行者は、上空に巨大な母船が出現するのを目撃したあと、約千メートル離れた小高い丘のむこうに円盤が着陸して、そこから乗員が一人出てきたのを全員が目撃した。このときアダムスキーは自分だけで接近して、テレビシューや身振りなどで会話を交わしたというが、実は大母船が出現した頃から上空にたびたび低空で飛来した米空軍機が、このコンタクトの光景を撮影し、その写真が米空軍のトップ・シークレット（極秘）資料として保管されているという情報があるのである。しかもそれに対して米空軍は肯定も否定もしていないのだ。この情報が真実であったにしても、米空軍が公開するとは夢想だにできないが、当時の模様についていずれ別方面から有力な情報は得られるだろう。というのは、コンタクトの最中に遠くから双眼鏡で「金星人」



△アリス・ウェルズがスケッチした金星人。

らスケッチしたので
すね？

「そう、スケッチし
ました。それがあの
本に（アダムスキー
の体験記に）載った
のよ」

——そのオリジナ
ルの絵を持っていま
すか。

「ええ、持っていま
す」

——ほう、見たい

もんですね。

「あとで見せましょう。今は、しまっ
てあるわ。事務室にあるの。そこには

あの油絵もありますわ（オーソンの肖
像画のことらしい）。あれはゲイ・ベ
ッツが描いたものです。ゲイ・ベツ

がアダムスキーの説明と私のスケッチ
をもとにして等身大の油絵を描いたも
ので、アダムスキーによると、あの絵

は八十五パーセント正しいということ
です。実際は髪がもう少しブロンド

（金髪）で、もう少し長かったそうだ
けど、ほかの点ではとてもよく描けて

いるということですよ」

彼女によると、砂漠で双眼鏡を使用
しながらその場でスケッチしたのでは
なく、帰宅してから、あらためて記憶

をたどりながら描いたという。それを
もとに、インディアン風の俗を描く画

家だったゲイが更に油絵に仕上げたの

である。

この「オーソン肖像画」というのが
アダムスキー・グループの一種の「目
玉」になっていて、これにより、信ず
る人に金星人なるもののイメージを与
えようとしているようだが、宗教的な
礼拝の対象物にしているわけではな
い。入口のドアの横の壁に無造作に
掛けてあるその絵は、あちこち黒黒
くすすけているので、聞いてみると、
あるときボヤがあつて、その煙で損傷
を受けたという。何の根拠もなしに、
でっちあげによって描かれた絵であ
るとするならば、こうまで多年大切に保
存して、参観者に見せている真意は奈
辺にあるのだろうか。

この他にもおびただしい数のアダム
スキー関係の資料や遺品が大切に保存
されており、ぼう大な写真類を収めた
アルバムなども保管してあるらしい。
アダムスキーが使用した寝室は生前の
ままに残してあり、巨大なベッドは主
人の帰りを待っているかのようだ。ア
リスの話によると、いずれはこの家を
アダムスキー記念館か博物館にするつ
もりらしい。筆者が見た資料類はその
うちの一部分にすぎないようだ。

バチカン宮殿事件の真相

長時間の談話の合間に見せてくれた
重要な遺品が二つほどあった。一つは

を観察してスケッチした秘書のアリス

・ウェルズが、この一九五二年十一月
二十日の「大事件」に関して、まだ知
られていない秘話を収録した手記を出
版する準備をすすめているからであ
る。目下ニューヨークのある出版社と
交渉中で、とにかくこれが出れば、ア
ダムスキーの体験記で洩らされなかつ
た詳細な驚くべき事実が新たに判明す
るものと思われる。

アリス・ウェルズの証言

砂漠の模様について筆者とアリスと
が交わした問答は次のとおりである。
日時は一九七五年十月三十一日、場所
はビスタのアダムスキー財団の大広間
で、直接に英語で話し合った会話は全
部テープに録音して筆者の手許に保存

してある。

——あなたは砂漠でオーソン（金星
人）を見たのですか？

「そう、遠くから双眼鏡で見ました。
砂の中に残された足跡も見えました。

砂は小さな花崗岩でした。あの本の中
に載っている足跡です」

アリスは淡々と、しかも楽しそうに
記憶をたどりながら話す。でつちあげ

を如何にして巧みに保とうかという様
子はみじんもなく、むしろ、なつかし

い過去の追憶にふけっているかのよう
だ。

アダムスキーのもう一人の秘書だつ
たマーサ・ウルリッヒは奥のソファに
座って身動きもせずに、我々の会話に
耳を傾けており、ときどき大きな声で
合の手を入れたりする。

——あなたは六人の目撃者の一人な
のでしょうか？　そして双眼鏡で見なが



△ルウ・チンシュターク女史(右)と筆者。

一九六三年五月三十一日、ローマのパチカン宮殿でアダムスキーがヨハネ二十三世と極秘裏に会見したときに授与

されたという黄金のメダルである。正式には記念コインであって、これは銀行で公開・使用される前に入手したものである。銀行が公開するまでは民間人には絶対に手に入るはずのないものを、なぜアダムスキーは入手したのか。これについて巷間伝えられる話の「真相」を、昨年九月二十四日、筆者が渡欧した際にジュネーヴで女流 UFO 研究者として名高いルウ・チンシュターク女史から聞いたので、以下、紹介しよう。場所はジュネーヴの町はずれにあるフランス料理店「パトール・イール(ランボオの詩からとったものらしい)」で、同席者はアダムスキー研究者ロジェール・ピリンジャック氏、それにルウと筆者の計三名で、このときの英語による証言もテープに録音してある。

——パチカン事件について、あなた

が知る限りのことを話してくださいませんか。あなたはパチカン宮殿へアダムスキーと一緒にいったんでしょう？

「私は(パチカンの)サンビエトロ寺院へ行ったんです。その寺院の前側には高くて幅の広い階段があります。それで私たちは二、三段昇って立ち止まり、周囲を見渡しました」

英・独・仏・西・伊の五カ国語を自由に話す才女のルウは、この日、アダムスキーの通訳兼ガイドとして同行したのである。

「パチカン宮殿の見学者用入口は右手にあります。そして宮殿に入るまでには、三名のスイス人衛兵のいる所を通しなければなりません。しかしジョージは左手を見ていました。そこは高い入口が開いたままになっており、その入口の奥に小さな入口のついた建物があって、この入口の所に一人の男が立っていました。かなり遠くでしたがその人が黒い服を着ているのを見ました。しかし僧服ではなく平服でした。彼は赤、白、緑色の「何かを」持っていました。イタリヤ色です。その「何か」が金属か絹かはわかりませんが、輝いていました。その人は外

△金星人オーソンの肖像画。

交官みたいに見えませんでした」

「黒い僧服の修道士が迎えに出た」という従来の説は誤りらしい。

「アダムスキーが言うんです。「あああそこにあの人がいる！」。そしてアダムスキーは走って行きました。その前に私たちは一時間ほどここで待っているという約束があつたんです。そして彼は「十二時にここに来ていなさい」と言っていました。そのときはちょうど朝の十一時でした。そのうち彼は十二時きっかりにふたたび出て来ました。彼の顔は喜びに輝いているんです。そして言いました。

「私は法王に会った。ひざまずいて、法王の手にキスをしたよ。私を祝福してくださいました！」

その夕方、一同で夕食会を開いたとき、彼は小さなプラスチックのケースを開きました。その中にまた小さな箱があつて、それには彫刻文字があり、一部は英語で、一部は私に読めない文字で記してありました。彼はそれを開きました。そこには黄金の万国コインがありました。まだ銀行で使用されていないものです。なぜならそれは領事館が公開する一日前だったからです。その公開は法王の死去のために延期されました。その日は土曜日で、月曜日に法王は亡くなられました。

しかしジョージは言っていました。「法王は死にかかってはいない。食べることができないので、ずいぶん弱っ

ているけれども、他人の言うことは正確に理解できるんだ。答えることもできるし、バラ色の頬だ。瀕死の病人ではないよ」

一方、私が土曜日にイタリア語の新聞を買ってみると、法王にとつて大きな日だったと書いてあるんです。法王は訪問者(複数)の来訪を受けて、頬はバラ色だったとありました」

アダムスキーは法王に小さな包み物(メッセージの書かれた文書)を手渡した。「これを持っていったのだ！」と法王は大いに喜び、返礼として黄金のメダルを与えたというのである。そして入口でアダムスキーを迎えて一緒に奥へ入った「黒服の男」は宇宙人だったという。しかも法王はフルンチョフとケネディーに渡すようにと言って二つのメッセージをアダムスキーに与えた。

きわめて謎めいた話だが、とにかくアダムスキーが謎の人物に案内されてパチカン宮殿へ一時間ほど入り込んだことはルウの証言によって明白である。一般人が容易に入れない特殊な入



△アリス・ポマロイ夫人

口から、なぜアダムスキーは簡単に「侵入」したのか——。

重要な要素「輪廻転生」

この黄金のメダルというのは、さほど大きなものではない。直径約二センチで、表面にはヨハネ二十三世の肖像が浮き彫りにしてある。なぜアダムスキーがこのような偉い人物と関係を持ったのか。これについてはまた一説がある。こうだ——

この法王は歴代法王の中でも、ずば抜けてリベラルな人で、宇宙問題に深い関心を有し、アダムスキーのコンタクトに重大な関心を寄せていた。なぜなら法王は、もと進化した惑星から志願をして地球へ生まれ変わった人であるからだというのである。

また童話めいてくるが、ここでアダムスキーに関連して「輪廻転生(生まれ変わり)」という問題が大きく浮かび上がってくる。

転生に関しては科学的な裏付けがないために、その現象の真偽さえも判断しかねる現状であるが、インドにはとってきた過去世の記憶のよみがえる人がいて、その証言を調査してみると、たしかに過去のある時代に、どこそで本人の言う過去世の姿どおりの人物が存在したことが判明したという事件もある。そして近來は、逆行催眠によつ

UFO探知機

超高感度

国産唯一の本格的磁気探知機!

現在230台が全国で活躍中!!
既にUFO探知成功18件!!



- T-5型……¥ 9,000
- T-3a型……¥ 18,000
- T-3b型……¥ 19,000

■その他、連続観測用のACアダプター及び補助電池ボックス(新製品)があります。

左からT-5・T-3a・T-3b型

申込先: 〒213 神奈川県川崎市高津区長尾1606

折田 至

Tel. 044-866-8347

●カタログ請求は100円切手をお送り下さい。

て、過去世の記憶を思い出させる実験も行われるようになってきた。詳細は省略するが、この転生現象は二十一世紀に重要な問題としてクロスアップされるのではないかと思われる。

話をカリフォルニアへもどそう。アリスの説明によると、アダムスキーは遠い昔、進化した惑星から地球へ転生してきた人で、古代中国で、ある偉大な哲学者として指導した人物であったというのである。何という名の人であったのか。これについては、筆者がカリフォルニアからマサチューセッツ州ノースポロへ行つて、アダムスキーの高弟であったアリス・ポマロイ夫人に会ったとき、おそらく老子だったのではないかと、語っていた。もちろん推測

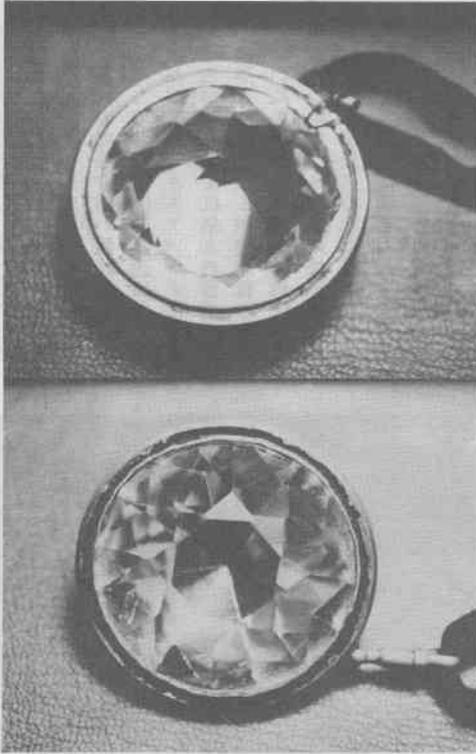
の域を出ない発言で、物的証拠もないのだから、真相に関して証明のしようもないが、この古代中国で哲学者だったというのは、アダムスキーがごく少数の側近者に洩らしたことらしい。

そして、今を去る約二千年前には、宗教史上有名なある人物の部下として主人を援助し、二千年後の現代、死後金星へ転生していたその偉人が、今度アダムスキーを助けるために地球へやって来た。それが最初に砂漠で会見した金星人オーソンであったというのである!

もちろん、この話は筆者が直接取材調査して得た情報を、そのまま伝えていただけである。信・不信はすべて読者次第だ。

謎のクリスタル・ペンダント

さて、黄金のメダル以外にアリス・ウエルズが見せてくれた、もう一つの遺品というのは、アダムスキーが肌身離さずつけていたクリスタル・ペンダントである。これは実にすばらしい品で、直径約七センチの、水晶に似た透明な丸い宝石の面に沢山の小面が見事にカットしてあり、手に取ると、ずっしりと重い。胸にあててみよ、とアリスがうながすので、そうすると、あてた部分の胸がポーンと熱くなってくる。同行したアンスタントも同じだと言ふ。この不思議な品をどこから入手したかは、アダムスキーは洩らさなかつたというが、側近者たちの一致した意見ではおそらく別な惑星から来た人



△謎のクリスタル・ペンダント。

によって与えられたのだろうということだ。アダムスキーはこれを常に携行し、講演会などでは胸に吊り下げていた。つまりこのペンダントは宇宙人から送信される波動または放射線をキャッチして増幅する一種の「受信機」だったというのである。しかしアダムスキーはかなり若い頃から講演会などでこれを使用している。そうすると、相手が宇宙からの訪問者だということに気付かないで、何らかの経緯のもとに与えられたのか、それとも重大な秘密を保つたまま、一九五二年十一月のコンタクトを迎えたのか、この辺りは全く不明である。

アダムスキーの哲学

ただ、ある程度輪郭が浮かんできた

のは、アダムスキーのコンタクトは偶然の産物ではなく、二千年昔から「訪問者」たちによって計画されたスペース・プログラムの一環であり、いわば予言の実現であるらしい、ということである。かく申すと、すぐに「宗教的だ」とくる。しかし宗教というのは後世において形成された様式であつて、二千年前に偉人が説いた言葉はもともと汎宇宙的な一種の哲学であり、いかなる方法によるものかは不明だが、二千年後の今日を見透した予知であつたというのが、アダムスキー研究家達の見解である。それは、地球と別な惑星とが関連した一大宇宙計画であつて、確実に破滅の方向へ向かつている地球の救済計画でもあつた。

したがってアダムスキーが説いた宇宙哲学は、いかなる哲学とも異なる独特な理論を有している。これに迫るのがカール・ユングと思われるが、やはり根本は違う。そしてアダムスキーは、いわゆる「心霊」を極力否定し、霊界通信なるものは、実際には死者の靈魂からの連絡ではなく、霊媒の肉体中の細胞から発せられる情報にすぎないのだと説いている。また、人間の受容器のうち、目・耳・鼻・口の四官が「心」を作り上げるのだとし、各感官がその際に勝手な解釈をするので、「迷った心」ができるため、四官を抑制して、人体内部に宿る本源的な実体、すなわち宇宙の意識と心を一体化さ

せて、内部から来る印象を聞き取るようにしなければならぬ、それがテレパシーの第一歩であると説く。つまり人間がインスピレーションによって生きるようにし、テレパシクな感受力を高めることが、宇宙的な人間になる方向づけであるというのである。これが、将来、地球人が宇宙連合の仲間入りをするための必須条件だと説いて生前はこの哲学を促進したのであり、しかも実地に応用して種々の奇跡を行ったのである。これは常人のなし得ることではない。といつて、宗教がかつた原始的な、怪しげなオカルティズムでもない。米国各地の大学で講演を行つているし、かなり有名な名人や実業家とも親交があつた。東部のある大会社のアグニュー・バンソン社長はアダムスキーを心から尊敬し、教授と呼んでいた。筆者はむかし京都でバンソン夫妻に会つたことがあるが、そのときに氏は米政界の驚くべき内幕を話してくれた。当時ある不可解な情報類に悩まされていた筆者は氏の情報によって勇気づけられたのである。というのは、こうした背景を何も知らぬUFO研究家がアダムスキーやその他のコンタクト事件類をインチキだと騒いでいたからだ。もちろん、このような反論者を相手にしても始まらない。問題は真相を知ることにある。それでよいのだ。しかしバンソン氏は惜しくも数年後に飛行機事故で死亡した。

超能力現象を冷笑し、あたまから否定してかかる高名な心理学者がいるかと思えば、年少にして宇宙の神秘や高次元なるものに限りなく憧れを抱く人もある。こうした人間の相違はなぜ生じるのか。ファンタスティックな事象に対する解明の欲求は個人の自由であって他から妨害されるべき性質のものではないにもかかわらず、真相究明よりも他人を非難することに快感を覚える自称研究家がUFO界に限って多いのはいかなる理由によるのか――。

ここにおいて、UFO研究とは人間研究にほかならないという筆者の持論が頭をもたげるのである。アダムスキーの言動は、幼児からの抑圧されたコンプレックスのあらわれにすぎないという批判がある。筆者が欧米を調査して歩いた結果によると、このような説は幼稚さを通り越して、異常としか言いようがない。

パロマー・ガーデンズ

ビスタにおける二日間の長時間取材調査を終えた後、十一月二日はフレッド・ステックリングの運転する車で、パロマー山目指してドライブに出た。同行者は、ステイヴ・ホワイティング、筆者、それにアシスタントの鳩公明君である。ビスタの町を出てパロマ



△アダムスキーが建てた小屋の前で管理人の説明を聞く筆者たち。

門を入って、ゆるやかな坂になった広い台地を少し登り、左手の方へ約百メートル行くと、レストランの跡がある。数年前まではその建物が残っていたそうだが、荒廃がひどいために取り払い、敷地跡にコンクリートが敷いてある。そばに生えている巨大なカシの木は昔のままですうで、かつてアダムスキーはこれら的大木をこよなく愛したという。主なきあとを見守っているかのよう

山系のドライブウエーを疾走すると約一時間、車はパロマー・ガーデンズへ到着した。ここはアダムスキーがグループを率いて居住した場所、アリス・ウェルズが経営したレストラン跡が残っている。現在はガーデンズとはいわず、キャンピング・グラウンドとして、奥地にあるパロマー天文台の見学者用自動車の駐車場になっているのである。

敷地のはずれには粗末な木造小屋が一軒ポツンと立っている。「あの木造小屋はアダムスキーが自分で建てた物置小屋ですよ」とフレッドが説明する。どう見ても立派なものではなく、いかにも素人の手細工といった感じだ。「彼が取り付けたパイプも残っています」

そばへ寄って見ると、古びた鉛管が



〒798

重力研究所
宇和島市宮下甲 519

空飛ぶ円盤の科学研究誌 宇宙艇 隔月刊 B5判

内容 A) 空飛ぶ円盤の理論研究 B) 空飛ぶ円盤の試作
C) 時間反転機の理論研究と試作

☆ 部分品を頒布します (カタログは、宇宙艇巻末にあり)。

年会費 A) 4,000円 (大学生及び社会人)

B) 3,500円 (高校生以下)

振替 徳島 28986 (又は、現金書留にて) (切手は不可)

☆ 超相対性理論 (原著) 定価 3,000円

〒 200円

(同じく切手は不可) 発売中

小屋の下方に取り付けてある。水を引くために敷いたのだという。写真を撮っているグラウンドの若い管理人が出て来て、面白いものがあるから見せてあげようと言う。一同が小屋の正面側へまわると、彼はししゃがみ込んでコンクリートのタタキ上のゴミを払いのけた。

「ほら、円盤ですよ！」

のぞき込むと、たしかにコンクリートに円盤の絵が刻みつけてある。

「アダムスキーがやったんですよ。いい記念になりますなあ」と、管理人は笑いながら説明する。この人はアダムスキーの事を熟知しているらしい。

ここで筆者は初めて知った。このレストラン跡、粗末な木造小屋、周囲のくずれかけたセメントの低い道、石積み等は、すべてアダムスキーを永久に記念するために大切に保存されているのだ！そして無法者の侵入を警戒して、グラウンドの管理人がこの木造小屋が破壊されないように監視しているのである。

しかし、すでに他人の所有になって久しいこの地所内で、邪魔にさえなる粗末な建物を、なぜ、こうまで貴重物として保存するのか。

理由は、今もってあとを絶たないアダムスキー関係「史蹟」見学者のために残したことと、この小屋にまつわる、ある「事実」の証拠物件として保存されているのである。

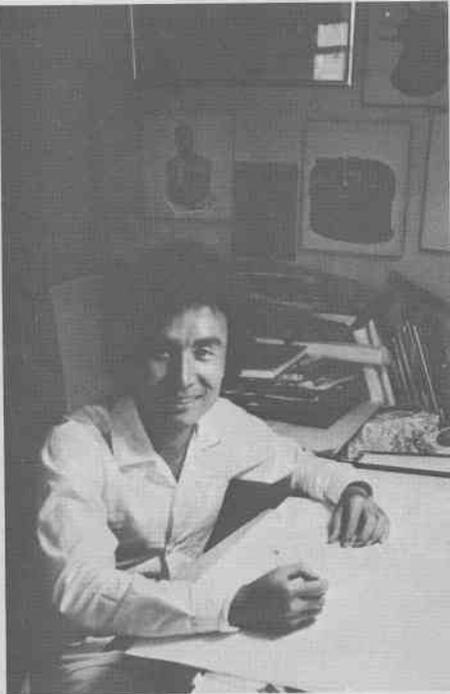
アダムスキーがこの小屋にパイプを敷設したとき、一人の宇宙人が手伝いに来たという話があるのだ。その宇宙人というのは一九五二年十一月二十日、アダムスキーが砂漠で最初に会見した金星人で、このときは地球人と同様な服装をし、長髪を帽子の下に隠していたために、外観は普通人と異ならなかったという。

真実と伝説との谷間

いったい、これはある大いなる理想主義の夢をかきたてる壮大な神話なのか、それとも「事実」を知る少数者の切なる願いをこめた真の意味での記念碑なのか、あるいはすべて捏造か！

陽光は燦々と輝いて、木々の緑は美しく、パロマーの空はあくまでも碧く澄み渡り、小鳥の囀りが響いて、心身ともに浄化されるような雰囲気の中で、筆者は沈思し、低徊した。中年の白人夫妻がやって来て、管理人にアダムスキーのことを尋ねている。

いずれは長い時間の経過とともに、これらの遺跡は消滅するだろう。関係者たちも、我々も、すべてがこの世を去るだろう。そしてジョージ・アダムスキーの名も忘却の彼方へ押し流されるだろうか。彼にまつわる物語のすべてが伝説として残るだろうか。これはだれにもわからない。知る者は「歴史」のみである。しかし二千年前の偉人が半ば伝説化したように、歴史といえども「真相」の真の伝え手ではないかも知



△ニューヨーク、プッシュピン・スタジオにおける宮内温夫氏。

しれない。我々はただ信・不信によって自己の運命の決定をなすより他に方法はないのかもしれない。『「事実」は小説よりも奇なり』とか『最もウソらしい事が案外に真実で、最も真実らしい事がウソだったりするものだ』という言葉は至言ではないにしても、謎の解明に対してある程度の示唆を与えるだろう、と考えても及ばないほどに、なおかつはるかな次元に存在するアダムスキーの物語は、深い謎を秘めている。解明の手がかりを持たぬ後代の人々には、やはり伝説と化するだろうか。

付記

本号四十二頁に掲載された記事中の画家、宮内温夫氏は熱心なアダムスキーファンでもある。筆者がマサチューセッツ州ノースポロのアリス・ボマロイ夫人を訪問した折は氏もニューヨークから同行された。宮内氏は松山東高校出身で、画家を志して東京芸大美術学部を四度受験して失敗、その後アメリカへ渡り、どん底の生活に耐えながら熱烈にアダムスキー哲学を生かして画業に専念し、名門プッシュピン・スタジオでミルトン・グレイサー氏に認められ、アメリカ商業美術界で頭角をあらわして、ついに超一流の雑誌「タイム」の表紙に日本人画家として最初に作品が掲載されるといふ栄光をかちとった立志伝中の人である。

デスモンド・レスリーと古代円盤

一九五二年、ウィンストン・チャーチルの従弟にあたる劇作家のデスモンド・レスリーは、珍しい写本類に囲まれて多年の研究を行った後、自分の書いた書物の出版元を探していた。レスリーによると、一九四七年にケネス・アーノルドが一般化させた空飛ぶ円盤は、今に始まったものではなく、有史以来出現してきたことがわかったという。

数種の出版社が彼の原稿を読んで、びしやりと伏せた。「気遣いだ」と言うのもあれば、「科学的すぎる」と評したものもあるし、「こんなものゝ興味をもって読む人はあるまい」と片づけたものもあった。

しかし一九五二年の十一月に、ロンドンの自宅から数千キロ彼方で発生した劇的な事件によってレスリーの運命が変わった。その月の二十日にジョージ・アダムスキーがカリフォルニアの砂漠で、大気圏外から来た人と会ったのである。

ニューヨークとロンドンの出版社は立ち上がって注目した。そしてすぐに

グレイ・バーカー

世界最大の円盤物語

「黒衣の三人男」の著者グレイ・バーカーが
アダムスキーの体験と人柄を詳しく分析

アダムスキーの宇宙人來訪の記事を買ったのである。しかしその原稿は一冊の書物にするには短かすぎた。ところがロンドンのT・ワーナー・ローリー社が全く偶然に、冷笑していたレスリーの原稿を思い出したのである。

二人の原稿を組み合わせたこの英国の出版社は、Flying Saucers Have Landed (空飛ぶ円盤は着陸した) と題する本を世に出した。

最近の集計によると、米国版は十二版を重ね、五十万部以上売れている！

一方、ジョージ・アダムスキーの記事は各国語に翻訳され、世界中で論議

的になったのである。

ジョージ・アダムスキーの身に発生した事件の概観は、この珍しい書物そのものを実際に読めば、最もよくわかる。

デスモンド・レスリーは修道院の目撃事件に関する古い物語で執筆を始めている。そして一六一九年に始まる一連の類似事件を説明し、原稿の締め切りまで、数世紀にわたる事件を展開している。

続いて彼は古代にさかのぼって調べているのである！

先史時代からアトランティス時代に及ぶ写本には、現代、空中で見られる物体によく似た人工の円盤について述べられているばかりでなく、それを建造する方法まで伝えているという！

アトランティス人のビマーナ(空艇)は木または金属で出来ており、水銀を利用してエンジンで推進された。ただし正確な推進法は述べられていない。

エネルギーはノズルまたは噴射口から噴出されて種々な方向に変えられ、船体を操縦した。このビマーナは時速わずか百六十キロで進行できたにすぎないが、進歩した船体ならば別な惑星へ行けるものと考えられている。しかし

世界の人類の歴史と伝説を通じて流れている大変動の「ノアの洪水」が、この古代の円盤建造文明や驚異的な空飛ぶ機械までも一掃してしまつたらしい。

現代の原爆に似た武器の話も古代の

写本中に見られると、レスリーは言っている。アステロイド帯はかつて一個の惑星だったかもしれない、その科学者が自爆させたのだろうと彼は考えている。

太古のこの円盤のすべては今日我々が物理的方法とみなすような手段で推進されたものではない。空中浮揚の能力があったといわれるアピラの聖テレサをとりあげたレスリーは、彼女は驚くべき豊富なパワー、音響のコントロールなどをマスターして、それによりある種の波動を生じ、肉体や建物の石などを浮揚させたと思われると述べている。かりに適当なビッチの楽音が鏡を破壊し得るものとすれば、「もし音響が完全に理解されれば……それは浮揚効果を生じさせる電磁力と一体化するかもしれない、ということが考えられないだろうか」とも言う。先史時代の空飛ぶ円盤は文字どおり「歌とともに飛んだ」のであり、現代の円盤も宇宙のエネルギーを取り出すのに同じような秘法を応用しているのではないかとレスリーはほのめかしている。伝説上の魔法使いが用いる神秘的な呪文や「開け、ゴマ！」は、山を動かしたり大ピラミッドを建造したりした「半分記憶されている音響」なのかもしれないという。

このことは、大ピラミッドの十五トンにも及ぶ磨かれた石が持ち上げられ、現代に見られるような機械を使用

しないで信じられないほど正確に積み重ねた方法を説明しているのかもしれない。現代の機械を使用しても不可能だろう。

宇宙の自然エネルギー源が太古の人間によって開発できたとするれば、なぜ同じ事が今日やれないのだろうか？ 超自然と呼ばれる領域が、いつか科学の大きな未開拓分野になるうといふ多くのオカルティストの見解をレスリーは取り入れているけれども、障壁にさからった方向へ導いている既成の方法を科学者が捨てるのは困難である。一例としてレスリーは電気をあげて、その実体が何であるかを指摘し、自分のテレビ受像機を実際に作動させている

金星人とのコンタクト

さて、世俗的な限界のある地平線から解放された科学的な空想を身につけて、読者を書物（空飛ぶ円盤は着陸した）の第二部に案内することにしよう。

アダムスキーは、標高九百メートルのパロマー・ガーデンズに住んでいた。ここは二百インチ望遠鏡のあるパロマー山の斜面である。自分を「哲学者、学徒、教師、円盤研究家」と述べた彼は、その天文台の職員と関係はないと指摘している。正規の職業は述べられていないが、アダムスキーはパロマー・ガーデンズのレス

ものは何であるかを説明できた科学者はまだいないと述べている。しかも彼らは配線を通れる電気を制御する回路作りの専門家なのだ。技術者は「方法」については多くを語れるが、「理由」の理解はまだ縁遠いと、レスリーは考えるのである。

しかし自己の環境と無限の可能性に対する人間の理解は拡がりつつある。馬を捨てて、すさまじいスピードで進行する汽車に乗れば人体は分解すると信じられた時代があった。その後、音速を超えれば飛行機は分解すると考えられたが、これも突破された。現在、光速は超えられないとみなされているのだが――。

トランと関係があった。ただしその所有者ではない。また大学卒業者でもないと言っている。

アダムスキーは、一九四六年の十月に初めて円盤に関心を持つようになった。流星雨の際に彼は巨大な飛行船に似た物体を見たのである。それはまもなく上方に向き、すさまじい炎を残して急速に上昇した。そのときは、それについてほとんど考えなかったが、一九四七年にケネス・アーノルドが円盤を見て以来、世に広がった円盤の話により、空を観測する

ようになった。二台の望遠鏡を使用して、アダムスキーは円盤の写真を数百枚撮影できたというが、ただし、うまく撮れた写真は少数だという。なぜそんなに多くの円盤を見たのかと不思議がる人々の問いに答えて、だれでも空中を観察する習慣を身につければ、円盤を見ることができると述べている。「この宇宙船はそこに存在するのであり、いつでも屋外にいるときに見上げる人に見られるのである」

アダムスキーが円盤を近接目撃し、金星から来た長髪の男と話したのは、一九五二年十一月二十日、午後十二時半頃である。近くの砂漠に円盤がよく着陸していたと聞いたことがある彼は――これは、たぶん乗員とコンタクトしたと称する人々から聞いたのだから――自分の運だめしをやることにした。四名の友人、秘書、レストランの経営者らと共に、彼は早朝出発した。このグループはアリゾナ州ウィンスロウのA・C・ベイリー夫妻、パロマー・ガーデンズの所有者でレストランの経営者アリス・K・ウェルズ夫人、アリゾナ州プレスコットのジョージ・H・ウィリアムソン博士夫妻、秘書のルーシー・マクギニス夫人から成っていた。アダムスキーは主として予感によってコンタクトの場所をきめた。そこは、デザート・センターからアリゾナ州バーカー寄りの約十六キロの砂漠上である。彼はかねてから予感またはフ



イーリングに從う習慣を發達させていたのだ。昼食をとるために停車した一行は付近を旋回する飛行機に気づいたが、続いて巨大な葉巻型宇宙船を見た。新たな予感に從ってアダムスキーは、自分がハイウェーから約八百メートル離れた地点へ行っているあいだ、待っていてくれと一同に話した。宇宙船はその位置までの距離の一部をアダムスキーが車で行くにつれて、ついて来るように思われたが、車が停まると宇宙船も停止した。

アダムスキーは二つの山のあいだの窪んだ空間に浮かんでいる小型円盤を發見して、急いでその方へ望遠鏡を向けて写真を撮影した。すると円盤は見えなくなった。しかし、そのあとまもなく彼は自分を手招きしている人物に気づいた。近寄って見ると、それは円盤から出て来た人であることがわかった。

その男は長髪で、きれいな顔をし、風変わりな上下続き服を着ていたが、それには縫い目がないようだった。スキーズボンに似たズボンは、だぶだぶで、とめバンドで締めたかのようにくるぶしの所で締まっていた。腕の部分も手首まであり、腰のまわりにはバンドを着けていた。年齢は二十八歳ぐらいで、体重は約六十キロ、身長は約百六十センチと思われた。

相手は友好的で微笑している。アダムスキーは急いで相手との意志伝達を

試みた。相手は、やや中国語に似た奇妙な言葉で話し、英語を理解しなかった。アダムスキーは手まねとメンタル・テレパシーによって相手に話すことができたと言べている。

相手は金星からやって来た。ただし円盤は太陽系内外の多くの惑星から来るという。相手によれば、我々の太陽系のあらゆる惑星には人間が住むというので、相手の任務は原爆によって起こる放射能を調査することにあるらしい。地球に対する核爆発の危険をあらわすため、訪問者は地面を指さして「ボーン! ボーン!」と言った。相手は神を信じていた。ただしこれは、相手の惑星の人々は唯物的な地球上で地球人が信じている神よりも、創造主の法則を重んじているのだということ。アダムスキーに信じさせた。肉体的には宇宙のあらゆる人間はみな同じような姿をしているのだと、訪問者は言った。

金星人は写真に撮られることを拒否したので、アダムスキーはしつこく要求しなかった。ただし相手は撮影済のネガ乾板の一枚を貸してくれと頼み、あとで返すと約束した。近くにいた円盤に乗せてもらいたいというアダムスキーの願いを拒絶した相手は、インタビューを終えて円盤に乗り込み、飛び去った。二十三日後に円盤はパロマー



・ガーデンスの上空低く飛来し、例のネガホルダーを地上へ投下した。現像してみると、奇妙な筆跡が現れた。また訪問者は砂漠の現場に足跡を残した。これは石膏にとられたが、それにはシンボリックなマーク類が現れている。世界中の専門家がそ

推

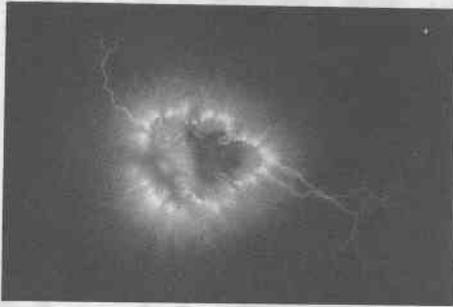
以上、私は文字どおりに同書を要約した。これは同書その部分を立証したり反証したりする機会がほとんどなかったからである。レスリーの古代円盤に関する諸説は、昔の写真類と関連があり、正当なやり方による解釈を導

のメッセージを解読しようとして、多数の「解説」が書物類に發表された。砂漠で撮った写真はどうかやら円盤の放射線でだめになったが、再度パロマー・ガーデンスへ来た円盤の写真類はすばらしいものである。それらには円盤が大きく鮮明に写っており、球型の着陸装置が見えている。

論

入している。ここでは古文書の問題に立ち入らないことにしよう。というのは現在のUFO問題は混乱しきっており、関係のある各種の学問についてはなほだしく無知な我々は、お手上げの状態にあるからだ。たとえレスリー

キルリアン写真实験セット



キルリアン (KIRLIAN) 写真とは、コロナ放電を利用し被写体の発光現象を撮影するものです。指や人体の一部などを撮影すると「生体エネルギー、オーラなどと呼ばれる現象が観察できます。あなたもこのセットで未知の世界を探ってみませんか?

○キルリアン電子写真实験セット

TKP101 (装置本体、附属部品共) ¥28,000

カタログのご講求は誌名記入の上下記まで

株式会社 テクノニクス

☎ 326 足利市鹿島町1156 ☎ 0284-62-8073

の諸説が信用できないものであるにしても、とにかくべらぼうに面白いので、それを攻撃したくはない。

アダムスキーの話を切り離してみてもこれも全く攻撃は不可能であると思

う。

たしかにアダムスキーには目撃証人があったが、彼らは約八百メートル離れていた。その一人はムービーカメラを持っておりアダムスキーは葉巻型母船を撮影しなかったことについて、うまい弁明をしている。母船が停止していたあいだ、そのカメラを持っていた婦人は興奮しすぎて、カメラを調整できなかった。うまくいった頃には母船は移動していたという。

アダムスキーはコンタクトの光景をだれかがムービーに撮ったかどうかについて言及していないが、たぶん遠すぎたのだろう。目撃者の一人は双眼鏡で状況を観察して、訪問者のスケッチを描くことができた。

私が初めてこのスリルに満ちた物語を読んだとき、アダムスキーの叙述には一貫して正直さがあるという印象を得た。そして彼が真実を語っていることをほとんど疑うわけにはゆかなかつた。

しかしこの物語はあまりにもファンタスティックなので信じられなかったのである。私は、自分を満足させるような解釈を見い出そうとした。おそらく一機の円盤と異星人がいたのだろう

が、もし別な目撃者の考え方で見られたとすれば、このような刺激的な光景の解釈は、かなり異なるものとなったことだろう。その体験の宗教的な調子は、アダムスキーの次の言葉で裏付けられている。

「しかしその特権に対する言い知れぬ喜びがあったし、今もあるのだ。私は地球とは別な世界から来た友を一眼見ることが許された。……しかもその一人と話し合ったというこの恍惚感」

これは明らかに、宗教的な著述をした人々にしばしば起こったと思われるのと同じ崇拜の体験である。

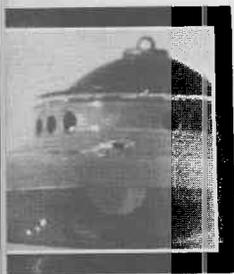
とにかく、我々が使用するような言語による意志伝達は行われなかった。会話は手まねとテレパシーで行われたが、このいずれにも解釈に誤りが起こる可能性がある。そして我々は、円盤は「だれにでも手に入るもの」になりかかったとの考えを強めたのである。

多くの人の非難

以上が、私がいまだに「世界最大の円盤物語」と考えている書物を初めて読んだときの印象であった。

事実か？ フィクションか？ 多数の円盤研究家は、このどちらかをすくに答えるだろう。だが私にとつてはそんなに単純なものではない。

もしジョージ・アダム



宇宙人は、地球人が「彼らはこのように振る舞うだろう」と考えるような振る舞い方をするだろうか。

悪魔のような地球人が小人を見れば相手はツノを生やしているように見えるだろう。

したがって、この推理によれば、訪問者が態度や話し方において親切で善良であり、キリストのようであったということは、アダムスキーの信用にとつて、きわめて有利だった。

もし私の推論がスジの立ったものであれば、砂漠でアダムスキーの見たものが何であれ、また、発生した事件をいかに正確に彼が報告したかは別として、彼はたしかに慈悲と優しさに満ちた魂の持ち主であったということになる。なぜなら、彼は円盤から人類に伝えられた「善」のみを見たからである。これはおそらく彼自身の願いと理想の反映なのであろう。

スキーが真実を語ったとすれば、それは「空飛ぶ円盤は着陸した」の中に書かれた体験に関するものであると我々は個人的に考えている。同書に掲載された写真類も真実のものであると信じている。

もっと事実を知らせよという大衆の要望に鼓舞され、ベストセラーにな

った同書から得た知名度に刺激されて、アダムスキーは二度目の書物「宇宙船の内部」に書いたような事件をでっちあげたのだろうか？

同書でアダムスキーは宇宙船に乗ったと称し、その記述は更に作爲的になった。この書に掲載されている写真類は、きわめて疑わしいものであった。

我々は宇宙人とコンタクトしたと称する人、霊媒、ポルターガイストなどに等しくあてはまる持論を持っている。気味悪くファンタスティックなものであっても、真実な事柄が個人に発生すれば、本人はそれを世間に発表する。

人々はその話を聞こうとして遠方から来訪し、更に詳しく聞こうとする。霊媒は途方もない幽霊物質化交霊会を開くが、意のままに霊魂を出現させることはできない。ポルターガイストは家中に物を投げ始め、人々はその噂を聞いて、見にやってくる。

円盤の「コンタクティ」は、大衆を失望させないようにと考え、更に事件をでっちあげるかもしれない。必ずしも幽霊の現象化を生じさせ得るとは限らない霊媒は（トリック用に）綿布を買う。いたずら好きな霊魂が花ビンなどを投げたりする家の子供たちは、自分が最初に無意識に起こした現象を繰り返そうと考える。そこで子供は何かを投げて暴露される。「インチキだ！」と大衆は叫ぶ。

ジョージ・アダムスキーはNICIA

P（空中現象調査委員会）の会員資格から除外されている。ドナルド・E・キーホーの率いるこの団体は、明らかにアダムスキーの物語を取り入れることを恐れており、第一書に帯びていた真実の響きを第二書が持たないというのを弁解のたねにしている。

多くの人はジョージ・アダムスキーを信じなくなった。彼らはアダムスキーを狂人と呼び、別な霊媒の所へ走ったり、新たに出現するポルターガイストを見に行ったりする。

そしてたぶん宇宙人は——もし実在するならば——満足して笑っているかもしれない。たぶん彼らは地球人に円盤の存在を気付かせようとしたのだろうが、あまり気付かせすぎないようにもしたのだろう。彼らは、発生しようとしている現象に対して、大衆を「おだやかに」準備させようとしたのだろう。

一方、多くの「客観的」な「科学的」

興奮・疑惑・探求

一九六六年の焼けつくような夏のあの日——七月十五日に、私は自分が働いている会社の経営者や夫人とともにアーリントン墓地（ワシントン市）へドライブした。リー・マンションとケネディ大統領の墓を見学するために彼女を案内したのである。

そこへ着いてから私は、アダムスキー

円盤研究家は、アダムスキーはインチキをやつて

いたと声を大にして非難したけれども、動かぬ証拠を突きつけられると個人的にアダムスキーを罵倒できなかつた。

なぜならジョージはどこへ行っても自分を非難する人を魅了したからである。

敵がいかに辛辣であろうとも彼は快活な態度を保ち、それは相手の否定的な言動を制した。おそらくこのことは敵が決して彼に抵抗できなかった一つの理由であろう！

私は多くの機会にアダムスキーと文通したので、彼をかなりよく知っていると自覚していた。そして、ぜひとも個人的に会いたいと切望した。そして長く待たが一九六五年四月二十三日の夕方、メリーランド州シルバースプリングで心臓病のためにジョージは逝ったのである。

私がそこに埋葬されていることを思い出し、墓地の管理事務所へ行って尋ねた。地図をもらったが、それには彼の墓の番号と位置がはっきりと記してあった。

同行した社長と夫人はジョージ・アダムスキーがだれであるかを全く知らなかつたし、私が説明しようとしたの



に、墓を探している理由も知らなかつた。私の親類の墓でも探していると思ったのだろう。

アダムスキーの墓を見つけ、私は碑銘を読みながら立っていた。雲が熱い太陽を覆い、一瞬、涼しくなった。急に私は博物館見学や観光の長い一日の緊張から、体がくつろぐのを覚えた。写真を撮ってくれと社長夫人に頼み、墓石のそばに立った。

そのとき一台の車が、近くのハイウェイにとめてあつた私たちの車の後ろに近づき、若い男女が出て来た。

微笑しながら二人はこちらへ近寄つた。彼らもジョージの墓を探していたのだ。

彼らは墓参のためにカナダから来たのである。私の墓参はあからの思いつきだと考えて少々恥ずかしくなつてきた。

「私たちはアダムスキーの書物を非常に興味深く読みました。それで彼が眠っている場所を見学したくてしようがなかつたのです」と婦人が言った。

彼らは近くのアレキサンドリアの友人の地所から野花をつみ取って、婦人がそれで花輪を作っており、彼女はそれを墓にかけた。

微風が吹いて、美しい花が揺れる。この花も、おそらく数日前に未知の人がジョージの墓に供えた他の花と同様まもなくしぼんで枯れるのだろう。

しかし、事実がフィクションかは別として、ジョージ・アダムスキーの物語は永久に滅びないだろう。

それは私と同様に他の人々をも興奮させ、何かを考えさせるだろう。そして最後には疑惑を起こすかもしれないが、一方、人々は宇宙の謎と、この惑星地球における人間の役割について、深く探求するようになるだろう。

彼らが心からアダムスキーを信じようと信じまいと、彼らの探求によって多くの悪魔を一掃したのだ。それは黒衣の三人男が潜む暗黒の場所に光を投げかけたのだ。

恐怖、抑圧、迷信などに満ちた思まわしい暗黒の世界は、やや押し返された。人々は微笑し、同じ探求の道を歩んできた仲間との友情を愉しんだ。

人々はもう「宇宙人」なるものを全く信じなかつた。なぜなら自分自身が宇宙の子であることをついに認識したからである。

そして彼らは時折ジョージ・アダムスキーの墓を訪れるだろう。一偉人が彼らに偉大な真理を伝えたことを全然知らないで——。

彼らは二千年前に別な人が全く同じようにして真理を伝えたことにも気付かないだろう。

訳／久保田八郎

* * *

お望みの機種が
お求めになれます
メーカーから
ユーザーへ!

サテライト 天体望遠鏡

- ★ヤマモトの天体望遠鏡は
海外(アメリカ、フランス、
イタリア、ベルギーetc.)
で絶賛を博しております。
- ★この他多機種とりそろえてい
ます。詳しくは 250 円切手同
封の上カタログをU係へご請
求ください。

株式会社 **山本製作所**

〒174 東京都板橋区大原町5-3
☎(03)966-2408

AE-108

- 有効径：108mm
- 焦点距離：1600mm



アダムスキー完全年譜

この年譜は、ジョージ・アダムスキーおよびアダムスキー研究者の著作・資料をもとに作成したものである。宇宙人とのコンタクト事件には▼印を付した。

1930年~1936年		1925年	1919 1917 1913	1903年	1899年 1892 1891	年月日
		(34歳)	(28歳) (26歳) 12月25日	(12歳) (22歳)	(12歳) (8歳) (1歳)	4月17日
<p>▽カリフォルニア工科大学ジョーゼック。</p> <p>▽ティンズビレーションの祭典、開く。</p>		<p>▽教え子数百人になり、南カリフォルニア中から講演依頼。</p> <p>▽ロイヤル・オーダー・オブ・チベットの名で、ロングビーチKFOXとロサンゼルスKMPCLラジオから講話が放送される。</p>	<p>▽主に米西部を本拠地として、精神科学と哲学を教え始める。</p> <p>▽四十歳近く、カリフォルニア州ラグナビーチに住む。</p>	<p>▽クリスタル・ペンダント入手。</p> <p>▽陸軍入隊。第十三騎兵連隊で軍務に服す。</p> <p>▽メリー・A・シンバースキーと結婚。</p> <p>▽陸軍除隊。その後、あらゆる仕事をしながら国内を旅行。</p>	<p>▽ポロラランドに生まれる。父はポロラランド王子、母はエジプト王女。</p> <p>▽両親と米、ニューヨーク州ダンカークに移住。</p> <p>▽十二歳までチベットの首都ラサに留学。ダライ・ラマの住むポタラの宮殿で、一種の修道士としてチベットの秘教や東洋哲学を学ぶ。</p> <p>▽帰国後、カトリック神秘派教会に入り、伴僧として司祭の助手をつとめる。</p>	<p>▽ポロラランドに生まれる。父はポロラランド王子、母はエジプト王女。</p> <p>▽両親と米、ニューヨーク州ダンカークに移住。</p> <p>▽十二歳までチベットの首都ラサに留学。ダライ・ラマの住むポタラの宮殿で、一種の修道士としてチベットの秘教や東洋哲学を学ぶ。</p> <p>▽帰国後、カトリック神秘派教会に入り、伴僧として司祭の助手をつとめる。</p>
1951	1950年	1949年	1947 1946年	1944年 1940 1937		
3月5日	3月21日 5月29日 (59歳)	(58歳)	8月 (56歳)	(53歳) (49歳)		
<p>▼葉巻型母船から飛び出す円盤群を連続四枚撮影。</p>	<p>▽カリフォルニア州ラメサのエブリマンズ・クラブで講演。</p> <p>▽六インチ望遠鏡で、月面から飛び立つ光点群を撮影。</p>	<p>▽軍の慰安所や他の団体からUFOに関する講演を依頼され始める。</p> <p>▽パロマー・ガーデنزに米海軍電子工学研究所員からUFO写真撮影を依頼される。</p> <p>▽この年出したとされる「Pioneers of Space」の著者と内容をめぐり今日まで真偽論争続く。</p>	<p>▽百八十四機のUFO大編隊目撃。</p> <p>▽パロマー・ガーデنزで初めて宇宙船を目撃するが正体わからず。それまで、惑星間飛行物体存在説のすべてを疑っていた。</p>	<p>フ・ジョンソン博士の母親から六インチ反射望遠鏡を贈られる。</p> <p>▽小冊子「悪魔すなわち時の人刊」。</p> <p>▽パレーセンターに移住、教え子たちと農耕生活を開始。</p> <p>▽ジョンソン博士の勧めでパロマー・ガーデنزに移動。南側斜面を開墾し、天文台見学者のための食堂を建てる。弟子アリス・K・ウエルズ夫人に食堂経営を一任。</p> <p>▽十五インチ望遠鏡を購入し、これを受容するため小天文台を建設。</p>		
1954			1953年	1952年		
(63歳)	9月 9月 9月 9月8日	4月21日 (62歳)	2月18日	5月1日 11月20日 (61歳)	3月9日 5月16日	
<p>▽妻メリー死ぬ。</p> <p>▽レストランを売り、近くのパロマ</p>	<p>▼数日後、ラミューに会い、再び土星の円盤と母船に案内される。</p> <p>▽ロンドンのT・ワーナー・ローリー社から「Flying Saucers Have Landed」刊。10月に米国版刊。</p>	<p>▼ホテルのロビーでファアコンとラミューに会い、近くの小さなカフェで話し合う。</p> <p>▼数日後、ラミューに会い、再び土星の円盤と母船に案内される。</p> <p>母船から月の表面を見る。</p> <p>▼ホテルのロビーでファアコンと金星の円盤で金星の母船に運ばれ、大気圏外を見せられる。</p> <p>▼ホテルのロビーでファアコンに会い、土星の円盤と母船に案内される。</p>	<p>▼ロサンゼルス、ヒル・ストリートにあるクラーク・ホテルのロビーで火星人ファアコンと土星人ラミューに会う。彼らの案内で、金星人オーソンと再会。その後、金星の円盤で金星の母船に運ばれ、大気圏外を見せられる。</p> <p>▼頭上に接近した円盤を連続撮影。このあと、円盤の窓からネガホルダーが落とされる。</p>	<p>▼金星の母船を撮影。</p> <p>▼六人の友人が見ている前で、カリフォルニア州デザートセンター付近の砂漠に現れた美しい金星人と会見。米空軍は、この模様を上空から撮影し、FBIに渡す。</p> <p>▼頭上に接近した円盤を連続撮影。このあと、円盤の窓からネガホルダーが落とされる。</p>	<p>▼潜水艦型母船を撮影。</p> <p>▽月の付近を飛ぶ円盤大編隊撮影。</p>	

1964年	1963年	1962年
5月31日	5月 (72歳)	3月26日 3月27日 3月28日 3月29日 3月30日 4月 4月 4月 4月 (71歳)
<ul style="list-style-type: none"> ▽上旬、米国東部講演旅行に出発。 ▽メリランド州シルバースプリングで、政府の各出先機関に講演するように依頼される。 ▽原子力委員会、関係者に会う。 ▽宇宙開発計画関係者と会談。 	<ul style="list-style-type: none"> ▽ヨーロッパ講演旅行。ベルギー、デンマーク、イタリア他で四十二回の講演と約二千の質疑応答。 ▽デンマークの講演会で「オハイオ州ライト基地には、墜落してはばらになった円盤二十機が秘蔵してある」と語る。 ▽ローマ、バチカン宮殿裏口で待っていた宇宙人に案内され、法王ヨハネ二十三世と会見。宇宙人からのメッセージを渡すかわりに、公開前の純金万国コインとフルンチヨフ、ケネディーあてのメッセージを受け取る。二日後法王死去。 ▽日本GAPの招待募金運動失敗。 	<ul style="list-style-type: none"> ▽土星上で行われる、この太陽系の十二惑星代表者会議に出席するたぬ宇宙機に乗る。 ▽時速三千万キロ以上のスピードで九時間後に土星到着。最初の会議に出席。 ▽会議出席者とともに土星を見学。 ▽会議に出席。その場で話されることをすべて記憶するため、火星代表とともに頭へ器具をつける。 ▽ワシントン市で政府高官に宇宙人からのメッセージを渡す。 ▽ニューヨークWOR放送局で深夜十二時から五時までラジオ討論。 ▽宇宙船内で授業と訓練を受ける。 ▽キューバで紛争が起こったため、メキシコ移住をあきらめてカリフォルニア州ビスタへ移る。

12月17日	9月15日	8月12日	5月18日 5月 (73歳)
<ul style="list-style-type: none"> ▽空軍予備将兵たちの会合で講演。事前チェックにもかかわらず空軍のテープレコーダーには何も録音されていなかった。 ▽ニューヨーク滞在中、ロサンジェルスから、ピンを突き刺した小さなブードゥー教人形届く。 ▽メキシコへ行き、宇宙人に会う。 ▽メキシコで新聞記者に写真を撮られるが、写真には姿のかわりに白い光が写っていた。 ▽サンディエゴ付近で火花を放つ巨大な宇宙船を目撃。 ▽三カ月間、ウィスコンシン州、イリノイ州、ニューヨーク市、ワシントン市などで講演。 ▽ある強力な宗教団体がスポンサーになりウィスコンシン州グリーンベイ最大の放送局でビデオ撮り。 ▽ワシントン市でWTTG第五チャンネルの放送討論会に出席。出席者は、ウェズリー神学校校長ノーマン・トロット博士、海軍天体観測所B・L・クロック博士、アメリカン大学物理学教授マーク・ハリソン博士。 ▽バルチモア市の十三チャンネルで二カ月分ビデオ撮り。好評のため追加出演依頼。 ▽ポストロム、ケネディーと対談。三十州に放送される。 ▽ウォーチェスターでカラーテレビ出演。これら放送関係者は、円盤目撃例より宇宙哲学に興味を示す。 ▽ウィスコンシン州アプルトン、メリランド州、ボストンの三カ所で母船をカラー映画に撮る。 ▽メキシコへ向かう途中、乗っていた飛行機がエンジントラブルでティファナ空港に二時間遅着。修理後出発するが再び故障。宿泊。 	<ul style="list-style-type: none"> ▽メキシコへ行き、宇宙人に会う。 ▽メキシコで新聞記者に写真を撮られるが、写真には姿のかわりに白い光が写っていた。 ▽サンディエゴ付近で火花を放つ巨大な宇宙船を目撃。 ▽三カ月間、ウィスコンシン州、イリノイ州、ニューヨーク市、ワシントン市などで講演。 ▽ある強力な宗教団体がスポンサーになりウィスコンシン州グリーンベイ最大の放送局でビデオ撮り。 ▽ワシントン市でWTTG第五チャンネルの放送討論会に出席。出席者は、ウェズリー神学校校長ノーマン・トロット博士、海軍天体観測所B・L・クロック博士、アメリカン大学物理学教授マーク・ハリソン博士。 ▽バルチモア市の十三チャンネルで二カ月分ビデオ撮り。好評のため追加出演依頼。 ▽ポストロム、ケネディーと対談。三十州に放送される。 ▽ウォーチェスターでカラーテレビ出演。これら放送関係者は、円盤目撃例より宇宙哲学に興味を示す。 ▽ウィスコンシン州アプルトン、メリランド州、ボストンの三カ所で母船をカラー映画に撮る。 ▽メキシコへ向かう途中、乗っていた飛行機がエンジントラブルでティファナ空港に二時間遅着。修理後出発するが再び故障。宿泊。 	<ul style="list-style-type: none"> ▽メキシコへ行き、宇宙人に会う。 ▽メキシコで新聞記者に写真を撮られるが、写真には姿のかわりに白い光が写っていた。 ▽サンディエゴ付近で火花を放つ巨大な宇宙船を目撃。 ▽三カ月間、ウィスコンシン州、イリノイ州、ニューヨーク市、ワシントン市などで講演。 ▽ある強力な宗教団体がスポンサーになりウィスコンシン州グリーンベイ最大の放送局でビデオ撮り。 ▽ワシントン市でWTTG第五チャンネルの放送討論会に出席。出席者は、ウェズリー神学校校長ノーマン・トロット博士、海軍天体観測所B・L・クロック博士、アメリカン大学物理学教授マーク・ハリソン博士。 ▽バルチモア市の十三チャンネルで二カ月分ビデオ撮り。好評のため追加出演依頼。 ▽ポストロム、ケネディーと対談。三十州に放送される。 ▽ウォーチェスターでカラーテレビ出演。これら放送関係者は、円盤目撃例より宇宙哲学に興味を示す。 ▽ウィスコンシン州アプルトン、メリランド州、ボストンの三カ所で母船をカラー映画に撮る。 ▽メキシコへ向かう途中、乗っていた飛行機がエンジントラブルでティファナ空港に二時間遅着。修理後出発するが再び故障。宿泊。 	<ul style="list-style-type: none"> ▽再び同機で出発するが、エンジン不調のためグアダハラ空港で他機に乗り換え。翌日午前一時メキシコ着。あとで宇宙人から、彼らがリモート・コントロールで事故を回避させたことを知らされる。 ▽メキシコでユカタン半島探検のための準備、調査。

年代不明	1965年
4月23日 (74歳)	1月4日 12月 12月18日
<ul style="list-style-type: none"> ▽ニューヨーク、ベルビュー病院でNBCのグリーン氏とともに、一九五三年に宇宙人から与えられたという万能治療機を見る。 ▽海軍将官に正確な母船の図面を渡す。模型が作られ作動するが、燃料会社の妨害を受けて実験中止。 ▽二度ビートルで撃たれる。 	<ul style="list-style-type: none"> ▽国連から、宇宙問題委員会議席供与の申し出を受けるが、代償として沈黙を要求されたため拒否。 ▽マダリン・ロドファー夫人が上院宇宙委員会、下院、NASAなどでアダムスキーのフィルム放映。 ▽気候が寒いため、しばしば肺炎や心臓発作を起こす。 ▽東部講演旅行に出発 ▽「生命の科学講座」完結。 ▽ミネソタ州デトロイトで生涯最後の講演。 ▽メリランド州シルバースプリングの病院で肺炎と心臓病のため死亡。ワシントン市アールントン墓地に葬られる。

*参考資料・協力 「空飛ぶ円盤とアダムスキー」「空飛ぶ円盤の真相」高文社／「宇宙哲学」たま出版／「テレパシー」「生命の科学」「なぜ空飛ぶ円盤は来るのか」文久書林／森脇十九男／「GAP ニューズレター」日本GAP／「UFO教室」UFO教育グループ／「宇宙からの訪問者」UFOと宇宙」ユニバース出版社

スペース・ブラザーズはなぜ来るのか

アダムスキー



最後の講演記録

宇宙船建造、そして地球脱出

切迫した太陽系の危機。人々は新太陽系へと移動し始めた。我々にも早く地球脱出計画を。ジョージ・アダムスキー最後の講演である。一九六五年四月十日、米デトロイトにおいて。

〈女性司会者の紹介〉

みなさん、今晚は。今晚の講演者をご紹介致します前に、初めてジョージ・アダムスキー氏に接しられる方々のために、氏の背景について少しばかりお話ししたいと思います。

アダムスキー氏はカリフォルニア州から来られた著述家、天文学者、哲学者、そして宇宙問題の講演家であります。

一九五九年に氏はUFO問題で世界講演旅行を行われ、各国の多数の高位の人々から会見を求められました。オランダのユリアナ女王に謁見しましたし、イギリスの大臣たちとも会いました。国連で講演をし、最近ではマーガレット・チェイス・スミスのような上院議員やジョン・マコーミック下院議長たちの前で講演を行いました。氏はまたテレビやラジオで数百万の人々に話していますし、生命の科学の指導者で

もあります。

三点のUFO書以外に『宇宙哲学』と題する四点目の著書を書いておられます。また現在は、人間と人間を支配する法則を伝えた『生命の科学』というコースも出していらつしやいます。

今晚ここにそのアダムスキー氏をお招きしましたので、氏のお話の内容を各自でご判断下さいませよう、そして他の世界から来る飛行体が地球を訪問しているという事実をよくお聴き下さ

〈アダムスキーの講演〉

まず、私はこの冬の数カ月中、実際にはカリフォルニアにいたかったと申し上げたいと思います。しかし良い気候のかわりに雪やブリザードなどの中を旅行して歩きました。ですから、これも、これにはよき理由があります。今日全世界をとり巻いているミステリーが発生してから十八年目になります。これについて私たちは米空軍や政府を

(拍手)

非難するわけにはゆきません。しかしそれが非難されようとも、ミステリーは「皮切りをする」と人が言うように、そのミステリーを打ち破ろうと努力しているわけです。

他の惑星から訪問者が来るという事実に関して世界中にミステリーが存在する理由は、曲解のためです。恐るべき曲解が訪問者にかわって発生しているのです。

今日、さまざまな宗教があり、そうした宗教やすべてのものに神がとり入れられています。UFO問題は宗教とは関係ありません。端的に言えば神とも関係はないのです。しかし神はいつものあらゆる面の背後にあります。神を利用する必要はありません。

UFO問題は純粹に科学的なものなのです。まずそのことを話しましょう。

だれかにコンタクトが行われる場合、——現在多くの人がコンタクトを望んでいます——、そのコンタクトをするためには、少なくともそのコンタクトに奉仕する立場にあることが必要です。皆さん方がお聞きのとおり、今までに多くのコンタクトがあり、本人たちは人々に講演をしました。私も講演をしました。そして今日コンタクトしていると称する人々によれば、宇宙人はいつも同じ古い話を伝えていきます。新しいものは何もありません！

「こんにちは。今から千年後にまた会いましょう」と言うだけのこと、宇宙人が人間にコンタクトすると思いませんか？ ノウ。彼らはこの宇宙が創造しているあらゆる個々の動きに対して、特に我々の太陽系と地球の動きに対して我々の眼を驚かさせるためにコンタクトをするのです。したがってコンタクトは続けられるべきです。私は毎年四、五回のコンタクトをしています。緊急時にはもっとコンタクトをしました。この世界では物事が急速に変化しています。今日という日は一年前の状態とは違います。物事は変化するので。原理は同じままで続きますが、その影響や応用は変化し続けます。地球へやって来る宇宙人がだれかを援助しようとしているのなら、いつも新しい情報を伝えるはずで。したがって人間は、だれが自分に真実を伝えているか、伝えていないかを、自分で判断できるはずで。

宇宙人は善良な人間を助けて悪人を大に食わせるために来たのではありません。そういう性質の目的で地球へ来るのではないのです。彼らは人間とコンタクトをするために来たのです。その大きな目的は純粹に科学的なもので、地球ばかりでなく太陽系までが変化しつつある実状を伝えることにあるのです。我々の太陽系は恐ろしい変化を起こしつつあり、それは地球自体よりもはるかに大きな変化でもありません。

す。それが我々地球人ばかりではなく、他の惑星の住民たちをも含む大変動になります。

つい先日、だれかが「地球は自転が遅れつつある。太陽系もそうだ」と言っているのを聞きました。科学で達成された成果に注目すれば、これは真実だということがわかります。しかしすべての科学者がこれに同意しているわけではありません。科学者が何かを発言すると私たちは言外の意味をくみ取る必要があります。これは彼らが論文で何かを発表すると、言外の真相をくみ取らねばならないのと同様です。昨年——ほぼ一年前のことですが——私が、ワシントンにいたとき、ラジオやテレビが市民の時計を夏時間に変えようと放送していました。そのとき地球は二十四時間ごとに一分間遅れているのだとも言っていました。これは遅れすぎです！一分間はあなたの方にとつていたことではありません。それ以来、太陽系は更に遅れているということになります。

機構は眼に見えないものです。人間を支えるものは、人間と人間のあいだに存在するこの眼に見えない力です。そこには狂気もなく、非実在なるものもありません。我々が感じてその内部で行動しているこの不可視の力を除いたとすれば、どれだけ生きられるでしょう。

イエスはまず「天」と言い、次に「そして地」と言って、「それらは過ぎ去るだろうが、私の言葉は永遠に滅びることはない」と述べています。天が存在しないとすれば、その言葉は永遠に「どこ」にあるのでしょうか？ イエスは次のようにも言っています。「新しい天と新しい地がとって代わるだろう」。したがって予言が実現するかもしれないのは、この面です。私は「かもしれない」と言います。また別な、純粹に科学的な面もあります。つまり、もっと急速に流れる生命の面を私たちに気づかせる面です。なぜなら、私たちはこの世界で、他のあらゆる物から孤立して生きており、この世界以外の他の場所へ肉体を持っては行けないと教えられてきたからです。しかし彼らは(UFOは)現場に現れています。他の人々が彼らについて何を教えようとも、彼らの姿かたちについて何を教えようとも——UFOは最重要事だと言われてきたのです。しかし彼ら宇宙人はみなさんと同様に人間なのです。

なぜスペース・ブラザーズは来るのか

彼らは地球人の知性に挑戦してきました。みんなが空中を見上げたり、ジェット機がUFOを追跡したり、飛行機が追いかけたり、初めから多数の人々が見たりするとき、地球の目撃者たちは人間の姿を見なかったでしょうが、その顔も見なかったでしょうが、何かの知性体がそれを操縦していることはわかっています。私たちの知性をはるかに超えたやり方で操縦していたからです。その結果、彼らは我々の知性に挑戦し、そのために私たちは一種の宇宙開発計画を持つことになりました。これは純粋に科学的なものです。この宇宙計画は二面を持っています。まず第一に、それは私たちをして、地球の彼方を考えさせます。第二に、それはこの文明を救うものにはかならないと考えられるのです。これは全く科学的なものです。たとえば、人間がヒューマニティーというものに対して、お金のために利用するのではなくて、それに本当に関心を持つならば、それから脱却できるでしょう。

あなた方は歴史をさかのぼれば大小の戦争は、世界の経済が破綻したために起こったという事実がわかるでしょう。米國が朝鮮戦争に介入したのは遠い昔ではありません。それは「経済の後退」と言われていました。今日、私

たちは、自由に与えられれば三十日でも私たちを絶滅させるような武器を手に入れています。私たちは現在の文明をはるかに超えていたアトランチスよりもっと危険な状態にあるのです。

私たちは長いあいだ冷戦を続けてきました。そしてあなた方が、神が与えてくれた心でもって推理するならば、もし冷戦がなかったならば、今頃は人間の大部分はどこで生きているかが、おわかりでしょう。どうしようもないでしょう。この疑問に対しては一つだけ解答があります。再び戦争があるということですから。今度は全人類が影響を受けるでしょう。私たちは世界の最優秀な人や最も冷静な人さえも、これらを信用すれば最後には必ず自暴自棄になって、間違ったボタンを押すかもしれません。私たちは最悪の状態にあるのです。自分で自分を救わない限り、だれも自分を救ってくれないのです。これは他人が自分に代わって食物を食べてくれて、しかも自分が満腹しないのと同様です。したがってあなた方を救ってやろうとしたり、それがどんなに美しいかを語ったりする人々を信用してはいけません。特にブラザーズと称する人がやって来て、あなたを救い出してくれると言う言葉を信用しないことです。こんな話には真実は全く存在しません。

私は一年間に五、六度コンタクトをしてきました。緊急時ともなればもっと

と彼らは度々私の家に来て話ししました。これはあなた方が気づく以上にはるかに重要なことです。そして真相は小さなかたちでも知られるでしょう。だから私は今日演壇にいます。来週土曜日に私は七十四歳になりますので隠退してもよいのですが、もう少し人々を援助して人々の眼を覚ませ、真実に気づかせることができると思えば、仕事を続けましょう。

この宇宙開発計画は、かつての戦争に協力させられた——させられなかった人もあるでしょうが——一千五百万の人々がすでにたずさわっています。もし私たちが現在前進している割合で前進し、発生している物事をもう少し認識し、次の二年間で理解力をもってそれを支持するならば、私たちはすべ

てがわかるでしょう。わが米国民のみならず、世界中の人々が宇宙開発に努力するでしょう。米海軍の艦船団を建造するには多年を要しました。宇宙船団を建造するにはもっと多年を要するでしょう。それが防衛、研究、輸送のいずれであっても、問題ではありません。あらゆる人々はその仕事にやとわれることになるでしょう。この宇宙船団は地球で建造される必要があります。私たちはその技術を持っていません。それはすでに宇宙人によって我々に与えられているのです。彼ら宇宙人は我々が彼らの道をたどれるように、そして貧弱な経済力で地球を破壊しな

いで、この文明を救えと警告を発するためにのみ来ているのです。私たちは他の太陽系がやるかもしれない事柄を知っています。私たちは我々の太陽系のみとコンタクトしています。まだまだ数百万の太陽系が宇宙に存在しています。もし我々が我々の太陽系から進出できるようになれば、他の太陽系からこちらの太陽系へやって来て、どれかの惑星に到達し、トラブルを起こすでしょう。彼らは必ずしも「天使」ではありません。地球人のすべてが天使でないのと同様です。

核爆発も彼らが来る理由

しかし宇宙人が来る別な理由もあります。我々が核戦争を始めるならば——という問題です。この世界には多くの過失がありますが、ここで一つだけ話しましょう。これはよく知られている聖アンデレの過失です。もし戦争が始まれば一日で一千発以上の爆弾が敵に落とされるでしょう。一千発以下では戦争とはいえません。人間が聖アンデレの過失に対比して一千発の核爆弾を落とすと地球は真つぶたに裂けるでしょう。もう地球は存在しないで自滅するでしょう。これは太陽系にも影響を及ぼすでしょう。太陽系として知られている我々の惑星系のみならず、あらゆる太陽系は完全なバランスを保っています。だからそれらはうまく運

行しているのです。もしこれらの小石（惑星群）の一つを軌道から叩き出したとすれば、アンバランスな状態となり、それは他の惑星群も粉々になることを意味します。これが最重要です。これが核爆弾が落とされた頃に宇宙人が来た理由です。核爆弾が開発された頃に――。彼らが戦争を中止させると

思われる唯一の時は最後の戦争になりそうな時です。もしあなたの方がナイフまたはありふれた武器を持って、街頭に出てケンカをしたければ、彼らは思いのままにケンカをさせるでしょう。彼ら自身の意志をケンカする本人に押しつけないでしょう。しかしこの地球に危険が生じているとすれば、警戒を

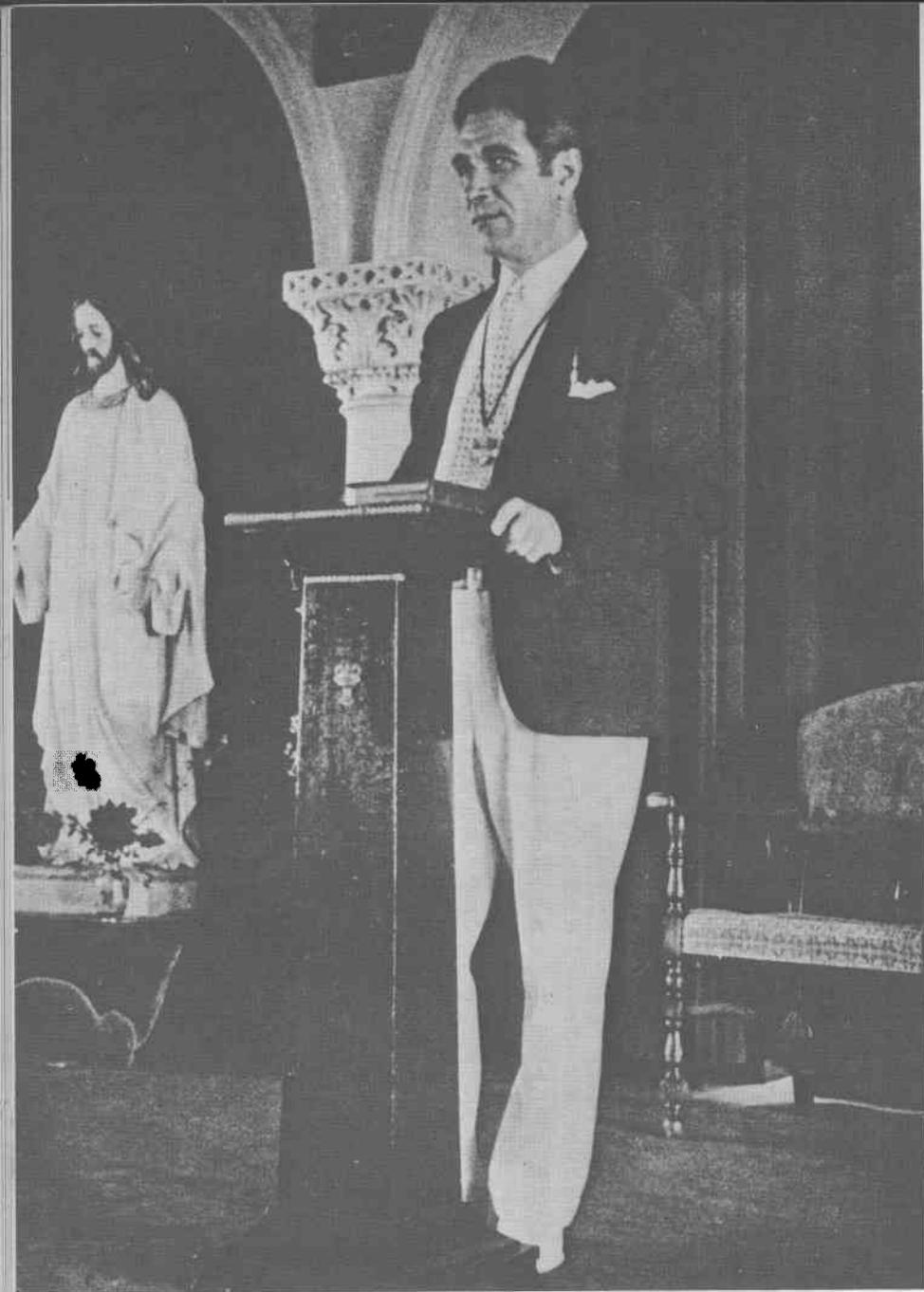
要します！ なぜなら、この地球が破壊されるといふことは彼らの惑星も破壊されることになるからです。ある場所からつかい棒を打ちはずしたら別な場所のバランスがくずれます。以上が、宇宙人が地球へやって来る真の主な理由です。他に理由はありません。あなた方は、私の書物「宇宙船

の内部」に述べられた哲学をご存知でしょうか。あなた方が、他人にお聞きになるように、私も彼らに尋ねました。「あなたがたは何を信ずるのですか？ どのような生活をしているのですか？」などです。そこで彼らは私に話してくれました。それで私にはいわば私たちの生き方、すなわち私たちの生活哲学と、彼らの言葉とを比較しました。しかし彼らは彼らの生き方を私たちが受け入れねばならないのだと言っていました。地球人の生き方を認めているのだとも言いませんでした。ただ彼らの哲学を私たちに残しただけです。彼らの哲学が私たちのものよりもすぐれていると私たちが思ったとしても、彼らは私たちに何も押しつけようとはしませんでした。私たちは彼らの生き方を採用し、地球上の私たちの運命を改善すればよいのです。

予言は実現するか？

今や私たちは、わずか三年前の別な状態に入っています。私たちの探知の結果ついに我々の太陽系は変化しつつあるということがわかりました。この太陽系ではあらゆる惑星が生命を持っているのです。二年前、または二年前々前、天文学者は太陽の極が変化したと伝えました。これは大変化です。それ以来、この変化は続いています。彼らの技術に等しくなるには百年を要す

●講演する若き日のアダムスキー



るかもしれないような地球人が現在持っている物よりもはるかにすぐれた宇宙人の装置は、恐怖すべき極端な変化を示しています。ですから、私が最初に話した予言を、それは実現させるかもしれない。しかしこのことは十日で起こるか、十分間後か、または一千万年後に起こるか、だれにもわかりません。したがって、それについて恐れる必要はありません。それで彼らが私に語ったところによりますと、もし危険が生じるならば、私に知らせるということです。彼らは自分たちの各種の装置を注意深く注視しているのです。

地球人は注目される価値はない

彼らはいつても宇宙空間にいますが、私たち地球人を注目しているわけではありません。地球人は見つめられるほどの価値はないのです。私たち地球人は注視されるほどの何を持っているというのでしょうか？ 彼ら宇宙人は太陽系全体を見つめているのです。私たちはこの地球というような一個の汚物の上に乗っているということを忘れてはいけません。あなた方は、その地球が動いていることや人間は今時速一千マイルで動いているということすら気づいていません。しかしあなた方が地球から離れて月面上から見るとすれば、地球の動きが太陽の動きのように見え

ます。そうですね、彼ら宇宙人は宇宙空間にいて、宇宙船に乗り、地球ばかりではなく、太陽系内に発生する現象を見るために、彼らの惑星群をも見つけているのです。これが彼らが見つけている目標なのです。

別な惑星系を発見！

その結果、彼らは別な太陽系内に新しい天と新しい地(惑星)を見つけてきました。これは我々の太陽系から遠くはありません。彼らはすでにその太陽系へ沢山の人々、すなわち志願者を輸送しています。もちろん最優秀な人々で、最低の人たちではありません。生き残ろうとする限り、人間の最高の発達段階から始めようとしているのです。彼らはこの地球からも人々をそこへ送っています。蒸発してしまつた人々のすべてが金星や火星へ行つたとは限りません。別な太陽系へ行つた人もあるのです。

以上が、今伝えられている情報です。これはテレパシーや霊媒現象で伝えられたものではありません。自分や世界のエゴを満足させがために、心中の印象を曲解しないほどの優秀な人々——私も含めて——私は知りません。何かの真実を把握する唯一の方法は、本人自身にコンタクトすることです。あなた方にもそれがやれるのです。それで、私は活動を地道にやってゆくこ

とができたことに対して当局に感謝してよいと思います。そして、いわゆるブラザーズを裏切りませんでした。彼らに従つたのです。少しばかり過失をおかしましたが、それだけです。その結果、私は彼らとコンタクトしているのです。これはテレパシーによるものではありません。ただし内奥の「印象」には従っています。しかし百パーセント印象に頼っているわけではありません。印象を受けた後、それに従って行動に移る前に、確信がもてない場合は、宇宙人に正しいかどうかを確認してもらい必要があるのです。だからそのような、だれかから来るメッセージの印象にだまされてはいけません。いまままでにこうしたメッセージを受けたという例がずいぶん沢山あり、不幸にして多数の家庭が理由もなく破壊されました、そして多くの人が狂言のために真実から分離されています。全世界がこのことを知らねばならないときに——。特定のグループの人々ばかりではなく、全世界の人が知らねばならないのです。

地球に三十億の人が住んでいます。いわゆる「選ばれたグループ」ばかりではなくカトリック、プロテスタント、ユダヤ、その他あらゆる人が、真理を知る権利をもっています。この選ばれたグループといつても、自分たちの目的を遂行しない限り、実際には宇宙の原理や創造主そのものにさえもそ

新発売!!
アルファトーン
バイオフィード
バック装置

アルファトーンを使わない精神統一は、鏡を使わないでお化粧するようなものです。

米国でヨガ、坐禅、超能力開発に効果をおげています。詳細は超科学七、八号(各三〇〇円・送共)参照

¥二九、五〇〇円
〒5000円



ESPカード……… ¥五〇〇円
〒140円

橋本電子研究所
鎌倉市小町一―一五―一七
☎ 0467(25) 3035

あなたの中に眠る超能力を引き出しすばらしい人生を送るための会

日本超科学会

会員は、右記の品一割引、毎月アルファトーン使用統一会実施

むくことになるのです。

彼らはすでに移動している

さて、みなさん。これはあなた方がお気づきになる以上に、はるかに重要です。これをもてあそんではなりません。あなた方が創造主に挑戦するとしても、あまり大きく考えすぎているのではないかと思います。私たちの太陽系がバランスを失って、危険が生じていることを彼ら宇宙人が発見している事実を考えてごらん下さい。彼ら惑星人は同胞たちを大規模に新しい太陽系へ移動させ始めようとしているのです！ 彼らは地球人を助けたいでしょう。彼らは多数の宇宙船を持っていますが、そのいずれも同胞を新しい太陽系へ運ぶのに必要とするでしょう。それが終了したあと、もし時間の余裕があれば、彼らは地球へやって来て、人種や信念の差別なしにあらゆる人を連れて行くかもしれません。地球人が人間である限り、彼らは人種問題などに気にしません。彼らはだれをも安全な場所へ連れて行くかもしれません。しかし、これは保証できないことです。私たちに今与えられている最上の保証は、地球人自身で宇宙船を建造することです。戦争目的のために作ったにしても、今は戦争がありませんので、大気圏外へ人工衛星を打ち上げるのに利用しています。だからそうした宇宙開

発技術は両道に應用できません。私がこうした講演のために沿岸から沿岸へ飛ぶ旅客機さえも、いつか戦争ともなれば兵員輸送に切り変えられます。一度、旅客機を作れば、そのように使えるのです。したがって我々にはそうする義務があります。それで、地球人はそうした宇宙船を作るべきであって、そうすれば必要な時が来たとき、宇宙人は地球へ知らせに来るでしょう。さもなければ彼らは来ないでしょうし、相手は地球人を観察するひまもなく、救出する宇宙船もないでしょう。これは全くの常識です。

だから宇宙開発計画は二通りに役立ちます。まず第一に、人々をこの仕事に従事させて戦争を回避できます。第二に、太陽系に危険が生じた場合、その宇宙船を利用して同胞を輸送できます。この計画は非常に建設的なもので、人間が二本のツノを持つとうが持つまいが、頭のまわりに後光があるうが私は気にしません。時が来れば、差別はなくなるでしょう。創造物のなかに差別を作り出した神または創造主というものを私は聞いたことがありません。

一人の青年が私に語りました。「私は地球を出て金星または他の惑星へ行きたい」と。そうですね。そう言う人が沢山います。しかし地球に住めないというようなことで、どうして他の惑星に住めるでしょう！ 人間は地

球での生き方を学ぶ必要があるのです。私の英語をお許し下さい。あなた方は私の話しぶりを好まないかもしれませんが私は自分で感じるとおりに話しているのです。今こそ私たちはどこかで竜巻が電光で奮い立たされ、眼覚めて常識に戻るべき時です。人間はあまりに長い間、眠っていたのです。地球上で隣人と共に暮らせない人が他の惑星で暮らせるわけがありません！ もし私が一惑星の長であるとすれば、この地球で暮らせないという人をそこへ行かせると思いませんか？ ノウ。まずこの地球で同胞と共に生きることが学びなさい。人間対人間として生きることが学びなさい。みんながそこで生きていくからです。

一体、何をやっているのだ！

私たち地球人は何をやっているのでしょうか？ 私たちは自分と同じような人が語る言葉聞き、それから家へ帰って、あとは何もありません。十八年間もミステリー（UFO問題）が続いてきたのに、進歩的な、何かをやっている人々は、それについて何も知らず、曲解し、問題を最悪の状態にしています。したがって今日だれもその問題を聞こうとせず、もうニオイを嗅ぐこともしません。それは今や悪臭を放っているのに――。

ここに最新の報告があります。これ

会員募集



日本GAP

UFOと宇宙哲学研究グループ

わが国UFO研究界の先駆者久保田八郎はジョージ・アダムスキー研究者としても著名であるが、1961年よりアダムスキー主宰の世界GAP（知らせる運動）組織の日本代表となり日本GAPを設立。以来あらゆる困難と障害を乗り越えてアダムスキーの特異な体験と宇宙的哲学の促進活動を展開してきた。機関紙「GAPニュースレター」はすでに60号まで発行。テレビ番組の講義と練習、研究発表などを行い、宇宙の法則と人間の真の生き方を探求。月例会終了後は夕食会を開催して会員の親睦を図る等、個人の奉仕活動として啓蒙運動を続行中である。真剣な探求者の参加を歓迎している。

不定期刊機関誌

「GAPニュースレター」

第59号残部僅少 第60号発行中

●本格的活版印刷・B5版・極上アート紙40頁 ●UFOに関連し他惑星における偉大な人類存在の認識と宇宙法則の探求専門誌
主要記事■晩鐘／連載スペース・ブラザーはなぜ来るのかG・アダムスキー／ルウ・チンシューク女史との会見記久保田八郎／シンボルマークの意義／その他有益な記事写真満載

入会希望者は50円切手と宛名明記返信用封筒を同封の上「UFOと宇宙」23号で見たと書き添えてまず案内書をお申し込み下さい。入会は高校生以上に限りません。非会員に機関誌の一冊売りはしません。

〒133東京都江戸川区一色町365-818 日本GAP(主宰) 久保田八郎

私がワシントン市にいた三月十五日のものです。それによると一年間に六百六十三回のUFO目撃が報告されたということですが、これは大変な数字です。これは空軍がそれを否定していないことを意味します。マスコミは必ずしも報道するとは限りません。

今回私がワシントン市へ着く前に——私は二月二十四日にカリフォルニアを出発して同じ日にワシントンへ着いたのですが——元の八ミリフィルムからコピーした十六ミリ・カラーフィルムをマデリン・ロドファーに送りました。それが空輸される一日前に、十五機のUFOが白昼ワシントン記念碑の周囲に目撃されました。そのフィルムがワシントン市でテレビで放映されたとき、その光景と同じようなフィルムがあったことをだれも知らず、驚いたのです。ロドファー夫人の夫はワシントン・ストリート病院で三千人の人を使用しています。彼女は人々や私たちがそのフィルムをまず政府の役人たちに見せたがっていることを知っていました。それで政府関係者と折衝する必要がありました。

彼女が下院議長のジョン・マコーミックと会見したとき、マコーミックは、「それを放映しなさい。我々はいつでも見れるが、とにかく今放映しなさい」と言ったのです。白昼ワシントン記念碑のまわりで十五機のUFOを見た人々、すなわち政府関係者やエンジ

ニアなどがスタジオへ招待されて、その映画を見たり意見を交換しました。ロドファー夫人がとったそのときの録音テープがあります。そして出席者たちは、記念碑のまわりで見たUFOはその映画に写されているものと同じだと言ったのです。それは今夜お見せしましょう。

ワシントン市上空にはもっと多くのUFOが出現するでしょうし、今年はまだますますふえるでしょう。私たちは出てが出現を願っているUFOは、私たちが一言終わるまでには出現するでしょう。私もロドファー夫人も大統領に手紙を出しました。大統領が私たちの手紙を受け取ったことは、わかっています。

私は団体を組織していません。私は団体の代表者ではありません。それは問題ではありません。私は個人活動家です。私の話を聞きたい人がいれば、どこへでも行ってだれとでも話します。団体というものはときどきゆがめられます。最初はいまよく出発しますが、ついには自分たちの促進活動のために墮落するのです。

それで私たちは活動に出かけて、映画フィルムを上映しましたが、これは政府関係機関のある一部門に多くの騒動を起こしました。それは空軍です。宇宙問題委員会も映画を見たがりましたので、私が到着する前にマデリンがそれを見せました。それ以来、要求に

本格的UFO研究団体

日本宇宙現象研究会

JSPS三大機関誌

研究誌 未確認飛行物体

日本UFO研究の粹ここに在り。調査・探求・本格的解析……充実した内容でUFO現象の本質にせまるナリ。研究誌。UFO研究者必読の重要論文多数掲載。
●B5版、通常50ページ前後、高級オフセット印刷、図版、写真多数掲載。年2〜3回刊、現在6号まで刊行。1500部限定、非売品（会員配布）

情報誌 JSPS's UFO Information

もうマスコミにたよってはいられない。早く詳しい正確な情報を求めたい。現地に調査を本旨とするナリ。情報誌。UFO研究の正しい情報から。
●B5版、通常8ページ、高級オフセット印刷、図版、写真多数掲載。8月創刊以来月刊ペースで現在6号まで刊行中。1500部限定、非売品（会員配布）

英文誌 Japan UFO Information

ここ数年の間休刊していた英文誌が、装いも新たに復刊。現地調査に基づく確実な情報のみをよりよく世界に報道する待望の新会誌。（近日創刊）
●本誌のみ会員外の方にもおわけします。入手法の詳細は後日発表。

当会はUFOに興味関心をお持ちの方なら、男女年齢等別なく、誰でも入会できる。研究会、講演会等への招待など多数の特典があります。（誌への投稿も可能）
●入会金 500円（マーク入り会員証交付）
●入会費 1期2000円（誌代差引制、約1年分）
●入会費 希望の方は、住所氏名を明記の上、入金お喜び添えて、振替、書留等でお申し込み下さい。

〒150 東京都渋谷区神山町5-2

日本宇宙現象研究会

振替：東京6-128740（当会は非営利団体です）

こたえて何度も上映されています。私は月曜日にワシントンへ引き返します。言い換えれば、地球には宇宙人が来ているという事実を一言いする必要がありません。なぜなら、私たちがすでに知っている事柄の中に、多くの情報があるからで、私は、戦争になった場合には防衛に活用できるような情報を各種の政府機関に伝えてきました。防衛以外の他の面で何があるかは私たちにわかりません。したがって、私たちは世界が平和になったと確信できるまでは、その情報が外部に洩れないことを望んでいます。宇宙人さえ、そんな話し方はいけません。

今年私たちは、今そこに人々の否定できない何かがあるという事実を証明するフィルムを持って活動しています。そして現時点では洩らすわけにはゆかない他の方法も考えていますが、私たちはすでに活動に入っており、結局、もっと多くの活動が行われるでしょう。今、次のように言っています。世界のあるあらゆるUFO研究グループがやってきたよりも、はるかに大きなスケールで物事を首尾よくやりとげる人が七人ばかりいます。この七人のいずれも団体には加わらず、真理のために活動しています。今年末までには何かがあるでしょう。次の二年間には確実にあるでしょう。ある情報が与えられるでしょう。これはでたらめな話ではありません。

訳／久保田八郎

ついに発生した!! アダムスキーを継ぐ 真実のコンタクト!!

最新発売中

宇宙の友人たち

ブラザーズ・シスターズとの会見手記と生命の真理



著者 古山晴久

七年前渡米後、アダムスキーの活動を引き継ぐグループに合流し、幾多のUFO目撃と宇宙人とのコンタクトを体験した。

それがいま、日本で初めて公表される!!

「……アダムスキー氏の話では、彼は少年の頃に地球体でおもいきりだきしめた……彼は私を見るなり、大きなときよく訪れた事を語りはじめた……コーヒーを飲みながら、「彼女はスラリとした体格で、均斉が整っており、美しいビーナスのような感じだ……ときどき会合にやってくる金星から来た人である」——第一部より

850円 (送料160円)

著者が撮影した円盤など写真と図31枚掲載
推薦序文：韭沢潤一郎

- 第一部：宇宙の友人たちに会うまで
- 第二部：アダムスキーが残したもの
- 第三部：宇宙的進化の原理

絶賛発売中

PSI(超常現象)HANDBOOK
実験四次元科学

上・下巻 各1300円
送料160円

超能力ブームの引き金となった『ソ連圏の四次元科学』の名コンビ S・オストランダー L・シュロウダー共著
関英男推薦序文 照洲みのる・森島三郎各訳
上巻 植物編・エネルギー編・テレパシー編
下巻 念力編・霊界ラジオ編・資料編

エドガー・ケイシー秘密シリーズ

転生の秘密 1300円
〒160

2500件の生まれ変わりの実例

超能力の秘密 1200円
〒160

超能力開発の原理と実践法の解明

夢予知の秘密 1300円
〒160

夢による未来予知と霊性の開発法

アダムスキーの

宇宙哲学

宇宙人の高度惑星文明の真相 久保田八郎訳 750円
〒120

応用心霊学入門

直感による自覚と人生の根本 横山公実著 1300円
〒160

聖癒人はそれを

科学が救えぬ難病を快癒する 夏村輝彦著 680円
〒160

宇宙文明の夜あけ

惑星人とのテレパシー交信記 高橋田一著 950円
〒160

UFOは第二の黒船だ

マイナス科学による地球救済 坂本ツトム 680円
〒120

たま出版

162 東京都新宿区納戸町33 電話03-260-4367 振替 東京3-94804

絶賛発売中!

定価 **1300**円
(〒160)

● 空飛ぶ円盤は実在する! 遠い惑星から、偉大な進化をとげた人類が、大宇宙船を駆つて地球の救援に飛来……壮大な宇宙空間の大スペクタクルと驚異的事実をつたえた本書は、まさに20世紀最大のドキュメントだ!

宇宙からの訪問者

米ジョージ・アダムスキー財団より翻訳合本出版権獲得!



ジョージ・アダムスキー / 著

久保田 八郎 / 訳

● 「空飛ぶ円盤実見記」「空飛ぶ円盤同乗記」として名高い二点の記録書をアダムスキー研究者として著名な久保田八郎が流麗平易な訳文により全面的に改訳、「実見記」のうちアダムスキーの手記と「同乗記」全文を合本として事件の理解を容易ならしめ、また未発表写真を含め50点以上の写真・図解を一挙掲載した決定版である!

ユニバース出版社

〒110 東京都台東区上野5-1-6 ヤマトビル
☎832-1341~44 振替・東京1-119478

●書店にない場合は直接小社営業部までご注文ください。

B6判 272頁
定価750円
送料160円

私は円盤に乗った!

● 驚異のホワイトサンズ事件 グニエル・フライ / 著 久保田八郎 / 訳

1950年7月4日夜、米ニューメキシコ州ホワイトサンズのロケット実験場に突如一機の円盤が着陸し、内部から響く不思議な声に誘われて乗り込んだ科学者フライは、ニューヨーク上空までを30分間で往復する! その間、円盤の推進法や宇宙人の故郷と超絶した科学、哀れな地球の現状等を知らされるというこの驚異の物語は「UFOと宇宙」第2号に掲載され当時の読者を熱狂せしめたが、いま新装なった単行本として同著者によるすばらしい関連記事三篇をあわせ収録しあらためて読者に贈る! UFO研究者必読の書。



付 ■ 宇宙人アランのメッセージ / 進歩の曲がり道 / 原子・銀河系・理解

ユニバース出版社

〒110 東京都台東区上野5-1-6 ヤマトビル
電話(832) 1341~1344 振替・東京1-119478

●書店にない場合は直接小社営業部までご注文ください。

声

投稿歓迎！編集部「声」係宛
匿名可（但し、住所、本名明記のこと）



まえだみおこ（画）青森県十和田市

いのちの貴さ、健康で
あることのすばらしさ
私は地球が大好きです
佐藤 龍（21）

〒985 宮城県塩釜市山ノ寺10-1

「若きいのちの日記」（大島みちる）、
「生命ある日に」（塩瀬信子）を読
みました。健康であることの貴さを
初めて実感として知らされました。
彼女たちはきつと宇宙の真理を知っ
ていたに違いないと思います。

私にとって、地球以外にも容姿は
異なっても同じような人間が存在す
ることを確信することは、目の前に
置いてある赤いリングを認めるのと
同じくらい当然のことでした。ア
ダムスキーが宇宙から自己に視点を移
したのも至極当然でしょう。もち
ろん思考の根底には宇宙の巨視的認識
を持ちます。
朝も早く、まだ暗い松島の海に突
き出た岩の上に立つ。やがて大きな
真赤な太陽が姿を現わす。ふっと足
もとを見る。手のひらくらいの魚
が泳いでいる。

その印象は私の胸を熱くする。思
わず美しいと叫ぶ。私は地球が大好
きです。泣いているあなた、うつむ
いているあなた、どうぞ笑ってくだ
さい、私のために……。

本誌19号掲載、文平英 樹さんの意見にひとこ と。

小川 智章

〒125 東京都葛飾区水元小台町
175-8

Na.19の文平英樹さんへのちよつと
した、しかし重大な反論。

そりゃあNa.17の写真は確かにショ
ッキングでした。しかし、そのショ
ックはこの写真が本物であったとき
はじめてうけるべきものです。つま
り、われわれUFO研究者を自認す
るものであるならば、まずこの写真
が本物かどうかの判断を下すことが
第一です。それをしないでただ驚く
ばかりでは何ら進歩がないばかり
か、一般の人々と変わらぬのではあ
りませんか。
ではこの写真は本物でしょうか。

この画面の中の人物の体は光と影と
ではっきり分かれて見えます。その影
は後方の光体に照らされてきたも
ののようにも見えます。ところが、
その人物の地面の影をよくみて下さ
い。

もしこの影が後の光体によるもの
ならば影はもう少し短く手前にこな
ければならないと思いませんか。ま
た、画面中央の石を見て下さい。こ
の影は明らかに後の光体とは別の光
体があることを示すのです。

それはおそろしく太陽でしょう。そ
してこの光体による影がこの石にで
きるとすれば、それは写真の下の方
向、つまりカメラからみてもっと手
前の方向になるはずですが、それが他
のどの石をとっても認められないと
いうことは、明らかにこの後方の光
体はなかった、あとからつけ加えら
れたものであるということを示して
いると思います。

このような写真では、影が二つで
きるはずなのに一つしかないという
ことに注目して、もう一度じっくり
検討してみして下さい。全国のみな
さん、よろしく。

本誌を飾ったUFO写
真はトリックか、ファ
ンのためにも真相を！
山本孝一（26）

〒603 京都市北区上賀茂南大路
町50

本誌No.21のスイスでの鮮明なUFO
O写真にはまったく驚きました。あ
の写真が本物なら、あれ一枚でUFO
Oの存在がはっきり証明されるわけ
ですが、ただあまりにも見事すぎて
ぼく自身、トリックでは……と思う
ほどです。

トリックといえば、いままでも本誌
の表紙や口絵を飾ったUFOO写真が
トリックではないかと騒がれている
ようですが、真相はどうなのか調査
する責任があると思います。もし
ても、もしトリックならば、はっきり
とその旨をのせるべきですし、逆の
場合も同様です。

とにかく本誌は、わが国唯一の空
飛ぶ円盤専門誌なのです。大い
に権威をもっていたきたい、変な
ことでいい加減な雑誌だと評判を落
としたりしないでほしいのです。

また、Na.21の「声」に、岩手県の
工藤氏が「無料で譲って下さい」と
いう人が多しという意見には、ま
ったく同感です。たとえ一枚の小さな
切り抜きにしても、ファンやマニア
にとっては貴重な資料です。年の若
い読者が多く、それも無理もないと
思うのですが、世界一般の常識から
するとやはり自分勝手すぎるのでは
ないでしょうか。

UFOOという常識では考えられな
いことに思いをめぐらすには、一般
の人以上に常識が必要で、UFOO
マニアである前に常識人であれ、と
いいたいです。

本誌とエニグマ、単行
本を図書館に寄贈、お
おせい読んでね。
大野美智子

〒125 東京都葛飾区東金町2-1
10-8-8

水爆実験のとき、緑色の火球がき
の雲の間に飛び放射能を吸収し
ていたではないか（本誌No.18）とい
うことを読み、また、清家新一氏の
ように現実的に援助を与えられた科
学者もいるということ、アダムスキ
ー等を通して「真実の生き方」を伝
えられたことなど考えると、地球人
を向上へと導いている地球人類は
当然感謝されてしかるべきなのに、
その存在さえ信じない人が多いのは
嘆かわしいことだと思えます。ちょ
うど子供が、親の大きな恩恵を受け
ながら、それを感ぜないのと同じで
はないでしょうか。

「声」に「地球のことは自力で」と
よく書かれています。もし地球に
大変動や大戦争が起こったとき、地
球上の人類全員を救うことができる
のは、科学技術が驚異的に進歩する
ことか、各国政府が冷戦に終止符を
打つことかと思えます。そのために
微力ながら自分のできることを実行
しようと考えています。この間、私
の住んでいる区の公立図書館に、
「宇宙からの訪問者」等の書物2冊
本誌とエニグマ各1冊を寄贈したと
ころ、館長さんが受け入れて下さり
うれしく思いました。

それから、この投書を出そうか出
すまいか非常に迷っているとき、U
FOOの長距離低空飛行を見て、何だ
か励まされたような気がしたので出
すことにしました。今までにも何度
か見ましたが、このときほどUFOO

を身近に感じたことはありません。

古代文明の示唆をくみとることに、未来への暗示がある

稲庭 実(28)

〒955 新潟県三条市四日町18-1

本誌の愛読者は、何とまあ若年層が多いとか、一般社会人や知識人は一体何をしているのか、何ともはがゆい気がしてなりません。概してきびしい生活の中で現実直視を強いられているといえはそれまでだが、一面にはNo.19で小浪君が指摘する「科学信仰」が底流にあることも事実でしょう。しかし、その科学も絶対優位を得たのはごく最近のことです。科学的思考法は遠くギリシア時代に始まるにしても、勝利までの道は遠く長い宗教ドグマの重圧下にあったわけですね。科学は確かに魔法や占いや祈りより正確で裏切りはないのですから、価値は十分にあるといえるかも知れません。が、科学とは一体何なのか、もう一度対処してみることが必要だと思えます。

ところで、No.18の「声」を見ると、古代文明とUFOとの関連性に興味を抱いている人が案外多いので驚きました。私も過去と未来、先史・古代文明と、これからくる未来文明とが、まったく無関係なものではないと堅く信じます。過去の世界をのぞくだけなら未来はありません。古代人の理念や情念、そして遺跡や遺物の示唆する何かを冷静にくみとることは、そこに大切な未来への暗示があるはずで、古代は決して隔絶した遠い無縁の世界ではなく、人類という大きな個人の貴重な経験といえると思います。私たちは遠い人類の歩

みを歴史の中に捉えるとともに、その中に本當の姿を見出さなければなりません。ホガールの白い巨人に、お前は誰か？、パールベックの石に魔法をかけたのは誰か？、インカの石をどうやって溶かしたか？、を問わなくてはならないのです。

No.18の飯島君の意見の中でピラコチャという名が出てきますが、これはインカ帝国時代に創造神として崇められた神で、おもしろいことにこれがマヤ文明ではクルカンと呼ばれ、トルテカ及びアステカ文明ではケツアルコアトルと呼ばれていました。半ば伝説的で実在したかどうかは確認はしないにしても、まったく離れた場所でも同じ伝説があるという事実からみて、おそらく何か大きな影響を与えたことは確かでしょう。モルモン教ではこれをキリストの渡来としているようですが、皆様はどうお考えになるでしょうか。

UFOを信じないけど、地球救済を信ずるから？

吉田嘉子(15)

〒602 京都市上京区智慧光院通り今出川上ル桜井町104

本誌No.20の千田孝一君へ。小学生のころからあのようになむすかしいことに取り組むのは、とてもよいことだと思えます。でも、UFOに対してへんな解釈だけはしないで下さいね。さて、あなたに一つ質問です。あなたがあなたのお兄さんにUFOを、ハカにされたとき、「UFOをハカにすることあとで困るぞ」と思ったというのですが、なぜ困ると思ったのですか。私の意見をいわせてもらえば、あなたもUFOが地球救済にくるのを信じているからでしょうか。

●この太陽系外から

UFOは宇宙のある惑星、漠然としてはいるが少なくとも太陽系外の天体から飛来すると思われる。この最も目撃報告の多い小人型宇宙人の活動であるすなわち、その容姿、動作から彼らの住む惑星は地球と異なる環境であることが想像できる。つまり、重力、大気、温度等の違いである。それは非常に発達した頭部とそれを支えるに足らずに貧弱な手足、白っぽい皮膚、呼吸を必要としないような小さな口、ロボットのようなきこちない歩き方からある程度推測されよう。また、土壌や動植物を採取したり、車を追跡する行動も別世界の人間の作業としか思えず、何か外宇宙的である。我々はまだ火星の表面の土をひつかけているにすぎないが、宇宙機を完成させた彼らにとつては、近距離の天体の開拓は終了し、調査の段階が外宇宙の領域に入ったのであろう。

伊藤重信(北海道札幌市)

ぼくかなりの感想を書こうと思えます。読んでください。

奇怪な飛び方で飛来するUFO。はたしてUFOに乗って来るのは宇宙人達なのではないでしょうか。ぼくの考えはここから始まりました。次に述べたのは選んだのです。これを読まれる方の中にはあまりの荒唐無稽さに、ハカバカしくなると思われるかも知れません。しかし、これはひ

とつての仮説ですから。

今から約2万年から1万2千年前に高度な文明をもった人々、むろん地球人ですが、当時の天変地異や対外戦争などによって大半の人々が死滅した。しかし、一部の人は宇宙へのがれ、火星や金星の上空に逃がれ、科学力をフルに活用してUFOや長寿命を得る方法を開発した。そして現在に至るまで地

UFOはどこから来るのか

大反正美 松井清正 倉橋 隆
●この太陽系内の他惑星から
わが太陽系内の他惑星の人々がUFOに乗って飛来していると思えます。G・アダムスキーの説によると、他惑星の環境は私たちの地球とほぼ同じだといふことです。この説はNASAの発表と全く異なりますが、その理由は、ニセの情報と知らないNASAなどが、そのまま発表しているからだと思えます。それは人為的操作によるものと思えます。つまり、宇宙人たちによる人為的操作なのです。それではなぜ彼らはこんなことをするのか。真実の情報を流せば、現在の地球の状態下では、あらゆる面で混乱状態におちいることが避けられないからです。

中村裕彦(山梨県東八代郡)

●同意見の人たち 伊達利彦 渡辺桂三 市川比呂志

●異次元から

UFOは四次元の世界から来るのではなからうか。金星や火星には美しい町があつてそこには美しい人が住んでいるとアダムスキーは言うが、三次元の金星や火星、とても人の住める環境じゃない。僕は宇宙人は四次元の生き物であり、四次元の宇宙からきた存在だと思ふ。UFOを写真に撮った人達には「偶然に写っていた」と言う人が多

●同意見の人たち 玉井久史 竹房明洋 平野泰敏 伊藤輝男 岩本 孝 高田育宏

よく、「UFOは地球の救済にくる……というのはいちがいで」という意見を見かけますが、私はそうは思いません。とにかく、どうして困るのかあなたの意見を聞かせて下さい。

それから皆さんにお願い。本誌No.6の「エドガー・ケイシーの予言による世界の変動」「地球自転速度が急変(天空と大地科学シリーズ4)」、No.1-7までの科学トビックス、以上のコピーをお譲り下さい。コピー代はお払いいたします。

ぼくの推理によると、地球人の祖先は好戦的な火星人

森三樹二(20)
〒591 大阪府堺市北長尾三十二
一 桜井方

UFO、それは現在においては、もう存在する、しないという段階ではない。なぜならば、UFOは実在するものだからである。ぼく自身も見たことがあるし。それについて小説的「仮説を述べてみたいと思う。一億年ほど昔、火星と木星の間に惑星があった。それをZ星とする。Z星人は火星人に対して好戦的で、幾度も戦いを繰返していた。ある日、火星人は無意味な戦いを終わらせるために、Z星に惑星破壊装置を秘密のうちに送り込んだ。Z星は爆発しその余波を受けて火星も破壊し多くの火星人が死んだ。そこで金星を中心とした宇宙平和連盟は生き残った火星人を地球へ送り住みやすいように恐竜を全滅させた。火星人は自らの罪を悔い、あらゆる科学文明をすて自然に戻り、原始生活を始めたが、長い年月がたつにつれ、彼らの子孫は失われた科学、文明を

取り戻し、そしてついに月や火星にまで人類を送り込む。好戦的野蛮な地球人がこのまま発達すれば、金星や他の惑星を侵略し滅ぼすのを目に見えている。それを恐れた宇宙平和連盟はあらゆる自然の力によって彼らを滅ぼした。だが、ここでも生き残った人達がいた。彼らの子孫もまた好戦的で無知であったため滅ぼされ、また生き残り……こうして何度も同じ失敗を繰返し、そして今また地球人は滅ぼされようとしている。UFOに乗った宇宙平和連盟の使者がわれわれの目の前に現れるのはそう遠くないはずである。彼らが現れる時は人類の文明の終わりであり、また始まりでもある。

彼らはいく「自然を破壊し、利己主義的で殺し合いを平気で繰返す愚かなる地球人め!」なぞ目をさまそうとしないんだ!」と。以上は、あくまでも個人的空想であり推理である。このくだらない話について感想や反論をお待ちしています。

先入観を捨てた研究態度こそ、真の科学派になりえる

熊谷 要
〒101 31 青森県上北郡野辺地町字笹館22

本誌No.20「声」の三谷秀一さんは「科学派」という意味をとり違えておられるようです。三谷さんのいう科学派とは、アダムスキー否定論者のことだと思えますが、真の科学派とは、何もアダムスキーを頭から否定しているわけではないのです。もちろん科学派は、最近のアダムスキー型円盤写真のほとんどはトリ

ンしているときに偶然写ったということになりはしないでしょう。宇宙全体にも四次元と三次元に通ずる空間があり、それと多重世界とが複合している地域が沢山あると想像。パミニューダ海域もその一つだろう。これを根拠にUFOを調査し、ハッキリしたものをつかみたい。杉山孝太郎(北海道苫小牧市)

変化がみられない。もしUFOが限られた他惑星のものであったとするならば、その生命体の文明は数千年を経てもなおほとんど変化していないと言わなければならない。そのようなことがあるだろうか? ;我々人類の進歩でさえも加速度的に進んでいる。UFOがタイム・マシンならば、同じものが全く時間を異にした時代に現れても不思議ではないだろう。山崎 修(新潟県新潟市)



●版上清久(画)茨城県土浦市

師オラフの見た世界など夢物語などと、バカにできない。地球内部の世界、そこには私たちが、UFOと呼ぶ飛行物体が存在するというはありませんか。渡辺吉勝(栃木県黒磯市)

●この他の意見をもつ人たち
村井一真 香川雅生 子安克己
斉藤真基 中山元 土橋慶太郎

●わからない
どこから来るのか、その真実はわからないことである。今、地球のどこかを飛んでいるUFOがどこかの地点から来ていることはたしかである。ひょっとすると地球なのかもしれない。同乗しているのは、もちろん人間である。しかし、そんな可能性があるのだろうか。どうしてもぼくには肯定できない。結局どこから来るのか。この質問の正解はわからないのである。今、ぼくの頭にある解答は、この質問について考えることとのムダなことと、あえて答えば、人間の考えもおよばないところから来ているような気がするところである。

●同意見の人たち
増田忠幸(兵庫県加西市)
伊東辰昭 下山浩之

●未来の地球から
結論から先に言おう「UFOは我々人類の子孫であろうと考える。未来の地球から、或いは未来に於いて他の星へ移住した子孫たちが眼前に現れているのである。つまりタイム・トラベルによって」

●その他
エッサ7号が撮影した北極中心の
写真には、中央に
九い穴がはつきり
写っており、パー
ド少将の体験やエ
マソンの「煙」の
神」に登場する漁

UFOの飛来目的は何か

今回は全国のみならず多数のご意見をいたいただきました。次回は右記のテーマを設けましたの丸い穴がはつきり、ご意見をお寄せください。お寄せいただきました写っており、パーシッド少将の体験やエマソンの「煙」の神」に登場する漁師オラフの見た世界など夢物語などと、バカにできない。地球内部の世界、そこには私たちが、UFOと呼ぶ飛行物体が存在するというはありませんか。渡辺吉勝(栃木県黒磯市) ●この他の意見をもつ人たち 村井一真 香川雅生 子安克己 斉藤真基 中山元 土橋慶太郎 ●わからない どこから来るのか、その真実はわからないことである。今、地球のどこかを飛んでいるUFOがどこかの地点から来ていることはたしかである。ひょっとすると地球なのかもしれない。同乗しているのは、もちろん人間である。しかし、そんな可能性があるのだろうか。どうしてもぼくには肯定できない。結局どこから来るのか。この質問の正解はわからないのである。今、ぼくの頭にある解答は、この質問について考えることとのムダなことと、あえて答えば、人間の考えもおよばないところから来ているような気がするところである。 ●同意見の人たち 増田忠幸(兵庫県加西市) 伊東辰昭 下山浩之 ●未来の地球から 結論から先に言おう「UFOは我々人類の子孫であろうと考える。未来の地球から、或いは未来に於いて他の星へ移住した子孫たちが眼前に現れているのである。つまりタイム・トラベルによって」 エジプトの地に文明の陽が射して以来五千年。すでにUFOはそれ以前から訪れている。ところが、その形状にはほとんど

ックであるとの結論を出しています
が、三谷さんはそれに反発なさって
いるのでしょうか。

科学派はアダムスキーを否定して
いるから、アダムスキー型円盤の写
真をトリックだときめつけているの
ではなく、他の写真同様、厳正な研
究、鑑定の結果トリックであると断
定しているのです。アダムスキー型
だけ特別扱っているわけではないの
です。もつとも、がむしゃらにアダ
ムスキーを否定している研究者もい
ますが、この人たちは真の科学派と
はいわないのです。

先入観を捨てた厳正な態度―それ
が真の科学派なのです。一般にアダ
ムスキーを肯定している人たちはコ
ンタクト派、あるいはアダムスキー
派と呼び、否定している人たちは厳
正派、あるいは科学派などと呼んで
いるようですが、これには大変困り
ます。科学的態度というものを誤っ
て覚えられてしまうのです。アダム
スキー肯定論者にも否定論者にも、
真の意味での科学的態度というのは
あてはまると思いません。

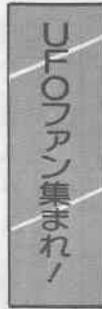
しかし、最近の肯定論者はトリッ
ク写真まで信じ込んで、無理に主張
しようとしているように見えます。
だから否定論者や科学派から、非科
学的だと攻撃されるのです。私人
としては否定論者ですが、肯定論者
と対立しようと思いません、非難、攻
撃しようと思いません。

今後もアダムスキー型円盤写真は
撮られたときは、あくまでも一枚の
UFO写真として厳正に研究する。
これが真の科学的態度であり、科学
派なのです。肯定派の皆さん、アダ
ムスキー型をはじめとする各種UFO
写真を次々にトリックだと立証す
る科学派を非難せず、アダムスキー
をますます疑わしくするトリック写

真製作者を非難すべきです。真の科
学的態度には、肯定も否定も関係な
いのです。

それからもう一つ、No.20の匿名氏
旧ユーロジストクラブを疑惑の目
で見ているようですが、私が旧会員
のとき、休会時にはバックナンバー
を送ってもらいましたし、他の会員
にも同じような措置がとられたはず
だと思えます。あなたの投稿は旧ク
ラブ及び平野氏に対して大変失礼に
当たると同時に、新ユーロジスト
クラブに対しても大変迷惑です。無
責任な投稿は困ります。

では、意見、感想、反論をお待ち
しています。



私 は地方から東京に出てきて、毎
日子供を相手に忙しく動きまわ
っているUFOファンです。いまだ
説明されぬ自然のさまざまな謎：
ひまさえあれば望遠鏡をのぞき空を
眺めて2年、流れ星や何かわからな
い流星のようなものは数回見いま
すが、はつきりUFOとわかるもの
を目撃したことはありません。子供
たちにも空のすばらしさやUFOの
話をしています。近いうちに本物
目にするこがあるだろうと信じな
がら今日も空を眺めている私です。
「UFOよ現れて……!」と。

蛭名美智子
(〒105 中野区鷺宮5-1-9 3 鷺
宮寮)

宇宙のことで何かやろうと思っ
ていている人このマークを見て何か
感じた人、必ず連絡下さい。
斎藤庄一 (15)

(〒116 東京都荒川区西日暮里2-
48-17)

キ リスト教の悪魔のामीとブエ
ルは、ぼくは昔の人が見たUFO
Oだったと思うんです。

古代、光のたまのようなUFOは
地球に飛来し、UFOの人たちは人々
に宇宙の知識や科学、医学を教えた
のだと思えます。しかし、その光や
当時の宗教の違い、放射能のために
農作物が荒されたたりしてUFOは悪
魔として伝えられたのではないでし
ょうか。

話かわって、昭和40年8月、長野
県皆神山の群発地震のとき、怪光現
象をカラー写真に撮
った本があるはずで
すが、発行社名、本
の名をご存知の方、本
をひ教えて下さい。

また、中1、2の
方ので地震やUFOに
ついて語り合えるベ
ンフレンドを募りま
す。ご連絡下さい。

高橋 徹 (14)
(〒983 仙台市原町
5丁目13-35)

本 誌とのつきあひもまだ浅い私で
すが、一般には興味本位だった
り白眼視されかねない「UFO現象」
なるものをまともに取り上げ、世に
問う貴誌の存在は価値あるものと信
じています。

さて、私のUFO体験はという
やつと3回ですが、いずれも「火球
であった」としかいようがなく貧
弱きわまりないのです。ただ、ふつ
うの火の玉は気味悪く怖いという印
象が強いのですが、私がUFOかも
しれないと思った火の玉は、夜であ

ったにもかかわらず、まったく恐怖
心を起こさせませんでした。
それでは皆さん、UFOに魅かれ
憧れ、愛する真情を見失うことな
ごきげんよう。

土居和子 (27)
(〒708-13 岡山県勝田郡奈義町荒
内西1)

日 本GAP会員の方で、関西地区
での月例研究会に出席されてい
る方、話の内容を教えてください。私
も会員ですが、仕事の都合で出席
できませんので、連絡していただ
きませぬので、連絡して下さい。こ
ちらからの電
話連絡でも結構です。

うちの子
科学者にするよ



●阪上清久(画)茨城県土浦市

黒田秀実
(〒590-01 大阪府堺市竹城台2丁
目1番1-203号)

私 たちの会はUFOのことや心霊
学について、また占星術、超能
力について研究している超常現象研
究会です。現在会員は30名ですが、
実際に活動できる方の入会を希望し
ています。対象は中学3年生で男女は問
いませんが、進学、就職に関係なく
活動可能な方、それに近県の方がい
いと思います。連絡をお待ちします。
太田直樹

(〒444 愛知県岡崎市宇頭町字後久

(61)

いは日本のすべてのUFO研
究団体を一本化する必要がある
と思いますが、取りあえず、高校生
UFO研究会同士で資料交換をする
というのはいかがでしょうか。

そこで、私に、情報交換の中継を
やらせていただきたいと思えます。
案としては、一つは各校からの情報
を冊子にして発行する方法と、もう
一つは各校からの情報内容について
リストを作り、そこから入用のもの
を選んではいただいでコピーを送る
という方法です。その他、何でも結
構ですからご意見をお寄せ下さい。

詳しいことは各校グループから
ご意見を聞いてから決めたいと思
います(返信用切手同封して下さい)。
一本化が実現すれば、文化祭など
でも全国共通のアンケートをとる
正確な資料を得ることができま
す。

中井英二
(〒602 京都市上京区寺ノ内新町西
入)

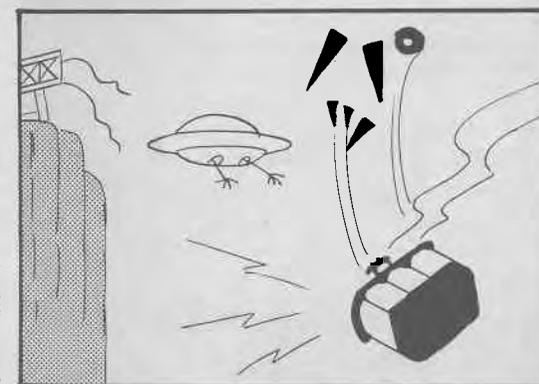
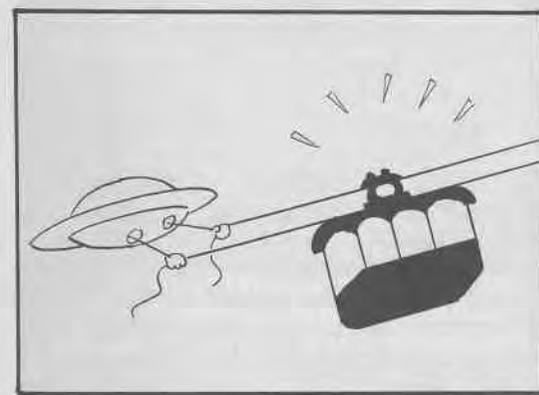
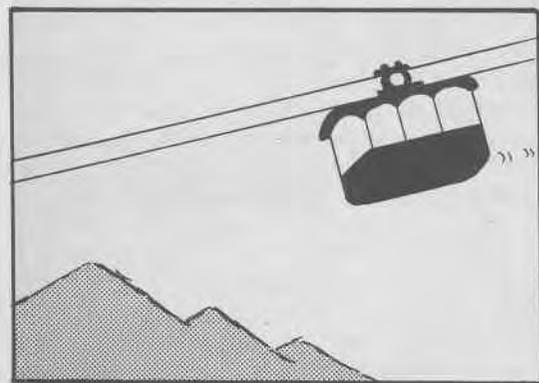
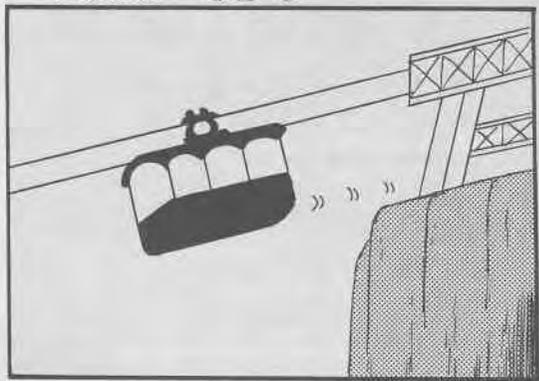
ほ くもUFOやアダムスキーの宇
宙哲学に心を奪われた一人です
が「聖書」や「竹取物語」などにも
注目すべき箇所を発見し、ますます
UFOへの関心は深まるばかりで
す。宇宙やUFO現象、聖書などに
興味をお持ちの方、もちろん女の子
も、お手紙下さい。また、アダム
スキーの宇宙哲学についての良書が
あったら教えて下さい。

岡垣琢也 (13)
(〒620 京都府福知山市南小谷ヶ丘
1652-1)

ほ くは今、UFOに夢中です。5
年前に二度UFOを目撃したの
です。その後も光点のようなもの

Viva! UFO

おかのきんや



何度か目撃しました。最近アルバムの中からUFOらしき(ハマキ形)ものの写真を発見しました。

ぼくはUFOが実在すると信じています。全国のファンの皆さん、また、ちがった考えをお持ちの方、どうぞご意見を聞かせて下さい。小グループのUFO研究誌で、去年以前のものがありませんら教えて下さい、宮沢光児(22) 会社員
(〒606 京都市左京区田中上柳町33 第一アパート306号)

近 郊の方、UFO、哲学について話し合える会を作りませんか。あるいは、そういう会がありましたらご連絡下さい。
石川たまみ(19)
(〒113 東京都江東区三好4-7-4)

今 全国各地に様々な研究団体があ
ります。それらはただその中

の会員だけの活動であり、研究ではないかと思えます。そこで、全国の各研究団体で横の連絡を取り合い、お互いの研究成果、情報を交換し合えたらいい、そしてできれば若者による全国組織ができればいいなあと考えています。

そのときは本誌を資料として利用すればいいでしょう。全国の研究団体、あるいは多くの考えに意見のある方、連絡下さい。広島にお住まいの方、手をとって一つの輪になりませんか。
小玉 勝
(〒729-64 広島県高田郡甲田町浅塚745)

「UFOへの招待！」
UFOが存在することはわかっていても、何か行動を起こして世の人を納得させなければ意味がありません。富士山の五合目あたりにカメラを持って集まり、UFOを呼び、全員で写すのです。ふだん信じない人も、大勢の人がカメラにおさめたとすれば考えもかわると思います。この本に広場を求めるのも仲間同士ではいいかもしれません。本誌を単に同好者の間にだけ埋もれさせないためにも、一人より二人、三人、の、より多くの人に関心を持ってもらい、信じてもらいたいと思いたす。とにかく何かをしないことには始まりません。私の願いがかなえられることを信じて！ すじの通った正しいことなら、宇宙の友は聞き届けてくれるはずですよ。
萩原義泰(21)

(〒343 埼玉県越谷市北越谷2-12-17)
目 下、日本沈没は82年説が最も有力である。賢明な諸君は81年に日本を脱出するであろう。しかし直前に一人で逃げたところで、言葉さえわからない。これではフガイない。われわれはこれを組織しようではないか。このような大試練を与えてくれた運命に感謝しようではないか。備えあれば憂いなし。たとえ82年異変が起こらなくても、99年まで備えなければならぬ。
私は5カ年計画を提起する。
77年 計画立案及び組織化、語学研究開始。
78年 大アピール。衣食住調達計画準備。
79年 霊界情報収集分析。移住地検討調査。
80年 先発隊現地工作。財産処分。



●川畑智子(画)大阪府摂津郡

本 誌愛読者の皆さん！ われわれもそろそろ同志の友情を深めるための集いをやらせませんか。題して
木浪三知子(中二)
(〒065 北海道札幌市東区伏古4-3)

お やさしい人よ、札幌市内にあって、女性もいるUFO研究会を教えてください。
お やさしい人よ、札幌市内にあって、女性もいるUFO研究会を教えてください。

お やさしい人よ、札幌市内にあって、女性もいるUFO研究会を教えてください。

UFOs & SPACE

No. 23 March-April, 1977

Price ¥ 430

Published by Universe Publishing Co., Ltd.

©1977 All rights reserved

Captions for Colour Photos

WOMEN ABDUCTED BY UFO

page 1-3

Junichi Yaoi, a director of NTV television, recently visited the States to conduct interviews with people who insist that they have once been abducted by UFOs. Among them is a Miss Jacky Larson of North Dakota who says she was abducted together with her car on the way to see her boy friend. Yaoi also met with three other middle-aged women from Kentucky. They insist that they were taken away from their car and underwent torturous physical examinations. They were all examined by lie detectors as reported which showed that they were not simply making the stories up.

COMPUTER SYSTEM JUDGES UFO PHOTOS

page 4-5

UFO photograph always causes a controversy in determining the truth. Now, the Ground Saucer Watch, a large UFO study group in the U.S., developed a computer system to determine the validity of UFO photographs. This system could be the making of an epoch in the study of UFO.

LOW-HOVERING SPACECRAFTS OF "SEMJASE", A WOMAN COSMONAUT FROM OUTER SPACE

page 6-8

These photographs were taken by Bernard Meyer at Hinwill near Canton-Zurich, Switzerland. The spacecrafts in this scene landed on a meadow. A woman cosmonaut with blong hair walked out from the spacecraft and talked with Meyer for more than one hour. He stated that she called herself "Semjase", and told him that they were from the planet Pliades travelling ultra-dimensionally.

81年 大移動開始。
 本年は下準備の年。皆さんの意見、ご批判大募集。
 戸田正義(26)
 (〒239 神奈川県横浜須賀野市野比2769)
星 好きなあなた。UFO、SF、宇宙に関することが好きな人、新しい会に入りませんか。星を見ているだけでロマンチックになっている人。星を見て詩を作っている人。また、「宇宙戦艦ヤマト」のファンの方、お気軽にどうぞ。
 日本スペース・ア・ラ・カルト'77 沢田康一
 (〒188 東京都保谷市北町2-3-17)

できません。そこで全国的なグループを集めた大きなグループを作りたいと思います。賛成の方、また現在の活動に満足できない方、ご連絡下さい。
 中島 励
 (〒213 神奈川県川崎市高津区久地499)
U FO等についての同好的な会を発足させたいと思ひ、ただ今会員募集中。会員条件○なるべく苦小牧近辺の方(地方会員も可)○観測に参加できる方○男女を問わず熱心な方○中学生以上。希望者は封書で自己紹介、その他PR事項も書き添えてお送り下さい(50円切手同封)。
 蒲川栄一
 (〒063 北海道苫小牧市泉町一丁目8-17 圃0144-351-1754)

ぼくはどうしても、あの不思議な飛び方をする円盤の謎を知りたいのです。UFOに関する本を見ても推進に関する本にはあまり触れていないし、たまにあってもむずかしくて、ぼくなどにはとうてい理解できません。ぼくと同じような興味をお持ちの方、またアドバイスして下さい。お待ち待っています。
 木口宏一(15)
 (〒343 埼玉県越谷市弥十郎749)

内町小湊25-1)
海 は広くして広大無辺。空は青くして悠々無量。海のように。空のように。ぼくはなりたいたい。
 宇宙の話、UFOの話、文通しませんか。
 川北晃久
 (〒838 福岡県甘木市牛木50-1)

小生、わが大学でUFO研究サークルを作ろうと思っていますので、UFO研究サークル的なものを主催または所属なさっている方、アドバイスして下さい。
 UFO、SF小説とイラストに興味のある方、お手紙下さい。なお、「宇宙の謎」「非Aの世界」を希望者に差し上げます。
 中島 隆
 (〒528 滋賀県甲賀郡水口町伴中山)
 フリピン心霊手術
 研究調査旅行への誘い
 日時・4月22日出発(4泊5日)
 費用・15万5千円
 (詳しくは左記へ)
 たま出版社内 四次元研究促進会 〒162 東京都新宿区納戸町33
 TEL 03・260・4367

●豪華賞品が当たる——読者アンケート大募集!

あなたは、UFOを

見たことがありますか?

●大好評のうちに恒例となったプレゼント・コーナー。今回は別掲のようなすばらしい賞品を用意しました。前回のアンケートで、惜しくも抽選に洩れた方はもちろん、多くのみなさまのご応募を、編集部一同、期待しています。●官製はがきにあなたの住所・氏名・

年齢・職業、そして①UFO目撃の有無(見たことがある場合は、日時、目撃場所など、状況の簡単な説明)②本誌へのご意見・ご感想をお書きのうえ、左記あてお送りください。抽選ですばらしい賞品をプレゼントします。●宛先 〒110東京都台東区上野5-1

—6 ヤマトビル ユニバー
出版社
「UFOと宇宙」編集部/ア
ンケート募集係
●締切りは4月20日(当日消印有効)。
当選者の発表は「UFOと宇宙」24号
(5月20日発売)誌上で行います。

賞品



▽高級天体望遠鏡 No.MTZ42S 8500円
3名に贈呈。ズーム式自由変倍で倍率は15倍から40倍。月面は勿論500メートル先の人の動きも鮮明。なお抽選に自信のない方へ特別価格7000円で頒布。お申込みは〒121東京都足立区平野3-7-17(株)スリーピーチUFO係

☆☆

▽株式会社平安(〒102東京都千代田区麴町4-2-6)から刊行中の矢追純一円盤シリーズの傑作群のなかから『写真で見る日本にきた?!UFOと宇宙人/第3弾200集』(1500円)と『空飛ぶ円盤を追って』(890円)をそれぞれ10名、計20名の方にプレゼントします。UFOファンなら見逃さないチャンスです。



●読者アンケート当選者発表!

『UFOと宇宙』22号誌上で募集した読者アンケートには、応募総数じつに3177通という、沢山の方々からの熱心な回答が寄せられました。敵正な抽選の結果、左記の方々があめでたく当選されました。

貴重なご意見を寄せられた応募者のみなさまに深く感謝申し上げます。

●1等(カーンソレインジャー10双眼鏡 1名)
〒196 東京都昭島市拜島町3596

—16
●2等(「UFOと宇宙」『エンigma』1年間贈呈 各1名)
〒877 大分県日田市中城町2-16 治郎丸明穂

●3等(UFOカラー写真パネル 2名)
〒068-21 北海道三笠市堤町5-1 藤井 悟実

〒489 愛知県瀬戸市中水野町913-10 柴田 直明

〒210 川崎市川崎区鋼管通1-18-1 齊藤 尚美

●4等(UFOイラスト原画 3名)
〒895 鹿児島県川内市国分寺町国府 2621-1 栗下 浩郎

〒988-01 宮城県気仙沼市字松崎中 瀬26-3 尾張 友紀

〒319-15 茨城県北茨城市中郷町足 洗546 小山 栄子



★譲ります

譲ります

買って下さい
交換して下さい



▽「黄色いへやの秘密」(350円)、「地上最後の狂戦将」(850円)、「世界のUFO写真集」(たから島付1500円)「ブルスリー連作・死亡遊戯」(600円)、送料は3冊まで200円、全部買って下さる方には送料無料で3000円、「怪奇コミック」(1枚図かずお著)ほとんどあり、1冊250円です。送料3冊まで200円、それ以上は無料。「世界の怪奇不思議」デラント世界の歴史」2冊1000円、「カセットテープ」TDK包装3個」1200円。「UFO写真集①」1800円、「いずれも送料無料。連絡は往復はがきで。」

▽「旺文社のよくなるシリーズ」(中学生以下山浩之「379」23 群馬県新田郡笠懸村大字左美一〇八二) 参考書115) まとめて8500円(送料別)で譲ります。文庫本、参考書、辞典、レコードなどのおまけあり、往復はがきで。

▽「現代国語の研究」(3000円位で。以下カッコ内は値段)、「チャート式古文解釈」(2500)、「漢文の研究」(2000)、「徒然草の文法と解釈」(2300)、「三段式速修古語200」(1000)、「チャート式新総括・生物」(3500)、「学生に与ふる書」(1000)、「開運の科学」(2500)、「読書術」(1500)、「食卓占い」(2500)、「心」(3000)、「哲学用語基礎知識」(1500)、「サルトル全集」(世界「3000)。「いずれも送料は1000円。往復はがきで連絡を。」

▽「地球ロマン」10月号を850円、本誌No.19を希望価格で。往復はがきで連絡を。 平山秀也(〒038-03 青森県黒石市大板町四〇一) 高田吉則(〒041-02 北海道亀田郡戸

井町字金谷町三) 本誌No.3、13、本誌別冊UFO写真集を送料共5000円以下で。申込は往復はがき。 千田秀穂(〒023 岩手県胆沢郡胆沢町南都田字五木一六三) 本誌別冊UFO写真集No.5を各冊3000円程度で。ただし直接取りにこられる方に限る。希望者は往復はがきで。 古藤直(〒020 岩手県盛岡市本町通二一八四 第四栄荘一号) 空飛ぶ円盤発見記「UFO同乗記」2冊を1000円程度で。また、UFO君と宇宙No.13に掲載の千葉原梅原龍太郎君撮影のUFO写真四つ切りを15000円。ハガキ連絡を。 山本道彦(〒070 兵庫県姫路市福居町四一) 中岡俊哉著「恐怖の心霊写真集」を適価で。連絡は往復はがきで。 津田英三(〒065-01 大阪府吹田市千里山松が丘二一八) 本誌No.5、13と別冊UFO写真集(計44600円)を35000円で。往復はがきで。

高橋比呂志(〒030 青森市浦町奥野二四九 清水角三郎方) 本誌別冊No.16を定価で。なるべくまとめて。手渡し希望。 柴田嘉弘(〒253-01 神奈川県高座郡寒川町之宮九〇五) 本誌No.13と16と別冊ロードショー「タワリソングのすべて」の2冊を合わせて25000円で。往復はがきで。 杉本浩也(〒40 愛知県豊橋市小池町一五一五) 世界のUFO」(「万年後・上・下」)「念力スプーン曲げは真実だ」を一括、手渡しできる方に19000円です。また、ヘッドホン(ブラダアダプター付)12000円。 木戸一弥(〒923 石川県小松市鶴川町又二八) 本誌No.2、4を各5000円、5、8号を各4000円、9、13号を定価で(送料別)。希望者は往復はがきで。 音羽明(〒033 東京都板橋区向原三一七〇一六三三) 東都板橋区向原三

加藤勉(〒354 埼玉県富士見市羽沢一八一九) 「宇宙人の謎」空飛ぶ円盤「UFO大襲来」を各3000、4000円程度で。コダック・インスタマチックカメラ44を3000円程度で。はがきで連絡を。 岡本通明(〒067 兵庫県神戸市灘区岩屋中町三丁目三一六) 本誌No.4、18を7000円(送料共)で。バラ売りも可。また「季刊トランニック」(1、10号)との交換も可。往復はがきで。 畔田晃伸(〒930 富山県富山市大町一區中部五〇) 現代カラテマガジンNo.48を無料で。はがきで連絡を。早い者勝ち。 谷孝之(〒939-36 長崎県川棚町一三〇) 本誌No.5を3000円、No.7を2500円(いずれも送料共)、以上2冊買って下さる方には本誌No.2のコピーをプレゼントします。 金子貴彦(〒166 東京都杉並区高円寺北一〇一七) 本誌No.9を4000円。 松沢信雄(〒330 埼玉県大宮市大谷一六九) 「龍神沼」(2000円、以下カッコ内は値段)、「馬がゆく!」①③④各(2500)、「②」(2100)、「鉄の旋律」(1900)、「時計仕掛けのりんご」(1900)、「墓場鬼太郎」①②各(2100)、「③」(1700)、「丸い輪の世界」(1600)、「カマイ外伝」①(2500)、「②」各(1800)、「忍者武芸帳・影丸伝」①(2500)、「②」各(2100)、「⑤」(1800)。「いずれも送料別ただし6冊以上の場合は無料。支払いは現品到着後、切手代用も可。 小林中人(〒851-01 新潟県新津市大字大鹿八四、15を適価で。一括でもバラでも可。往復はがきで。」

前田哲秀(〒277 千葉県市川市向原町三二四二一〇一) 「靈感術入門」(四次元世界の神秘「超心霊学入門」PSI「サイ」入門「超心理学入門」の中から2冊一組で10000円(送料共)で。また「テレパシー入門」(パペ、スプーンが曲がっちゃった「超能力者ユリケラ」「念力入門」を各2500円で、「空飛ぶ円盤製作法」「日本のUFO入門」「UFO入門」を各6000円。 福島良一(〒833 福岡県筑後市大字山の井二七二一) 本誌No.9、16、別冊写真集を定価(送料別)で。また、劇画シリーズ(490円)、「星と星座」(3800円)を。詳細はがきで。 風見明男(〒300-24 茨城県筑波郡谷和原村堤長舟戸二四) 本誌No.2、15と「宇宙人についてのマジな話」を希望の値段で。連絡は往復はがきで。 酒匂尚夫(〒166 東京都杉並区阿佐ヶ谷北四一五一九) 「No.10号」「No.11号の4冊と「丸スペシャル」No.4の計5冊を適価で。または、UFO、宇宙人、古代遺跡関係の本との交換でも可。往復はがきで。 中川康之(〒033-22 奈良県宇陀郡菟田野町宇賀志) 本誌No.12、20を一括定価の半額(送料別)で。往復はがきに希望価格を記入の上連絡を。 真田正弘(〒301 群馬県前橋市住吉町一丁目五一五) 「エスパー入門」(5000円)、「宇宙人の遺産」(10000円)、「謎の三角領域」(10000円)、「宇宙人の謎」(星への帰還)の2冊を5000円で。往復はがきで連絡を。 小林博文(〒018-37 秋田県大館市松原) イタリア式ラケットカード(27000円)を10000円で。また、「超能力者!!!なぞだっけの四次元」。「世界の超能力者」の3冊を4000円(バラも可)。詳しいことはがきで。 相良昌司(〒131 東京都墨田区八広六一五六一四) 「UFO写真集」を14000円(送料共)で。UFOや雲に興味のある方、文通して下さい。 吉満義一(〒804 福岡県北九州市戸畑区銀座二一三十一) 「アストロロケット」(4980円)を4900円で。「特ジヤイアーツ」①、⑥(4)はなし)を4800円、「包丁人

望遠鏡



▽天体望遠鏡スリビーチ製を送料共
67000円、デッキ(OTTO)46
000円、ステレオメインアンプ(60W)
39000円、白黒テレビ(東芝12型)

▽「空飛ぶ円盤の正体」を送料共100
0円。その他「空飛ぶ円盤を追って」
本誌№2あり、往復はがきで。
坂間健司(〒560 大阪府豊中市玉井町
三二一七)
▽「UFO入門」ユリ・ゲラーわが超
能力「超能力者」ユリ・ゲラー「ノスト
ラダムの大予言」実説大予言「お化け
の本」「銅鑼の謎」「四次元99の謎」「円
盤についてのマジメな話」「タロット占
いの秘密」等高価優先、往復はがきで連
絡を。
小針祐子(〒114 東京都大田区蒲田一
二二一三)
▽本誌創刊号17を送料共10000円
で。往復はがきで。
村田弘幸(〒182 東京都調布市深大寺
五一八 西条方)
▽本誌№3、7を格安で。往復はがきで。
吉永富夫(〒534 大阪府都島区都島中
通り三一九一三 吉田方)

58000円、コラルスビーカー(3
ウェイ)30000円、トランシーバー
(3MHz4MHz)70000円、双眼鏡(12
倍ズム付)18000円を送料共で。
また、本誌№9、11、14の5冊を送料共
80000円(バラ不可)。往復はがきで。
小野幸典(〒98101 宮城県気仙沼市
松崎浜二〇)
▽ニコリ技研の天体望遠鏡(255000
円以上)のものを買おうと思ってる方
一名に、割引の券を差し上げます。
井原慶二(〒804 福岡県北九州市戸畑
区九町二丁目三二一三三)
▽双眼鏡大型ズーム(8×20×50、2.8
800円)、新品を18800円で。小
型ズーム未使用を8000円で。7×50
を希望価格で、詳しくは往復はがきで。
原田和典(〒254 神奈川県平塚市里
二五一二二)
▽日野(ザール)製80mm口径天体
望遠鏡新品を40000円。また、キャ
ナル製のラジオを10000円(送料共)
で。一括購入の方にはすばらしいサイビ
ス品付、連絡は往復はがきで。
鈴木一弘(〒984 福島県二本松市中町
三二六)

▽携帯望遠鏡(顕微鏡併用50倍、望遠鏡
10倍)の宮部光学製を12000×150
0円。また、本誌№16、18を各380
0円「UFOの正体」500円、「超能力
ひみつくれん」1500円、「円盤
と宇宙人」500円、各送料別で。その
他、ハム、ボリス、気象、航空無線の入
るラジオを6000円で手渡し希望。往
復はがきで連絡を。
平野幸夫(〒230 埼玉県大宮市土屋五
八八)

△ミラー万能ユニットスコープ(アクリ
ル)対物レンズ使用、テレスコープ10
×25×ミクスコープ20×70×、地
上望遠鏡二種、各種望遠鏡、3850円
を850円(送料共)で。
高野義之(〒94022 新潟県長岡市大
崎折渡町)

▽ミルタSR101(L15 28000円)
付)を40000円で、また8ミリ撮影
機ヤンカエレクトロ8(YXLFI-
1)を20000円で。往復はがきで。
林茂雄(〒230 神奈川県横浜市鶴見
区潮田町四一五四一)

▽フジポケットカメラ(8500円)を
5000円で、連絡は往復はがきで。
加藤隆吉(〒34102 埼玉県北本館部
わしの宮町わし宮田二丁目二〇五)
▽現像タンク(キングバスターン35目
用)貯蔵ビン(キング1用)2個、ハ
ンザメスカップ(1用)1個、現像薬品等一
式を3200円で。また「写真で見える空
飛ぶ円盤二〇〇集」を880円、「宇宙
人200集」を6500円で。全部の場合
は42000円で。往復はがきで連絡を。
角田賢次(〒533 大阪府八尾市太田一
六四〇一八)

▽トリオゲンクラフトQR1666
長波・中波・短波オールカバリの通信型
受信機(定価59800円、新品同様)
と専用アンテナ、アンテナの予備接続線
9m(4000円)を合わせて41000
0円。ミランダ・ソリゴール4000
0円F.3レンズ、皮ケース、アサヒペンタ
ックスS用カメラマウントを一括190
00円で。コムラー・135ミリレンズ(ケ
ース付)、テレモス、アサヒペンタック
S用マウントを一括15000円で。
10×50双眼鏡(28000円)を8000
0円で。お買い上げの方にカセットテー
(C-60)かネオンSSS36EXのどち
らかを差し上げます。連絡は往復はが
きで。手渡し希望。また、本誌創刊号をゆ
づって下さい。
太田和孝雄(〒212 千葉県市川市市川
町二二二一)

▽写真引伸機及び暗室セット(引書付)
ただし、直接取りにられる方に限る。
日永守(〒529115 滋賀県蒲生郡蒲
生町平林三二六 電話0748502445
1)

▽ポラロイドカメラEE88型(13000
0円)を送料共8000円で(日本・外
国記念切手50枚付)。往復はがきで。
斎藤義秋(〒31102 群馬県勢多郡大
胡町茂木一〇一)
▽ミルタ16MG・Sスタンダードキッ
ト(33000円)を18000円で。
新品同様、往復はがきで連絡を。
中村清(〒43112 静岡県浜松市村
橋町二五七六一)

▽カメラ(リコー300S)を適価で。一眼
LFとの交換も可。お買い上げの方には
「UFO入門」反射望遠鏡の作り方」は
じめての天体観測」を差し上げます。
稲上慎二(〒500 岐阜県岐阜市高森町
六二〇〇)
▽オナリス・モータードライブ(コン
トロールバック1付、新品同様、定価8
1500円)を40000円で。
氏部一忠(〒760 香川県高松市松島町
三丁目一〇六)

▽コダックポケットカメラ10(フィルム
・フラッシュ付6500円)を送料共3
000円で。UFO探知機(1・3・B、
電池ボックス付)送料共13500円
で。詳しくは往復はがきで。
原田勇二(〒875 兵庫県加古川市加古
川町南備後一七六)

▽電子情報機(盗聴機、295500円)
を220000円で。往復はがきで連絡を。
村田賢治(〒939123 富山県射野郡八
尾町天満町)
▽コンカ一眼レフカメラ50ミリ・65×135
ミリズームその他共50000円で。ま
た、G社アマチュア無線機(オート・ス
キャン)アンテナ付(85000円)を
450000円で。詳しくは往復はがきで。
中村俊郎(〒81108 鹿児島県指宿郡
額切町別府三三七七)

▽ミルタSR101(55ミリF1.7付)ケ
イ・F4.5ズームレンズ(絞リ連動、フ
ィド、ケース付)で700000×75000
0円(送料別)。電話06・4911・073
4 P.M.以降。
益田環(〒661 兵庫県尼崎市猪名寺
北畑五二二)

▽UFO探知機T13b型(190000円)
とT13b型用ACアダプター(14500
0円)を送料共250000円で。希望者
は往復はがきで。
佐野雅幸(〒48123 山梨県日摩郡
南蒲町内給七八九の二)
▽高級製図用具(内田洋行製未使用)、
製図セット(キタイチ製)、電気工学の
本2冊、電気工学事典(三省堂)、問題
集、電気実験の本、すべて未使用(市価
25000円)を150000円で。また、
次の本を譲って下さい。本誌創刊号
№6、「空飛ぶ円盤実見記」「空飛ぶ円
盤同乗記」「UFO写真集」を安く。U
FOを写された方(トリック不可、解説
付)写真を譲って下さい。

▽本誌創刊号4、6を。バラでも可
1冊5000円。連絡は往復はがきで。
大野都夫(〒913 福島県石川郡石川町
本宮一三)

▽本誌創刊号を10000円以下で。№2
は定価(なるべく以下)で。



★読者の声★

藤野勇一郎(〒855 宮崎県都城市大正
町二一三)
▽日立ラジオオカセット・メディアスCR、
保証付商品付、新品を220000円で。
また、本誌№5、19、UFO写真集①を
送料別35000円で、バラ可。
嶋 弥弦(〒043126 北海道小樽市塩
谷四一七七)
▽念力測定器(橋本電子研究所製、95
00円)を50000円以上で、また「N
ONテレペン入門」を4000円くらい
で。連絡は往復はがきで。
奥居直樹(〒932 大阪府堺市浜寺諏訪
ノ森三二〇九)
▽フアラベラスケッチャーズ長ケース
付(大きさ55cm一週間使用)を2500
0円で。また、タロットカードを1300
0円、モデルガン(ワルサーPPK)25
00円、同じくコルト・S・アクション
アミ145(タマ付、黒色、許可入)80
00×100000円で。希望者は往復はが
きで。
杉崎智介(〒356 埼玉県上福岡市大原
二四一三四)

深作 実 (2310) 茨城県水戸市五軒町

UFOに関する資料なら何でも。

徳 俊美 (2675) 13 兵庫県小野市天

神町向山(一七五)

▽中岡俊哉著「世にも不思議な物語」を

定価の200円引きで、その他、ミステ

リ、四次元関係の本を高価で譲り受け

ます。本誌創刊号とNo.13を10000円

15000円で、また、UFOの写真で

写された方、ネガが写真(詳しいデー

タをつけて)お譲りください。謝礼はで

きる限り、往復はがきで。

芝崎 ゆかり (2675) 13 兵庫県小野市

上本町(一〇九)

▽本誌創刊号とNo.10、キズがあっても結

構です。送料無料。

下柳 伸二 (2891) 04 鹿児島県指宿

市十二町三三(一〇二)

▽本誌創刊号とNo.4、6を一部1000円

(送料共)で。

宮野 由裕 (2891) 32 北海道十勝中川

郡本別町上押帯

▽逆重力を研究されている方、その研究

内容を教えてください。また逆重力に関

する資料なら何でも(コピーも可)譲っ

てください。必ずお礼は差しあげます。

山西 久江 (2162) 香川県東坂出市林田町

浜西三九五(一〇一)

本誌創刊号とNo.4を適価で(バラも可)

福田 道生 (2194) 東京都町田市旭町三

一五二(一七)

鴨志田 靖子 (2316) 茨城県日立市東大

沼町(一〇九) 二九(一〇〇)

▽本誌創刊号とNo.15をなるべく安く、1

冊だけでも結構です。

高島 睦美 (2221) 神奈川県横浜市神奈

川区片倉台団地(一〇二) 二二(一〇〇)

▽本誌No.15までのどれか1冊でも結構で

すから安く譲ってください。また、私の

持っている「タロット占いの秘密」ジ

ブーン占いの「奇門遁甲入門」を適価で

お譲りしたいと思います。

安井 法子 (2470) 11 愛知県豊明市二

村台三三(一七三)

▽本誌創刊号と9をなるべく安く、バラ

でも可。希望価格をはがきで。

古内 哲朗 (223) 神奈川県横浜須賀野池

田町(一〇九)

▽「ユリ・ゲラー我が超能力」「なぜ空

飛ぶ円盤は来るのか」「宇宙哲学」「夢予

知の秘密」「超能力の秘密」を各3000

円で、トリオLP「ユリ・ゲラーの魔」

を5000円で、GAPニューズレター

53のうちの1冊を3000円で、はがきで。

由良 和豊 (2335) 大阪府旭区赤川町四

一(一〇二)

▽本誌創刊号と6、たたく。また、UFO

に関する本をなるべく安く、はがきで。

松田 昌 (2107) 岩手県宮古市西町三

丁四三(一三)

▽SF、推理小説、天文書、UFO関係

の本をなるべく安く。

石森章太郎の漫画「ブルーゾーン」

▽石森章太郎の漫画「ブルーゾーン」

代宇宙旅行協会誌1と71号、日本UFO

研究会誌1と17号、どれも結構で

すから適価で。

岸田 康則 (2583) 21 岐阜県不破郡垂

井町(一八〇)

▽本誌創刊号と4を各3000円で、はが

きで連絡を。

林 洋舟 (2582) 岐阜市白菊町五(一八)

▽アダムスキーの「テレパシー」「生命

の科学」を適価で。連絡ははがきで。

広瀬 眞佐子 (2323) 栃木県栃木市片柳

町(一三三) 三三(三五)

▽本誌No.8を図書券2000円で、イオン

クラブの製法を教えてください。

佐原 健一 (2573) 大阪府枚方市楠葉野

田三(一五〇) 二三(一三)

▽どうかはがきに創刊号を無料で下さい。

長井 孝 (2890) 鹿児島市伊敷町二八

四(一〇)

▽本誌創刊号と11のどれでも結構です

から安く、UFO写真が写された方、焼き

増しを譲ってください。

岩井 陽介 (2649) 03 和歌山県有田市

初島町浜一三八(四一三)

▽ウオルター・サリヴァン著「われわれ

は孤独ではない」、希望価格のご連絡を。

糸井 靖之 (2629) 22 京都府守野郡岩

滝町字東町(一四二)

▽「空飛ぶ円盤同乗記」。また、本誌No.1

と7一括譲って下さる方にはメンエ天体

アルバムを送ります。往復はがきで。

山下 明美 (2700) 香川県高松市福岡町

三(一三三)

▽本誌創刊号と4、6を。また、UFO、

宇宙人、超能力、異次元、心霊、超古代

文化、宇宙の法則、その他資料、本や雑

誌、その出版社、研究団体等を教えてください。

宮永 光一郎 (2651) 11 神戸市北区内

五葉一(一四一) 四(三三)

▽ウイリアム・H・シラスの「アトムの

子ら」、シオドア・スタージョンの「人間

以上」を。希望代金をはがきで。

渡辺 範子 (2713) 岡山県倉敷市玉島黒

崎八(四二)

▽本誌No.1と6をなるべく安く。

森本 昌宏 (2633) 奈良県大和高田市藤

森二(二〇)

▽本誌創刊号を。売価、送料はがきで。

栢植 紳二 (2472) 愛知県知立市新地町

西広見(一七)

▽「崩れる鬼神」「宇宙戦隊」「地球を

ねらう者」「海底都市」「地球発狂事件」

「光」創刊号、どれも希望価格を。

磯部 剛喜 (2291) 21 千葉県八日市場

市八(七三三)

▽本誌No.1と3、9を、どれか1冊でも

可、1000円以内で。連絡ははがきで。

本林 未来 (2651) 11 神戸市北区錦蘭

台東町(一〇二)

▽本誌No.1と10のうち、どれでも結構で

すから適価で。

田名 部聡 (2031) 青森県八戸市石手洗

市泉筋二(一五)

▽本誌No.10と18、「世界のウルトラ怪

事件」「世界の円盤ミステリー」「コン

タイキ号漂流記」「宇宙船ビートル号の

航海」「新唐詩選」「第2集フオークン

グ」「真珠」それにパッツタをタダ

で。詳しくは往復はがきで。

松本 治男 (2673) 兵庫県明石市山下町

七(二二)

▽本誌No.1と4、できれば定価以下で。

バラも可。連絡ははがきで。

武山 保 (2494) 愛知県名古屋市中川

区一番町(二二)

▽本誌創刊号を2000円、初心者向の

UFO研究会を紹介下さい。

高田 信一 (2239) 13 富山県礪波市新

富町(一五)

▽本誌No.1と18をタダで。バラも可。

尾高 見八(二)

▽本誌No.1と4、6を1冊5000円で。

また、UFO、心霊現象などの写真の焼

き増しを2枚(1枚1000円)で。

上倉 秀之 (2990) 山形市城西町二(一

五)

▽本誌No.1と8を無料で、バラも可。

三浦 英樹 (2872) 22 宮城県栗原郡築

館町字上宮野屋敷(20)

▽本誌No.1と7をなるべく安く。はが

きで連絡を。

福原 和子 (2989) 16 福島県伊達郡桑

折町南半田(六角33)

▽本誌創刊号、3、6、その他UFOや

心霊関係の本を。また、UFO・心霊写

真(トリック可、明記のこと)。

小林 英也 (2355) 東松山市上野本(一〇

六六三)

▽本誌創刊号とNo.16のいずれでも可、適

価で。送料込みの希望価格をはがきで。

廣陵町寺(四四二)



▽双眼鏡(7×50または6×30程度)古くても結構ですが、レンズにキズのないものを。はがきでご連絡ください。

塩原義浩(〒399-07 長野県塩尻市大門七区九三二一六)

▽UFOの写真、カラーでも白黒でも。柏木浩美(〒675-13 兵庫県小野市丸山町五二一〇)

▽UFOに関する本、写真など無料で。細見達男(〒241 神奈川県横浜市戸塚区上郷町一〇八七二二七〇)

▽UFOの写真は無料で。佐藤清美(〒420 静岡県静岡市市二一八)

▽日本にある環状列石(ストーン・サークル)の写真。とくに、①北海道小樽市忍路、三笠山②同地鎮山③秋田県鹿角郡大和町野中堂、大湯④北海道空知郡音江、稲見山のものをご希望しますが、その他ものも結構です。譲ってください。方には本誌№18 P.53の飛鳥の遺跡の写真をお送りします。写真不用の方は、1枚100円ぐらいで。連絡ははがきで。中川康之(〒633-22 奈良県宇陀郡葛田町宇賀志)

▽UFO写真を1枚500円で。できれば無料で。日時、場所、天候などを詳しく。百瀬公章(〒399-07 長野県塩尻市長坂二四七二)

▽UFO写真、体験談などを。また、本誌刊号№8(ペラも可)を無料で。藤田俊弘(〒733 愛媛県西条市福武沢甲一〇四〇)

▽UFO、ESP、心霊に関する資料や写真を。ネガをお貸しくださいれば必ずお返しします。

成川武千嘉(〒341 埼玉県三郷市東町三二一)

▽UFOの写真や情報を(寸志進呈)。永山敏一(〒633 北海道網走市桂町四五の出版)

▽UFOのネガを貸して。必ず返します。秋山京子(〒113 東京都文京区白山一六四一六〇一)

▽飛行機、軍用車両のプラスチックモデルを多数求む。5000円5000円以上で。また、ご協力くださる方に希望モデルのリストをお送りします。本誌№2、4との交換も可。

川合 浩(〒246 横浜市瀬谷区三ツ境一七)

▽UFOの資料や写真を無料で。宮田 隆(〒211 千葉県松戸市松戸新田三三〇一)

▽UFOの写真を希望価格をはがきで。榎並宏子(〒553 熊本県人吉市鬼木町一三三二一)

▽UFOの写真、トリックでも可(その旨明記)。また、日本宇宙現象研究会誌を貸してください。必ずお返しします。木村治浩(〒995 山形県村山市橋岡十日町二二七)

▽UFO、ESP、心霊に関する資料、写真を。ネガも貸してください。藤尾 太(〒273 千葉県船橋市上山町二一三〇七三三五)

▽UFO写真を写された方。焼き増しを白黒1枚120円、カラー160円(トリック不可、解説つき)で。また、UFO体験談や資料、旅行記なども。山田貴剛(〒456 愛知県名古屋市中区南區千代田町一七九 食品ビル側寄室)

▽UFO写真を安く。連絡ははがきで。島貫由香里(〒932 宮城県仙台市五十二丁目四〇)

▽UFOの資料、写真(白黒、トリック不可、1枚送料別150円)で。山本達夫(〒300 茨城県土浦市中高津町九九一五 TEL0298(2)5902)

▽「宇宙の果てを超えて」とUFOの、できれば夜の写真(トリック不可)を。東 正順(〒891 鹿児島県曽於郡大隅町中之内二〇六)

▽UFO写真(手札型)を。写真代と送料はがきで連絡下さい。風見 進(〒211 千葉県松戸市胡録台七〇一九)

▽UFO写真(白黒60円、カラーで120円くらい)で。連絡ははがきで。山本啓介(〒688 兵庫県豊岡市泉町一三三)

▽カメラ(新品5000円以内、古い物3000円以内)で。譲って下さった方にUFOの本を上げます。または模型用エンジン(2900円)2個と交換しても結構です。マンガ、UFOに興味のある方、文通して下さい。登坂祐明(〒484 愛知県犬山市横町九八)



★交換ポイント

▽私の次の本を、本誌刊号4、6と交換して(創刊号のみ2冊、他は2号分まで1冊)。「UFO入門」「UFO追跡」「日本のUFO」「空飛ぶ円盤製作法」「UFOと宇宙人」「UFO発見法」「UFO海底基地」「UFOの謎」「魔法の時代」「空飛ぶ円盤実見記」「これが空飛ぶ円盤だ!」「世界UFOの写真集」「一枚の円盤に乗った!」「パラボラの円盤騒動」「宇宙からの訪問者」「UFO写真集①」「太古の宇宙人」「UFO」「UFO同乗記」「君は円盤を見たか」「魔の三角海城」「なぜ空飛ぶ円盤は来るのか?」「計画の科学II」「空飛ぶ円盤を追って」「UFO日本侵略」「空飛ぶ円盤」「世界のUFO」「UFOの謎」「謎の円盤UFO②」「UFOの衝撃のレポート」「世にも不思議な物語」「地球最後のなぞ」「これは希望の方に進呈!」「UFO大発表!」「世界の円盤マスター!」「空飛ぶ円盤研究№72/76」「空飛ぶ円盤の空中修繕」「奇々怪々なるBICR事件」「空飛ぶ円盤特別情報№1/12」「UFO年表、他に中コースから高コースまでのUFO関係記事コピー、及び、50年10月10日の「現代の怪奇」TVテープなどあります。連絡ははがきで。本だけの希望者にも譲ります。藤島康弘(〒933 福島県郡山市台新一〇二二二)

▽ぼくの持っている「空手入門」「SF宇宙戦争」「緑衣の鬼」「SF謎の円盤UFO①」「青春占いカード」を、あなたのUFO写真、本など。また、記念切手約1万円分を本誌刊号4、6と交換希望。連絡ははがきで。橋口輝文(〒630 奈良市学園緑ヶ丘一三五四四二二)

▽筒井康隆著「狂気の沙汰も金次第」か「じゅうごい」「地球は大き過ぎ」どれかを、あなたの本誌№3、5と交換してください。連絡は往復はがきで。篠田 宏明(〒965 福島県喜多方市宇川下七六二二)

▽私の持っている「山の子(ハニー)」、週刊少女フレンド12/14、少コミ8月号、なかよし7月号、りん7月号、中バラシリアス「英語科」プリンス8月号を、本誌刊号4、6と交換して。はがきで。早川 恵(〒801-54 熊本県玉名郡天水町小天本村上二二三)

▽ESPカード(あなたの超能力を調べるもの)、「UFO大発表!」「ベニムダ海城はブラックホールか」「初歩のラジオ」「別冊オーディオブックポニーネットガイド」全部を、クイガ1115かSONYスカイセンサー15900、6000、5800、または6バンド0、4000、5000(ならなんでも)と交換して。交換してください。手紙で。種子尾浩二(〒233 神奈川県横浜市南区六つ川一三二一〇)

▽本誌刊号、№5、16が欲しいので、私の同№2、3と交換して。はがきで。曾我 等(〒246 愛知県安城市東別所町新開一五〇番地二八四号)

▽本誌刊号4、6をお持ちの方、次の本その他(希望の何冊か)と交換してください。「不思議の国のうさぎとクワイ暗号ゲーム」「鉄ドン」「じゃじゃ笑学校」「ベルトクイズQ&Q」「虹をよぶ拳①②」「巨人の星③④」「志穂美悦子空手マスター、南沙織、ずうとらび、山口百恵、SLC62松島アキラ、岩崎安美、桜田淳子、ガッツ石松サイン入り、森昌子、伊藤咲子、黒木真由美、天地真理。はがきで。東 正順(〒891-81 鹿児島県曽於郡大隅町中之内二〇六)

▽ぼくの持っている「タロット占いの秘密」エジプト風タロットカード付と、あなたの「顔のグラス」を交換してください。連絡ははがきで、先着優先。また土偶宇宙人説に賛成の方ご意見を。松田桂路(〒113 東京都八王子市東浅川町七六一一三)

▽本誌刊号4、6をお持ちの方、私のビートルズのLP4枚とテレパシー入門と交換して下さい。ペラも可。往復はがき。高橋 半(〒211 神奈川県川崎市中原区木月住吉町一八八五の公園三三〇号)

▽ぼくの持っているレコード「フィンガ15」恋のアメリカンフットボール「パンプ天国」「名犬ラッシャー、カーペンタース「シンク」のラッシュ2枚とUFO写真(ネガは必ずお返しします)を。連絡ははがきで。藤木武博(〒399-31 茨城県新治郡桜村竹園三丁目一〇九一三〇一)

▽ジュニアチャンピオンコース「あなたは名探偵!」、あなたの本誌№10を。また「世界のなぞ 世界のふしぎ」と、本誌№8を。連絡ははがきで。安田真二(〒596 世田谷区八幡山三丁目三七一九一〇三)

▽本誌刊号4、6をお持ちの方、UFOシリーズ「MOP双眼鏡16×50(1150円相当)」と。連絡ははがきで。西条敏之(〒986-07 宮城県本吉郡志津川町十日町一七)

本誌バックナンバー

★1.2.3.4.5.6.7号は売切れ、8号は残部僅少!

第8号 (1974年9月発売) ¥330

マンデル大尉の悲劇荒井欣一/イタリアの不思議な小人出現事件C・コンティ/千葉県に出現した大型円盤/ネズ湖における悪魔ばらいの儀式とUFOの着陸F・W・ホリデイ/天体オラと宇宙電界の謎内田秀男/宇宙・引力・空飛ぶ円盤(3)L・クランプ/科学トピックス/国内UFO目撃報告/読者の声 その他

第9号 (1974年11月発売) ¥400 特大号

UFOによる米空軍機追尾事件異淳/スペインに出現した円盤と乗員J・マシス アンヘル・バリゴン/ジョージ・アダムスキーはまだ影を投げかけている/G・クレイトン/地震の謎をにぎるマンデル対流/竹内均/宇宙・引力・空飛ぶ円盤(4)L・クランプ/科学トピックス/国内UFO目撃報告/読者の声 その他

第10号 (1975年1月発売) ¥360

銀色の服を着た宇宙人高梨純一/科学を曲げる男ユリ・ゲラーG・クレイトン/月世界の謎の現象を探る京都大学山天文台台長・理学博士・宮本正太郎/NASAの活動と、その未来誌先新聞科学部・中村政雄/宇宙・引力・空飛ぶ円盤(5)L・クランプ/科学ニュース/UFO情報/UFO目撃レポート/読者の声 その他

第11号 (1975年3月発売) ¥360

月面は円盤の中継基地か重沢潤一郎/ニューヨーク州の着陸事件T・ブリーチャー/1980年代の宇宙連絡船物理学博士・河島信樹/原千・銀河系・理解(1)D・フレイ/アダムスキー型円盤/尾道市に出現/宇宙・引力・空飛ぶ円盤(完)L・クランプ/科学ニュース/UFO情報/UFO目撃レポート/読者の声 その他

第12号 (1975年5月発売) ¥360

甲府市にUFO着陸/オーストリアの光るカタツムリ状物体E・ベルガー/古代の天星人E・F・デンケン/長野県に落下した小型円盤/重力波とは何か千葉二郎/原千・銀河系・理解(2)D・フレイ/宇宙の謎の現象(1)シベリアの謎の大爆発/科学ニュース/UFO情報/UFO目撃レポート/読者の声 その他

第13号 (1975年7月発売) ¥360

千葉市にアダムスキー型円盤出現!/円盤に乗った宇宙人を見た!/宇宙交信のためのテレパシー通信市村俊彦/原千・銀河系・理解D・フレイ/中学生にもわかる微分積分(1)三好要科/宇宙の謎の現象(2)ルーマニアのUFO出現事件/科学ニュース/UFO情報/UFO目撃レポート/読者の声 その他

第14号 (1975年9月発売) ¥390

円盤をよく見る人/1897年の謎の飛行船/私は金星文字を解説した!/メルセル/オム教授の不思議な発見物/大気圏外生命体とのコンタクト?/原千・銀河系・理解(4)実在する超惑星と念力開業男/中学生にもわかる微分積分(2)宇宙の謎の現象(3)ユーゴスラビアのUFO出現騒動 その他

第15号 (1975年11月発売) ¥390

ステラ・ランシング夫人の不思議な写真B・シュワルツ/ドラギニャンの怪事件/メルセルの奇怪なロボットG・クレイトン/聖書の予言とスペース・プログラム(1)C・A・ハニー/原千・銀河系・理解(完)/中学生にもわかる微分積分(3)宇宙の謎の現象(完)(続)ルーマニアのUFO出現事件 その他

送料 1冊¥160 2~3冊¥200 4~6冊¥240

第16号 (1976年1月発売) ¥390

<本誌特別取材>三原市の驚異コンタクト事件/テレポーテーションとテレパシー平野威馬雄/名古屋上空に円盤大挙出現!/聖書の予言とスペース・プログラム(完)C・A・ハニー/中学生にもわかる微分積分(完)/X博士の怪UFO事件A・ミシエル/科学ニュース/UFO情報/UFO目撃レポート/読者の声 その他

第17号 (1976年3月発売) ¥390

口絵・月面の謎がポロ飛行士が撮ったUFO写真公開!/巨大円盤・積須賀に出現!/UFOは地球の救済に来るのかオットー・B・ウィンガー/奇跡を起こす方法テッド・オーウェンス/ビーター・フルコスの驚異的大発見/B・アン・スレート/科学ニュース/UFO情報/UFO目撃レポート/読者の声 その他

第18号 (1976年5月発売) ¥390

森林伐採エトラビス・ウォルトンのUFO同乗事件高梨純一/UFOは地球の救済に来るのか(完)/UFOインタビュー私はUFOを見た。岡崎友紀さんの巻/私は宇宙人のクビをすげかえた/(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(1)L・クランプ/科学ニュース/UFO情報/UFO目撃レポート/読者の声 その他

第19号 (1976年7月発売) ¥390

橋尾忠則私はUFOを何度も見た!/チャールズ・ムーディ軍曹砂漠で円盤に誘拐される/UFOのスポークスマン?/世界の12の「魔の墓場」大地震は予知できるか内田秀男/火星生物発見の旅宮本正太郎(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(2)/科学ニュース/UFO情報/UFO目撃レポート/読者の声/重の市 その他

第20号 (1976年9月発売) ¥430

口絵・NHK16ミリカメラの快挙 他/トラビス・ウォルトン事件の真相/東北地方UFO事件特別取材/UFO大接近、自動車4台急停止/他/UFOインタビュー・久里洋二/月世界のUFOの中継基地か(1)/(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(3)/UFO目撃レポート/UFO情報/科学ニュース/読者の声/重の市 その他

第21号 (1976年11月発売) ¥430

日本を代表するUFO研究者3人の主張展開高梨純一・並木伸一郎・久保田八郎/空飛ぶ円盤の推進原理を探る橋本健・清家新一/精密UFO大図鑑/UFO事件完全年鑑/月世界のUFOの中継基地か(完)/私は宇宙人に身体検査をされた/(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(4)/UFO目撃レポート/UFO情報 その他

第22号 (1977年1月発売) ¥430

<本誌取材>UFOは石を食べていた!/?チベット山中の金星人基地高坂烈魁/金髪的女性宇宙人としばしば接触 女性三人を身体検査した巨大UFO/着陸した円盤に宇宙人の死体が/大ニューヨークの郊外に円盤着陸(1)/(続)宇宙・引力・空飛ぶ円盤(5)/バックナンバー完全紹介UFO目撃レポート その他

本誌保存用

特製「インター」

本誌を破損・紛失しないために「インター」をご利用ください。この特製「インター」は極厚手表紙・布装で表面と背に誌名を金文字で箔押ししてあり、1年分6冊をまとむことができます。

¥400

荷造送料 1-2冊 ¥350
3-4冊 ¥700

UFO写真集

カラー写真21点、白黒写真33点
A4判のワイド画面からくる迫力/路上アート紙使用/美麗カバー付き豪華本

戦後世界各地で目撃され、日本にもひんばんに出現して話題を呼んでいる未確認飛行物体の正体は? 全国UFOファンが熱望にこたえて全世界で記録された貴重な写真を集めた。UFO研究界の第一人者・久保田八郎が和英両文で解説を加えた。

¥1300 千300

■当社出版物が書店にない場合は、振替・現金書留・小為替・低額切手などで当社宛直接ご注文ください。代金めと払いの注文はおことわりします。■最近、住所不明で返送される郵便物が増えています。ご注文の際は必ず郵便番号・注文品名・号数・冊数を明記してください。

ユニバース出版社

UFOと宇宙

発行 昭和三十七年四月号 第23号
発行 昭和三十七年四月二十日(隔月刊/奇数月二十日発売)
定価 四三〇円 送料 一六〇円
編集人 矢沢 潔
発行人 久保田 八郎
発行所 株式会社 ユニバース出版社
住所 東京都台東区上野五丁目一〇番三(ヤマトビル)
電話 〇三(八三三)一三三〇
振替 東京一〇一九四七八
印刷所 三見印刷株式会社
書店で購読料 三三〇円(送料含)
年ごめ購読料 三三〇円(送料含)
接ご注文ください。本誌掲載記事・写真の無断転載を禁じます。海外の記事はすべて翻訳転載権取得済。

読者の投稿を歓迎します
本誌ではUFO(未確認飛行物体)に関する原稿、目撃レポート、写真、イラストなどを広く募集しています。原稿はなるべく原稿用紙(タテ書き)をご使用ください。等は一切お返ししません。返送しますが、ご希望により返送用封筒に切手をはり同封していただく。なお、採用原稿には当社規定の原稿料を差し上げます。目撃レポート参考事項(1)目撃者の住所・氏名・年齢・学年・その他(2)目撃地点の略図・時刻・天候状態等(3)飛行物体の形状・飛行状況等。原稿のあて先 ユニバース出版社UFOと宇宙編集部(目撃レポートの場合はUFO資料調査部)と明記してください。

★今月は多数の読者から「キャットル・ミューティレル・シオン」について知りたいという希望が寄せられました。矢追純一氏の記事はタイミングよく読者のご要望に当たっていると思います。★UFO写真のコンピュター分析」は是非
常に刺激的かも知れませんが、研究態度を見失いがちなこの世界に一つエポックメイキングな一歩を期待できるのでは、と思います。★ジョージ・アダムスキー特集は資料的な意味をこめてまとめたものです。読者のご批判を仰ぎます。(Y)

新発売!!

●無料でご覧になれます

温度計+湿度計+気圧計

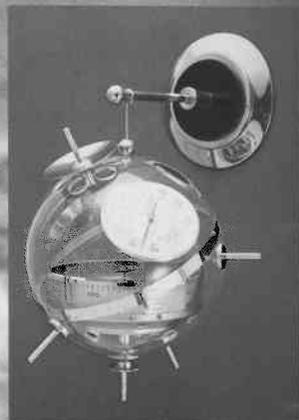
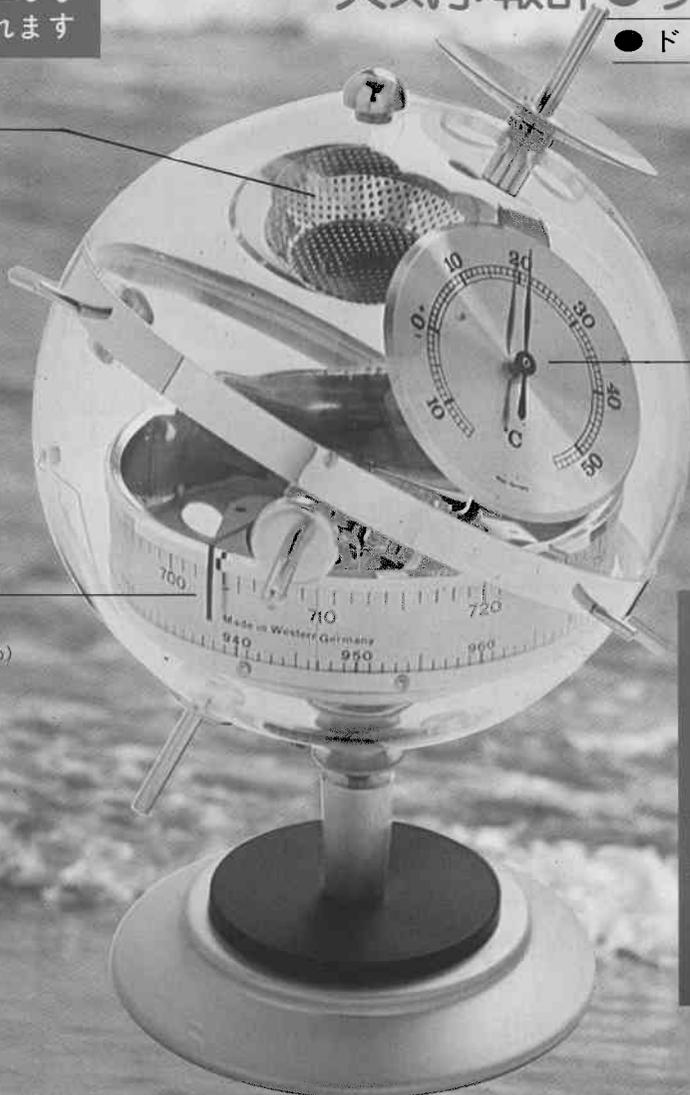
天気予報計 ● サテライト・3

●ドイツ製、直輸入品

●湿度計
(20%~100%)

●温度計
(-15°C~+55°C)

●気圧計
(700mb~1060mb)



球体直径 130mm
高さ 205mm
重量 610g

晴れ、のち曇り、一時雨——?

天気予測に最も大きな関係があるのは、気圧の高低ではなく、気圧が上昇中(快方に向う)なのか、下降中(下り坂)なのかということです。欧米ではウェザー・バロメーター(天気予報計)が一般の会社や家庭に広く普及しています。しかし、我が国ではあまり普及していません。公害や天気不順の折から現代人は、毎日の天候…温度や湿度、気圧に適応する、健康管理を、ひいては生活設計をしなくてはなりません。このドイツ生まれの“サテライト・3”は、気圧計・温度計・湿度計の3つの精密機器が、コンパクトに収まり、そのうえ、洋風にも和風にも調和する豪華で美しい室内装飾品にもなります。また、お子様の科学の勉強に、興味をひく面白い天気観測器は、机や書斎の上に飾るインテリア・アクセサリに最適です。なお、ご結婚や新築のお祝い、ご入学・卒業などの贈り物に実生活に役立つ天気予報計“サテライト・3”はぴったりです。

申込先 社団法人 日本割賦協会 事業会員
フェーマスアートギャラリー 企画部

●手にとって無料でご覧になれます!!

「天気予報計“サテライト・3”」を手にとって無料でご覧になれます。もし、ご満足できないようでしたら、現品受取後、5日間以内にご返送ください。この場合、何らの購入義務もありません。お気に入りでしたら、そのままご購入ください。

●月つき3,000円×6回払いでOK

いま、お申込みの方は奉仕価格⇒月つき3,000円×6回払いでお求めいただけます。(一括払いの場合は16,800円) しかも現品先送り、代金は後払いで結構です。

ご希望の方は右記の申込書を切り取り、住所・氏名・支払方法を明記し、印を押して当社(東京か大阪)へお送りください。なお現品をご覧になってご不満の場合は、現品受取後5日間以内にご返送ください。この場合、何らの購入義務もありませんので安心してお申込みください。

〈〒556〉大阪市浪速区大町1の121の8 ☎(06)649-5508
〈〒170〉東京都豊島区駒込1の34の8 ☎(03)945-2810

“サテライト・3” 価格表

●現金価格 **16,800円** ●割賦価格 **18,000円**
(一括払いの場合のみ) 分割払金 3,000円
支払回数 6回
支払期間 6ヵ月
●梱包送料当社負担 ●製品保障

今、スグ切り取ってポストへ!!

●下記の申込書に記入し捺印の上、封筒に入れてお送りください。

“サテライト・3” 購入申込書

■天気予報計“サテライト・3”を購入申込みます。現品到着後に下記の方法で必ず送金します。
●支払方法 (○印をしてください)
1. 月つき 3,000円×6回払い
2. 一括払い 16,800円
(現品に不満の場合は現品受取後5日間以内に返送し、この場合、購入義務は一切負いません。)

おなまえ	捺印	年令	TEL
おとこ	♀	才	
おとこ (郵便番号)			
(様方)			
保護者名 (18才未満の方は保護者の印が必要)			捺印
UFO-3			☺

●印のない場合は無効に付すので必ず捺印してください。

幸^{せとかわる} 太陽占 ^{うらない}

太陽一言^{いちごん}ずばり

癌、事故、倒産、の根源は太陽のみぞ知る

この占は太陽じきじきの占いです。その答は神でも、仏でも、聖人でも及びもつかない正しさです。

縁談、人事、事業、家屋
土地、たたり、因念、移転
就職、尋ね人、方位、ノイローゼ
原因不明、その他



※当地に來れない方のために

用件を記入し、占い料5,000円同封郵送下されば返答送付

太陽占〒401-04山梨県南都留郡勝山村1248番地

(河口湖駅より、バスで8分本栖湖方面行、河口湖遊園入口下車2分)

電話05558-3-2680番 (新宿より中央高速道、河口湖まで車で1時間30分)

新発売

初回金でお手もとへ

お求めやすいクレジット分割払

高性能
精密器

ニコルス望遠鏡

●たしかな品質
合理的良心価格
●ご不満のときは
交換/解約/返金自由

●たしかな品質・合理的良心価格 ●ご不満のときは・交換・解約・返金自由

ニコルスRJ-6092A
注文番号81-056

【特長】

- 225倍屈折型経緯台式望遠鏡
- 有効径60%焦点距離 F=900mm
- コーリメーターテスト済 高性能対物レンズ使用
- 上下微動装置付
- 二段ドローチューブ

ニコルスLS-1149
注文番号81-011

【特長】

- 150倍反射型経緯台式望遠鏡
- コーリメーターテスト済 高性能反射鏡
- 有効径114% 焦点距離 F=900mm
- 上下、水平微動装置付
- 光軸修正装置付



初心者にも見やすく使いやすい、天体・地上両用望遠鏡

114%大口径反射式！天体入門者用ベストセラー人気機種！



【定 格】全長890%

- 対物レンズ 有効径：60% アクロマートコーティング 焦点距離：900mm 集光力：73倍(肉眼) 分解能：1.93秒 極限等級：10.7等星
- 接眼レンズ SR-4 12.5%(倍率72×)

- 接眼部 ラック&ピニオン繰出装置
 - 架台 ヨーク式上下微動装置付
 - 三脚/二段伸縮式 木脚 脚長70~135cm
- 初回金3,900円 1,200円
分割払金11,900円×9回
分割払価格21,000円
現金払価格18,800円

【付属品】

- スターダイヤゴナルプリズム(天頂プリズム)
- ファイインター(5×24%十字線入合金製)、サングラス

【定 格】

- 対物主鏡 有効径：114% アルミナイズ済 焦点距離：900mm 集光力：265倍 分解能：1.00秒 極限等級：12.0等星
- 斜鏡 短径23% アルミナイズ済 ●接眼レンズ HM-6% (倍率150×) HM-12.5% (倍率72×)
- 接眼部 ラック&ピニオン繰出装置
- 架台 ヨーク式上下、水平微動装置付
- 三脚/二段伸縮式木脚 脚長70~135cm

【付属品】

- ファイインター(6×24%十字線入合金製)、サングラス、フレキシブルハンドル(1本) 太陽穴付キャップ
- 初回金5,000円 1,500円
分割払金13,000円×9回
分割払価格32,000円
現金払価格28,500円

商品のご注文方法は

- ご注文番号か品名を紙に書いて、月賦は初回金と送料を現金書留封筒でお送り下さい。
- 一時払いと同じ方法で現金価格と送料をお送り下さい。
- 代引注文(商品到着時に現金価格で一括お支払いの方法)も受け付けます。詳しくは電話でお問合せ下さい。☎03(672)9094(内線33) 日・祝日を除くAM9:30~PM5:30

あて先

〒133 東京小岩局27号
二光通販(株)
技研事業部74係

カタログ無料進呈！

只今無料進呈中！
商品をよく知りた
い方は、カタログをお送
り下さい。下記のカタ
ログ進呈券をハガキの
うらには、お送りいた
します。



カタログ進呈券74係

二光カタログハウス
営業時間 AM10:00~PM7:00

ニコルス店

●広告の商品はニコルス店にて展示販売中！お急ぎの方は、ご来店下さい。初回金で持ち帰りOK！
(印鑑をご持参下さい)

ニコルス秋葉原店
年中無休
TEL:03(832)0713

《苦情相談》

この広告についての商品未着や商品苦情はご遠慮なくお申下下さい。
ニコー消費相談室 ☎03(672)8558 東京都千代田区外神田3-2-3森口ビル2F

ニコー
二光通販(株)技研事業部
東京都江戸川区南小岩6-31-25

社団法人
日本割賦協会正会員
この協会は産産者の損害により消費者保護を目的とする団体で、当社は会員です。安心してご注文下さい。

屈折式
Rシリーズ
新発売

大口徑(76.2%)、長焦点(1.250%)
の最高級精密機!!



ニコルスRS-6010

注文番号81-052

【特長】

- 250倍屈折型経緯台式望遠鏡
- コリメーターテスト済高性能対物レンズ
- 狙った星をのがさない上下水平微動装置付
- 二段ドローチューブ付
- 高性能正立プリズム付

高倍率を無理なく可能にした長焦点!
経緯台式の最高級機!

【定格】

- 対物レンズ
有効径: 60%、アクロマートコーティング、焦点距離: 1,000mm、集光力: 73倍(肉眼)、分解能: 1.93秒、極限等級: 10.7等星
- 接眼レンズ
SR-4%(倍率250×)
HM-9%(倍率111×)
HM-20%(倍率50×)
- 三脚/二段伸縮式木脚
脚長70~135cm

初回金6,800円下1,500円
分割払金(月)2,800円×9回
分割払価格32,000円
現金払価格28,800円



【付属品】

スターダイヤゴナルプリズム(天頂プリズム)地上用正立プリズム、ファインダー(5×24mm十字線入合金製)、ガラス

●60%屈折用赤道儀一歯数138

(有効径60%の望遠鏡に使用可能)

モータードライブ取付可能、赤道儀兼経緯台式、赤経赤緯目盛環付、バランスウエイト2個、フレキシブルハンドル2本付

初回金3,400円下1,000円
分割払金(月)2,300円×7回
分割払価格19,500円
現金払価格17,000円



【特長】

- 625倍屈折型赤道儀式望遠鏡
- コリメーターテスト済高性能対物レンズ付
- モータードライブ取付可能な赤道儀兼経緯台式マウント
- アクセサリ完備の大規模

【定格】

対物レンズ76.2%(有効径)アクロマート、焦点距離1.250%、集光能118倍、分解能1.5秒、極限等級11.2等星、全長1.270%、歯数114枚

●保管に適した格納用木箱●



ニコルスRK-6010

注文番号81-053

【特長】

- 250倍屈折型赤道儀式望遠鏡
- コリメーターテスト済高性能対物レンズ付
- モータードライブ取付可能な赤道儀兼経緯台式
- 二段ドローチューブ、高性能正立プリズム付

【定格】

対物レンズ60%アクロマート(セミコート)、焦点距離1,000mm、集光力73倍(肉眼)、分解能1.93秒、極限等級10.7等星、鏡筒径63%、全長1,000%(接眼部を除く)、赤道儀歯数138枚、赤経と赤経目盛付

天体の連続観測が可能で高級赤道儀式



【付属品】

- スターダイヤゴナルプリズム(天頂プリズム) ●地上用正立プリズム ●ファインダー(5×24mm十字線入合金製) ●サンダラス ●バランスウエイト(0.5g/2個)
- フレキシブルハンドル(2本)
- 接眼レンズ SR-4%(倍率250×) HM-9%(倍率111×) HM-20%(倍率50×)

初回金10,800円下1,500円
分割払金(月)5,000円×9回
分割払価格55,800円
現金払価格50,000円



●2倍バローレンズ(アクロマート)

簡単に使用倍率を2倍にすることができます。特に短焦点の望遠鏡には有利です。



現金払価格 1,900円
送料: 200円

●ズーム接眼鏡

接眼部口径24.5%用 焦点距離 7.5~22.5%ヘリコイド式 連続可変倍率 ●ズーム接眼鏡は低倍率(広視界)から、高倍率まで、連続して倍率を変えられるので、星をどらえやすく、ヘリコイドをまわせばそのまま高倍率で観測でき



現金価格 3,800円
送料200円

初回金で
お求めやすい
高性能
ニコルス
「だしかる品質・合理的良心価格」

特集 ■ 人の進化・過去と未来

- SF 人類の未来
- 才能・寿命・人工受精
- 動物絶滅物語
- 化石のサルからヒトへ、そして…

小隅 黎 / 湯浅 明
 小野満春 / 馬場悠男
 斎藤守弘

現代の拷問

日本列島宝探し

佐々木雅子

桑田忠親

見えざる世界を見る見る！

創刊第3号

絶賛発売中！！

■ カラー口絵

現代のナゾと
 驚異を追求する雑誌



図解・ピラミッドのベールをはぐ

東京ニューヨーク30分！

明日の航空機

そのほか興奮の記事が
 いっぱい！

Enigma

ユニバーズ出版社

〒110 東京都台東区上野5-1-6 ヤマトビル 電話(832)1341~1344 振替・東京1-119478

1977・4月号

定価390円

送料160円



月面と宇宙
アポロ計画
大写真集!

●世紀の大偉業“アポロ計画”の全貌公開。アメリカ航空宇宙局（NASA）提供による驚異のカラー写真119点、モノクロ写真11点があなたを未知の大宇宙へご案内します。

●本書（BRMセラー社版）は横25.5cm、タテ34.3cmの特大版で本文極上アート紙使用、極厚手表紙・カバーつき、総頁数128の豪華写真集です。詳細な英文解説に別冊日本語版（全訳）がつかます。

●科学研究者・天文ファン、学校・図書館等の公共施設はもちろん、ご家庭の教養図書としてもぜひ一冊おそなえ下さい。
定価11,000円
（梱包送料600円）

米国直輸入
超豪華版

MAN'S GREATEST ADVENTURE

人類の最大の冒険

BRM SELAH社版

●本書はユニバーズ出版社国内独占販売のため一般書店ではお求めできません。ご購入の場合は、代金を現金書留または振替で直接当社営業部までお送り下さい。なお5日間無料で本書をご覧になれる方法もあります。ご希望の方は当社営業部まで資料（無料）をご請求下さい。

国内総販売元
株式会社 ユニバーズ出版社
〒110 東京都台東区上野5-1-6 ヤマトビル 振替東京1-119478



今回が
ビックリ価格
最後のチャンス
5月20日まで

ご入学
ご卒業
ご就職

◆MOP高性能天体望遠鏡 (通産省光学検査合格品)
◆MOP本格派双眼鏡 (通産省光学検査合格品)

5年間品質保証書付

おめでとう特別大サービス!

MOP M109型

規格・性能 焦点距離
900mm 主鏡レンズ有
効径100mm(主鏡アルミ
ナイズメッキ) 分解能
1.16秒 極限等級11.8
等星 集光力204倍

装置 直進ヘリコイド
式繰出(接眼レンズ口
径24.5mm用) 赤道儀兼
経緯台 微動装置ウォ
ームギヤー使用 赤経
・赤緯目盛環付

付属品付き
定価55,000円の品
ビックリ価格35,000円
(送料2,000円)



チャンス!

MOP 610型

規格・性能 焦点距離
1,000mm 有効径60mm
(アロマートレンズ
使用) 分解能1.9秒 極
限等級10.7等星 集光
力73倍

付属品 サングラス
6×30mmファイナダー
天頂プリズムHM6mm
HM12.5mm K20mm
バランスウェイト2 フ
レキシブルハンドル2
木製2段伸縮三脚

研究観測用高級機
60%屈折赤道儀式

定価55,000円の品
ビックリ価格
34,000円
(送料2,000円)



チャンス!

MOP双眼鏡 8×30

スタンダードな小型機

規格・性能 倍率8倍
対物レンズ有効径30mm
射出瞳径3.8mm 明るさ
14.1 実視界7.5度 1000
m先の視野131m 高さ
11.5cm 重さ550g

定価11,500円の品
ビックリ価格7,500円
(送料800円)

付属品 ソフトケース
保証書 使用説明書



チャンス!

●ミクロンシリーズ
持ち歩きに便利な
高性能機!

MOPミクロン 10×40

規格・性能 倍率10倍
対物レンズ有効径40mm
射出瞳径4mm 明るさ
16 実視界7度 1000m
先の視野123m 高さ12
.3cm 重さ490g

10×40
付属品ハードケース

定価17,300円の品
ビックリ価格
13,000円
(送料800円)



チャンス!

MOP双眼鏡 20×50

高倍率大型機!

規格・性能 倍率20倍
対物レンズ有効径50mm
射出瞳径2.5mm 明るさ
6.3mm 実視界3度
1000m先の視野52m
高さ17cm

全機種特価
広告に記載されて
いない商品も格安
にて販売!!お気軽
にお問い合わせ、ま
たはご一報下さい。

付属品 ハードケース
保証書 使用説明書

定価18,000円の品
ビックリ価格 9,800円
(送料800円)



チャンス!

●ミクロンシリーズ

MOPミクロン 8×20

ポケットにピッタリ!

規格・性能 倍率8倍
対物レンズ有効径20mm
射出瞳径2.5mm 明るさ
6.3 実視界5度 1000m
先の視野88m 高さ7.1
cm 重さ185g

8×20
付属品ソフトケース

定価14,000円の品
ビックリ価格
10,500円
(送料800円)



チャンス!

ご注文方法

広告価格はすべて現金価格です。ご注文の場合は品名・住所・
電話番号・氏名を明記し、現金書留でお申し込みください。

あて先

〒193東京都八王子市小比企町2957-9 ☎0426-25-7941(代表)
(株)インテル 光学事業部UFO係

カタログ無料進呈
当社全製品満載のカタ
ログを差し上げます。郵
送料切手100円を同封し
下の請求券をはって
お申し込み下さい。

カタログ請求券
UFO23

OLYMPUS

同じ電子シャッター一眼レフなのに、こうまで違うのか。OM-2を手にした方から、よく聞く言葉です。一眼レフの新しい流れを生み出した縮小のフォルム、OMサイズのまま、革新的な電子頭脳を搭載。しかも本格的システムカメラとしての、あらゆる条件を完璧に満たしています。これまで新しいメカを加えるたびに大きく重

くなっていた一眼レフの世界が信じられなくなるほどです。まさに設計の妙。システムを組んでもかさばらない軽快さ、そしてチャンスが逃がさない電子頭脳。いまOM-2が、電子シャッター一眼レフの未来と呼ばれるのもそのためです。しかもその電子頭脳をみても、まさに革新的。これまでの記憶式と違い、「今」の光を測るTTLダイレクト測光。秒5コマの高速連続撮影もオートで写せ、またTTLでストロボのオート撮影を可能にするなど、本格的システムカメラの機能を大巾に高めています。(しかもオートとマニュアルの完全な使い分けができるプロ仕様です)13種のフォーカシングスクリーン、高速モータードライブ、豊富な交換レンズなど完璧なシステムをもつOM-2。いま真の一眼レフを選ぶとしたら……OM-2です。

おもな仕様 ●形式/35ミリフォーカスプレーン自動露出制御式電子シャッター一眼レフ●レンズ/オリンパスOMマウント、バヨネット交換式(回転角70°)●シャッター/フォーカスプレーンシャッター、自動露出制御時間:数十秒(ASA100、常温常湿)~1/1000秒、手動露出制御時間: B・1~1/1000秒、マウントダイヤル式●自動



露出制御(オート)/測光方式:TTLダイレクト測光式、測光範囲:ASA100・F1.2、数十秒~F16、1/1000秒、約EV-5.5~EV18(常温常湿)、TTL中央制御ストロボ運動接点付●手動露出(マニュアル)/測光方式:開放測光式中央重点測定、測光範囲:ASA100・F1.2付、EV1.5~EV17●ファインダー/ペンタプリズム式広視野ファインダー、フォーカシングスクリーン交換可能、3段階表示切換式●ファインダー視野率/実画面に対して97%●ミラー/大型ミラー●手動フィルム巻上/小さみ巻上可能、巻上角150°、予備引出角30°●モーターフィルム巻上/専用モーターユニット着脱式、最高状態時毎秒5コマ●裏蓋/交換式、レコーデータバック1、250フィルムバック1取付可能●大きさ・重量/(F1.8付)136×83×81mm・690g、(ボディのみ)520g

◎グッドデザイン選定

未来を搭載。

使いやすさをきわめた縮小のフォルムに、革新的な電子シャッターを搭載。一眼レフの未来ここに。



OM-2ボディ	¥76,000
F18(50mm付)	¥94,500
F14(50mm付)	¥102,500
F12(55mm付)	¥118,500
OM-2ブラックボディ	¥80,000
別売ハードケース(ストラップ付)	¥5,000

小型・軽量の最高級一眼レフ

●自動露出制御式電子シャッター一眼レフ ●本格的システムカメラ ●モータードライブ使用可能 ●スクリーン交換可能 ●明るく大きい広視野ファインダー ●視野率97% ●低音・低ショック機構 ●耐久性10万回 ●F1.8標準付で690gの小型・軽量化 ●モータードライブ装備のときは、アイカップ1をご使用ください。 ●OM-2またはレンズのカタログは、機種名・住所・氏名・年令・職業・一眼レフ保有の有無をご記入の上、ハガキでどうぞ。 ●〒151、渋谷区幡ヶ谷2の43のオリンパス光学工業㈱UF係。 ●お求めやすいオリンパスレジストはCP坊やマークのお店で。

OLYMPUS 定価四三〇円